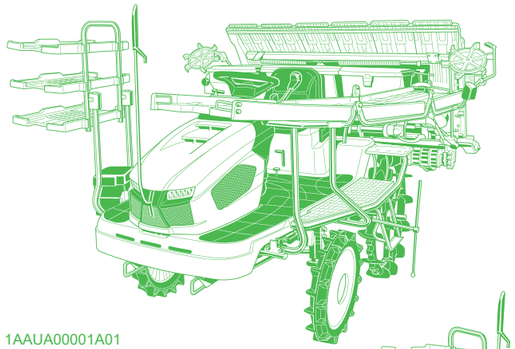
LD6・LD8

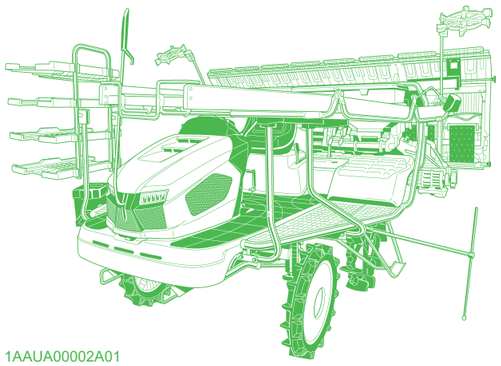
田植機

取扱説明書

LD6・LD8



1AAUA00001A01



1AAUA00002A01

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

No. 9 5 7 4 0 0 0 0 0 1 0

品番　PD102-9751-1

LEMA
陸内協排出ガス自主規制適合

このラベルは「(社)日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

ヘッドランプ	苗切れ
エンジン油圧	バッテリ充電異常
エンジン水温	燃料
エンジン停止	植付クラッチ［切］
エンジン回転数［低回転］	マーカ［出し忘れ］
エンジン回転数［高回転］	肥料切れ［R 仕様］
	肥料づまり［R 仕様］

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式

機械番号（製造番号）

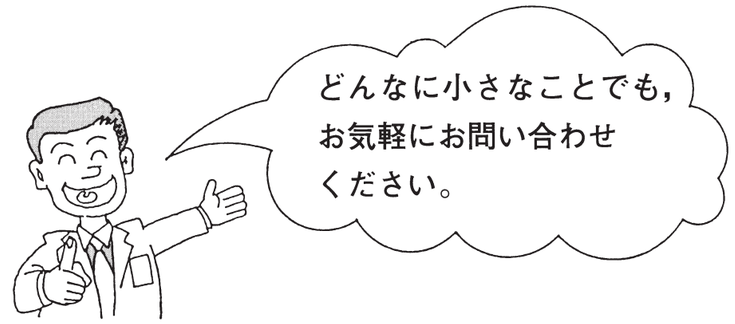
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

TEL　　（　　）

専門用語の説明

●パワーステアリングハンドル	油圧式の操向操作ハンドル
●主変速レバー （HST）	**［前進］・［後進］・［停止］**の切替えと走行速度をコントロールするレバー （油圧式の無段変速装置）
●副変速レバー	**［圃場作業］（低速位置）**と**［移動］（高速位置）**を切り替えるレバー
●十字ポンパレバー（二段）	植付部（苗のせ台）の**上昇 ⟷ 下降**、植付部への動力伝達の**［入］**、**［切］**およびラインマーカのセットを行うレバー
●ブレーキペダル	踏込むとブレーキが掛かるペダル
●バックアップ	主変速レバーを**［後進］**側に操作すると植付部が自動的に上昇する機能
●安全クラッチ	植付爪に障害物が詰まったとき、植付部のギヤの破損を防止するために植付部への動力を断つ装置
●モンロー	マイコンのはたらきで植付部を常に一定の水平状態に修正・保持する自動装置
●コントローラ	運転席下部にある自動制御をコントロールするマイコン部
●アクセルレバー	エンジン回転をコントロールするレバー
●スローブローヒューズ	バッテリ近くに設けたメイン回路保護のためのヒューズ

はじめに

このたびは、三菱マヒンドラ農機製品をお買い上げいただきありがとうございます。製品をご使用になる前に本書をよくお読みいただき、正しくお使いください。本書は、いつでもご覧頂ける場所に、大切に保管してください。なお、予告なく製品の仕様が変更されることがあります。本書の内容が、製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、稲の苗の植付け用の作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は［LD6 仕様］を基本とし、［LD6 仕様］と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によってはついていない装置の説明もあります。

基本型式の表示

【例】 LD6 － R
①　②

①名称・植付条数

● LD6 …… 6 条植

● LD8 …… 8 条植

②施肥装置

R …… 粒状施肥装置付

目次

安全に作業するために 7

サービスと保証について 23

ご相談窓口 23
補修用部品の供給年限について 23

装置の名称と取扱い 24

機体方向説明 24
各装置の名称 25
走行装置の名称とはたらき 29
1. エンジン操作関係 29
1.1 メインスイッチ 29
1.2 アクセルレバー 29
1.3 エンジンストップノブ 29
2. 走行操作関係 30
2.1 主変速レバー 30
2.2 副変速レバー 30
2.3 ブレーキペダル 30
2.4 駐車ブレーキレバー 31
2.5 パワーステアリングハンドル 31
2.6 運転席（シート） 31
2.7 前輪デフロックペダル 31
2.8 メインパネル（走行操作関係） 32
2.8.1 各メータ 32
2.8.2 各ランプ 32
2.9 コンビネーションスイッチ 32
2.10 アワメータ 33
作業装置の名称とはたらき 33
1. 植付操作関係 33
1.1 十字ポンパレバー（二段） 33
1.2 フィットセンサダイヤル 34
1.3 苗取量調節レバー 34
1.4 植付深さ調節レバー 34
1.5 横送り切替レバー 35
1.6 あぜぎわクラッチレバー 35
1.7 株間調節レバー 35
1.8 株間副変速レバー・車速切替レバー 36
1.8.1 株間副変速レバー 36
1.8.2 車速切替レバー 36
1.9 ロータ自動入／切スイッチ 36
1.10 ロータ深さ調節ダイヤル 37
1.11 油圧ロックレバー 37
1.12 マスコット 38
1.13 ラインマーカ 38
1.14 隣接マーカ 38
1.15 苗ステー・苗押さえ棒 38
1.16 予備苗のせ台 39
2. 施肥装置操作関係［R 仕様］ 39
2.1 ホッパ 39
2.2 ロールケース（繰出部） 39
2.3 ブロワ 40
2.4 施肥全条停止レバー 40
2.5 施肥量調量ノブ、比重調整ノブ 40
2.6 残肥排出レバー 41
3. 電装関係 41

3.1 メインパネル（電装関係） 41
3.1.1 各モニタ（警報ランプ、警報ブザー） 41
3.2 モンロー調節ダイヤル 42
運転のしかた 43
運転前の点検 43
1. 日常点検項目 44
新車時の扱いかた 46
1. ならし運転について 46
エンジンの始動と停止のしかた 46
1. 始動のしかた 46
2. 暖機運転について 47
3. 寒冷時の始動のしかた 47
4. 燃料切れ後の再始動のしかた 47
5. バッテリが上がったときの始動のしかた 47
6. 停止のしかた 48
移動走行について 48
1. 移動走行前の準備 49
2. 苗のせ台の移動のしかた 52
3. 発進のしかた 53
4. 旋回のしかた 54
5. 停車・駐車のしかた 54
輸送について 54
1. トラックとあゆみ板の準備 54
2. トラックへ積込み時の田植機の準備 55
3. トラックへの積込み・積降ろしのしかた 55
4. トラック上での処置 55
田植作業のしかた 57
ほ場と苗の条件 57
1. ほ場条件 57
2. 苗条件 57
田植作業前の準備 58
1. 予備苗のせ台の準備 59
2. ラインマーカの準備 60
3. 隣接マーカとマスコットの準備 60
4. しゅう動板ガードの準備（左、右） 60
5. 各レバー・ダイヤルの準備 61
6. 苗のせ台の折りたたみかた、広げかた［8 条］ 62
6.1 苗のせ台の広げかた 63
6.2 苗のせ台の折たたみかた 66
植付作業のしかた 66
1. ほ場の出入りのしかた 67
2. 植付作業の手順 67
3. 植付けかたと旋回のしかた 70
3.1 6 条植えの植付けかたと旋回のしかた［6 条］ 70
3.2 8 条植えの植付けかたと旋回のしかた［8 条］ 71
4. 変形田の植付けかた（参考） 73
4.1 台形田の植付けかた（A 面基準） 73
4.2 複雑な変形田の植付けかた 73
5. 安全クラッチについて 74
5.1 異物を取除いたあとの処置 74
6. 苗の補給のしかた 74
7. あぜぎわの植付けかた 75
7.1 最終行程の前での植付条数の決めかた 75
7.2 ロータ深さ調節ダイヤルについて 76
8. モンロー調節ダイヤルについて 76
施肥作業［R 仕様］ 77

1. ほ場と肥料について 77
1.1 施肥作業時のほ場条件 77
1.2 肥料について 78
1.2.1 一発肥料使用時の注意 79
2. 施肥作業前の準備 80
3. 施肥作業のしかた 82
4. ホッパ内の肥料の排出のしかた 83
作業に合わせた各部の調節・調整のしかた 85
1. 植付株数の調節 85
2. 苗取量（1 株本数）の調節 87
2.1 苗取量調節レバーの調節 87
2.2 横送り切替レバーの調節 87
2.3 植付株数と苗の使用量について 88
3. フィットセンサダイヤルの調節 88
3.1 フロート荷重の調節 88
4. 植付深さの調節 89
5. 苗ステー・苗押さえ棒の調節 90
5.1 苗ステーの調節 90
5.2 苗押さえ棒の調節 90
6. 整地板の調節 90
7. 整地ロータの調節 91
8. ふく土板の調節［R 仕様］ 92
9. 施肥量の調節［R 仕様］ 92
9.1 肥料の流れ 92
9.2 施肥量の調整のしかた 93
9.3 施肥条止めのしかた 95
メインパネルによる異常の表示と処置 96
深みにはまって動けなくなった場合の注意事項 98
メンテナンス 99
各部の開閉と脱着のしかた 99
1. ボンネットの開閉 99
2. リヤカバーの脱着 99
3. 運転席下カバーの脱着 99
4. ロールとブラシの脱着［R 仕様］ 100
各部の掃除と注油のしかた 103
1. 各部の掃除 103
1.1 施肥部の掃除［R 仕様］ 103
1.2 残肥排出ダクトの掃除 106
1.3 ブロワダクト吸入口の掃除［R 仕様］ 108
1.4 整地ロータの掃除 108
2. 各部の注油 108
2.1 注油箇所、グリース塗布箇所、グリース注入箇所 108
定期点検 113
1. 廃棄物の処理について 113
2. 洗車時の注意 113
3. 使用者が行ってはいけない修理 114
4. 定期点検一覧表 115
5. 給・注油（水）点検一覧表 117
6. 燃料・オイルの点検・補給・交換 120
6.1 燃料の点検・補給 120
6.1.1 燃料の給油 120
6.2 エンジンオイルの点検・補給・交換 120
6.3 ミッションオイルの点検・補給・交換 121
6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換 122
7. ラジエータ冷却水の点検・交換 122
8. ラジエータフィンの掃除 124
9. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換 124

10. 燃料フィルタアッシの交換 124
11. エンジンバルブクリアランスの点検 125
12. エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換 125
13. ラジエータネットの点検・掃除・交換 126
14. パイプ・ホース類の点検・交換 126
15. 各部ベルトの点検・調整 127
15.1 ミッション駆動ベルトの点検 128
15.2 オルタネータ駆動ベルトの点検・調整 128
16. ミッション油圧オイルフィルタカートリッジの交換 128
17. タイヤの点検 129
18. 植付爪・押出し金具の点検・調整・交換 129
19. 苗のせ台のしゅう動板と受けの点検 132
20. 施肥ブラシの点検・掃除・交換［R 仕様］ 132
21. バッテリの点検・交換 134
21.1 バッテリの点検 134
21.2 バッテリの補充電・交換 135
22. 電装部の各配線コードの点検・交換 136
22.1 各配線コードの点検・交換 136
22.2 各ヒューズの交換 137
22.2.1 スローブローヒューズの点検・交換 137
23. ランプ（電球）の点検・交換・反射テープの点検・交換 138
植付作業後の手入れ 138
1. 毎日の作業後の機体の手入れ 138
1.1 しゅう動板ガード（左、右）の収納 139
2. 長期格納時の手入れ 139
2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた 139
2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の手入れ 140
2.3 長期格納時のバッテリの手入れ 140
2.4 長期格納時の各レバー・その他の手入れ 140

植付作業時の不調と処置 141

欠株が出る 141
浮苗が出る・植付けが乱れる 143
浮苗が出る・植付けが悪い 145
植付けが乱れる・欠株が出る 146
施肥をしない・施肥量がばらつく 147
苗・ほ場条件による、その他の不具合 149

付表 151

主要諸元 151
付属部品 153
オプション（別売品）（純正品を使いましょう） 153
1. 苗キーパ 153
2. クリーナ 153
3. 補助車輪 153
3.1 ゴムラグタイヤ 154
3.2 鉄ラグタイヤ 154
3.3 エアタイヤ 155
4. 広幅前輪タイヤ 155
5. 後輪エアタイヤ 155
6. 線引きマーカ 155
7. 周り植えマーカ 155
8. 前部ウエイト 155
9. 整地板 156
10. すくい板ホルダ 156
11. 予備苗のせ台 156
12. 苗スライドストッパ 156
13. 増量ロール［R 仕様］ 157

14. 本機カバー 157
15. 苗ストッパ 157
16. 植付回転ケース用泥除けカバー 157
17. バックミラー 157
18. キャノピ 157
19. 薬剤散布機［こまきちゃん］ 157
20. 薬剤散布機［箱まきちゃん］ 157
21. 密播キット 158
消耗部品 159
1. 消耗部品一覧表 159
指定オイル 162
索引 163

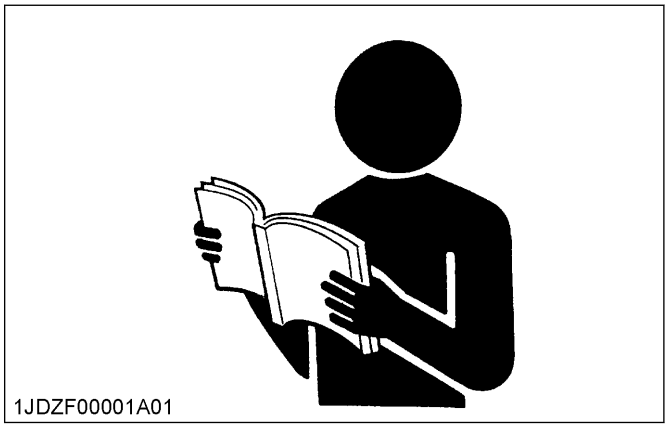
安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ずこの「取扱説明書」をよく読み理解した上で、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で⚠ 危険・⚠ 警告・⚠ 注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

安全に作業するため次のことがらを必ず守ってください

1. 安全指示順守

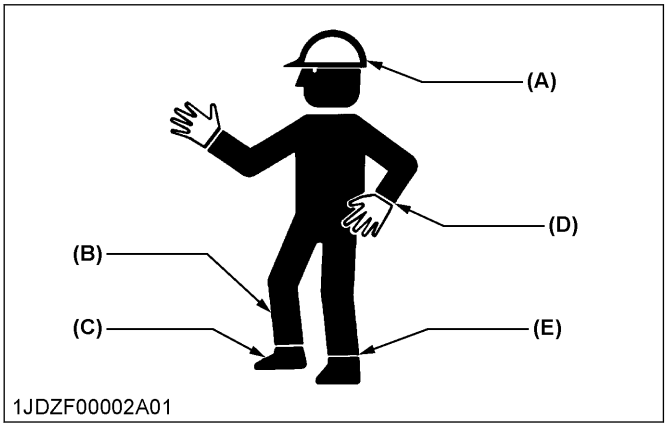
- 本書および本機の安全ラベルをよく読み理解してください。


1JDZF00001A01

- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。
- 安全ラベルはいつもきれいにしておいてください。また、破損・紛失したときは注文して再度貼付けてください。
- 正しい運転、作業方法を覚えてください。
- 製品を勝手に改造しないでください。安全性をそこなったり、機能や寿命低下の原因になります。
- 本書記載事項以外についても安全には細心の注意を払ってください。
- ほかの人に機械を貸すときは、取扱方法や安全のポイントをよく説明し、この取扱説明書をよく読むように指導してください。

2. 作業に合った服装および健康状態

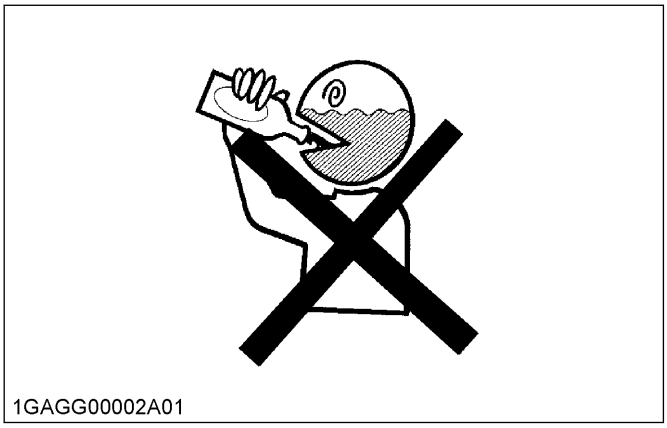
- 作業に合ったキチンとした作業着を着用してください。
- だぶついた服装は、回転部に巻込まれやすく危険です。また靴は、すべらないものを使用してください。
- ヘルメット、滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などを着用してください。



1JDZF00002A01

(A) ヘルメット着用
(B) 体に合った服
(C) 滑りにくい靴
(D) 袖口きっちり
(E) スソきっちり

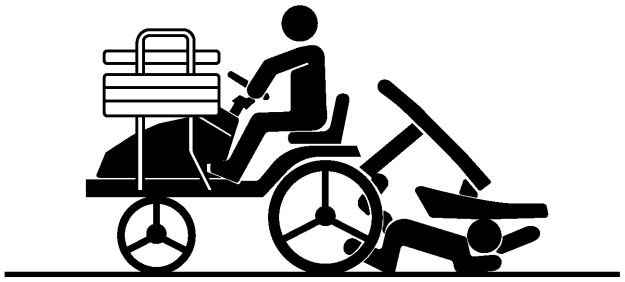
- お酒を飲んでいる方、睡眠不足の方、妊娠中のご婦人、過労、病気の人は使用しないでください。


1GAGG00002A01

- 初めて運転する人は、操作に慣れるまで低速で運転してください。

3. 子供が近づくのは危険

- 点検・整備中および田植作業中は機械に子供を近づけないでください。見えないところで機械に触ったりかくれたりしてたいへん危険です。

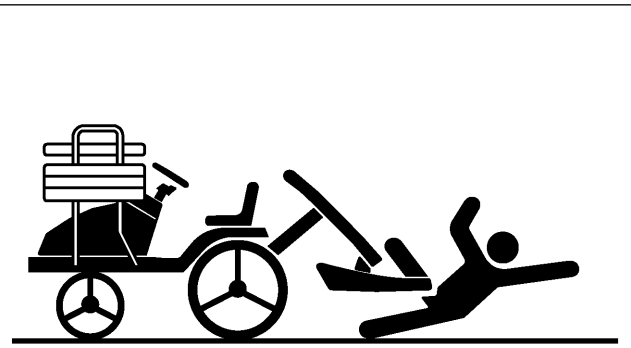

1RPDW00011A01

4. 使用前の準備・点検

- 使用前の点検は必ず行ってください。
- 燃料の給油・オイル交換・注油・機械の点検は、エンジンを止めて行ってください。
- 火気厳禁。

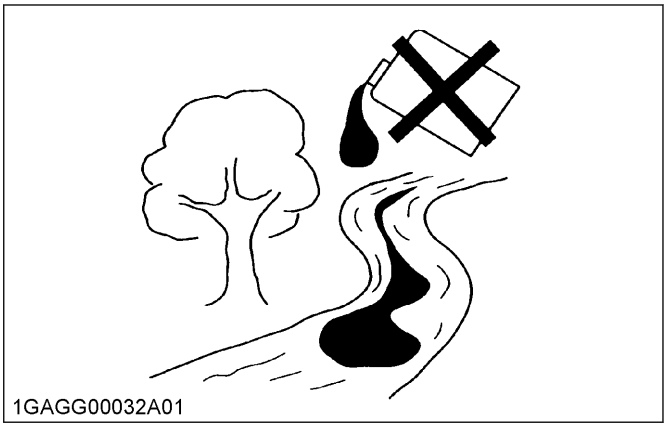

1RPDW00012A01

- 平たんな場所で駐車ブレーキを掛けて行ってください。
- 植付部を持上げて植付爪などの点検をするときは、油圧昇降ロックをするとともに、台などで支えをして落下を防止してください。


1RPDW00013A01

5. 廃棄物の取扱い注意

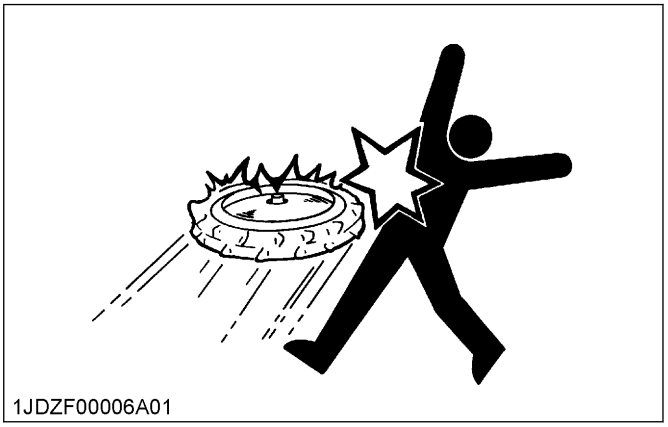
- 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。


1GAGG00032A01

- 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先または、産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。

6. タイヤの空気圧は､取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。

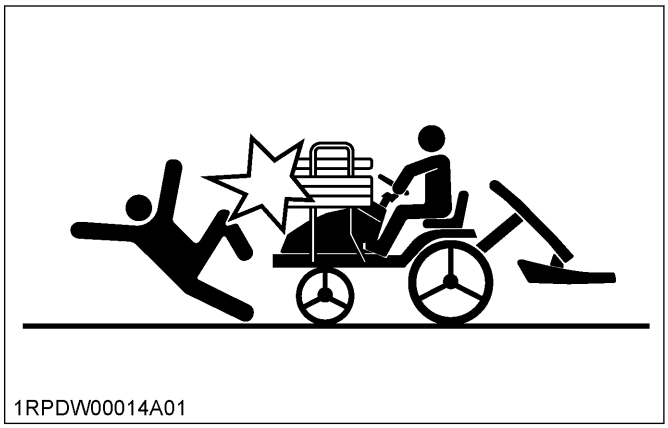
- 空気の入れ過ぎは、タイヤ破裂のおそれがあり死傷事故を引き起こす原因になります。


1JDZF00006A01

- タイヤに傷があり、その傷がコード（糸）に達している場合は、使用しないでください。タイヤ破裂のおそれがあります。
- タイヤ・チューブ・リムなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。
（特別教育を受けた人が行うように、法で決められています。）

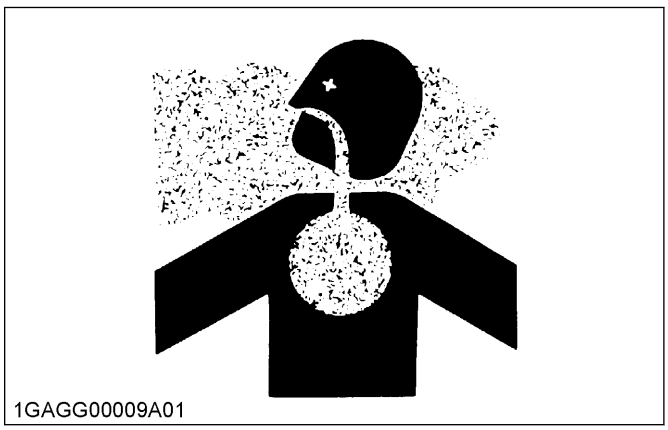
7. エンジンの始動

- エンジンの始動時、運転席に座り、主変速レバー、副変速レバーが**[N]**（中立）になっていることを確認してから始動してください。
- 機械の周囲の人・物に充分注意し、ブレーキペダルを踏んでから始動してください。



1RPDW00014A01

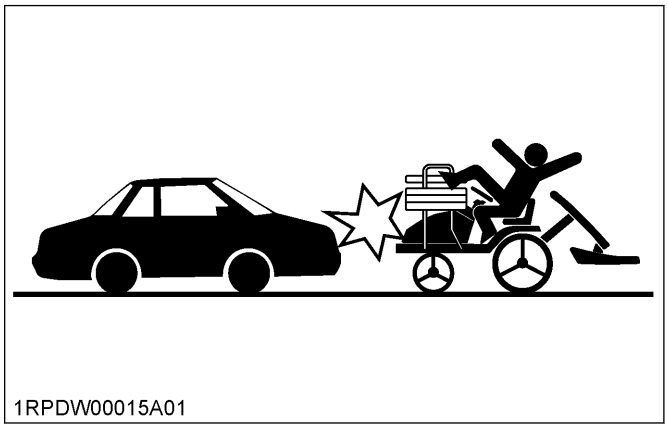
- 屋内で始動するときは、窓・扉を開け、外気が充分入るようにしてください。



1GAGG00009A01

8. 走行運転

- この機械は一般道路は走れません。



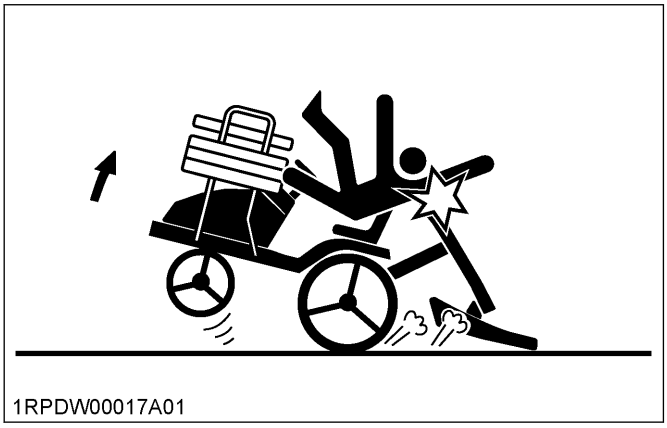
1RPDW00015A01

- 一般道路はトラックなどで運搬してください。
- 発進前に必ず植付部が持上げられているかを確認してください。
- 機械の周囲の人・物に注意して、ゆっくり発進してください。
- 初めて運転される方は、操作になれるまで低速で運転してください。
- 道のりが遠くても、その他どのような場合でも、絶対に運転者以外の人を乗せないでください。



1RPDW00016A01

- 予備苗のせ台の上などに物を乗せないで、荷物はめんどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。
- 植付部を最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして植付部の落下防止を行ってください。
- 急発進・急停止・急旋回はしないでください。



1RPDW00017A01

- 発進するときは、ブレーキペダルを離してから主変速レバーを**[N]**（中立）位置からゆっくりと操作してください。
- 停止するときは、必ず主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻してからブレーキペダルを踏込んでください。
- カーブ・曲り角では早めにスピードを落としてください。
- わき見・手ばなし運転はしないでください。気のゆるみが大事故につながります。
- 隣接マーカ・マスコット・ラインマーカを収納状態にしたあと、ラインマーカをロックし、**[8 条]**は苗のせ台を収納してください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。特に、苗のせ台の接触には注意してください。

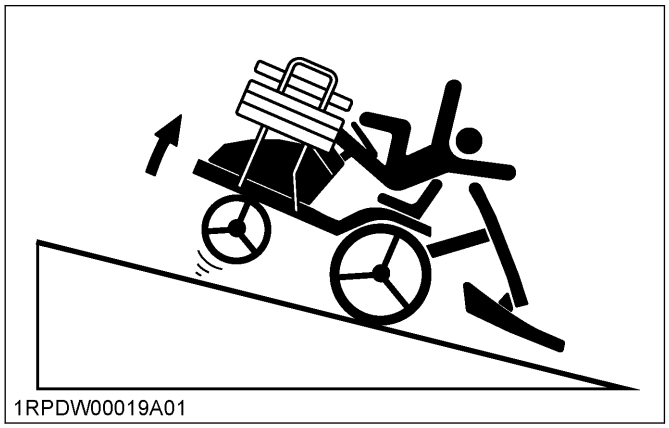
- 機体が右または、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。


1RPDW00018A01

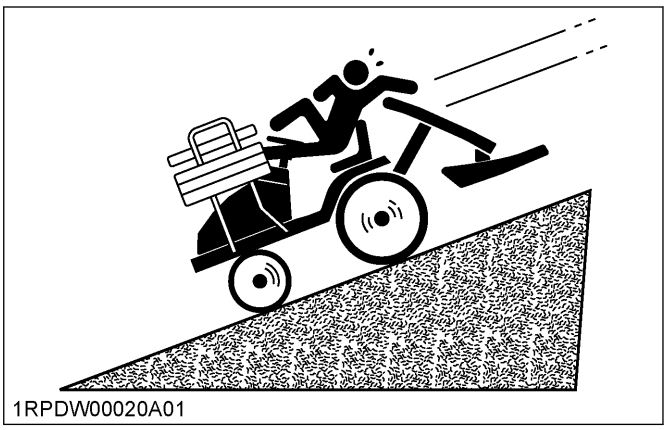
- ホッパ内やホッパの上などに物を乗せないで、荷物はめんどうでも、別にトラックなどで運搬するようにしてください。**[R 仕様]**
- ホッパのふたを閉じてフックが掛かっていることを確認したあと、ホッパのふたにゴムバンドを掛けてください。**[R 仕様]**

9. 坂道走行

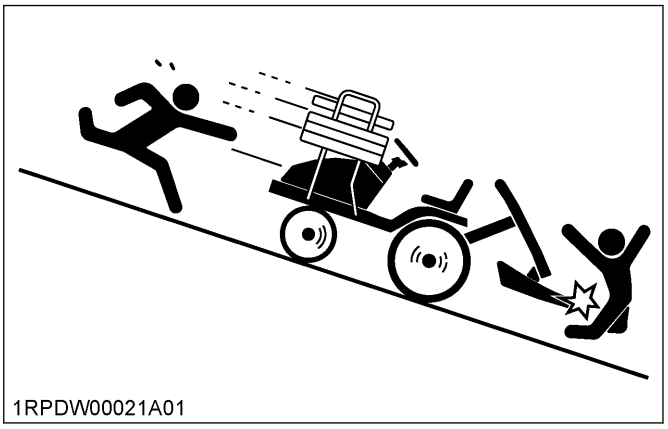
- 坂の手前でいったん停止して、副変速レバーを**[圃場作業]**に切り替えてから、坂道の登り降りをしてください。
- 発進・停止するときは、必ず主変速レバーを操作してください。
- 坂道は必ず低速で走行してください。
- 急発進、急停止はしないでください。
- 坂が急で、前進で登ると前が浮上がるおそれがある場合は、後進で登るようにしてください。


1RPDW00019A01

- 坂の途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。

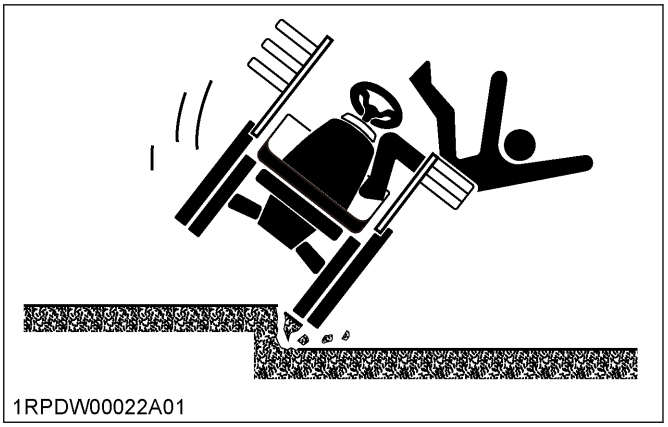

1RPDW00020A01

- 坂道では、特別なとき以外には駐車しないようにしてください。
- 駐車する場合は、駐車ブレーキを掛け、下側の両輪に車止めをしてください。
- 駐車中は、副変速レバーを**[圃場作業]**または**[移動]**に入れておいてください。


1RPDW00021A01

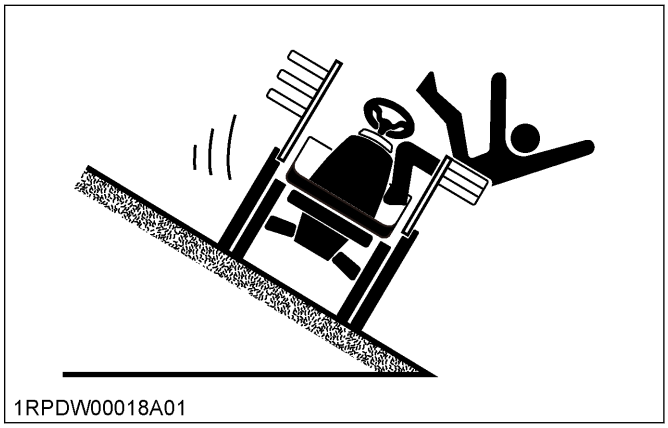
10. 農道、ほ場の移動

- 副変速レバーを**[移動]**にして、植付部を上昇させて、ゆっくり走行してください。
- 路肩くずれに注意してください。


1RPDW00022A01

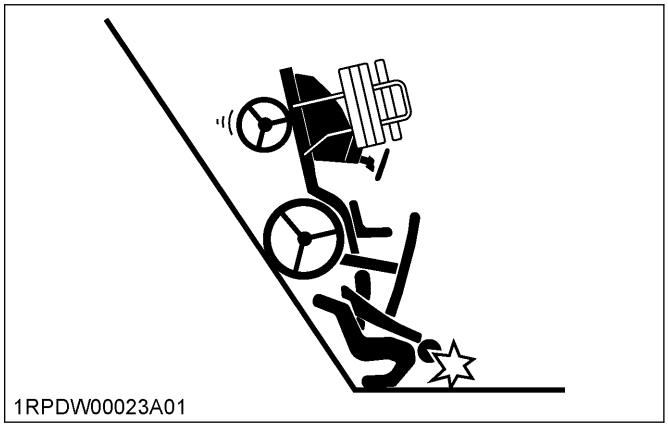
- 草などでおおわれていて路肩がわからないときやあぶないと思われる所では、機械から降りて確認するようにしてください。このとき、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けて行ってください。

- 雨あがりのとき、狭い農道では、速度を落として慎重に走行するようにしてください。
- 対向車をさけるときは、無理に端いっぱいに寄らず、いったん停止して対向車をやりすごしてください。
- 油圧昇降ロックをし、植付部の落下を防止してください。
- 隣接マーカ・マスコットを収納し、ラインマーカをロックしてください。
- 周囲の障害物に接触しないよう、ゆっくりと運転してください。
- 機体が右または、左に大きく傾き、転倒するおそれがあるので、傾きの大きいところでは走行しないでください。

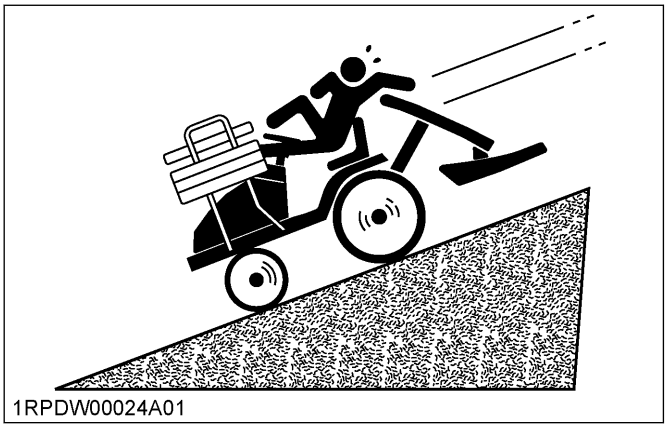

1RPDW00018A01

11. ほ場の出入り

- 運転者以外は乗らないでください。
- 予備苗のせ台に苗を載せないでください。
- 機械をあぜ・溝に直角に向けて止め、副変速レバーを**[圃場作業]**にし、十字ポンパレバーで植付部を下げ、主変速レバーを低速で、ゆっくり発進してください。後輪があぜに上がると同時に、植付部を上げてください。
- 農道が狭い場合は、ほ場に出入口の傾斜をつくり、溝は渡り橋をつくってください。
- ほ場の出入り、土手などの急斜面の登り降り、溝越えのときには、必ずあゆみ板を使うか、ほ場に出入口傾斜や渡り橋をつくって、後進で登ってください。


1RPDW00023A01

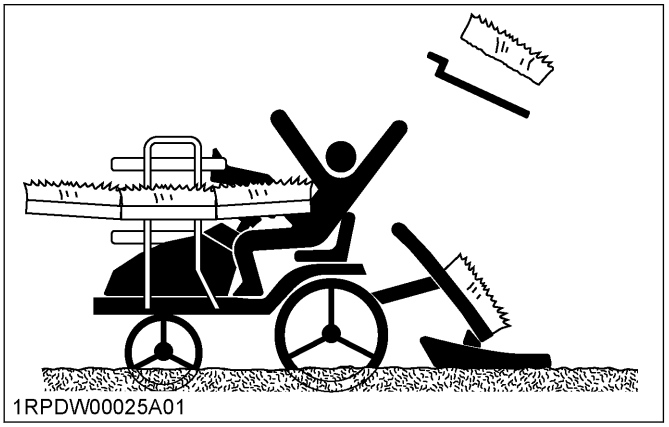
- あゆみ板は、機械の重量に耐える強度（金属製）で、段差に対して４倍以上の長さのもの、また、横サンとスベリ止めのついたものを使用してください。
- あぜ・溝に対して機械を直角に止め、左右の２枚のあゆみ板が機械の両輪に合い、平行になっているかを確認してください。
- ハンドルをまっすぐに直し、まっすぐに登ってください。
- 走行途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。


1RPDW00024A01

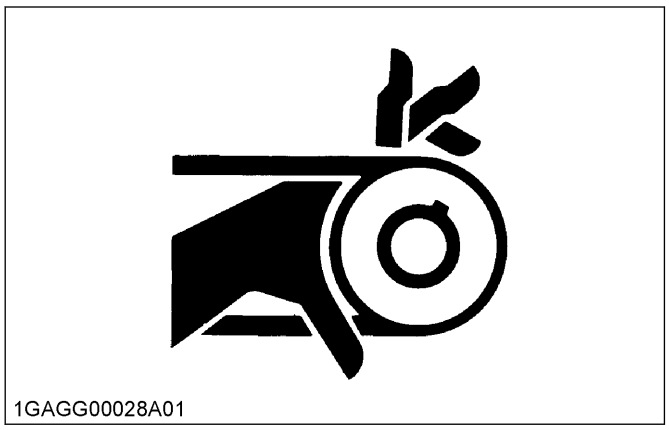
- 走行途中で危険回避などのため、走行を停止するときは主変速レバーを**[N]**（中立）位置に操作したあと、ブレーキペダルを踏込んでください。

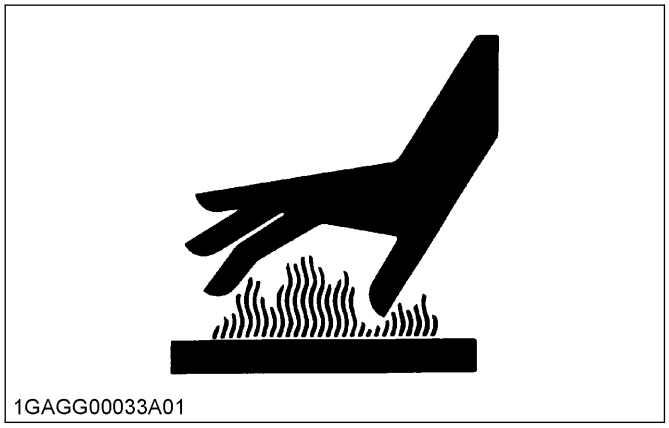
12. ほ場での作業

- 苗や肥料［**R 仕様**］を補給するときは、主変速レバーを**[N]**（中立）にし、駐車ブレーキを掛けてください。
- 肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行ってください。［**R 仕様**］


1RPDW00025A01

- 回転部分・作動部分・高温部に触れないように注意してください。


1GAGG00028A01


1GAGG00033A01

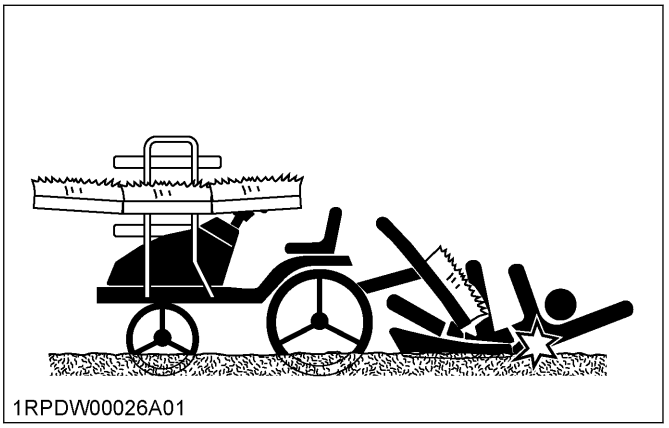
- あぜぎわで旋回するときは、あぜの周囲の人や物に充分注意を払ってください。
- 作業中は、ほ場に人を入れたり、機械に人を近づけたりしないでください。
- ウエイト代りに、人や物を乗せないでください。
- 夜間作業は絶対にしないでください。
- 植付爪などに異物がかみこんだときは、エンジンを停止し、完全に止まったのを確認してから取除いてください。
- エンジンを掛けた状態で、わらや雑草の上に駐車しないでください。

13. 機械から離れるときおよび走行、作業途中の駐車・点検

- 駐車および点検などで運転席を降りるときは、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にしてエンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてキーを抜いてください。
- わらや雑草の上に駐車しないでください。
- 高温部に触れないよう注意してください。


1GAGG00033A01

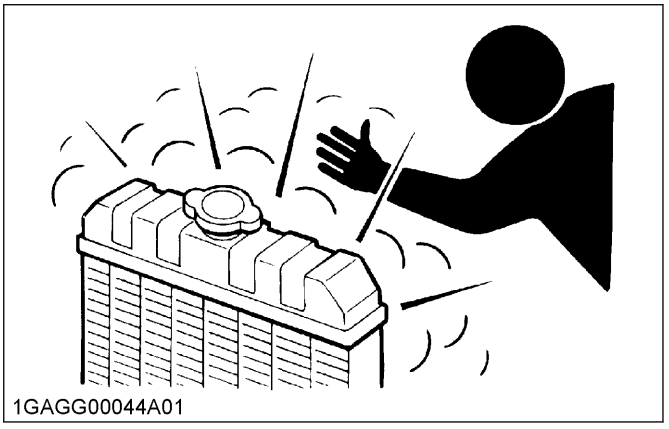
- 植付部を上昇させて点検するときは、油圧昇降ロックをし、植付部の落下を防止してください。


1RPDW00026A01

- 植付部を点検するときは、十字ポンパレバーで植付部を最上昇させ、植付部への動力伝達を切ってから行ってください。

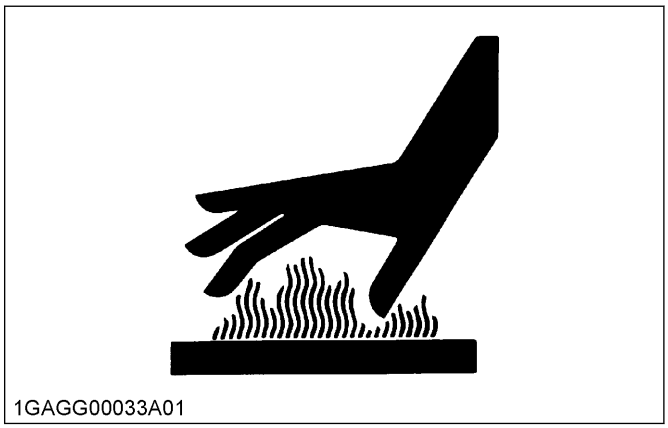
14. ヤケド防止

- 過熱された冷却水あるいは蒸気が皮ふに触れるとヤケドします。
- 運転後のエンジン・ラジエータ・リザーブタンク中の冷却水は、過熱、加圧され高温あるいは蒸気になっています。エンジン停止後 30 分以上経過してからエンジンルームを開け、ラジエータキャップを徐々にゆるめて蒸気の圧力を抜いてから作業してください。


1GAGG00044A01

- 高温の油が皮ふに触れるとヤケドをします。

- 運転中エンジンオイル・油圧オイルは高温になります。エンジン・ホース・配管およびその他の部品も高温になっています。また残圧による油のふき出しやプラグ・ネジのとび出しによるケガのおそれがあるため充分に温度が下がって、残圧がないことを確かめて整備してください。
- エンジン本体・マフラ・排気管も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。

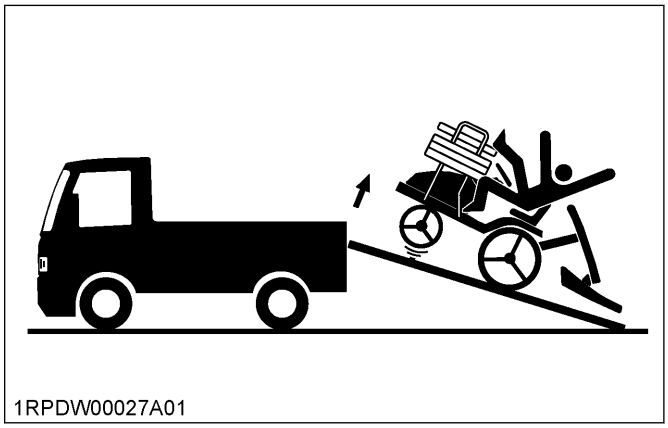


1GAGG00033A01

- ヘッドランプを点灯すると、ランプ表面も高温になります。運転中および停止直後は触れないでください。

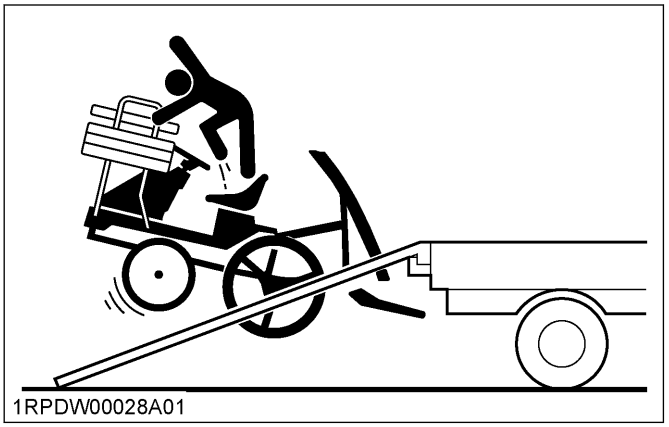
15. トラックなどへの積み・降ろし

- 前進であゆみ板を登るとたいへん危険です。必ず、後進で積込み、前進で積降ろしてください。



1RPDW00027A01

- 積込み・積降ろしを開始する前に、トラックの駐車ブレーキがかかっているかを確認してください。
- 脱輪に注意してください。



1RPDW00028A01

- 副変速レバーを**[圃場作業]**にし、主変速レバーをゆっくり操作してください。
- 途中で副変速レバーを**[N]**（中立）にしないでください。
- あゆみ板は、段差の 4 倍以上の長さのものを使ってください。

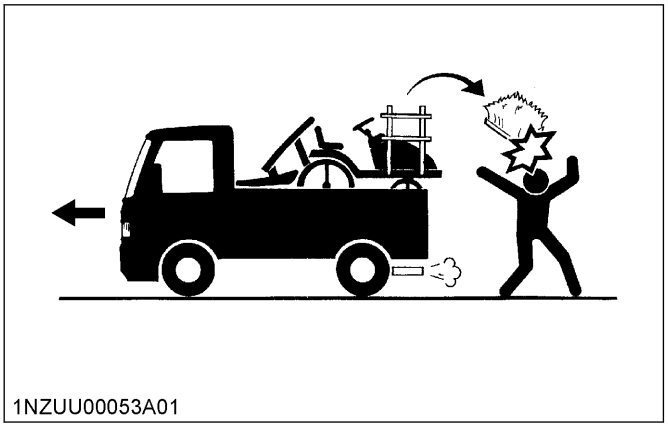
あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	30 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 1000 kg 以上の重量に耐えうる

- 誘導者を付け、周囲の安全を充分確認してください。また、機械の前には絶対に立たないでください。
- 転倒による重大事故のおそれがあるため、後部作業機（植付部など）を取り外して本機側単独で積込み・積降し作業はしないでください。

16. トラックなどでの運搬

- 駐車ブレーキをかけてください。
- ロープは前輪と後輪に掛け、確実に固定してください。
- 苗のせ台・予備苗台などにのせてある物は、必ず降ろしておいてください。

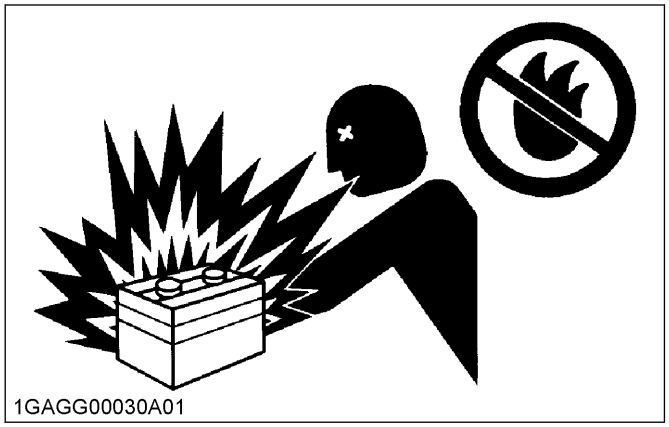


1NZUU00053A01

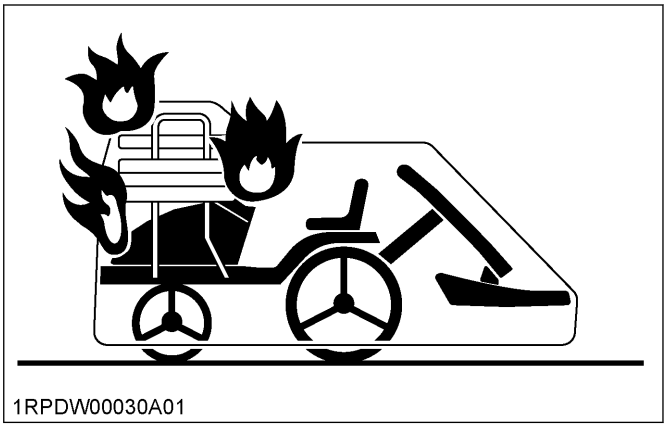
- 転倒による重大事故のおそれがあるため、後部作業機（植付部など）を取り外して本機側単独で運搬はしないでください。

17. バッテリの取扱い注意

- バッテリのガスは爆発のおそれがあります。
- バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、ケーブルのショートによるスパークをさせないでください。


1GAGG00030A01

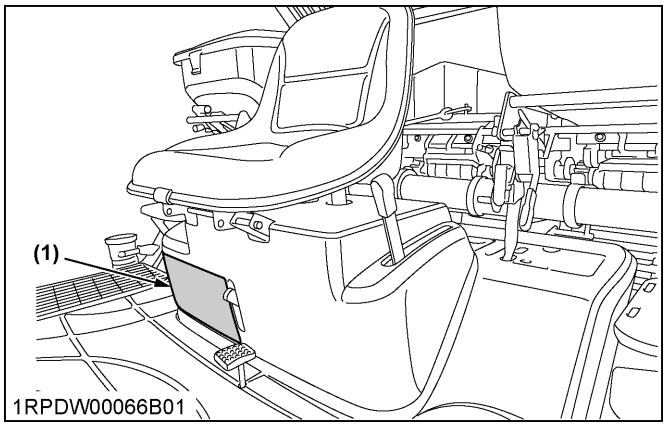
- バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使わないでください。
- バッテリの充電時、交換時は、バッテリの安全ラベルをよく読んでください。
- バッテリは液面が LOWER（最低液面線）以下になったままで使用や充電をしないでください。LOWER 以下で使用を続けると電池内部の部位の劣化が促進され、バッテリの寿命を縮めるばかりでなく、爆発の原因となることがあります。すぐに **UPPER LEVEL（上限）**と **LOWER LEVEL（下限）**の間に補水してください。**[補水タイプ]**
- 充電は、バッテリを機械から取り外して行ってください。
- 密閉状態で充電を行うとバッテリが破裂するおそれがあり危険です。
- バッテリ液（希硫酸）に触れると危険です。
- バッテリ液（希硫酸）が目、皮ふ、衣服についたときは、すぐに水でよく洗ってください。
- バッテリ液（希硫酸）が目に入ったときは、水でよく洗った後、医師に治療を受けてください。
- 指定外のバッテリは使わないでください。


1RPDW00030A01

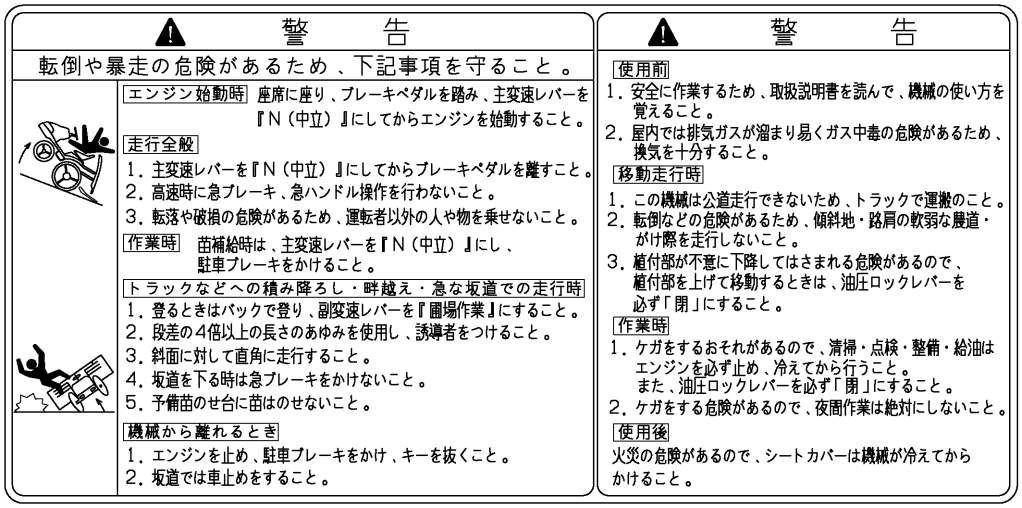
18. 使用後の手入れ

- 点検・手入れ・掃除・調整は、エンジンを止めて行ってください。
- 取り外した保護カバーなどは、必ず元のとおりに取り付けてください。回転部などがむき出しになり危険です。
- 格納するときは、スタンドを立て平たんな場所に植付部を下げて置いてください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。
- 本機カバーなどをかける場合は、エンジンなど加熱部分が充分冷えてからにしてください。火災の原因になります。

安全ラベルと貼付位置



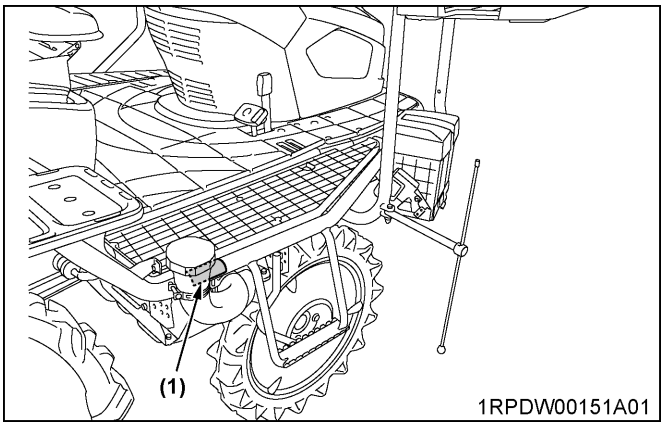
(1) 品番 95740000460



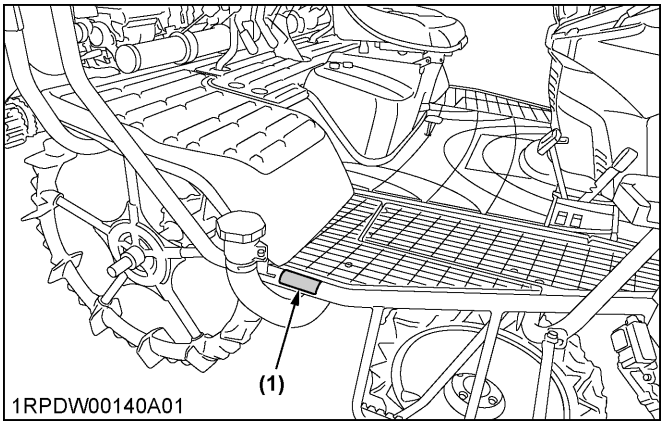
(1) 品番 95740000290



※イラストは［6 条］



※イラストは［8 条］



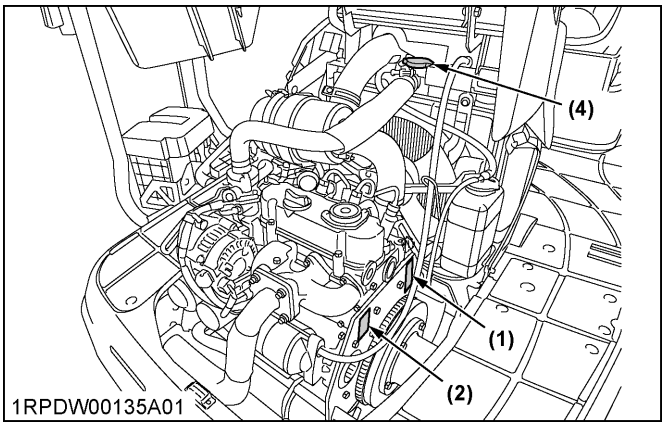
(1) 品番 95740000270



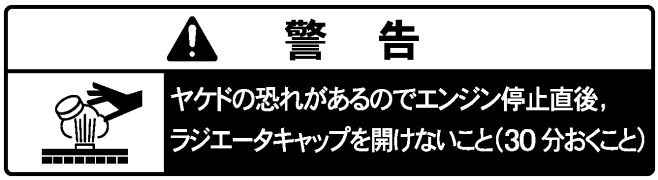
(2) 品番 95740000280



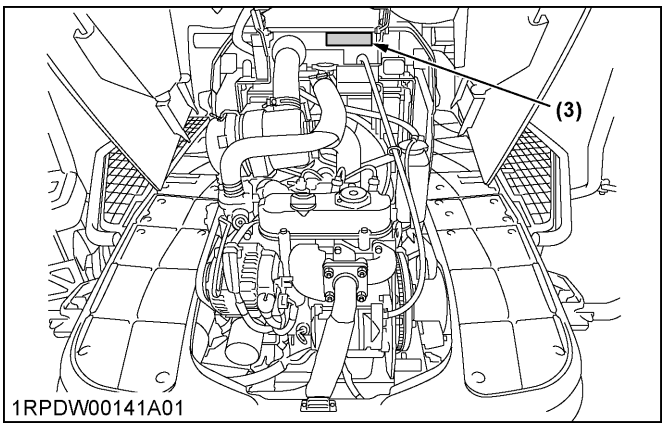
※イラストは［6 条］



(3) 品番 99920000340



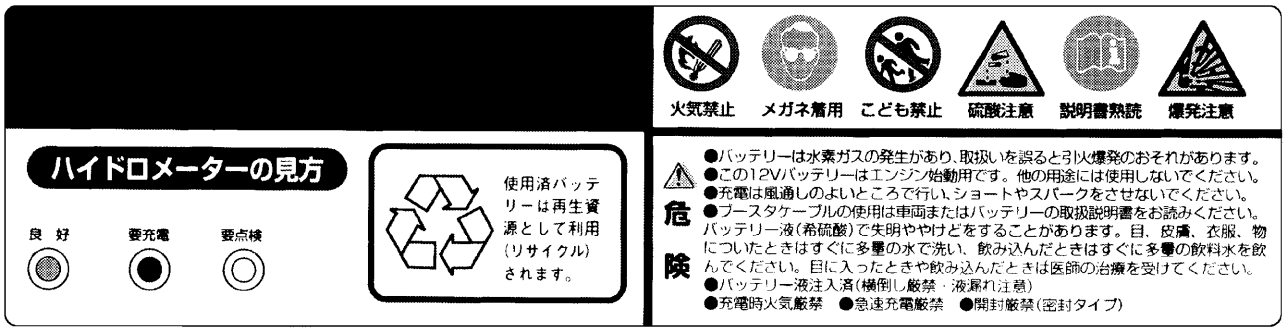
※イラストは［6 条］



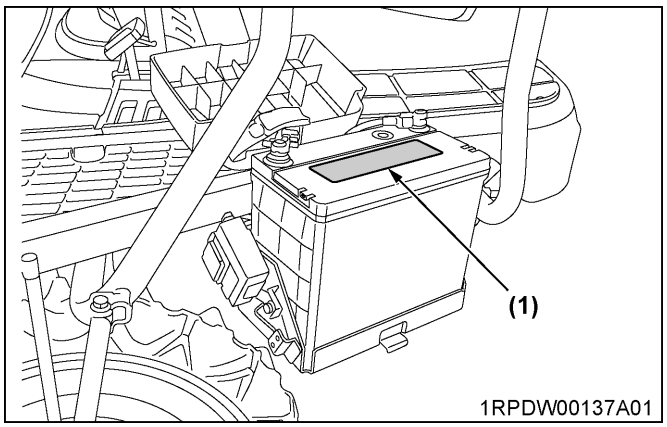
(4) 品番 99920000320



(1) 品番 99920004331



1AAUA00099A01

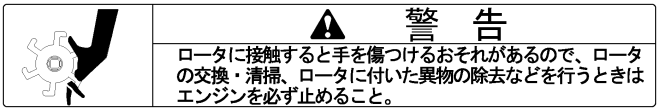


1RPDW00137A01

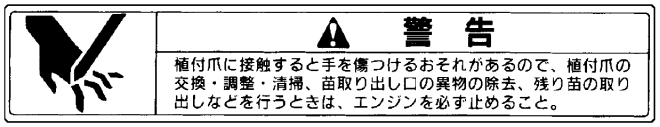
(1) 品番 95740000440



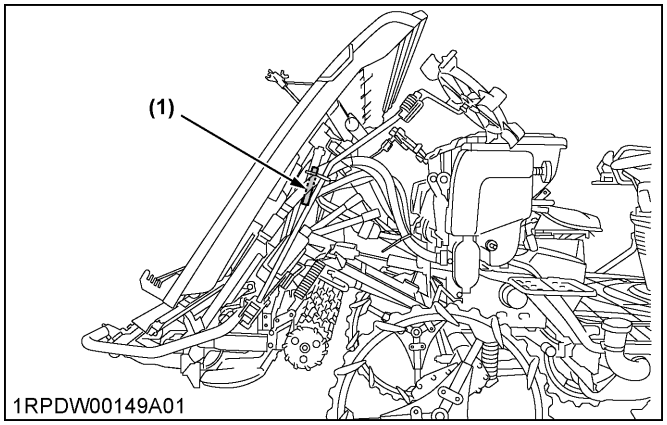
(2) 品番 95720000671



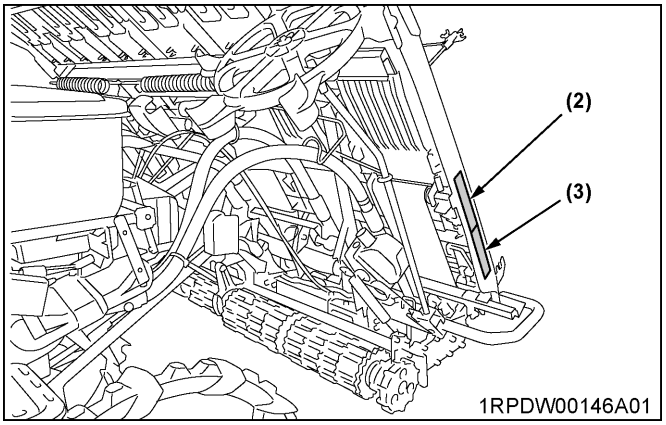
(3) 品番 26910003021



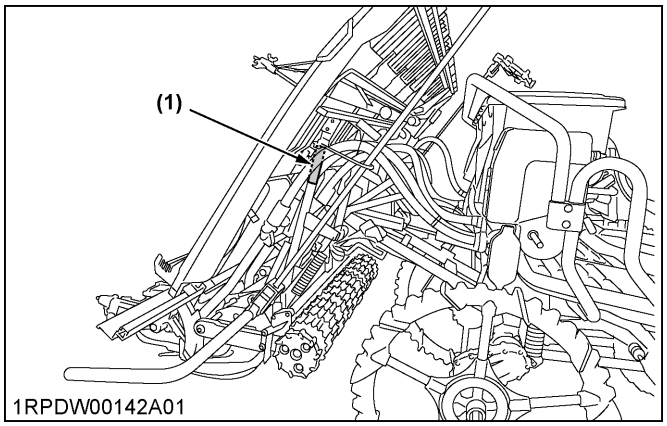
※イラストは［6 条］



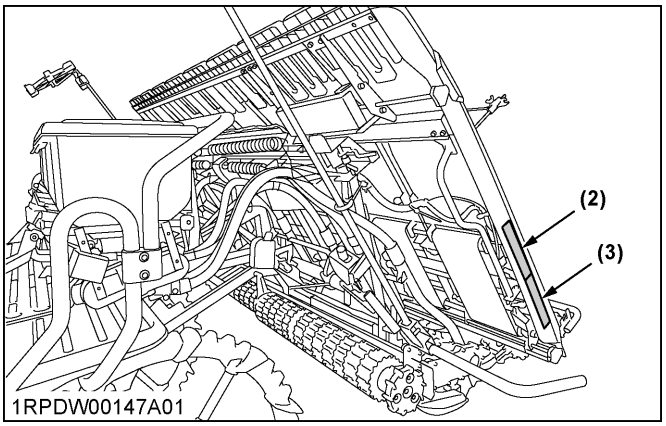
※イラストは［6 条］



※イラストは［8 条］



※イラストは［8 条］

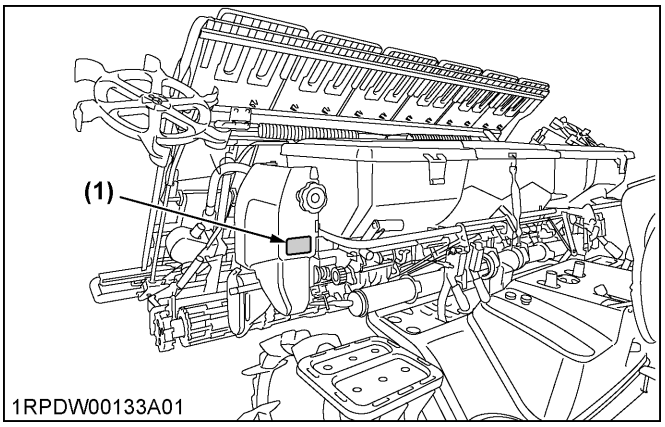


(1) 品番 95740000450［R 仕様］

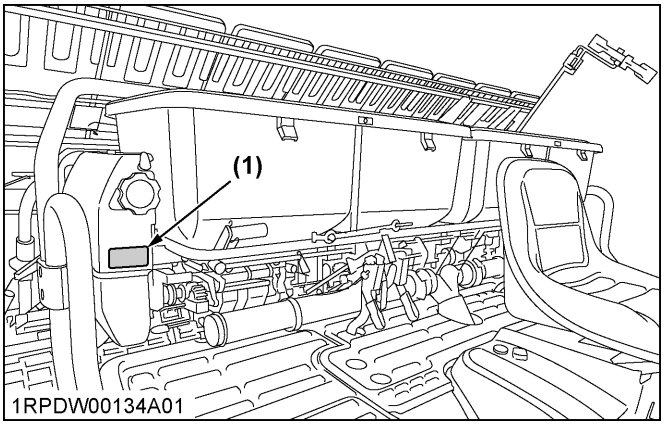
⚠ 警 告

作業中、回転駆動部（軸、ギヤ）に手を入れないこと

※イラストは［6 条］



※イラストは［8 条］



安全ラベルの手入れ

安全ラベルをよく読み理解して、安全注意事項を守ってください。

- 安全ラベルはいつもきれいにして、傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼り替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼り付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

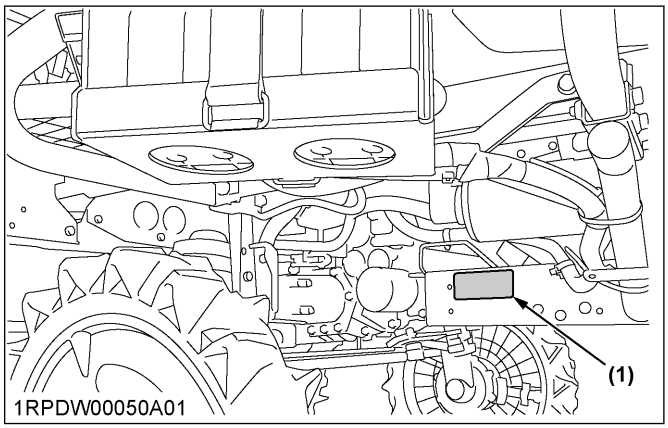
⚠ 警告
- **機械の改造は危険ですので、改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれ**[ご相談窓口]**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、銘板に記載している
- 型式名・区分と製造番号
- 搭載機関（エンジン）の型式名と番号

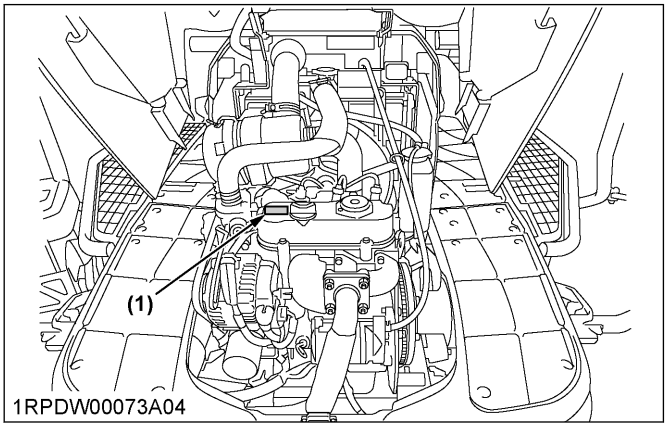
をあわせてご連絡ください。
なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。





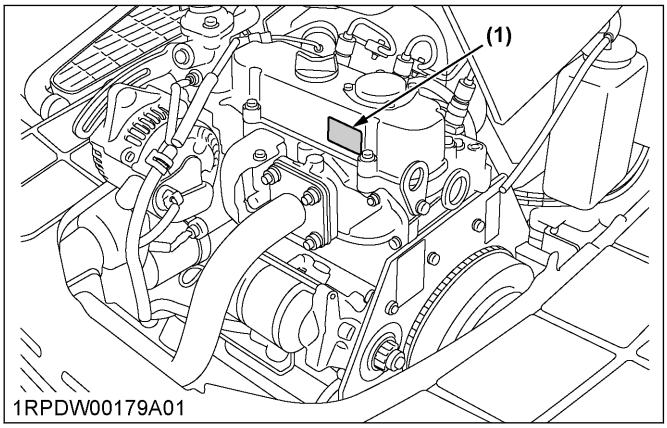
(1) 銘板（型式名、区分および製造番号）

[6 条]



(1) 銘板（エンジン番号、エンジン型式名）

[8 条]



(1) 銘板（エンジン番号、エンジン型式名）

認定番号

型式名		安全検査証票番号
LD	6	NARO 21/086
	8	NARO 21/087

補修用部品の供給年限について

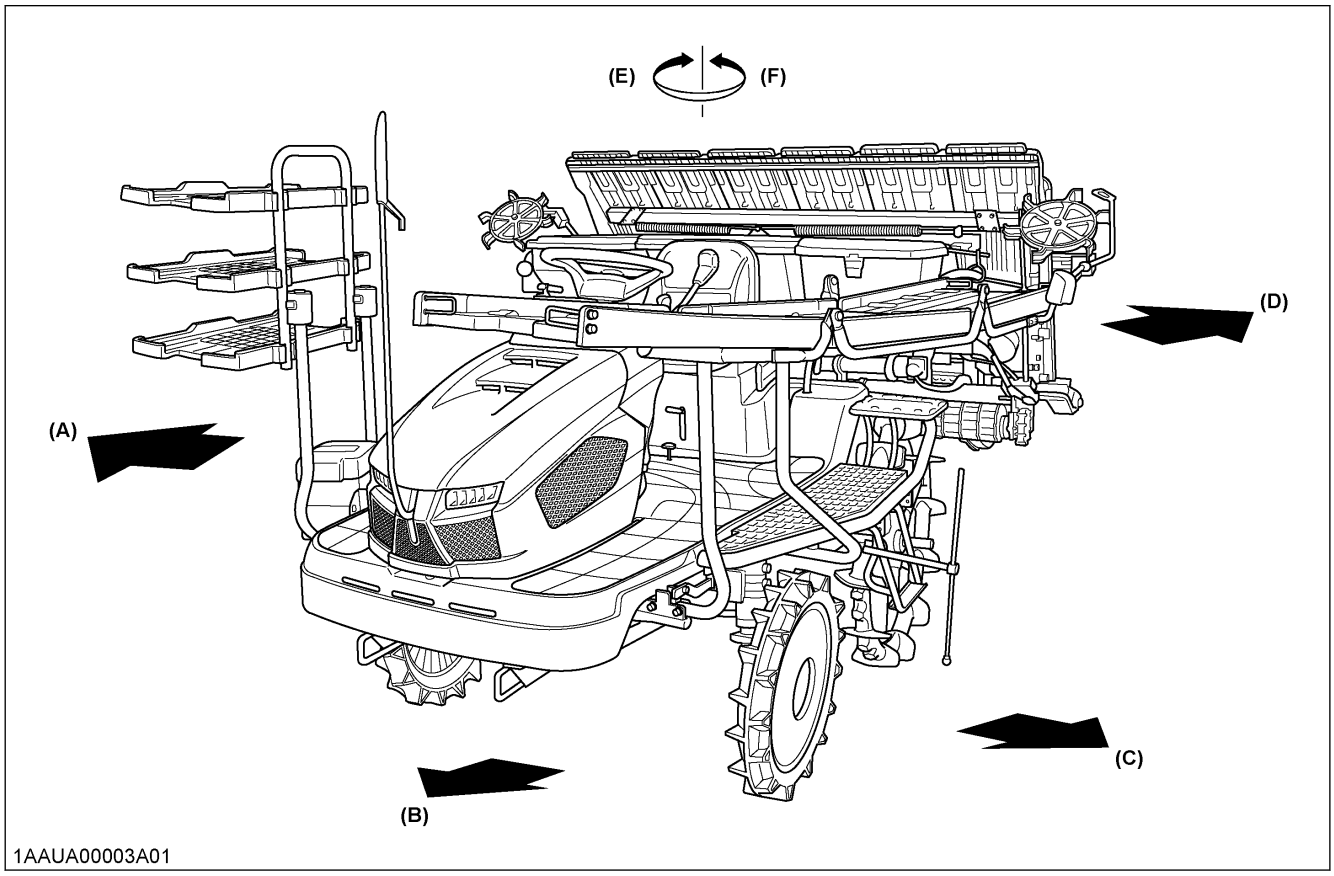
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

装置の名称と取扱い

機体方向説明

この取扱説明書で使用している**前後・左右・左回り・右回り**などの方向は、図示の通りです。

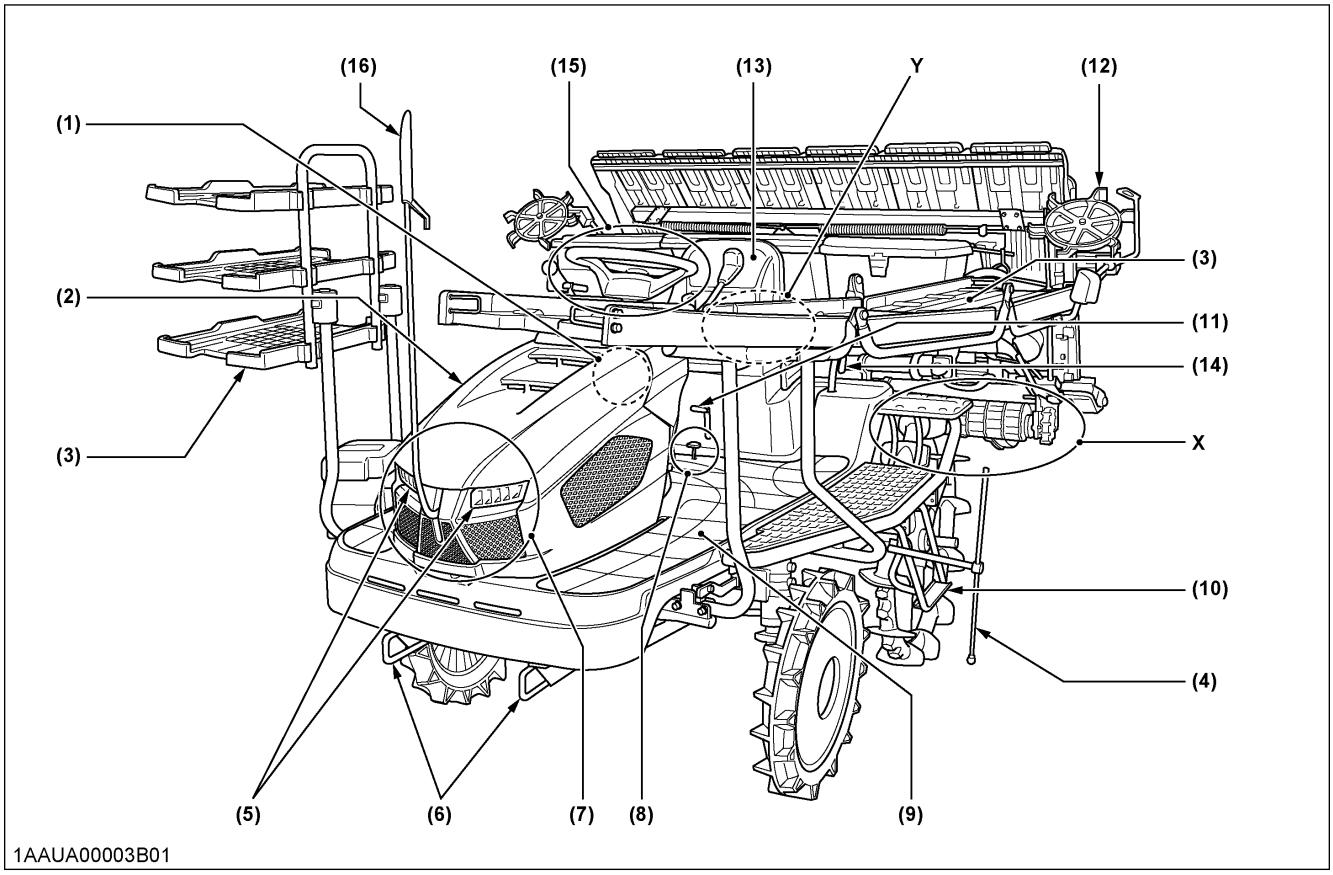
※イラストは［6 条］［R 仕様］



(A) 右側
(B) 前方
(C) 左側
(D) 後方
(E) 右回り（時計方向）
(F) 左回り（反時計方向）

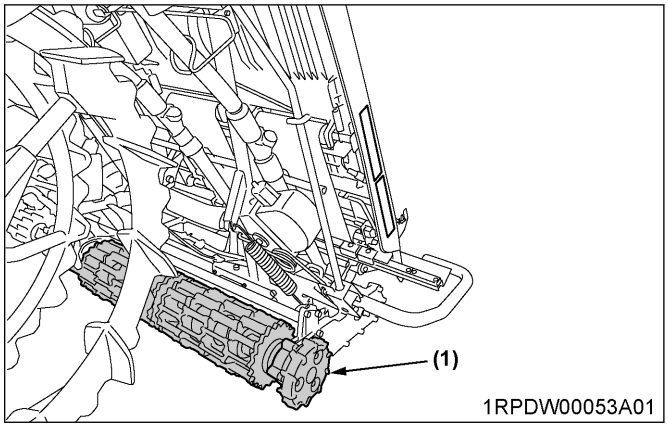
各装置の名称

※イラストは［6 条］［R 仕様］



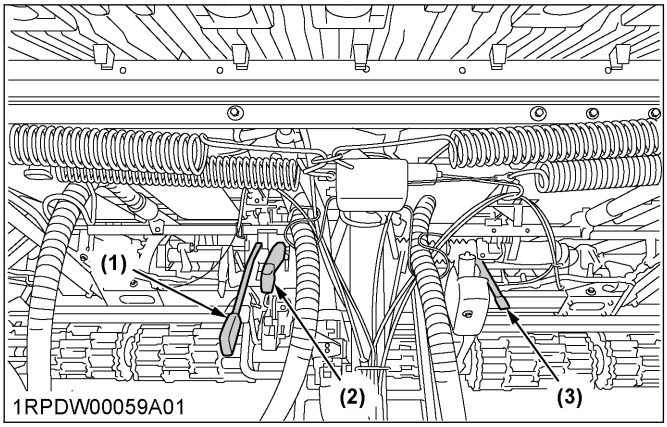
(1) アワメータ
(2) ボンネット
(3) 予備苗のせ台
(4) 隣接マーカ
(5) ヘッドランプ
(6) ロープ掛けフック
(7) エンジン部
(8) 前輪デフロックペダル
(9) ステップ
(10) 補助ステップ
(11) 油圧ロックレバー
(12) ラインマーカ
(13) 運転席（シート）
(14) あぜぎわクラッチレバー
(15) 運転操作部
(16) マスコット

X 部拡大図



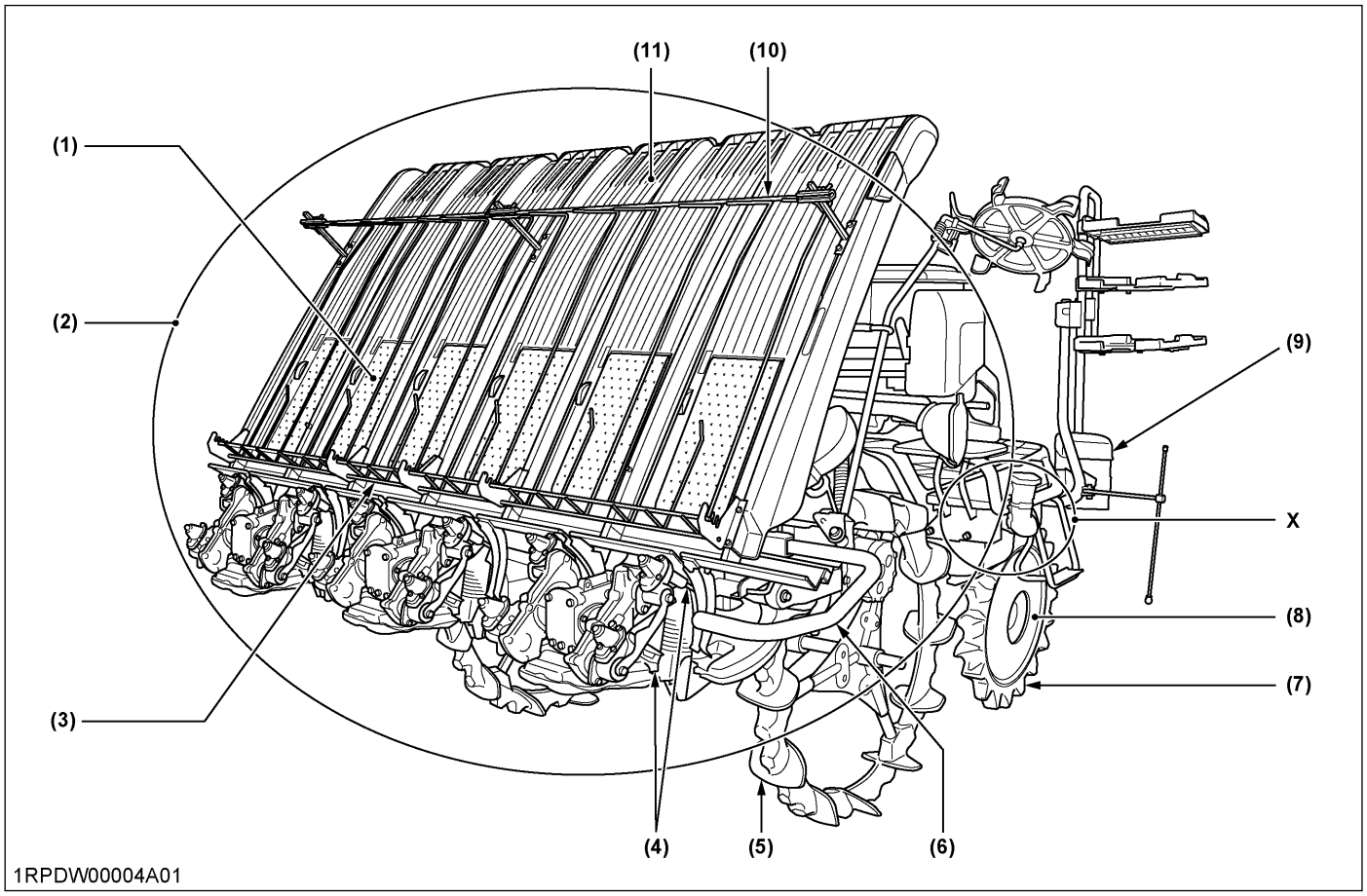
(1) 整地ロータ

Y 部拡大図



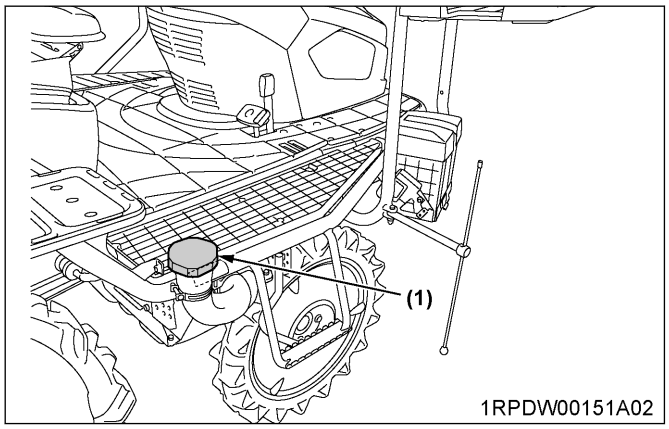
(1) 苗取量調節レバー
(2) 植付深さ調節レバー
(3) 横送り切替レバー

※イラストは［6 条］



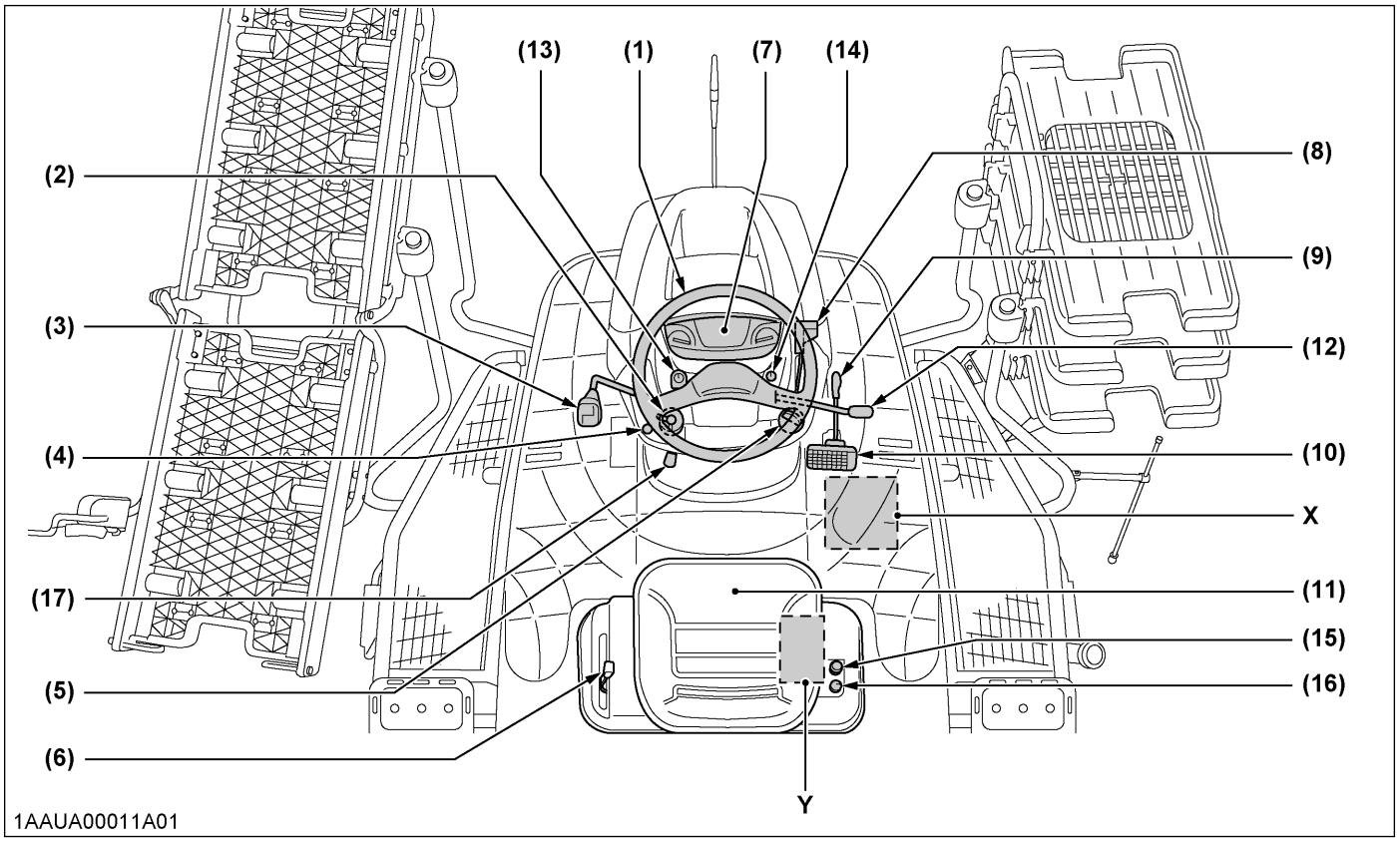
(1) 縦送りベルト
(2) 植付部
(3) 苗押さえ棒
(4) 植付爪
(5) 後輪
(6) しゅう動板ガード
(7) 前輪
(8) ホイールカバー
(9) バッテリ
(10) 苗ステー
(11) 苗のせ台

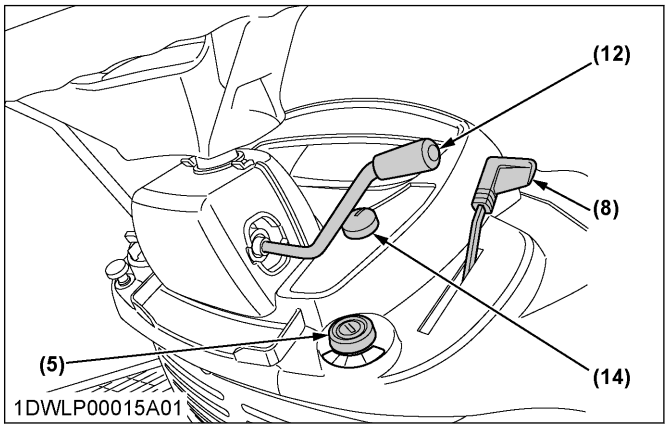
X 部拡大図

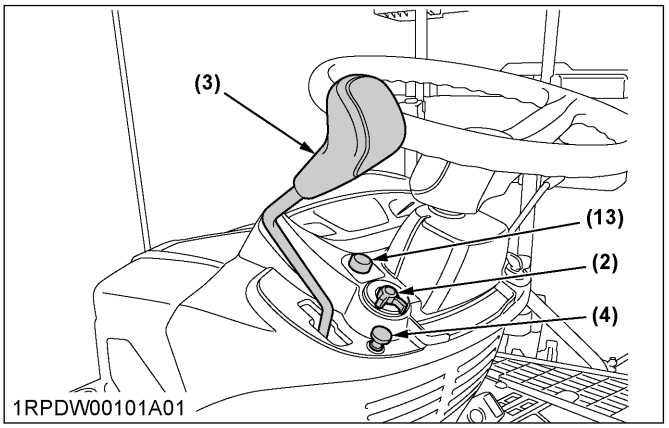


(1) 燃料キャップ

※イラストは［6 条］

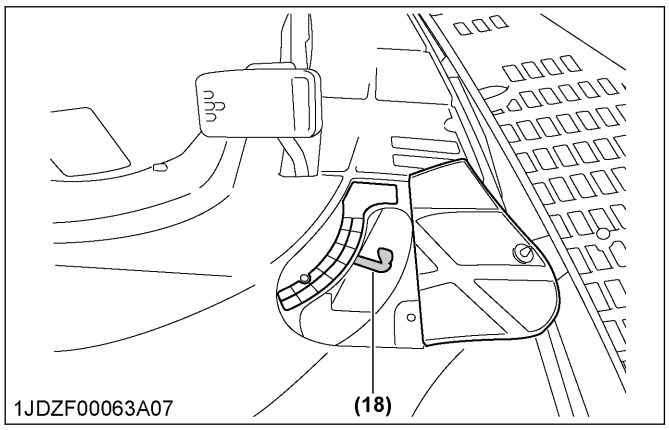






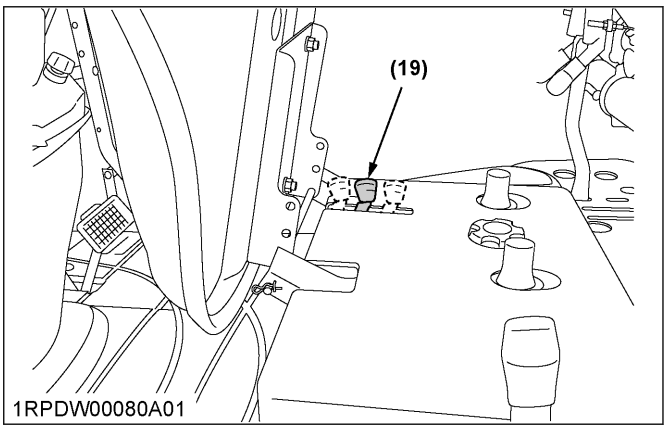
(1) パワーステアリングハンドル
(2) コンビネーションスイッチ
(3) 主変速レバー
(4) エンジンストップノブ
(5) メインスイッチ
(6) 副変速レバー
(7) メインパネル
(8) アクセルレバー
(9) 駐車ブレーキレバー
(10) ブレーキペダル
(11) 運転席シート
(12) 十字ポンパレバー
(13) フィットセンサダイヤル
(14) モンロー調節ダイヤル
(15) ロータ自動入/切スイッチ
(16) ロータ深さ調節ダイヤル
(17) 車速切替レバー

X 部拡大図



(18) 株間調節レバー

Y 部拡大図



(19) 株間副変速レバー

走行装置の名称とはたらき

1. エンジン操作関係

1.1 メインスイッチ

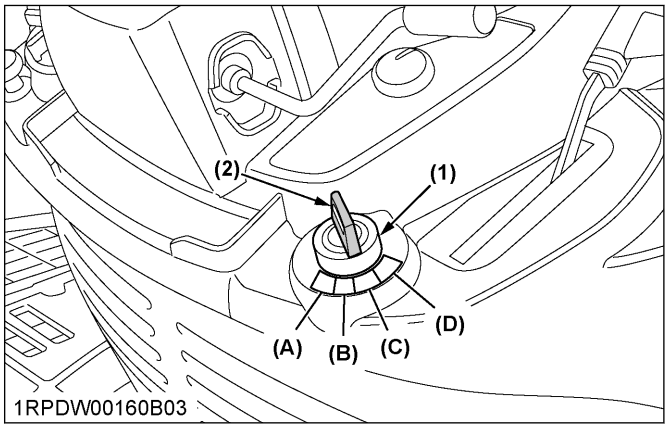
田植機の電源の**入・切**、およびエンジンの**始動・停止**を行うスイッチです。

[始動]
セルモータが回転し、エンジンが始動する位置

[予熱]
エンジンの燃焼室内が予熱される位置

[運転]
電気（電装）装置がはたらく位置

[停止]
メインスイッチのキーが抜差しできるエンジン停止中の位置

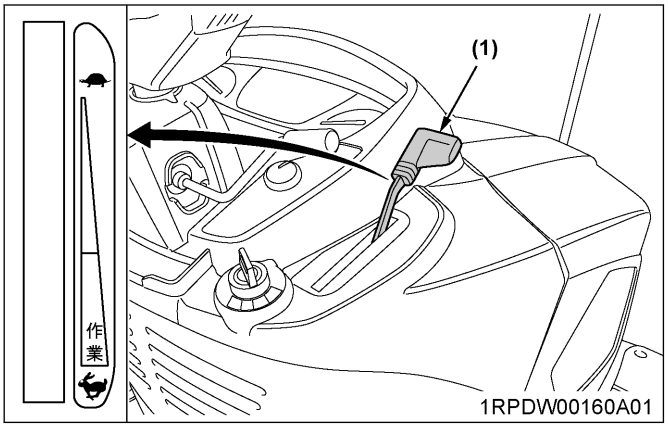


(1) メインスイッチ
(2) キー
(A) ***[始動]***
(B) ***[予熱]***
(C) ***[運転]***
(D) ***[停止]***

補足：
- **[運転]位置と[始動]位置の間は[予熱]位置の範囲（エリア）です。寒冷時にエンジンを始動するときに使用します。（詳細は寒冷時の始動のしかた（47 ページ）参照）**
- **エンジン始動後、メインスイッチのキーから手を離すとメインスイッチのキーは、[運転]位置に戻ります。**

1.2 アクセルレバー

エンジンの回転数をコントロールするレバーです。
レバーを後方に引く（ 方向）と回転数が上がり、前方に押す（ 方向）と回転数は下がります。

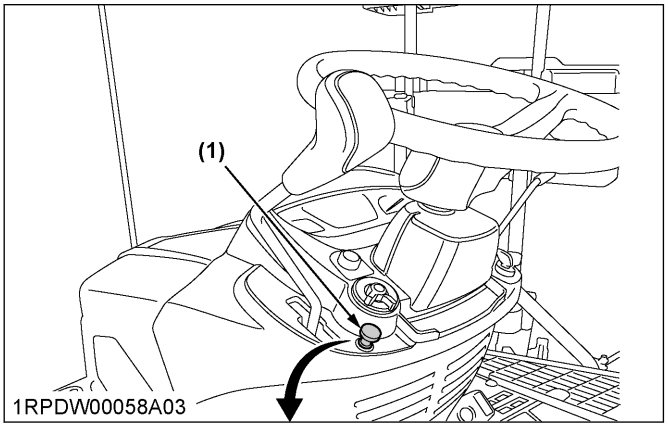


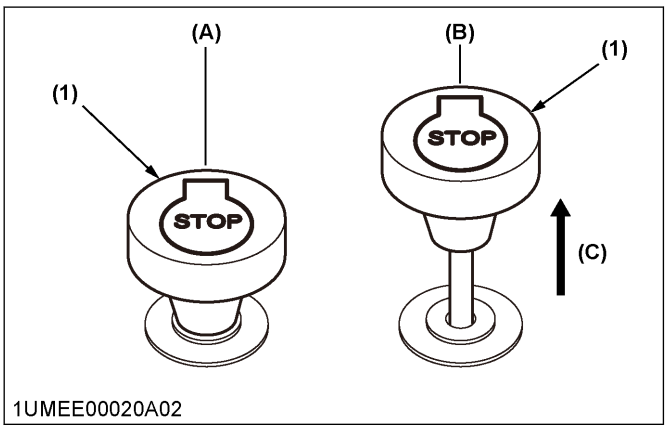
(1) アクセルレバー

補足：
- **通常の移動走行や植付作業を行うときは、[作業範囲]内で操作してください。**
- **主変速レバーを操作するとエンジンの回転数が連動して増減します。**

1.3 エンジンストップノブ

メインスイッチのキーを**[停止]**位置にしてもエンジンが止まらないときなどに、エンジンを停止させます。





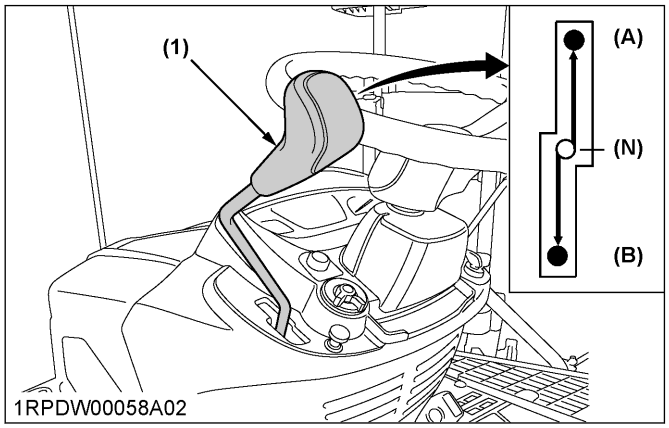
(1) エンジンストップノブ
(A) 始動位置
(B) 停止位置
(C) 引くと停止

補足：
- **エンジンストップノブは、エンジンが完全に停止した後、元の始動位置まで戻しておいてください。エンジンストップノブが停止位置では、エンジンは始動しません。**

2. 走行操作関係

2.1 主変速レバー

前進・後進・停止（中立）の操作および走行速度の調整を行うレバーです。
また、主変速レバーを**[前進]**側または、**[後進]**側に操作したとき、動かす量に応じて、エンジンの回転数が連動して増減します。

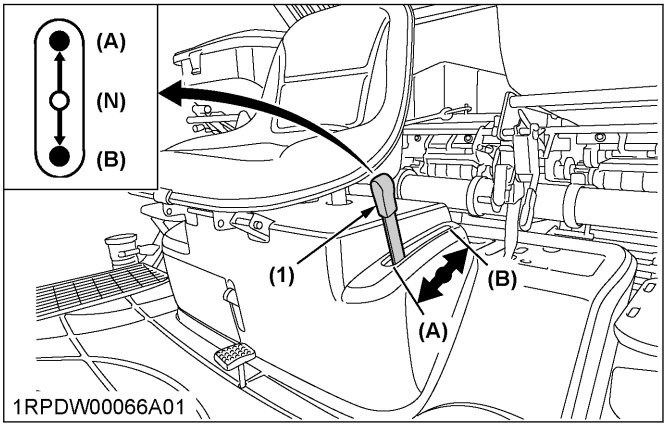


(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(N) ***[N]***（中立）
(B) ***[後進]***

補足：
- **走行速度は、主変速レバーを動かす量に応じて変わり（増・減）ます。**
- **通常の走行を停止するときは、主変速レバーを[N]（中立）位置に操作してください。**
- **エンジン回転数の調整を行うときは、主変速レバーを[N]（中立）位置にしたあと、アクセルレバーを操作してください。**
- **植付部が接地しているとき、主変速レバーを[N]（中立）位置より[後進]側に操作すると、バックアップ機能がはたらいて植付部が上昇します。**

2.2 副変速レバー

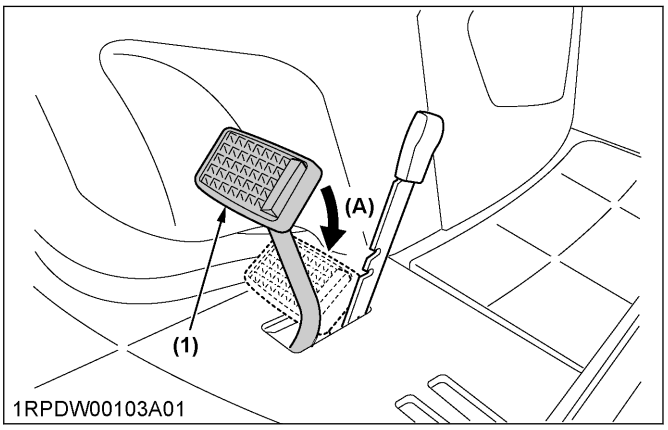
[移動]位置と**[圃場作業]**位置の切り替えを行うレバーです。



(1) 副変速レバー
(A) 圃場作業
(N) ***[N]***（中立）
(B) 移動

2.3 ブレーキペダル

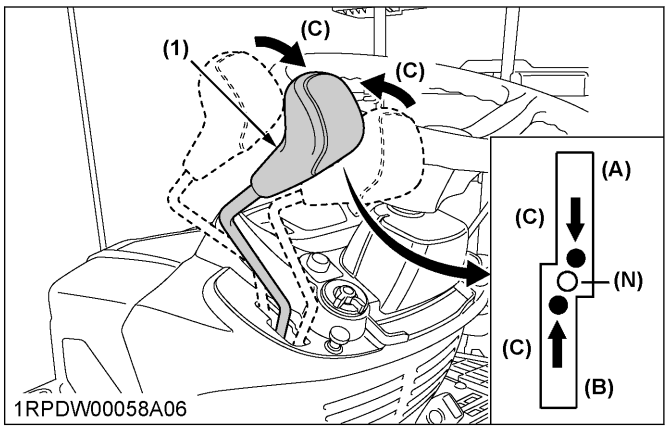
踏込むとブレーキが掛かります。



(1) ブレーキペダル
(A) 踏込む

重要：
- **ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーを前進側、後進側への操作はできません。無理に操作するとレバーの変形や破損によるトラブルの原因となります。**

補足：
- **前、後進中にブレーキペダルを踏込むと、自動減速すると同時に主変速レバーが強制的に[N]（中立）へ戻ります。**
- **エンジン始動時はブレーキペダルをいっぱいまで踏込んでください。踏込み不足の場合はエンジンが始動しません。**

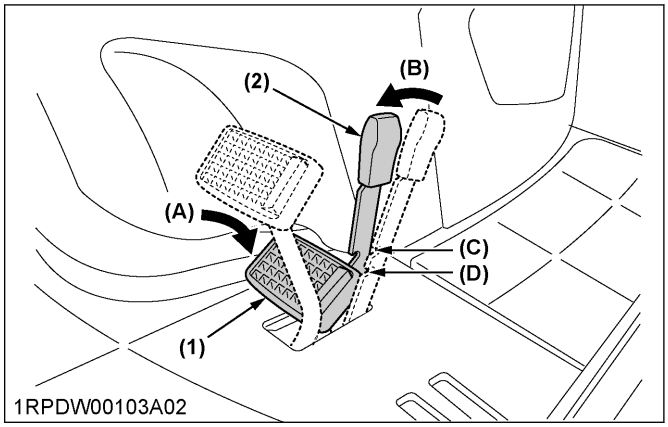


(1) 主変速レバー

(A) 前進
(N) 中立
(B) 後進
(C) 戻る

2.4 駐車ブレーキレバー

ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーでペダルをロックすると駐車ブレーキが掛かります。
ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキレバーを外すと駐車ブレーキが解除されます。



(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー

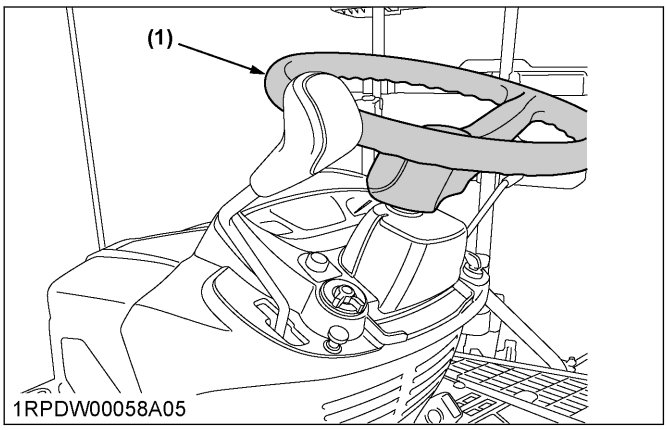
(A) 踏込む
(B) 掛ける
(C) *1* 段目
(D) *2* 段目

補足：

- **急な坂道など傾斜の大きいところで駐車するときは、2 段目の切欠位置に駐車ブレーキレバーを掛けてください。**

2.5 パワーステアリングハンドル

操向操作（旋回や進路変更）を行う油圧式のハンドルです。



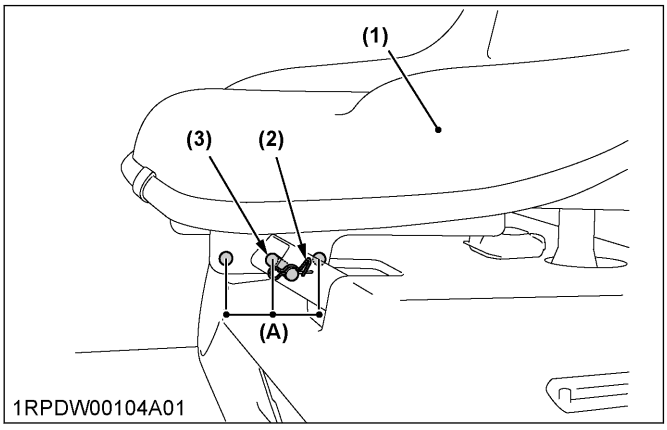
(1) パワーステアリングハンドル

重要：

- **ハンドル操作は、ブレーキペダルを踏込んでいるときや、エンジンが停止しているときは重くなりますので無理に操作しないでください。タイヤの摩耗が早くなったり、リムの破損の原因になります。**

2.6 運転席（シート）

運転席は前後に調節することができます。
運転席の前方下にあるスナップピンとロッドを外し、穴を差換えて前 ⟷ 後に調節してください。

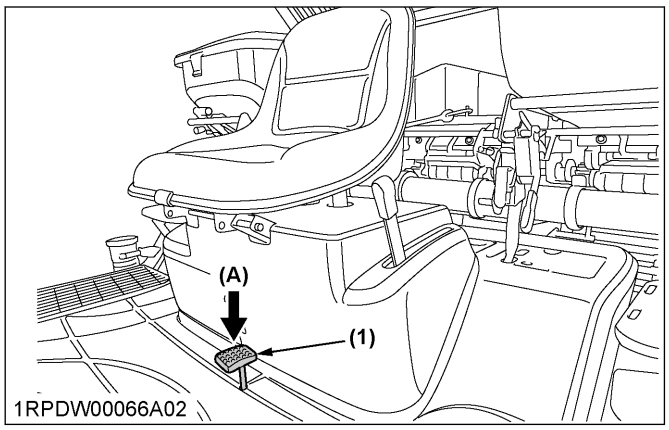


(1) 運転席（シート）
(2) スナップピン
(3) ロッド

(A) 調節（*3* 段階）

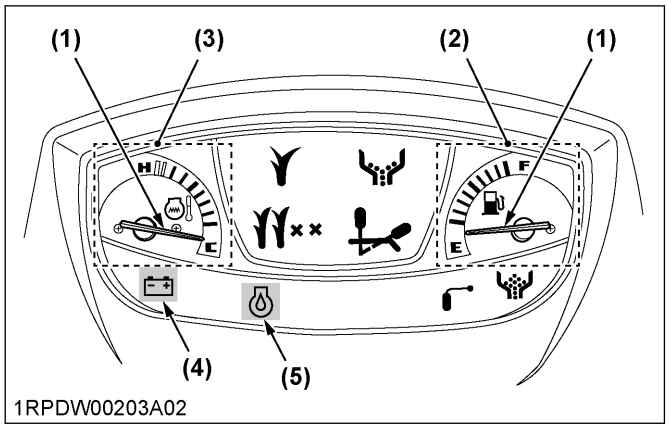
2.7 前輪デフロックペダル

踏込むと、左と右の前輪が一体となって駆動します。ほ場の条件などにより片方の前輪がスリップするときに使用します。



(1) 前輪デフロックペダル　　*(A)* 踏込む

2.8 メインパネル（走行操作関係）



(1) 針
(2) 燃料計
(3) 水温計
(4) 充電ランプ
(5) オイルランプ

補足：

- **メインパネルは部品保護のため呼吸穴を設けていますが、湿度が高いときにパネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は、周囲の温度により表面が冷却されると結露が発生することがありますが、これは異常ではありません。また、結露による機器内への影響もありません。**

2.8.1 各メータ

燃料計

燃料の残量を針で表示（**[F]**（満タン）⟷**[E]**（空））します。

水温計

エンジン冷却水の温度を針で表示（**[C]⟷[H]**）します。

補足：

- **メインスイッチのキーを[運転]位置にすると、メータがはたらきます。**

2.8.2 各ランプ

充電ランプ（充電警報）

電気系統の故障で、充電できなくなったときに点灯します。

オイルランプ（油圧警報）

エンジンオイルの圧力が、異常に低下したとき点灯します。

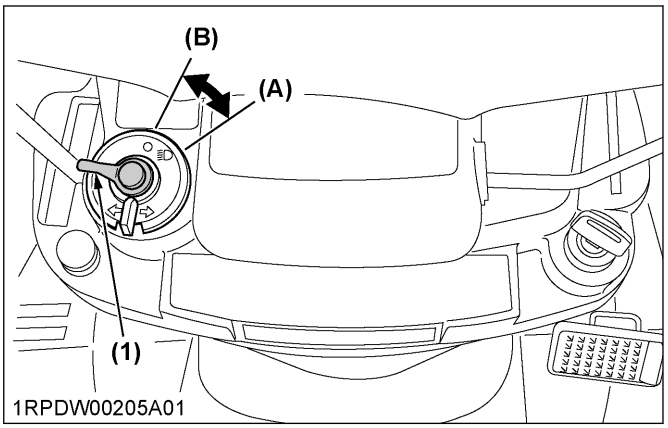
重要：

- **パネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は、アルコール類（メチルやエチルなど）やカーシャンプー原液を使って掃除はしないでください。カバー表面が白くにごって、見えにくくなります。**

補足：

- **警報発生後の処置については、メインパネルによる異常の表示と処置（96 ページ）を参照してください。また、ランプは異常の原因を取除くと消灯します。**
- **エンジンが停止状態のとき、メインスイッチのキーを[運転]位置にすると、各警報ランプがランプチェックのため約 2 秒間点灯したあと消灯します。また、オイルランプと充電ランプは、エンジン始動後に消灯します。**

2.9 コンビネーションスイッチ



(1) ランプスイッチ　　*(A)* 点灯
(B) 消灯

ランプスイッチ

○

ヘッドランプが消灯します。

≡○

ヘッドランプが点灯します。

重要：

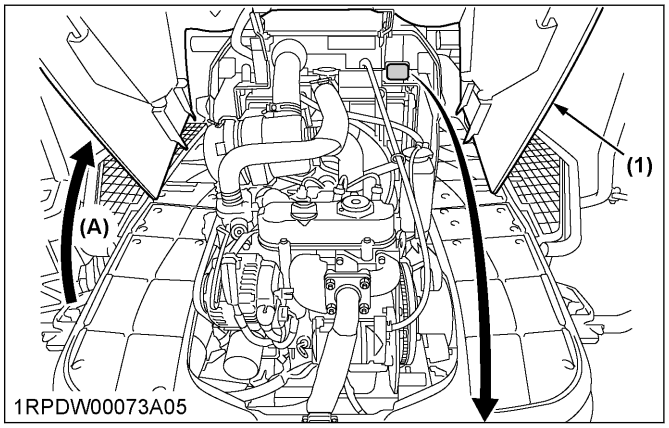
- **ウインカスイッチが付属されていますが本シリーズではウインカ機能はありません。**

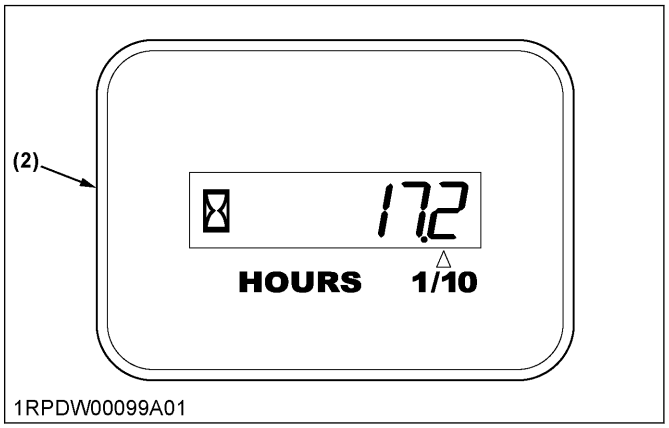
2.10 アワメータ

積算使用時間を表示します。

補足：

- **右端の 6 桁目は、数字を 6 倍すると分単位の表示となります。**
  ［例］ 00017 2 .....17 時間 12 分





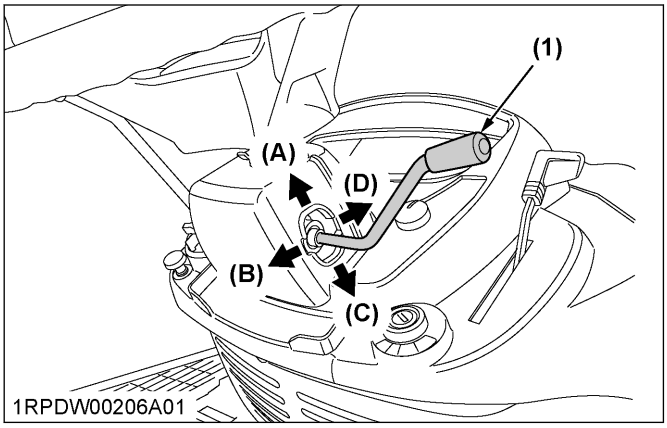
(1) ボンネット　　*(A)* 開く
(2) アワメータ

作業装置の名称とはたらき

1. 植付操作関係

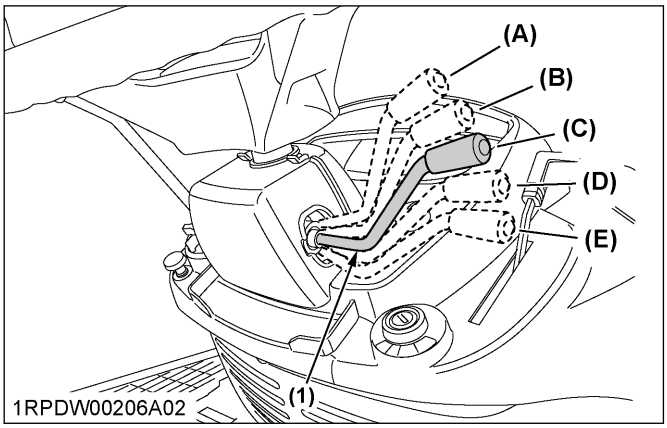
1.1 十字ポンパレバー（二段）

十字ポンパレバーは、エンジンが作動中に植付部（苗のせ台）の**上昇・下降**、植付クラッチの**入・切**、ラインマーカのセットを操作するレバーです。操作するときは、**上・下・前・後**各方向に軽く押したあと離してください。



(1) 十字ポンパレバー

(A) ***[上昇]***
(B) ***[マーカ右]***
(C) ***[下降] [植付]***
(D) ***[マーカ左]***



(1) 十字ポンパレバー

(A) 上 *2* 段目位置
(B) 上 *1* 段目位置
(C) 中立位置
(D) 下 *1* 段目位置
(E) 下 *2* 段目位置

[上昇]（上側操作）
植付部の駆動が停止し、植付部が上昇します。

補足：

- **上 1 段目位置に十字ポンパレバーを上げると、上げている間だけ植付部が上昇します。植付部を一気に最上昇位置にするには、“ピッ”と音が鳴る上 2 段目まで十字ポンパレバーを上げてください。このとき、植付クラッチが[切]の状態になります。**

[下降]・[植付]（下側操作）
植付部が下降します。そのあと、十字ポンパレバーを再度操作すると植付クラッチが**[入]**になり、植付部が駆動します。（爪が回転し、苗のせ台が横送りします。）

補足：

- **下 1 段目位置に十字ポンパレバーを下げると、下げている間だけ植付部が下降します。植付部を一気にフロートが接地するまで下げるには、“ピッ”と音が鳴る下 2 段目位置まで十字ポンパレバーを下げてください。**

もう 1 度十字ポンパレバーを下 2 段目位置まで下げると、“ピッピッ”と 2 回連続音がしてクラッチが [入]になり、植付部が駆動します。

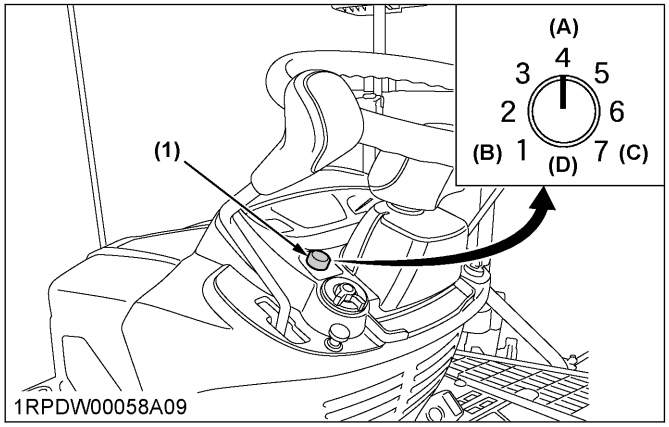
[マーカ左]（前側操作）・[マーカ右]（後側操作）
植付部が下降状態のとき、十字ポンパレバーを操作すると、ラインマーカが左側または、右側に倒れてセットされ、植付準備の状態になります。

重要：
- **十字ポンパレバーは軽く操作してください。強く操作すると十字ポンパレバーの変形や破損、スイッチの故障によるトラブルの原因となります。**

補足：
- **植付部が地面に接地している状態で、主変速レバーを[N]（中立）位置より後進側に操作すると、植付部の駆動が停止し、植付部が上昇します（バックアップ機能）。**
- **植付部が上昇するとラインマーカは自動的に収納されます。**
- **マーカ使用時に十字ポンパレバーを操作すると（長押しすると）、植付部を昇降させないで、ラインマーカの左（前方）または右（後方）だけが収納位置に戻ります。**

1.2 フィットセンサダイヤル

フィットセンサダイヤルは、フロートによるほ場表面の整地を最良にするため、ほ場表面の状態に合わせて植付部の上下の動きの感度を調節する装置です。ほ場の状態に合わせて 7 段階（1 ～ 7）の調節が行えます。

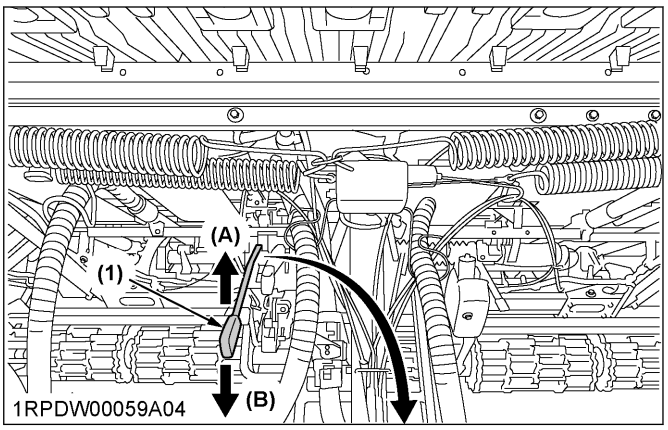


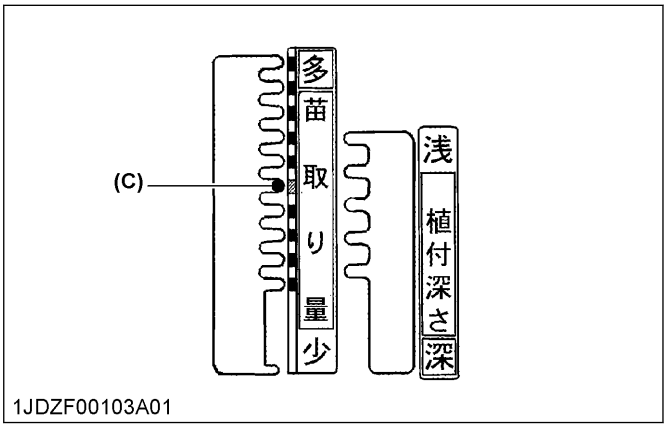
(1) フィットセンサダイヤル
(A) 標準
(B) ***[軟]***
(C) ***[硬]***
(D) ほ場表面硬さ

補足：
- **出荷時は、[4]（標準）の位置です。**

1.3 苗取量調節レバー

苗の縦取り量を調節するレバーです。苗の状態や種類に合わせて 10 段階の調節が行えます。



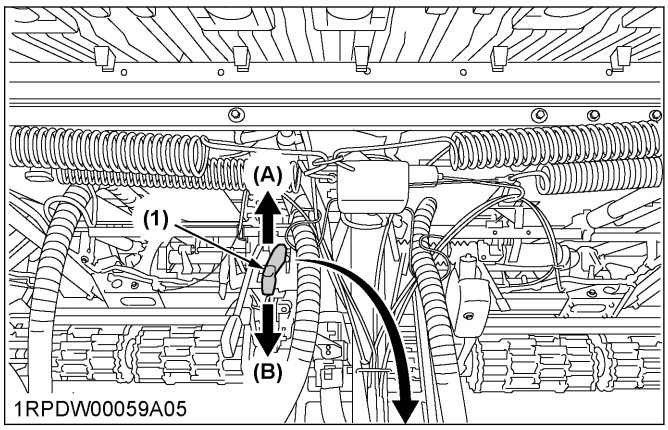


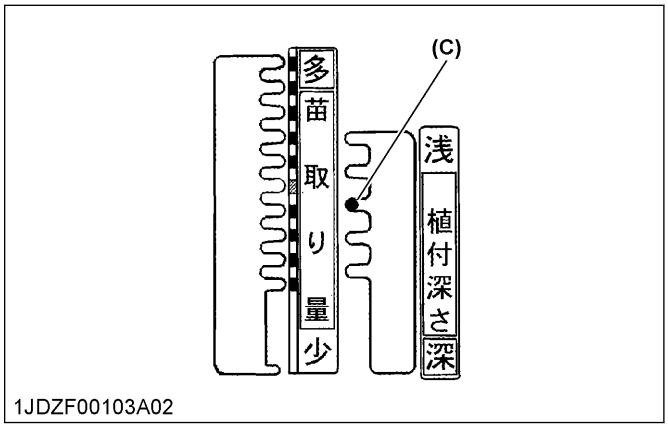
(1) 苗取量調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない
(C) 標準

補足：
- **出荷時は、最[多]位置です。**

1.4 植付深さ調節レバー

ほ場に適した苗の植付深さを調節するレバーです。苗の植付深さに合わせて 5 段階の調節が行えます。



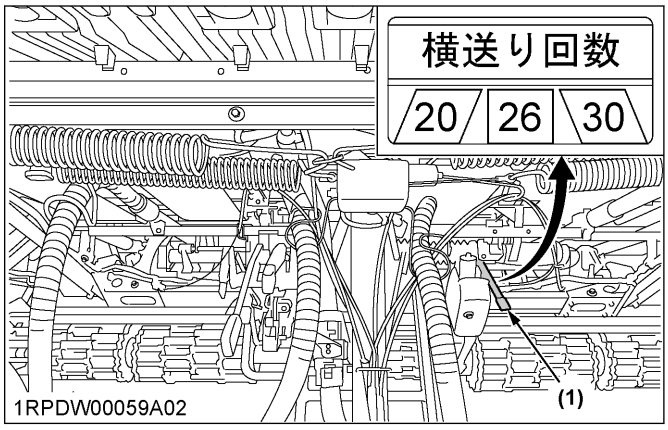


(1) 植付深さ調節レバー
(A) 浅い
(B) 深い
(C) 標準

補足：
- **出荷時は最［深］位置です。**

1.5 横送り切替レバー

苗の横送り回数を切り替えるレバーです。苗の種類に合わせて 3 段階（20 回・26 回・30 回）の切替えが行えます。



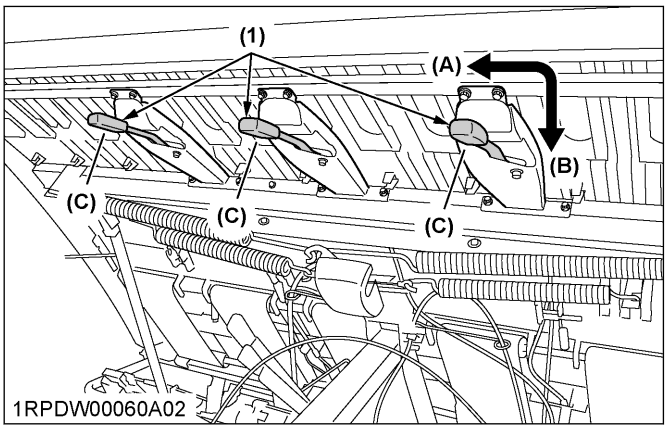
(1) 横送り切替レバー

補足：
- **出荷時は[26]回位置です。**

1.6 あぜぎわクラッチレバー

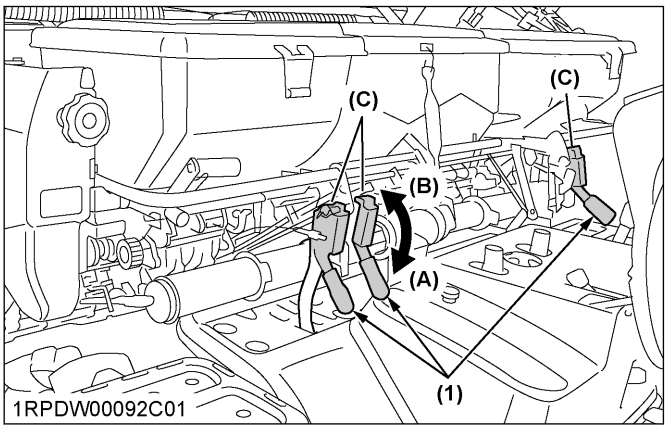
2 条ごとに苗の縦送りと植付爪の駆動を停止するレバーです。ほ場の形状にあわせて、必要なときに使用してください。

［R 仕様除く］※イラストは［6 条］



(1) あぜぎわクラッチレバー
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***
(C) 2 条

［R 仕様］※イラストは［6 条］

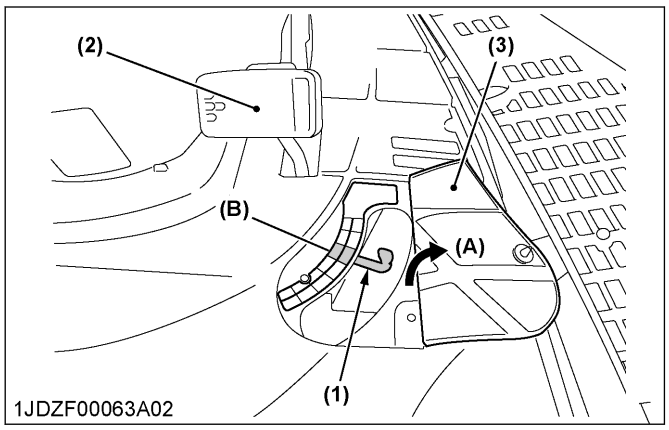


(1) あぜぎわクラッチレバー
(A) ***[入]***
(B) ***[切]***
(C) 2 条

補足：
- **クラッチレバーを使用するときは、植付爪が停止または、低速回転時に行ってください。**

1.7 株間調節レバー

植付株間の調節を行うレバーです。6 段階の株間に調節できます。



(1) 株間調節レバー
(2) ブレーキペダル
(3) ゴムカバー
(A) めくる
(B) *16 cm・70 株/3.3 m²*

重要：
- **株間を[疎植]24 cm・30 cm に調節するときは、株間副変速レバーと車速切替レバーの位置も変更してください。**
- **[疎植]24 cm・30 cm の株間から[標準]14 cm・16 cm・18 cm・21 cm に戻すときは、株間副変速レバーと車速切替レバーも[標準]位置に戻してください。**

補足：
- **出荷時は、[16 cm・70 株]位置です。**

1.8 株間副変速レバー・車速切替レバー

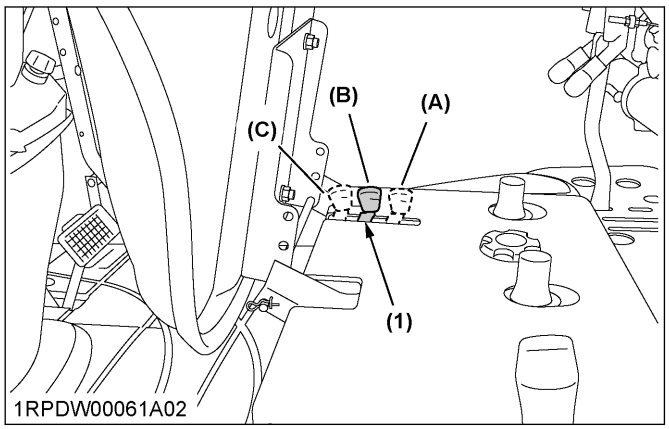
1.8.1 株間副変速レバー

株間を調節するときに切り替えるレバーです。

14 cm・16 cm・18 cm・21 cm
[標準]に切替え

24 cm
[疎植]（24 cm）に切替え

30 cm
[疎植]（30 cm）に切替え



(1) 株間副変速レバー
(A) ***[標準]****14 cm・16 cm・18 cm・21 cm*
(B) ***[疎植]****24 cm*
(C) ***[疎植]****30 cm*

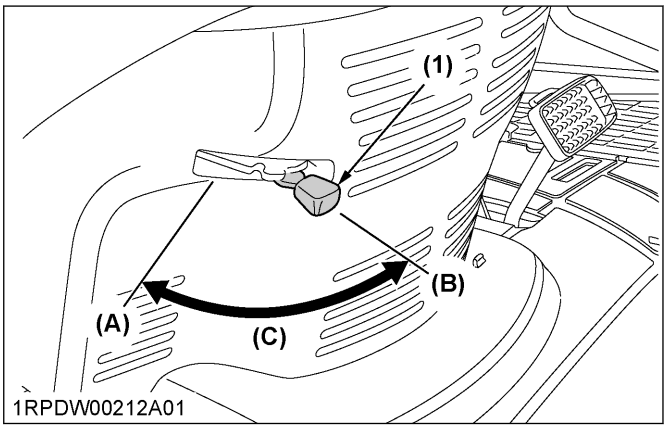
補足：
- **株間副変速レバーがかたくて動かない場合、以下の操作を行うことでレバー操作がしやすくなります。**
  1. **植付クラッチを[入]にして、主変速レバーをノッチ 3 段程度にして爪を回転させます。（実際に植付けを行わなくてもかまいません）**
  2. **ポンパ操作で植付クラッチを[切]にして爪の回転を止めます。**
  3. **主変速レバーを[N]（中立）位置に戻します。**

1.8.2 車速切替レバー

株間を調節するときに切り替えるレバーです。

14 cm・16 cm・18 cm・21 cm
[標準]に切替え

24 cm・30 cm
[疎植]に切替え



(1) 車速切替レバー
(A) ***[標準]***
(B) ***[疎植]***
(C) 切り替える

重要：
- **植付作業のとき、車速切替レバーと株間副変速レバーは、[標準][疎植]の切替えを同じセットにしてください。**
- **車速切替レバーと株間副変速レバーを正しくセットしないと、植付の乱れや作業時の異音の原因となります。**
- **標準植付作業時、標準位置に車速切替レバーを配置しないと車速が上がりません。**

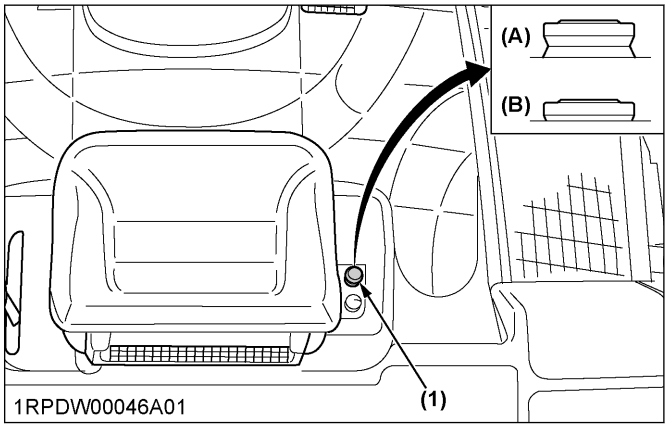
補足：
- **出荷時は[標準]位置です。**

1.9 ロータ自動入／切スイッチ

整地ロータの昇降を制御するスイッチです。
スイッチを押すとモニタ内にあるロータ自動ランプが点灯します。

[ON]（入）
ロータ自動ランプが点灯し、植付クラッチの入・切と連動して整地ロータが昇降します。

[OFF]（切）
ロータ自動ランプが消灯し、整地ロータを格納位置に保持します。



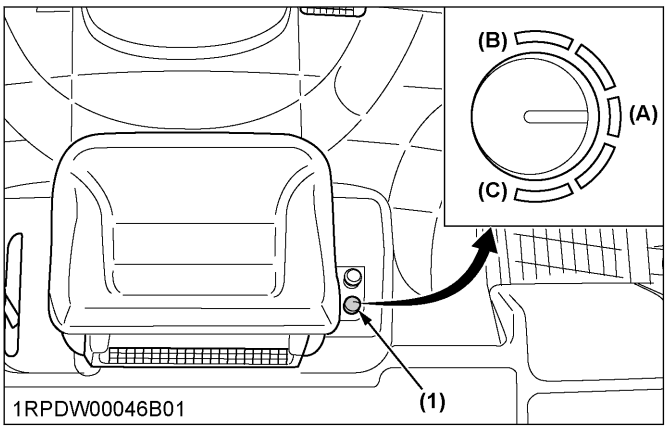
(1) ロータ自動入／切スイッチ　*(A)* ***[OFF]***（切）ランプ消灯
(B) ***[ON]***（入）ランプ点灯

補足：
- **整地ロータの昇降は、植付クラッチ[入]で下降し、植付クラッチ[切]で上昇します。**
- **植付部を上げた状態で高速駆動させると、共振により整地ロータが揺れる場合がありますが異常ではありません。**

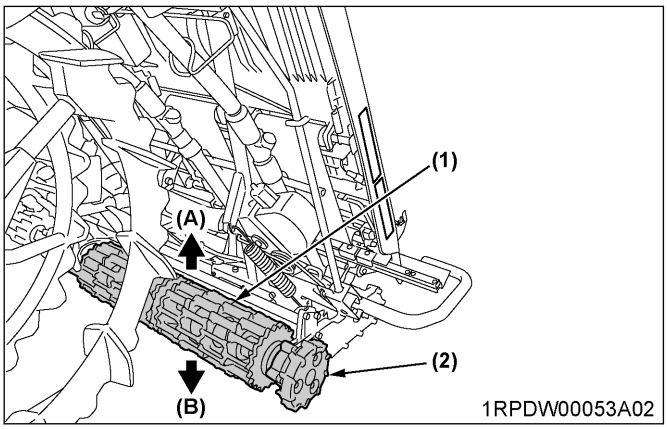
1.10 ロータ深さ調節ダイヤル

ロータ自動入／切スイッチが**[ON]**（入）のとき、整地ロータの深さを微調節するためのダイヤルです。**[深い]**に回すと整地ロータは下がり、**[浅い]**に回すと上がります。
整地ロータは、ほ場の車輪跡の整地を行い、植跡をきれいにするためのものです。ほ場条件によりダイヤルを押して整地ロータの深さ（ほ場上面からの深さ）を変えてください。

補足：
- **ロータの深さは植付深さ、フロート感知、ロータ深さ調節ダイヤルで決めています。そのため調節ダイヤルを回しても、ロータの深さが変わらない場合があります。**



(1) ロータ深さ調節ダイヤル　*(A)* ***[標準]***
(B) ***[浅い]***
(C) ***[深い]***

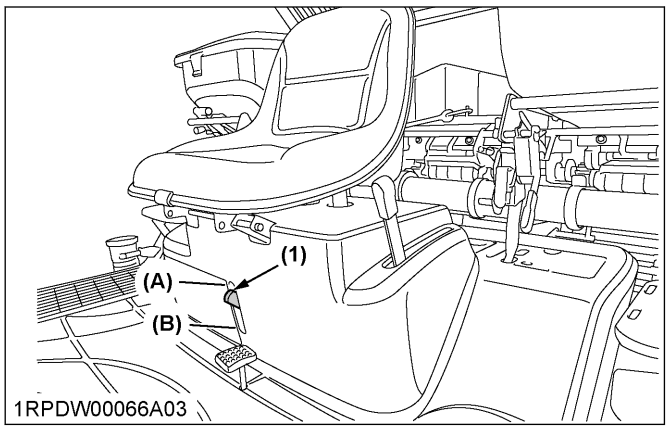


(1) 整地ロータ　*(A)* 上がる***[浅い]***
(2) 延長ロータ　*(B)* 下がる***[深い]***

- **ほ場条件によっては、ロータ自動入／切スイッチを[OFF]にし、ロータを格納位置にした方がきれいに植付けられる場合があります。**
- **出荷時は[標準]位置です。**

1.11 油圧ロックレバー

植付部の下降防止を行う油圧のロックレバーです。ロックレバーを上げる（**[閉]**位置）と、エンジンが作動中に十字ポンパレバーを操作しても植付部は下降⟷上昇しません。解除するときは、ロックレバーを下げて（**[開]**位置）ください。

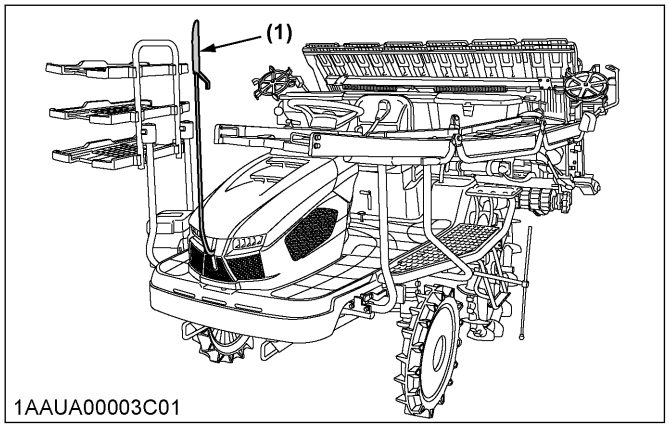


(1) 油圧ロックレバー　*(A)* ***[閉]***　*(B)* ***[開]***

補足：
- **油圧ロックレバーを操作するときは、上または下方向いっぱいまで操作してください。**

1.12 マスコット

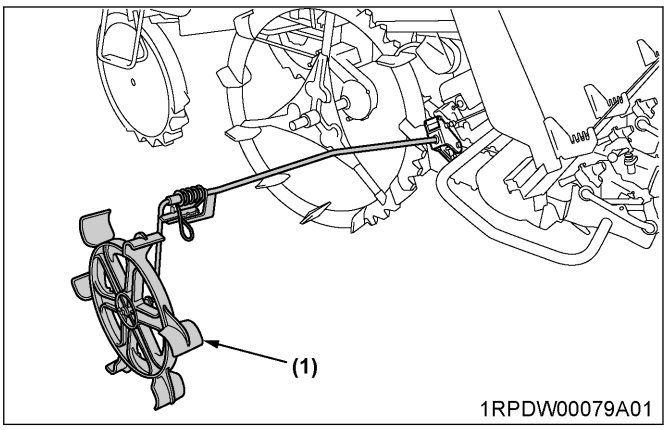
マスコットは、ラインマーカで引かれた線上を直進していくための目印となるものです。



(1) マスコット

1.13 ラインマーカ

ラインマーカは、次行程を植え付けるとき、適正な隣接条間を保つための目標となる線をほ場面に引きます。



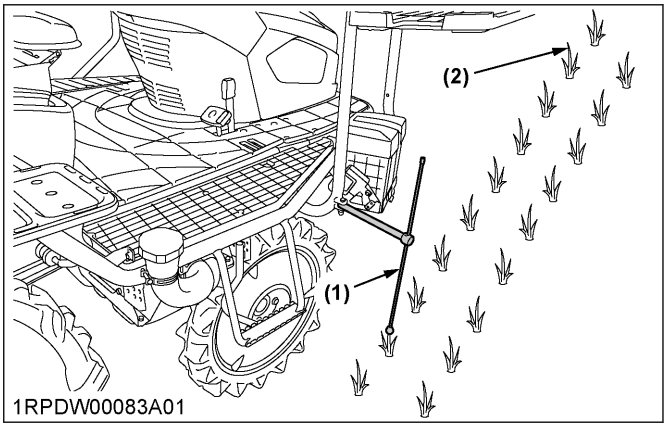
(1) ラインマーカ（回転式）

補足：
- **植付部を上昇させるとラインマーカは自動的に収納されます。**
- **十字ポンパレバーを[前](マーカ左）および[後]（マーカ右）方向に長押しすると、マーカが収納されます。**
  （このとき植付クラッチは切れません。また、植付部も上昇しません。）
- **あぜに一時的な障害物があるときに、この操作をすると便利です。**

1.14 隣接マーカ

隣接マーカは、あぜぎわの植付作業を行うときやラインマーカで引かれた線が良く見えないとき、適正な隣接条間を保つため目印となります。

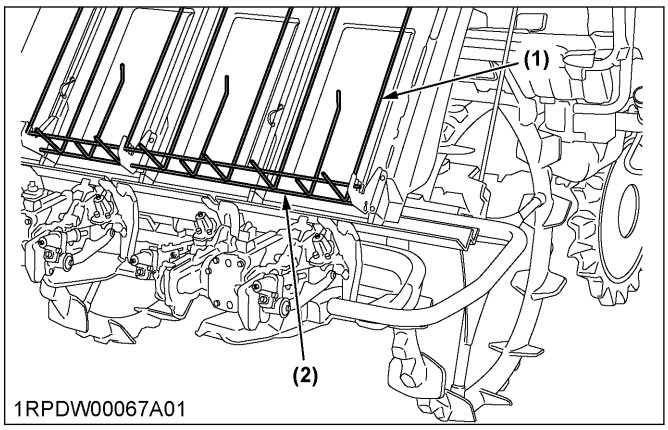
次行程の植始めに隣接する苗の真上に隣接マーカを合わせて、植付作業を行ってください。



(1) 隣接マーカ
(2) 隣接苗

1.15 苗ステー・苗押さえ棒

苗ステーは、薄くて軟弱な苗床や根張りの悪い苗床から、苗がくずれ落ちて発生する欠株を防ぎます。また、苗押さえ棒は、植付時の苗の倒れや欠株を防ぎます。

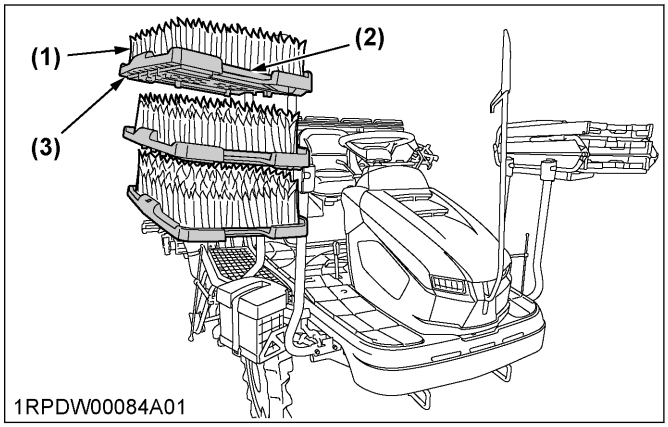


(1) 苗ステー
(2) 苗押さえ棒

1.16 予備苗のせ台

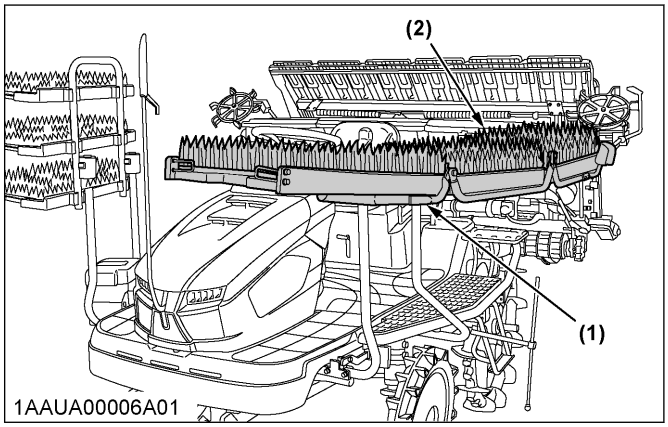
予備苗のせ台は、予備苗を 6 枚［**6 条**］または、8 枚［**8 条**］載せることができます。
また、右側の予備苗のせ台は固定式、左側の予備苗のせ台はレール式です。

右側、固定式予備苗のせ台



(1) 予備苗
(2) 苗すくい板
(3) 予備苗のせ台

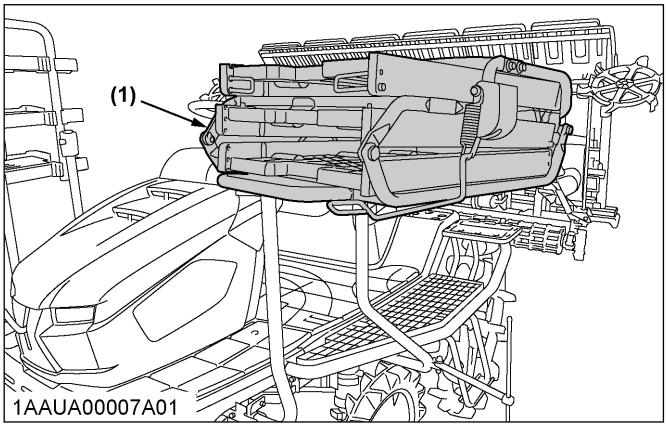
左側、レール式予備苗のせ台



(1) 予備苗のせ台
(2) 予備苗

補足：

- **レール式予備苗のせ台は、折りたたんで収納することができます。（詳細は予備苗のせ台の準備（59 ページ）を参照）**

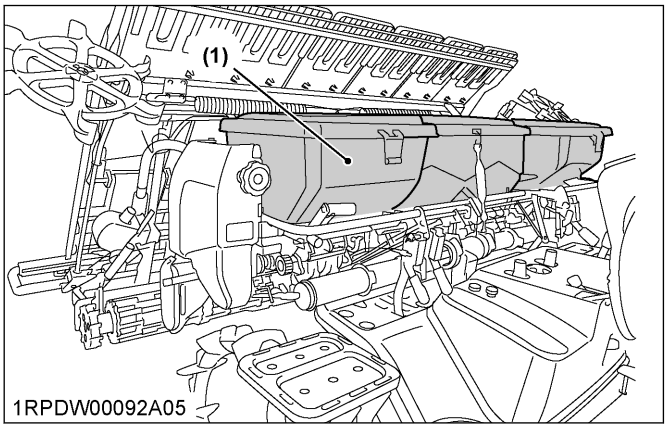


(1) 予備苗のせ台

2. 施肥装置操作関係［R 仕様］

2.1 ホッパ

ホッパは、粒状の肥料を入れるところです。



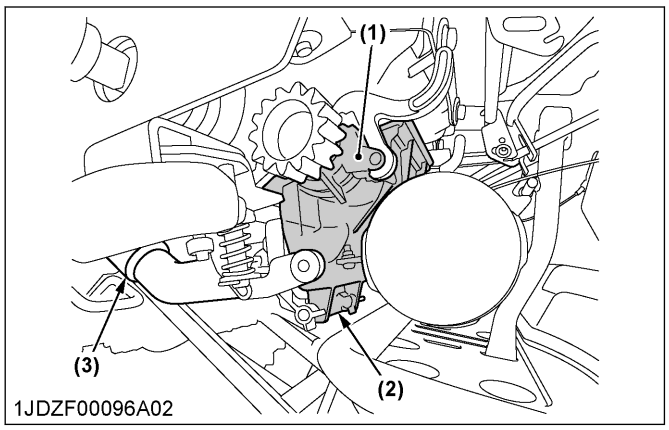
(1) ホッパ

補足：

- **1 条当りのホッパ容量は次のとおりです。**
  [6 条]　約 11 L（約 10 kg）
  [8 条]　約 16.4 L（約 15 kg）

2.2 ロールケース（繰出部）

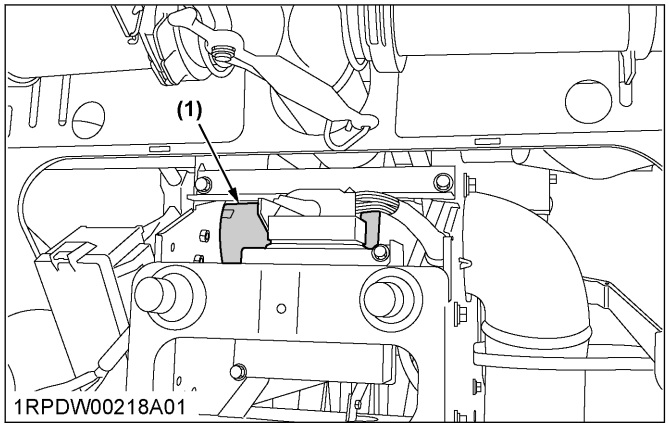
ロールケースは、ホッパ内の肥料の繰出量を調節し、設定された量の肥料を一定にして繰り出すところです。



(1) ロールケース
(2) ロート
(3) 施肥ホース

2.3 ブロワ

ブロワは、ロールケースから繰り出された肥料を作溝器へ強制搬送する送風機です。



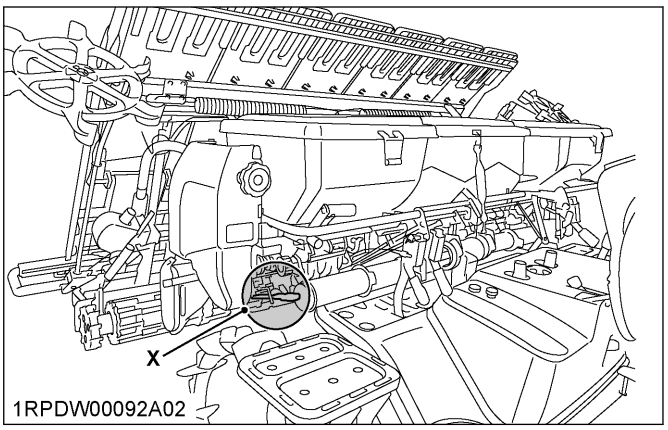
(1) ブロワ

補足：

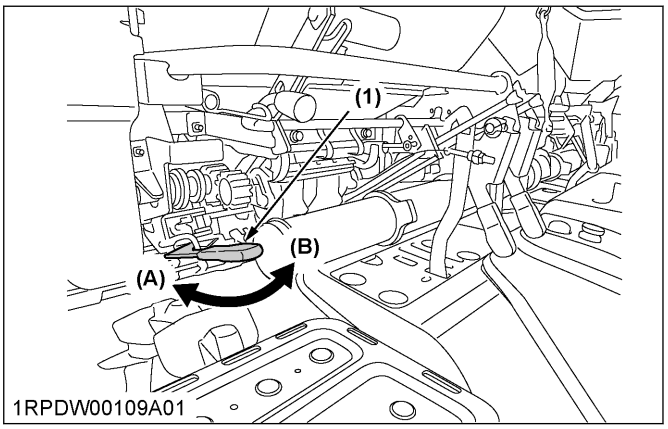
- **ブロワはメインスイッチのキーを[始動]位置に回すとほぼ同時に回転し、エンジン回転中は常時回転します。**
- **植付部最上昇位置の時、ブロワは回転しません。**

2.4 施肥全条停止レバー

施肥全条停止レバーは、全条同時に肥料の繰出しと停止を切り替えるレバーです。



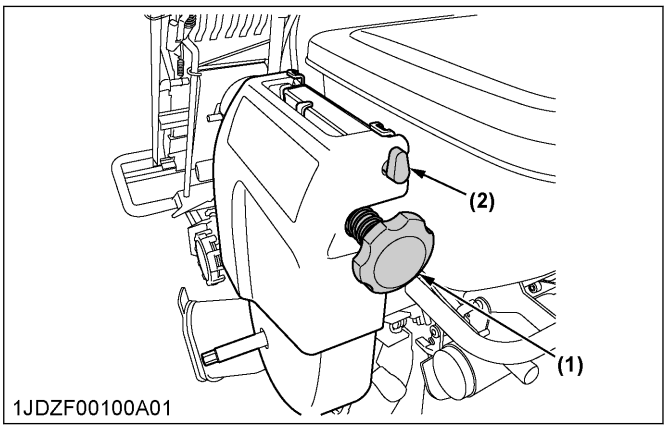
X 部拡大図



(1) 施肥全条停止レバー
(A) ***[全条繰出]***位置
(B) ***[全条停止]***位置

2.5 施肥量調量ノブ、比重調整ノブ

施肥量を調節するノブです。



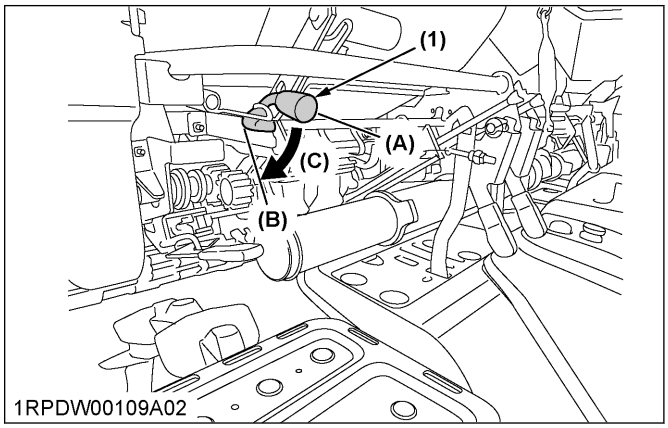
(1) 施肥量調量ノブ
(2) 比重調整ノブ

補足：

- **施肥量は、施肥機の施肥量調量ノブで 10 kg/10a～75 kg/10a（比重標準時）の繰出しが行えます。**
- **出荷時の目盛りは 20 kg/10a の位置です。**

2.6 残肥排出レバー

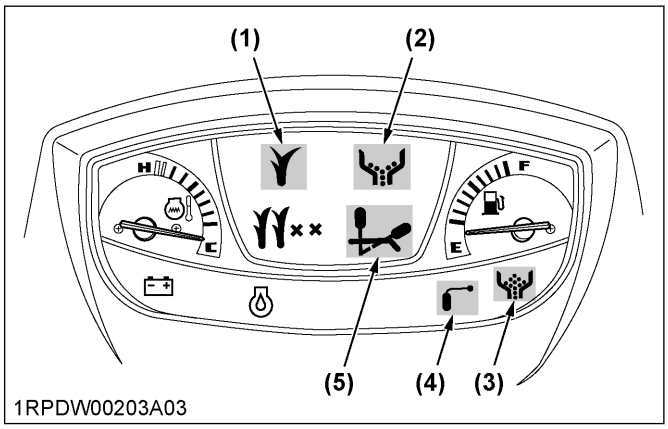
残肥排出レバーは、施肥機の**[施肥作業]**と**[残肥排出]**を切り替えるレバーです。



(1) 残肥排出レバー
(A) 施肥
(B) 排出
(C) 引く

3. 電装関係

3.1 メインパネル（電装関係）



(1) 苗切れモニタ
(2) 施肥モニタ［*R* 仕様］（肥料切れ）
(3) 施肥モニタ［*R* 仕様］（肥料詰まり）
(4) マーカモニタ
(5) 植付クラッチモニタ

3.1.1 各モニタ（警報ランプ、警報ブザー）

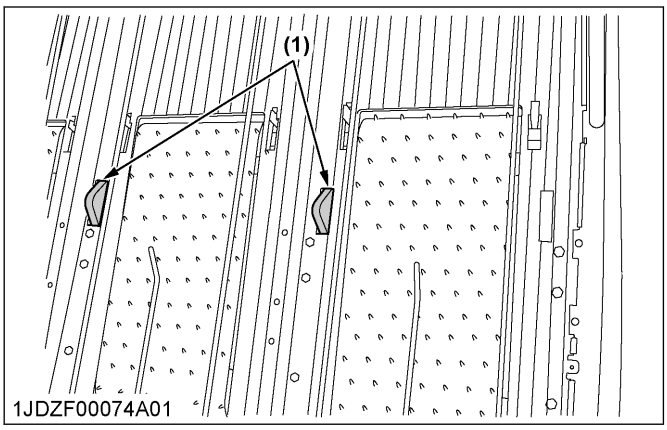
苗切れモニタ（苗切れ警報）



苗の残量が少なくなったときメインパネルのランプが点灯しブザーが鳴ります。

補足：

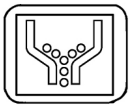
- **苗切れ警報は、苗がなくなってきたとき、苗のせ台の各条にあるセンサが感知してはたらきます。**



(1) センサ

- **苗を補給するときは苗のせ台に対してまっすぐ、かつゆっくりと補給し、苗ステーと床土のすき間が適切か確認してください。また、センサ周辺に土などが付着している場合は適宜水で洗い流してください。**
  苗切れ警報が誤作動するおそれがあります。
  （詳細は、苗ステーの調節（90 ページ）を参照）

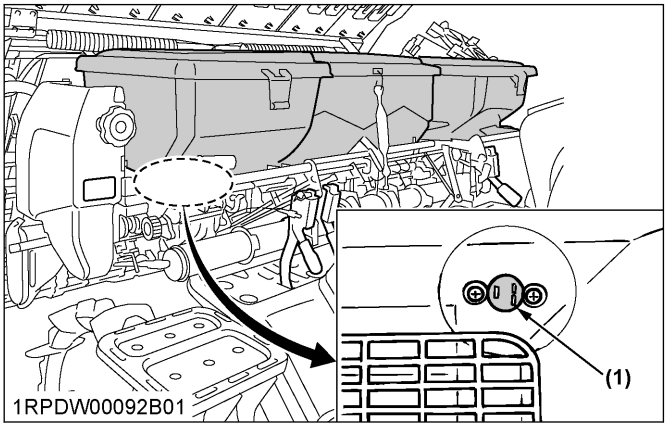
施肥モニタ（肥料切れ警報）［R 仕様］



施肥作業中に肥料が残り少なくなったときに、メインパネルのランプが点滅しブザーが鳴ります。

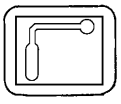
補足：

- **肥料切れ警報は、肥料がなくなってきたとき、各ホッパ内にあるセンサが感知して働きます。**



(1) センサ

マーカモニタ（マーカ出し忘れ警報）



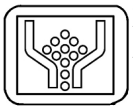
ラインマーカがセットされていないときに、メインパネルのランプが点滅します。ラインマーカ出し忘れに注意してください。

植付クラッチモニタ（植付クラッチ入忘れ警報）



植付クラッチが**[切]**位置でメインパネルおよびマスコットのランプが点滅します。植付クラッチの入忘れに注意してください。

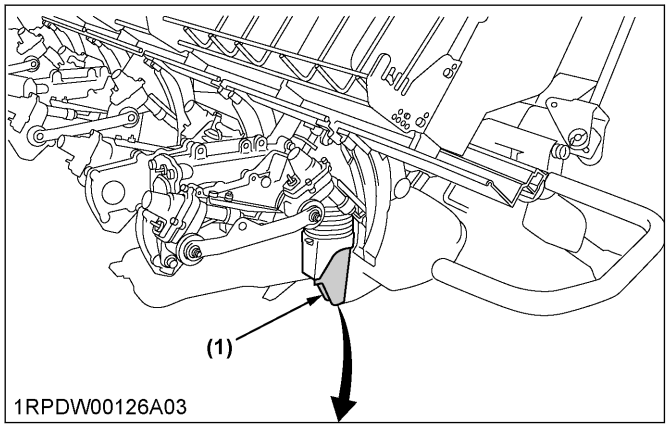
施肥モニタ（肥料詰まり）［R 仕様］



施肥作業中に肥料が詰まったときに、メインパネルのランプが点滅しブザーが鳴ります。

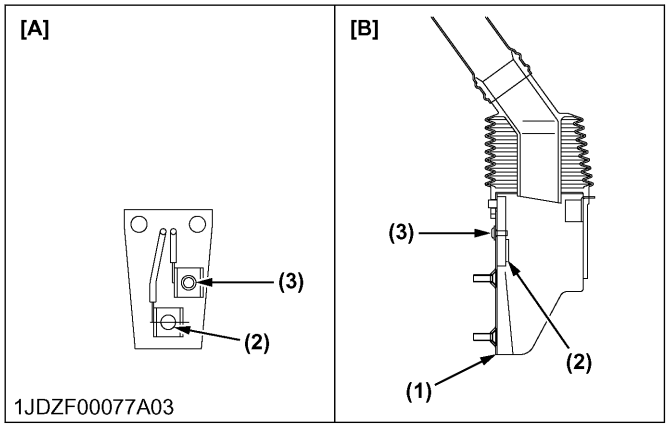
補足：

- **肥料詰まり警報は、各作溝器内にある肥料詰まり予知センサに小粒肥料や泥水などが付着したときに、（+）と（−）の電極が導通すると働きます。**



(1) 作溝器

肥料詰まり予知センサ



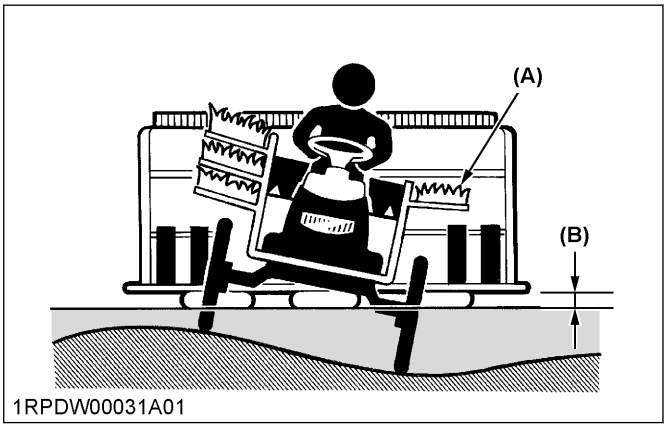
(1) 作溝器
(2) （−）電極
(3) （+）電極
[A] 正面
[B] 側面

- **警報発生後の処置については、メインパネルによる異常の表示と処置（96 ページ）を参照してください。**
- **エンジンが停止状態のとき、メインスイッチのキーを[運転]位置にすると、各モニタのランプがランプチェックのため約 2 秒間点灯したあと消灯します。ただし、施肥モニタは［R 仕様］以外は点灯しません。**

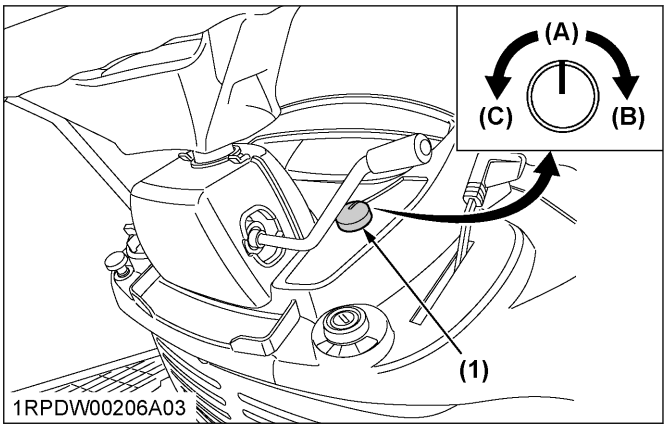
3.2 モンロー調節ダイヤル

モンロー調節ダイヤルは、自動水平制御がはたらいていても、左と右の植付深さが一定にならないとき（特にあぜぎわ）に使用します。（詳細はあぜぎわの植付けかた（75 ページ）を参照）

モンロー（植付部自動水平制御装置）は、機体が左・右に傾くと、自動的に植付部（苗のせ台）を水平状態に修正・保持する装置です。
[左下]または**[右下]**に回すことで、調節位置を変更できます。



(A) 植付部下降
(B) 水平



(1) モンロー調節ダイヤル
(A) ***[水平]***
(B) ***[右下]***
(C) ***[左下]***

補足：

- **出荷時は[水平]位置です。**

運転のしかた

運転前の点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行ってください。（点検・調整方法の詳細は、99ページを参照。）

⚠ 警告

- **平たんな場所で駐車ブレーキを掛け、必ずエンジンを停止してから行ってください。**
- **燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁です。**
- **取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがあるので、点検後は必ず取り付けてから作業をしてください。**
- **運転前にブレーキ・クラッチや安全装置などの日常点検を行い、摩耗や損傷している部品があれば交換してください。また、定期的にボルトやナットがゆるんでいないか点検してください。**
- **使用前にはオイル、燃料が規定量入っているか必ず点検してください。**
- **燃料、オイルを補給したときは、キャップや給油栓を確実に締め、こぼれた燃料やオイルは、きれいにふき取ってください。**
- **バッテリ、マフラやエンジン・燃料タンク・ベルトカバー内・配線部周辺にゴミや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがあります。日常点検をして取除いてください。**

重要：

各部への給油と交換

- **点検するときは機体を水平な場所において行ってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **使用するエンジンオイル、ミッションオイル、グリースは、指定のオイル・グリースを必ず使用してください。**
- **燃料補給の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば、使用前に支障がないか点検してください。

田植機の周りを歩いて

- ボルトやナットのゆるみや脱落がないか点検します。
- 車体各部の変形や損傷がないか点検します。
- 油もれや水もれなどないか点検します。
- 機体各部にゴミや泥がたまっていないか点検します。

1. 日常点検項目

<ここを> ⟶		<点検し異常があれば>	<こうする（処置）>	参照ページ
機体の周りを歩いて				
機体各部		• 損傷や変形はないか。	• 修理または交換する。	–
		• ボルトやナットのゆるみや脱落はないか。	• 補充や増締めをする。	–
		• 油もれや水もれはないか。	• ホースやパイプの取付部の締付けまたは部品交換する。	126
		• ゴミや泥などがたまってないか。	• 掃除する。	103、138
		• 安全ラベル（⚠ マークのあるラベル）の損傷やはがれはないか。	• 新しいラベルに貼替える。	21
		• 反射テープ（リフレクタ）の損傷やはがれはないか。	• 新しいテープに貼替える。	138
バッテリ		• 放電または劣化していないか。	• 補充電または交換する。	134
タイヤ		• 摩耗や損傷はないか。	• 交換する。	129
各ワイヤ、レバー支点部、しゅう動部		• たるみや損傷はないか。 • 作動状態に異常はないか。	• 交換する。 • 注油する。	–
植付爪・押出し金具		• 摩耗や破損または変形していないか。	• 調整または交換する。	–
		• 石などの異物がはさまっていないか。	• 取除く。	129
整地ロータ		• 摩耗や破損はないか。	• 交換する。	103
		• 整地ロータに異物がはさまったり巻付いたりしていないか。	• 取除く。	
繰出ホース**［R 仕様］**		• 破損や外れはないか。	• 交換または取付けをする。	103
ブラシ**［R 仕様］**		• 摩耗していないか。	• 交換する。	132
作溝器**［R 仕様］**		• 肥料や泥が付着していないか。	• 掃除する。	–
ロールケース、ロート、ロール、ホッパ**［R 仕様］**		• 肥料が付着していないか。	• 掃除する。	103
ボンネットを開けて				
エアクリーナ		• エレメントが汚れたり、ほこりが詰まっていないか。	• 掃除する。	125
エンジンオイル		• 油量は規定量（オイルゲージの**上限線と下限線の間**）あるか。	• 規定量まで補給する。 ……指定オイル スーパーマルチ GD オイルまたは API 分類 CD 級以上	120
オルタネータ駆動ベルト		• たるみはないか。 • 損傷はないか。	• 調整する。 • 交換する。	128
ラジエータ	冷却水	• リザーブタンクの水量は規定量（タンクの FULL 線と LOW 線の間）あるか。	• 清水を規定量まで補給する。	122
	フィン	• 詰まりはないか。	• 掃除する。	124
ホース、パイプ		• 油もれや水もれはないか。	• 取付部の締付けまたは交換する。	126
配線コード		• コネクタの外れはないか。 • 被覆の損傷はないか。	• 接続をする。 • 交換する。	136

<ここを>		⟶ <点検し異常があれば>	⟶ <こうする（処置）>	参照ページ
運転席に座って・メインスイッチを入れて				
メインパネル	充電ランプ	• ランプは点灯するか。 • エンジン始動後、消灯するか。	• 配線コード、オルタネータのコネクタが外れていないか点検する。 • 購入先に連絡してください。	–
	燃料計	• 作業に必要な燃料はあるか。 • 針は動くか。	• ディーゼル軽油を補給する。	120
	水温計	• 針は動くか。	• リザーブタンクの水量は規定量（タンクのFULL 線と LOW 線の間）まで補給する。 • 購入先に連絡してください。	122 –
	各モニタランプ、ブザー	• メインスイッチのキーを**[運転]**位置にしたとき、約 2 秒間ランプは点灯するか。 • ブザーは鳴るか。	• バッテリの充電または交換する。 • ランプ切れ、ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して、交換または接続をする。	134 136
	オイルランプ	• ランプは点灯するか。 • エンジン始動後、消灯するか。	• 購入先に連絡してください。 • エンジンオイルを規定量まで補給する。	– 120
ヘッドランプ		• ランプは点灯するか。	• ランプ切れ、ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して、交換または接続をする。	136
バッテリ		• エンジンは始動するか。	• 充電または交換する。	134
エンジンを始動して・機体を動かしてみて				
エンジン、マフラ		• 始動するか。 • 異音はしないか。 • 排気ガスの色に異常はないか。	• バッテリの充電または交換する。 • ヒューズ切れがないか点検して、交換または購入先に連絡してください。 • 購入先に連絡してください。	134 137 –
ブロワ **[R 仕様]**		• 回転しているか。 • 異音はしないか。	• スローブローヒューズ切れ、配線コードの外れがないか点検して、交換または接続をする。 • 購入先に連絡してください。	136 –
各操作レバー、各操作スイッチ		• 各操作レバー、各操作スイッチの作動と各作動部に異常はないか。	• ヒューズ切れがないか点検して、交換または購入先に連絡してください。	136
主変速レバー		• **[後進]**位置に操作するとブザーは鳴るか。	• ヒューズ切れ、配線コードの外れを点検して、交換または接続をする。 • 購入先に連絡してください。	136 –
ブレーキペダル		• 踏込むと停止するか。	• 購入先に連絡してください。	30

重要：

- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先に連絡してください。**

新車時の扱いかた

新車時の上手な運転操作やメンテナンスが田植機の寿命に影響を及ぼします。新車の田植機は厳重な検査のもとに出荷されていますが田植機の各部の部品はならし運転されていません。ならし運転期間中は田植機各部の部品がなじむまでは走行速度は低速で、過負荷となる田植作業は避けてください。
田植機の性能を最大に発揮させたり、長期にわたる耐久力を維持させるためには、適正なならし運転が重要です。
新車時の取扱いは次項を遵守してください。

1. ならし運転について

- 急発進や急ブレーキ操作はしないでください。
- 寒い日や冬期、エンジンはじゅうぶん暖機運転をしてください。
- エンジンは規定田植作業回転数以上に回さないでください。
- 整地されていない凹凸道路では低速走行をしてください。

以上はならし運転以降も必要な事項ですが、新車時は特に注意してください。

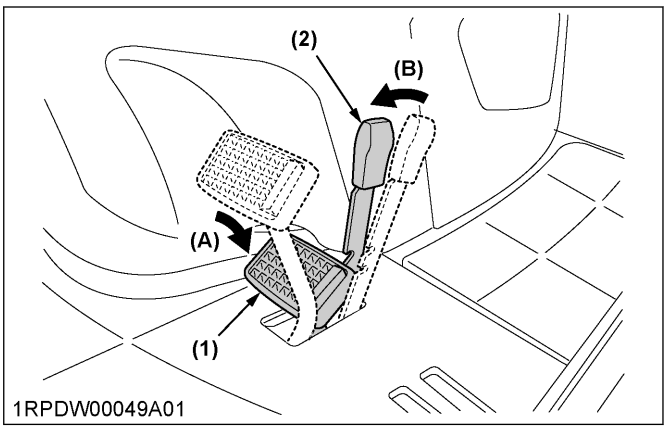
エンジンの始動と停止のしかた

⚠ 警告

- **エンジン排気ガスによる、排気ガス中毒をさけるため、換気の悪い納屋・倉庫でエンジンを回さないでください。**
- **この取扱説明書前編の黄色のページの［安全に作業するために］の内容を必ずお読みいただいて安全作業を心掛けてください。**
- **田植機に貼ってある安全ラベルの内容を必ずお読みください。**
- **田植機に乗り降りするときは、飛び乗ったり飛び降りたりしないでください。転倒・転落してケガをするおそれがあります。**
- **周囲の人に始動の合図をして、始動操作は運転座席に必ず座ってから行なってください。**
- **運転席へ乗り降りするときは、必ず両側のステップより行なってください。転倒してケガをするおそれがあります。**

1. 始動のしかた

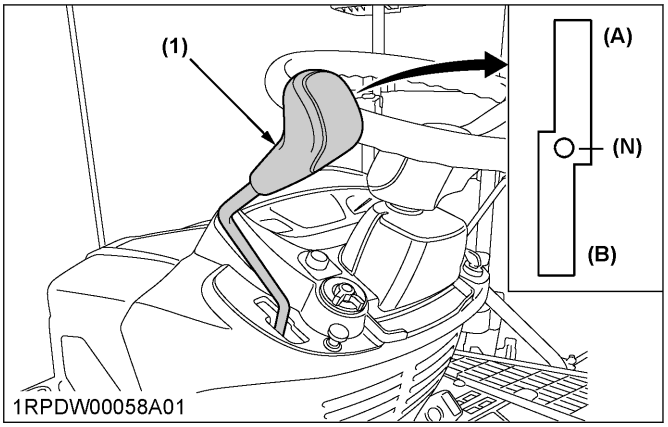
1. **駐車ブレーキを掛けます。**
   ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーでブレーキペダルをロックします。



(1) ブレーキペダル　　*(A)* 踏込む
(2) 駐車ブレーキレバー　　*(B)* ロック

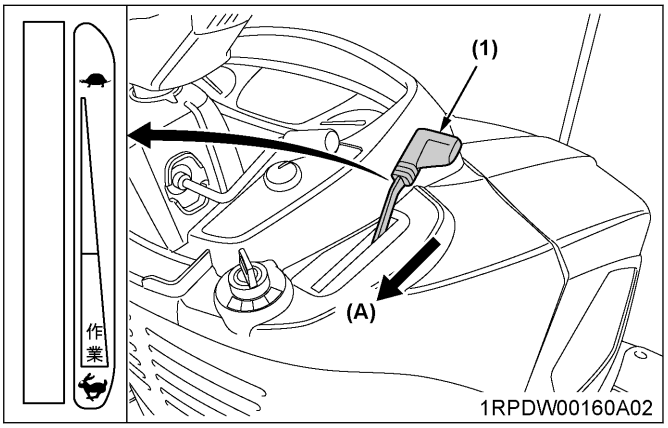
補足：
- **駐車ブレーキを掛けていないときは、ブレーキペダルをいっぱいに踏込まないとエンジンが始動しません。**

2. **各レバー位置の確認をします。**
   a. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



(1) 主変速レバー　　*(A)* ***[前進]***
(N) ***[N]***（中立）
(B) ***[後進]***

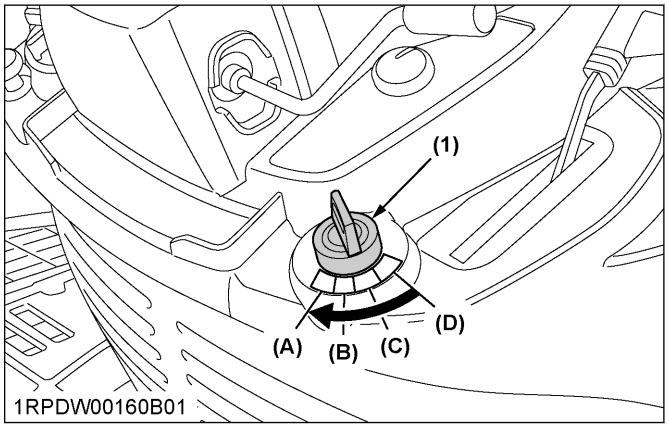
   b. アクセルレバーを**[作業範囲]**まで引きます。



(1) アクセルレバー　　*(A)* 引く

3. **エンジンを始動します。**
   a. メインスイッチのキーを差込み**[運転]**位置まで回します。

b. 周囲の人に始動の合図を送り**[始動]**位置まで回します。



(1) メインスイッチ

(A) ***[始動]***
(B) ***[予熱]***
(C) ***[運転]***
(D) ***[停止]***

重要：

- **メインスイッチのキーを[始動]位置に回して 10 秒たっても始動しないときは、いったんキーを[停止]位置にして、メインスイッチのキーを[予熱]位置にして約 4 秒待ってから、エンジンを再始動してください。10 秒以上の使用は故障の原因になります。**
- **エンジン回転中に、メインスイッチのキーを[始動]位置に回すと故障の原因になります。**
- **エンジン始動後、オイルランプ、充電ランプが消灯しないときは、購入先へ連絡してください。**

2. 暖機運転について

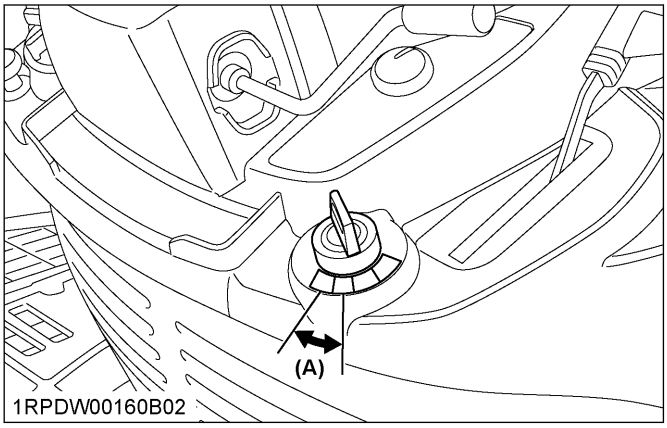
エンジン始動後、エンジン回転数をアイドリング状態で約 5 分間は負荷をかけずに暖機運転を行ってください。

重要：

- **オイルを各部に充分ゆきわたらせるためで、始動してからすぐ負荷をかけると、エンジンの焼付きやミッションや油圧系統の故障の原因になります。**

3. 寒冷時の始動のしかた

寒冷時にエンジンを始動するときは、始動する前にメインスイッチのキーを**[予熱]**位置で 10 秒間予熱したあと**[始動]**位置に回してください。



(A) 予熱：約 *10* 秒

重要：

- **寒冷時は暖機運転を怠るとパワーステアリングハンドルの操作ができなくなったり、油圧系統の故障につながりますので、下記の表を目安に暖機運転を行ってください。**

気温	暖機運転時間
0 ℃～－10 ℃	約 10 分
－10 ℃～－15 ℃	10 分～15 分
－15 ℃～－20 ℃	15 分～20 分
－20 ℃以下	20 分以上

4. 燃料切れ後の再始動のしかた

運転中に燃料切れで停止した場合は、以下の手順で再始動してください。

1. メインスイッチのキーを**[停止]**位置にします。
2. 燃料タンクに燃料を補給します。
3. 始動のしかたの 1～2 を確認後、エンジンを始動します。（始動のしかた（46 ページ）参照）

補足：

- **メインスイッチのキーを[運転]位置にすると約 5～10 秒で自動的にエア抜きされます。**

5. バッテリが上がったときの始動のしかた

⚠ 危険

- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライタ、タバコの火など）を近づけたり、(+) 端子と (-) 端子が金属工具やブースタケーブルなどの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**

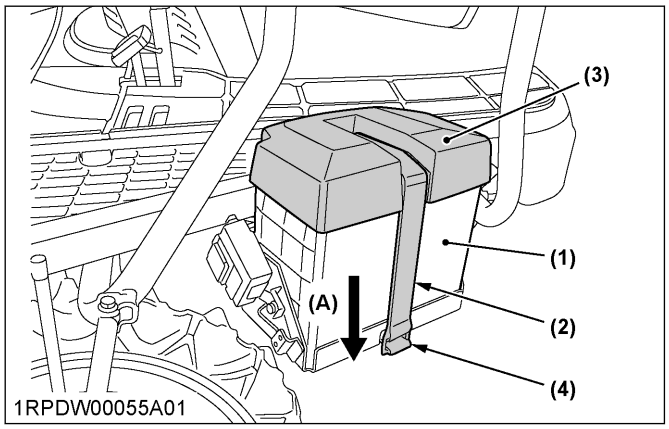
バッテリ上りによりエンジンが始動できなくなったときは、バッテリの補充電または、交換を行ってくださ

い。（詳細はバッテリの点検・交換（134 ページ）を参照）
補充電や交換がすぐに行えないときは、救援車のバッテリにブースタケーブルを接続して始動してください。

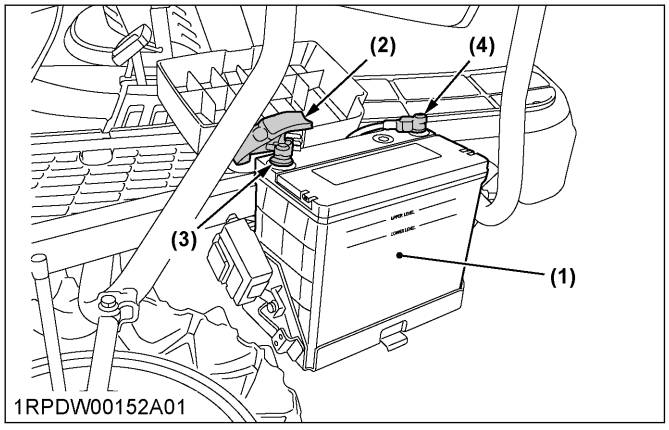
重要：
- **接続するバッテリは、必ず 12 V のものを利用してください。故障の原因となります。**
- **バッテリを直列につないで始動しないでください。電装品が破損するおそれがあります。**
- **充電異常による場合（充電ランプ点灯）は購入先に連絡してください。**

補足：
- **ブースタケーブルの取扱いは、ブースタケーブルの取扱説明書に従ってください。**

1. バッテリを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリの上部カバーをステップ側に置きます。そのあと、（+）側のゴムキャップを外します。

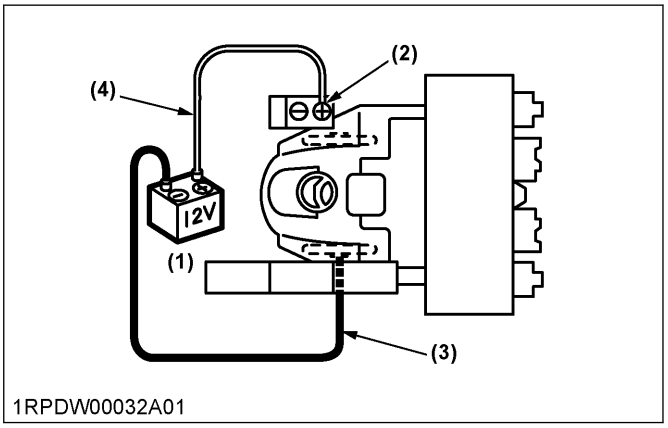


(1) バッテリ　　*(A)* 外す
(2) ゴムバンド
(3) バッテリ上部カバー
(4) フック部



(1) バッテリ
(2) ゴムキャップ
(3) *(+)*端子
(4) *(-)*端子

2. ブースタケーブル（赤）を田植機側と救援車側のバッテリの**（+）端子**にそれぞれ接続したあと、ブースタケーブル（黒）を救援車側のバッテリの**（–）端子**に接続し、田植機側は金属部で塗装がされていないところ（前・後輪の取付ボルトなど）に接続します。



(1) バッテリ
(2) *(+)*端子
(3) ブースタケーブル（黒）
(4) ブースタケーブル（赤）

3. 利用するバッテリが車などの場合は、エンジン回転を上げます。
4. 田植機のエンジンを始動します。
5. ブースタケーブルを取付けの逆の手順で取り外します。

6. 停止のしかた

1. アクセルレバーを🐢位置にします。
2. 主変速レバーが**[N]**（中立）位置にあることを確認します。
3. メインスイッチのキーを**[停止]**位置にしてエンジンを停止します。

重要：
- **エンジン停止中でメインスイッチのキーが[運転]位置の状態のまま長時間放置するとバッテリ上がりの原因となります。**
- **メインスイッチのキーを[停止]位置にしてもエンジンが停止しないときはエンジンストップノブを引いてください。そのあと、購入先へ連絡してください。**

移動走行について

この田植機は、道路運送車両法の保安基準に適合していませんので、法令により公道は走行できません。従って、公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

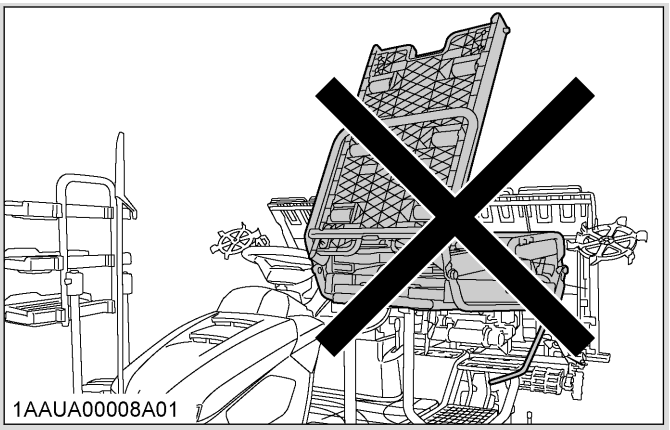
⚠ 警告
- **安全のためヘルメットを着用してください。**
- **周りが暗いときは、ヘッドランプを点灯してください。**
- **10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。**

- **機械には運転者以外は乗らないでください。また、苗のせ台および予備苗のせ台の苗やホッパ内の肥料［R 仕様］は取出し、ステップなどには障害物となるような物は置かないでください。**
- **植付部は最上昇位置で油圧をロックし下降防止を行ってください。また、ラインマーカや収納式苗のせ台は収納状態にしてください。**
- **暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜ越えや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、下記事項に注意し、予備苗台はレール状態から収納状態に戻してください。**
  - **走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）**
  - **主変速レバーで走行と停止を行う。（ブレーキペダルは操作しない。）**
  - **あぜや斜面の勾配方向と機体の進行方向を合わせる。**
  - **あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行する。**
  - **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作およびブレーキペダルを急に踏込まない。**
- **次記のようなところを走行するときは、暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので注意してください。**
  - **両側が傾斜していたり、溝のある道路の路肩**
  - **道幅に余裕がなく高いところにある道路（土手）**
  - **路肩の弱い道路**
  - **路面の凹凸（溝や穴・窪地など）の落差の大きいところや路面が草などでおおわれて良く見えないところ**
  - **見通しの悪いところ**
- **前後、左右に 15 度以上傾斜しているところは走行しないでください。**

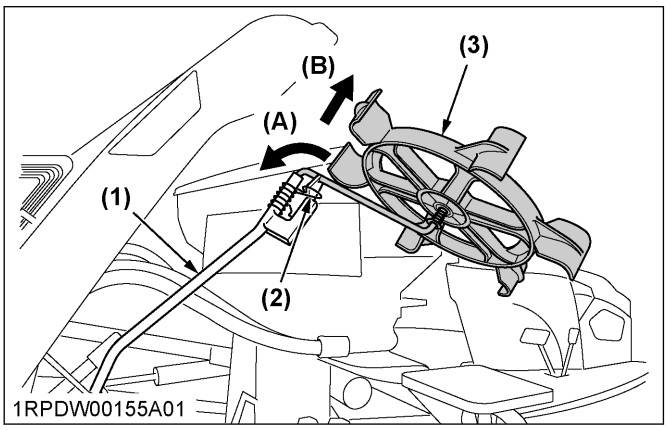
重要：
- **植付部を下降した状態で走行すると、フロートや作溝器、ふく土板［R 仕様］、整地ロータが破損することがあります。**
- **苗ステーは、後方に倒れないようにラックの取付部に取り付けてください。**

1. 移動走行前の準備

⚠ 警告
- **苗のせ台および予備苗のせ台にある苗や苗すくい板は、すべて降ろしてください。**
- **ホッパ内の肥料はすべて排出して空の状態にしてください。［R 仕様］**
- **ステップの周りに物は置かないでください。**
- **水平で平たんな場所で行ってください。**
- **レール状態にセットした予備苗のせ台の片方を折りたたんだ状態で、もう一方の予備苗のせ台を起こした状態にしますと、風、振動などで元の位置に倒れる危険があるので注意してください。**
- **折りたたむときは、前方から折りたたみ、その後、後方を折りたたんでください。**

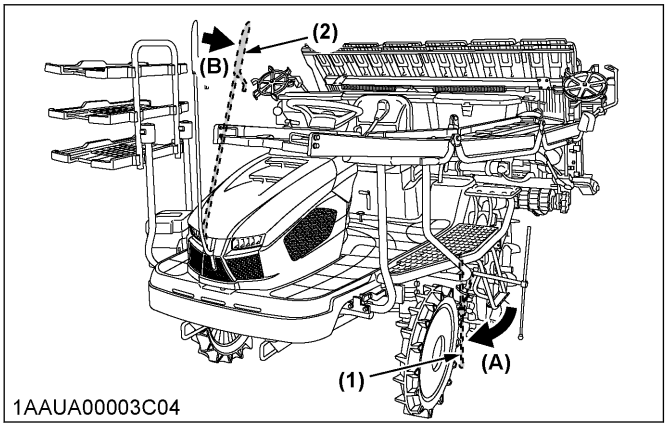


1. 平たんな場所に機体を止め、エンジンを停止します。
2. 左、右のラインマーカを収納し、フックに固定します。
3. スプリングのフックを引き、マーカ先端部をパイプロッドから抜取ります。



(1) パイプロッド
(2) スプリングフック
(3) ラインマーカ（回転式）
(A) 引く
(B) 抜取る

4. 左、右の隣接マーカを前方に収納します。
5. マスコットをボンネット側に倒します。

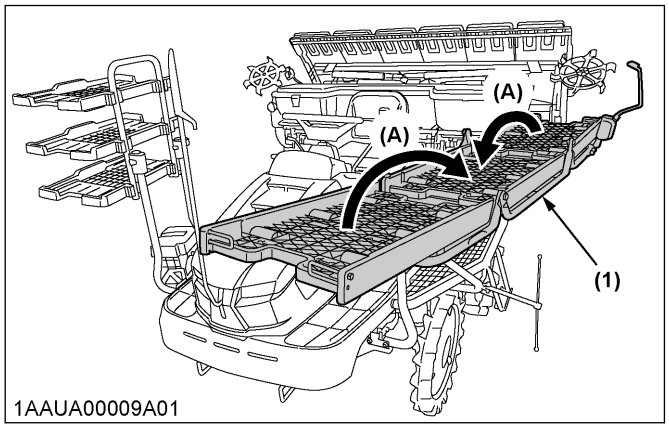


(1) 隣接マーカ
(2) マスコット
(A) 収納
(B) 倒す

6. 作業状態の予備苗のせ台を収納します。

[6 条]

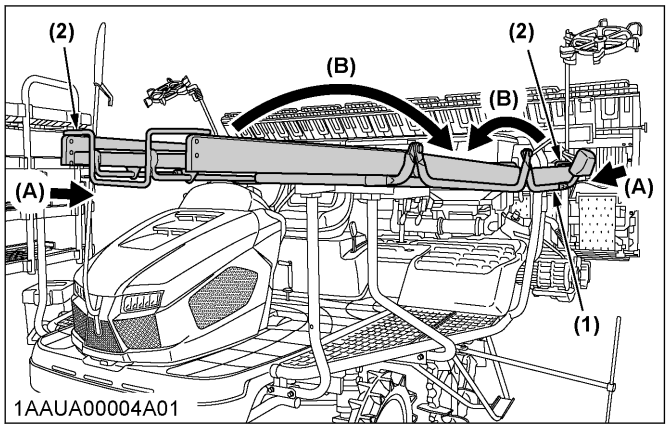
a. 前側の予備苗のせ台を後方に倒したあと、後側の予備苗のせ台を前方に倒して収納します。



(1) レール式予備苗のせ台 *(A)* 倒す

[8 条]

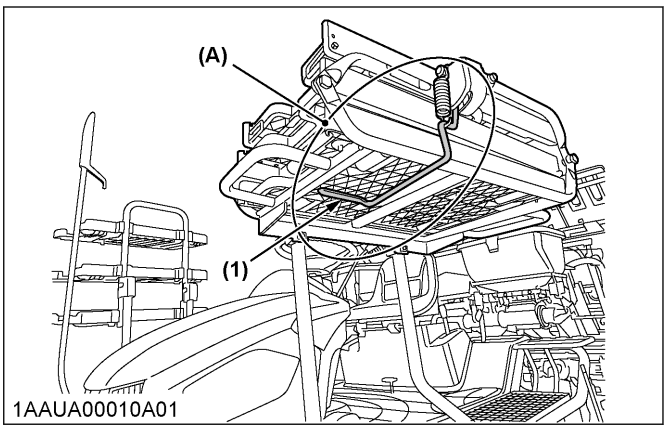
a. 予備苗のせ台前後の延長金具を収納します。
b. 前側の予備苗のせ台を後方に倒したあと、後側の予備苗のせ台を前方に倒して収納します。



(1) レール式予備苗のせ台 *(A)* 収納
(2) 延長金具 *(B)* 倒す

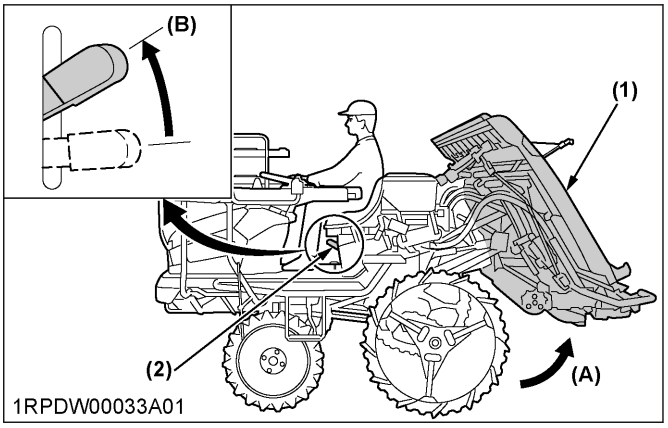
補足：

- **レール式予備苗のせ台のロック解除レバーが、収納位置にあることを確認してください。**



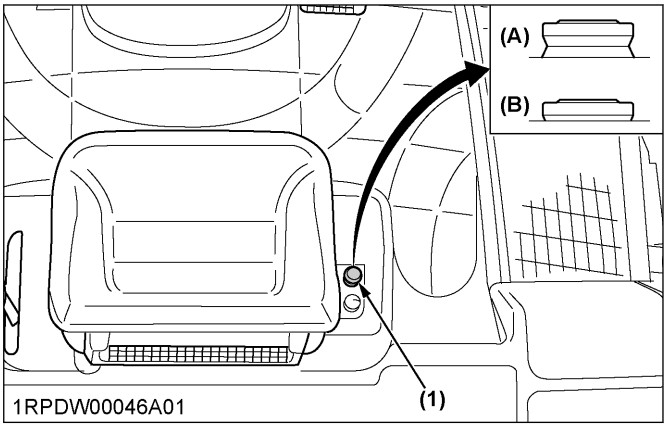
(1) ロック解除レバー *(A)* 収納位置

7. エンジン始動後、十字ポンパレバーを操作し、植付部を上げて最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして植付部の下降防止をします。



(1) 植付部 *(A)* 上げる
(2) 油圧ロックレバー *(B)* 閉

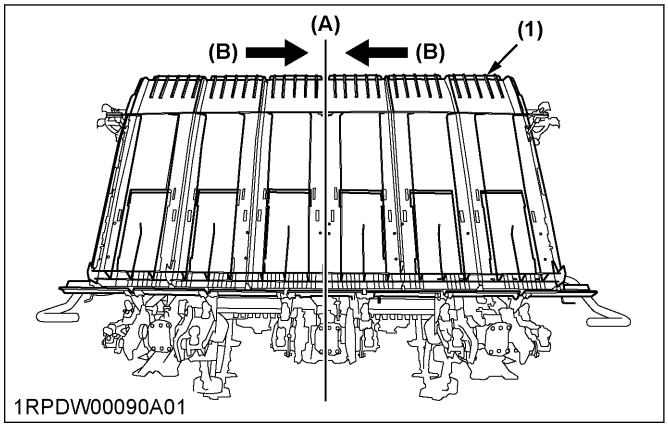
8. ロータ自動入／切スイッチを**[OFF]**（切）にします。



(1) ロータ自動入／切スイッチ *(A)* ***[OFF]***（切）ランプ消灯
(B) ***[ON]***（入）ランプ点灯

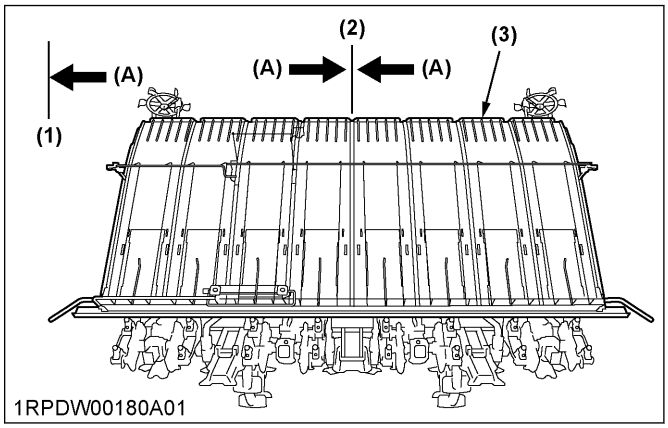
9. 苗のせ台を機体中央の位置に移動します。（詳細は苗のせ台の移動のしかた（52 ページ）を参照）

※イラストは［6 条］



(1) 苗のせ台
(A) 中央
(B) 寄せる

※イラストは［8 条］



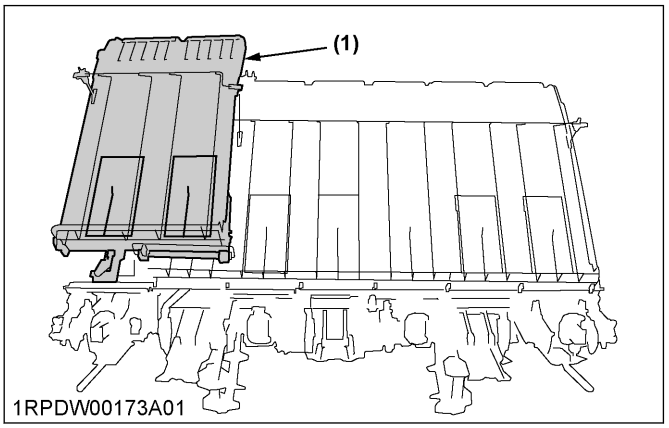
(1) 左端（苗のせ台収納時）
(2) 中央
(3) 苗のせ台
(A) 寄せる

補足：

- **［8 条］収納式苗のせ台を収納する場合は、左端まで移動してください。**

10. **［8 条］**収納式苗のせ台を収納します。（詳細は苗のせ台の折りたたみかた、広げかた［8 条］（62 ページ）を参照）

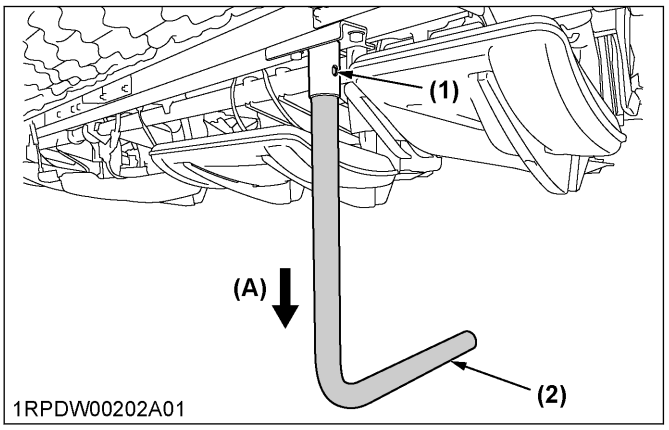
※イラストは収納時



(1) 収納式苗のせ台

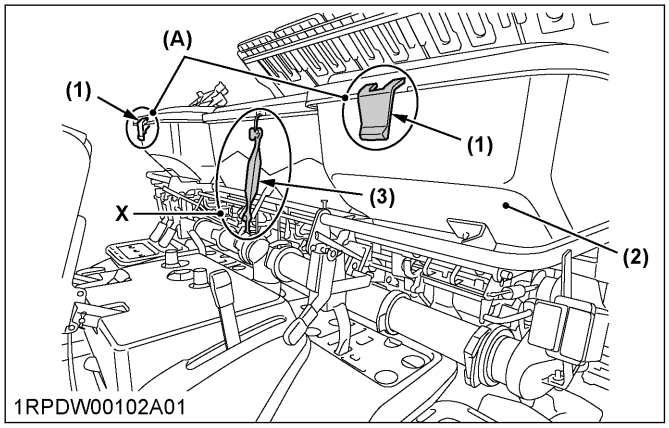
補足：

- **しゅう動板ガードを収納状態での運搬や移動は行わないでください。しゅう動板ガードの破損、落下につながります。**

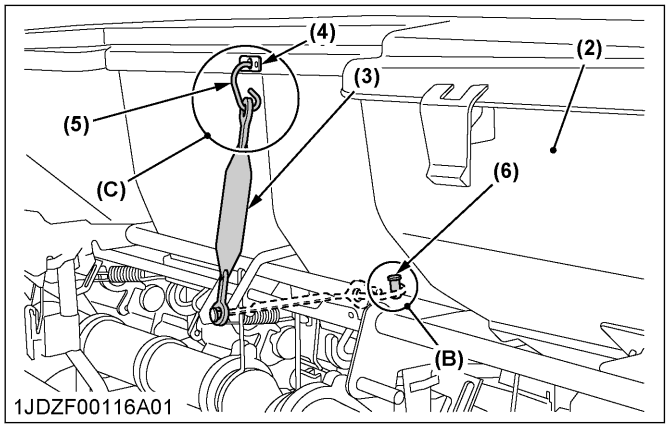


(1) プッシュピン
(2) しゅう動板ガード（収納時）
(A) 引き出す

11. **[R 仕様]**ホッパのふたをロックレバーでロックしたあと、ゴムバンドの金具をホッパのフック部に掛けて固定します。



X 部拡大図



(1) ロックレバー
(2) ホッパ
(3) ゴムバンド
(4) フック部
(5) 金具
(6) ピン
(A) ロックレバーでをロックする
(B) ゴムバンドの金具をピンから外す
(C) 金具をフック部に引っ掛けて固定する

重要：

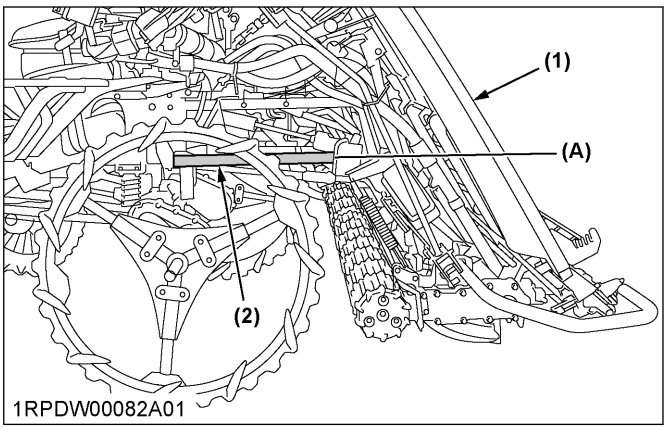
- **［R 仕様］移動走行時や運搬時および強風発生時に風や振動などによりホッパのふたが開くと，ふたが破損するおそれがあるため，ゴムバンドが外れないようにしっかりと金具をフック部に引っ掛けてください。また，ゴムバンドが破損したときは，購入先に連絡して新しいゴムバンドに交換してください。**

2. 苗のせ台の移動のしかた

⚠ 警告

- **苗載せ台を移動させるときは、機体が動かないように水平で平たんな場所で必ず行ってください。**

1. エンジン始動後、十字ポンパレバーを**[上昇]**（上側）または**[下降]**（下側）に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで昇降させます。

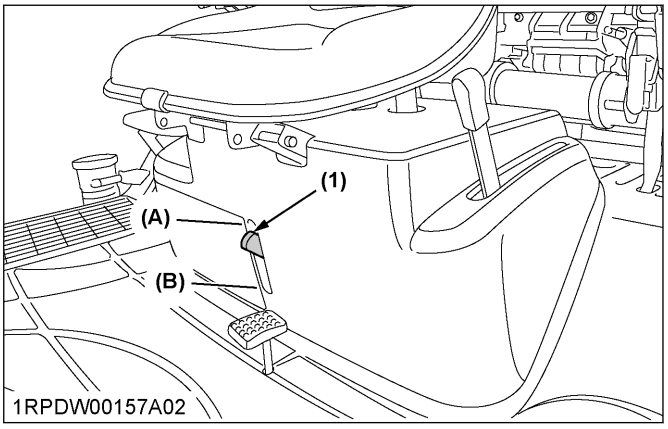


(1) 植付部（苗のせ台）
(2) リンク
(A) 水平

補足：

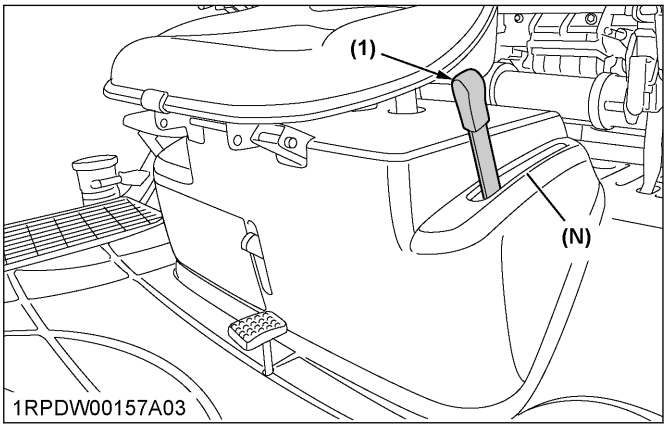
- **植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため、植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。**

2. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をします。



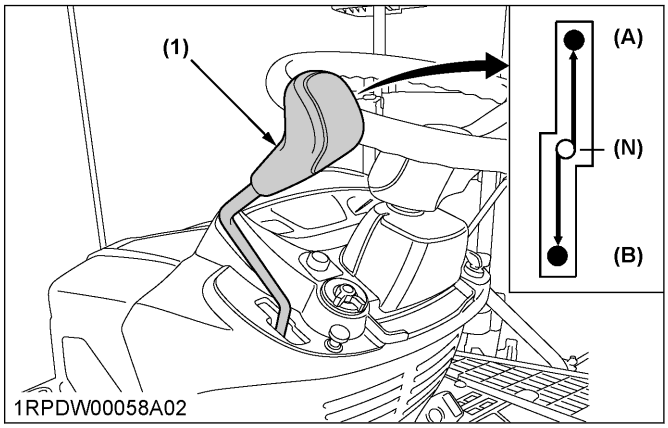
(1) 油圧ロックレバー
(A) 閉
(B) 開

3. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。



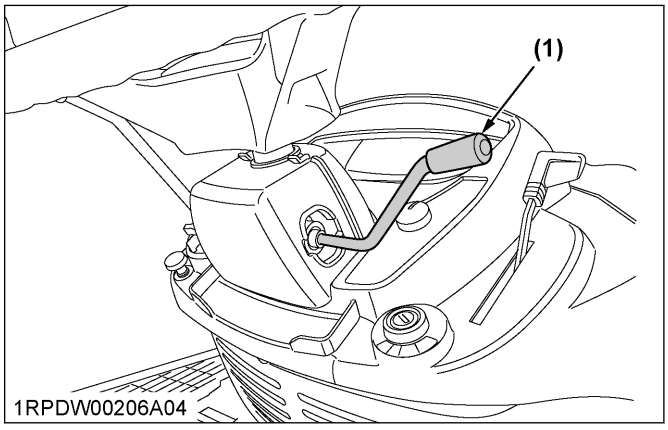
(1) 副変速レバー
(A) ***[N]***（中立）

4. 十字ポンパレバーを**[下降]**（下側）に“ピッ”と音が鳴るまで操作したあと、もう１度十字ポンパレバーを**[下降]**（下側）に“ピッピッ”と連続音が鳴るまで操作して、植付部の駆動の準備をします。
5. 主変速レバーをゆっくり**[前進]**側に動かします。



(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(N) ***[N]***（中立）
(B) ***[後進]***

6. **[6 条]** 後方の苗のせ台の動きを確認しながら機体中央の位置で十字ポンパレバーを**[上昇]**（上側）に操作し、植付クラッチを[切]にします。
   [8 条] 後方の苗のせ台の動きを確認しながら機体中央または機体左端の位置 で十字ポンパレバーを**[上昇]**（上側）に操作し、植付クラッチを[切]にします。
7. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻します。
8. 駐車ブレーキを掛けます。
9. 油圧ロックレバーを**[開]**位置にして、十字ポンパレバーを操作し、植付部を上げて最上昇位置にします。



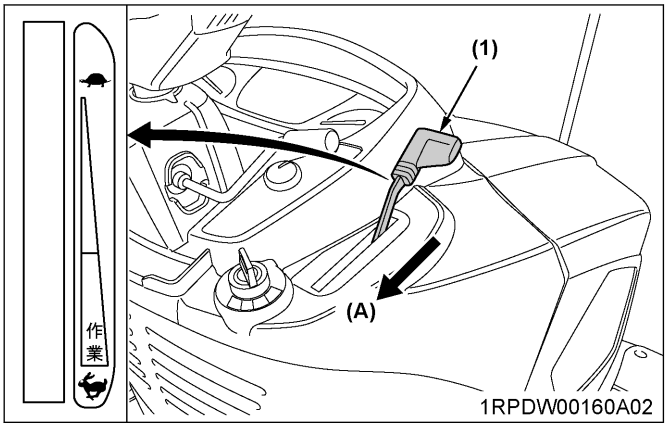
(1) 十字ポンパレバー

10. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をし、エンジンを停止します。

3. 発進のしかた

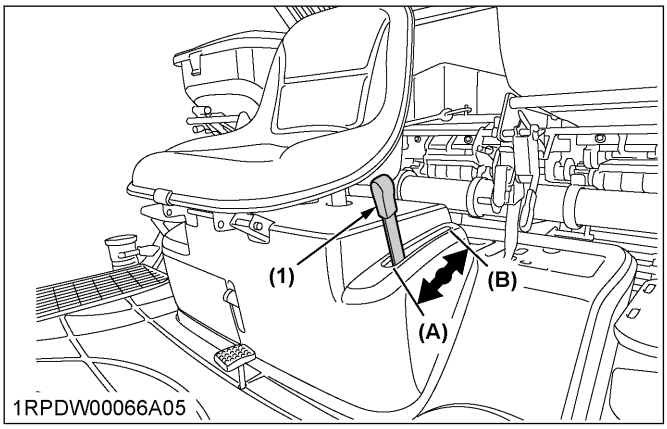
⚠ 警告
- **始動操作は、運転席で必ず行ってください。**
- **周囲の人に合図をしてから始動してください。**
- **急発進は危険ですので、ゆっくりと発進してください。**

1. **運転席の調整をします。**
   運転席下のスナップピンとロッドを抜いて調整します。（詳細は運転席（シート）（31 ページ）を参照）
2. **エンジンを始動します。**
   （詳細は始動のしかた（46 ページ）を参照）
3. **アクセルレバーを操作します。**
   アクセルレバーを**[作業範囲]**まで引きます。



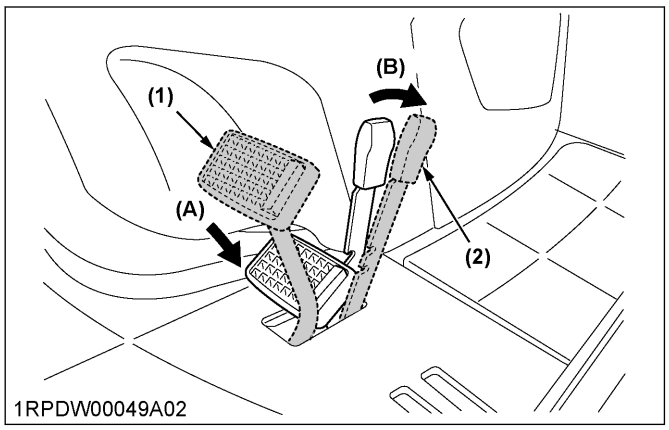
(1) アクセルレバー
(A) 引く

4. **走行速度を選んで発進します。**
   a. 副変速レバーで速度を選びます。



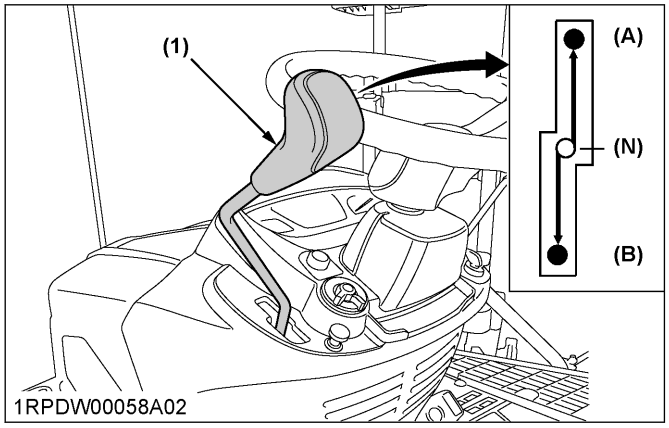
(1) 副変速レバー
(A) 圃場作業
(B) 移動

   b. ブレーキペダルを離します。駐車ブレーキが掛かっているときは、ブレーキペダルを踏込んで駐車ブレーキを解除します。



(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(A) 踏込む（解除）
(B) 解除

c. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置より前に押すと前進し、後に引くと後進します。



(1) 主変速レバー
(A) ***[前進]***
(N) ***[N]***（中立）
(B) ***[後進]***

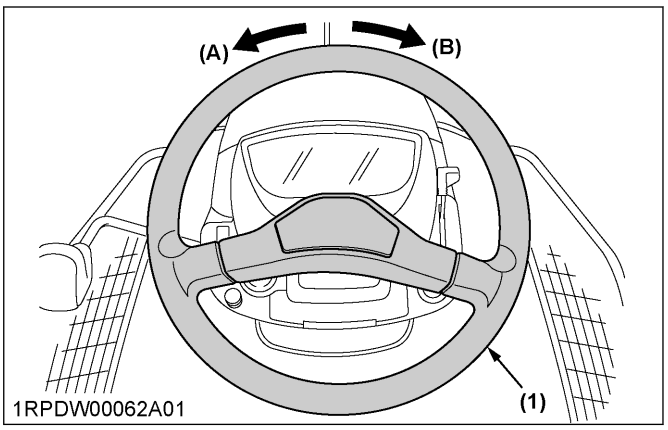
重要：
- **副変速レバーの切替えは、平たんな場所で主変速レバーを[N]（中立）位置にし、走行をいったん止めてから行ってください。故障の原因となります。**

補足：
- **前、後進中にブレーキペダルを踏込むと、減速すると同時に主変速レバーが強制的に[N]（中立）位置に戻ります。また、ブレーキペダルを踏込んだ状態では主変速レバーの操作はできません。**

4. 旋回のしかた

⚠ 警告
- **高速走行時、ハンドルを急に操作すると急旋回して危険ですので、旋回前に必ず減速してください。**

旋回する方向にハンドルを回します。回す角度に応じて旋回力が変わり、回す角度が大きいほど旋回半径が小さくなります。



(1) ハンドル
(A) 左旋回
(B) 右旋回

重要：
- **砂利道での急旋回は、前輪が早く摩耗しますので避けてください。**

5. 停車・駐車のしかた

⚠ 警告
- **田植機を離れるときは、平たんで安全な場所に置き、植付部を降ろして駐車ブレーキを掛け、エンジンを止めてください。**
- **主変速レバーをゆっくりと[N]（中立）位置にして走行を停止し、停車するときはブレーキペダルを踏込み、駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。**
- **坂道やあぜ越えなどの斜面では、ブレーキペダルを踏込んでください。**
- **やむを得ず坂道で駐車するときは、ブレーキペダルを踏込み、駐車ブレーキレバーを掛け、下側の両輪に車止めをしてください。**

1. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
2. 停止するときはブレーキペダルを踏込み、駐車するときは駐車ブレーキを掛けます。
3. アクセルレバーを🐢（低回転）位置にします。
4. エンジンを停止してメインスイッチのキーを抜きます。

輸送について

1. トラックとあゆみ板の準備

⚠ 警告
- **積込み・積降ろしは平たん地を選び、トラックの駐車ブレーキをしっかり掛けてください。**
- **あゆみ板はフックが付いているもので、じゅうぶんな強度、幅（30 cm 以上）、長さ（高さの 4 倍以上）のある基準に合ったすべり止め付きのものを使用し、田植機の重量であゆみ板が傾いたりしない場所を選んでください。**

- **あゆみ板を荷台に掛けるときは、段差がなく平行で、左・右のあおりに機体が接触しない位置に合わせてください。**

あゆみ板の基準

長さ	トラックの荷台の高さの 4 倍以上
幅	30 cm 以上
数量	2 枚
強度	1 枚が 1000 kg 以上の重量に耐えうる

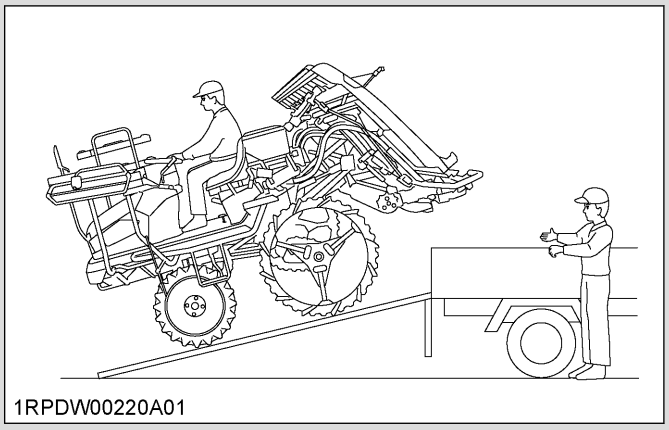
2. トラックへ積込み時の田植機の準備

1. 苗のせ台および予備苗のせ台の苗や苗すくい板はすべて降ろします。
2. 施肥機付きの場合は、肥料をすべて排出します。
3. ラインマーカ・隣接マーカ・マスコット・予備苗のせ台を収納します。
4. **[6 条]** 苗のせ台を機体中央位置に移動します。
   [8 条] 苗のせ台を左端まで移動させたあと、収納式苗のせ台を収納状態にします。
5. 植付部を上げて最上昇位置にし、油圧ロックして下降防止を行います。

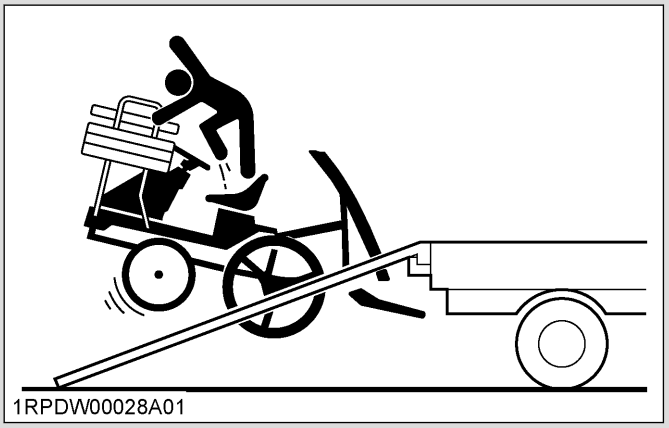
3. トラックへの積込み･積降ろしのしかた

⚠ 警告

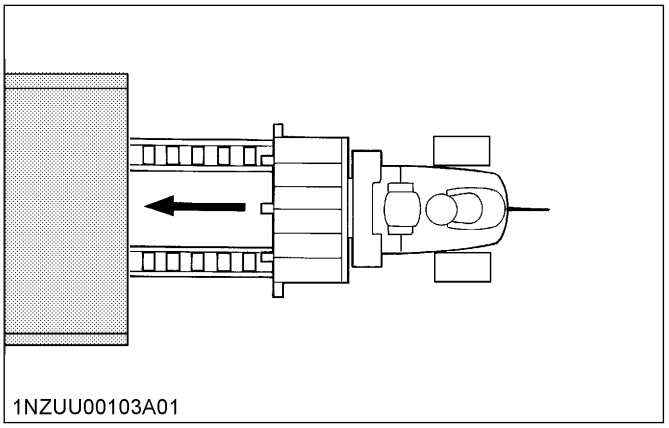
- **積込みは後進、積降ろしは前進で、低速で走行してください。**
- **共同作業者は、あゆみ板上を走行中の田植機からは離れてください。**
- **平たん地を選び、できるだけ助手の立ち会い誘導のもとに行ってください。また、田植機の周辺に人を近づけないでください。**


1RPDW00220A01

- **あゆみ板の途中で急なハンドルの操作や副変速レバーの操作およびブレーキペダルを急に踏込むと、機械が急降下したりあゆみ板から脱輪して落下する危険がありますので、操作しないでください。方向を変えるときは、いったん地上または荷台に戻って方向を修正し、再度上り下りし直してください。**


1RPDW00028A01

1. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にし、主変速レバーをゆっくり操作して、低速で走行します。
2. あゆみ板の前でいったん停止し、あゆみ板の中央に左、右の前輪と後輪の中心を合わせ、機体があゆみ板と平行になっているか確認してから、斜面の勾配方向と機体の進行方向を合わせて積込み・積降ろしをしてください。


1NZUU00103A01

3. 荷台に乗り終わると駐車ブレーキを掛けて、走行を停止します。

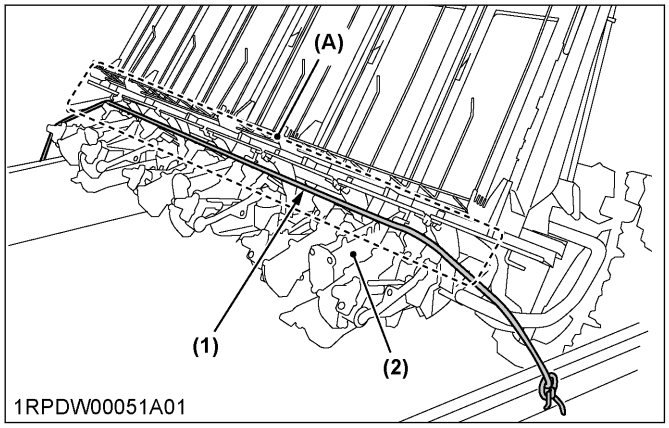
4. トラック上での処置

⚠ 警告

- **駐車ブレーキを掛け、車止めをし、ロープでしっかりトラックに固定してください。**

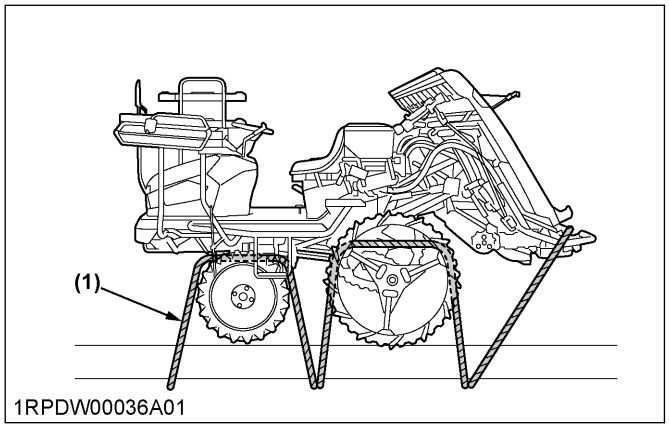
1. エンジンを停止します。
2. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にします。
3. 植付部を最上昇位置にしたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして植付部の下降防止を行います。

4. 植付部がバウンドしないように各植付ケースの上側にロープを掛けます。



(1) ロープ
(2) 植付けケース
(A) 各植付けケースの上部にロープを掛ける

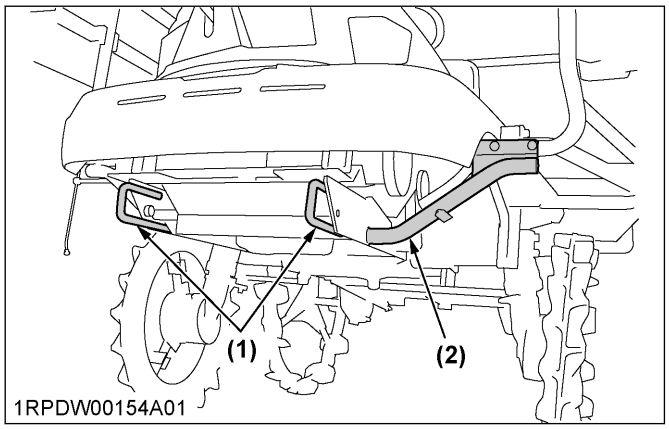
5. 車輪にロープを掛けて固定します。



(1) ロープ

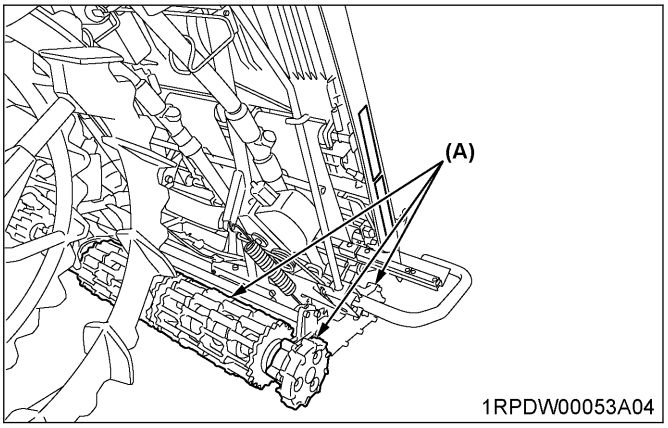
重要 :

- **機体前部にロープを掛けるときは、けん引フックに必ず掛けてください。また、予備苗ステーにはロープを絶対に掛けないでください。予備苗ステーが破損します。**



(1) けん引フック
(2) 予備苗ステー

- **トラック輸送時、整地ロータ各部にはロープを掛けないでください。整地ロータが破損します。**



(A) ロープ掛け禁止

- **［R 仕様］施肥部にロープは掛けないでください。破損の原因となります。**

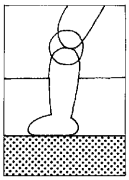
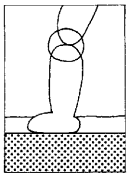
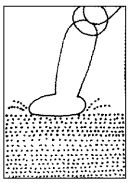
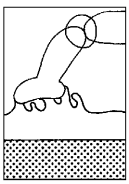
田植作業のしかた

ほ場と苗の条件

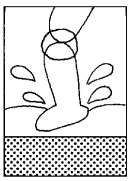
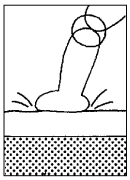
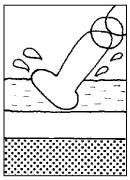
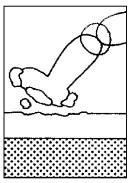
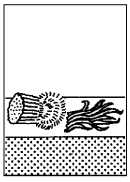
ほ場の条件と苗の条件が良くなければ、植付の品質に悪影響を与え、ひどい場合、植付作業が行えないこともあります。
次のような条件が予想される場合は事前に購入先にご相談ください。

1. ほ場条件

ほ場づくりは、作物の種類・植付時期・土地条件（気候や風土）などの条件によって異なりますので、最寄りの指導機関（普及センタ）や経験者に相談して、作物に適したほ場づくりをしてください。

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
深さ	 1JDZF00123A01	耕盤までの深さが 30 cm 以上ある深いほ場。
	 1JDZF00124A01	耕盤までの深さが 10 cm 以下の浅いほ場。
土質	 1JDZF00125A01	砂質の多いほ場（手植えでも植えにくいほどのかたいほ場）。
	 1JDZF00126A01	強粘土質のほ場（歩くのが困難な粘いほ場）。

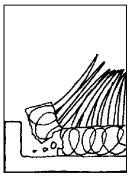
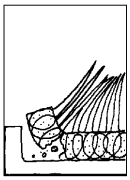
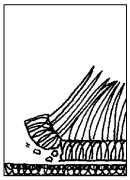
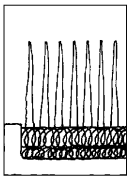
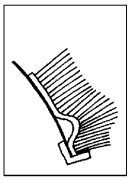
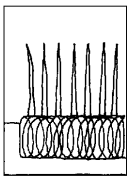
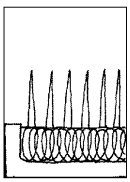
（次へ続く）

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
硬さ	 1JDZF00127A01	代かき直後のほ場または、代かき後いく日たっても固まらないトロトロのやわらかいほ場（歩いても足跡がすぐ埋まるようなほ場）。
	 1JDZF00128A01	代かき後、日数がたってかたくなったほ場または、代かき後すぐに固まるほ場（手植えするにも指が痛くなるようなかたいほ場）。
水深	 1JDZF00129A01	水深の平均が 3 cm を越える水の多いほ場。
	 1JDZF00130A01	水気がなく、車輪に泥がまつわりつくようなほ場。
夾雑物	 1JDZF00131A01	裏作跡などで、刈り株・排わらまたは、雑草がじゅうぶん腐らず、代かき後も表面に多量に露出しているほ場。

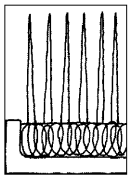
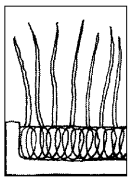
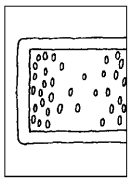
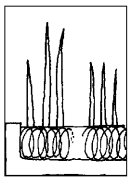
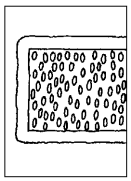
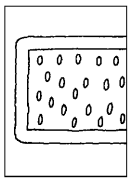
2. 苗条件

苗づくりは、最寄りの指導機関（普及センタ）の指導を仰いだり、経験者に相談して、良い苗（健苗）づくりを行ってください。

田植作業のしかた

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
苗床	 1JDZF00132A01	砂質が多く、苗床が崩れやすい苗。
	 1JDZF00133A01	根張りが悪く、苗床が崩れやすい苗。
	 1JDZF00134A01	根張りはよいが、根を切ったために苗床が崩れやすい苗。
	 1JDZF00135A01	根の張り過ぎた、植付爪のささりにくい苗。
	 1JDZF00136A01	苗床厚（マット厚）が 2 cm 以下の、薄い苗。
	 1JDZF00137A01	苗床厚（マット厚）が 4 cm 以上の、厚い苗。
草丈	 1JDZF00138A01	草丈が 8 cm 以下の、短い苗。

（次へ続く）

項目	条件（うまく使えないこともある状況）	
草丈	 1JDZF00139A01	草丈が 20 cm 以上の、長い苗。
素質	 1JDZF00140A01	軟弱徒長苗。
	 1JDZF00141A01	播種ムラのひどい苗。
	 1JDZF00142A01	成育ムラや成育不良のある苗。
播種量	 1JDZF00143A01	催芽もみで、1 箱当り 250 g 以上の、厚播きの苗。
	 1JDZF00144A01	催芽もみで、1 箱当り 100 g 以下の、薄播きの苗。

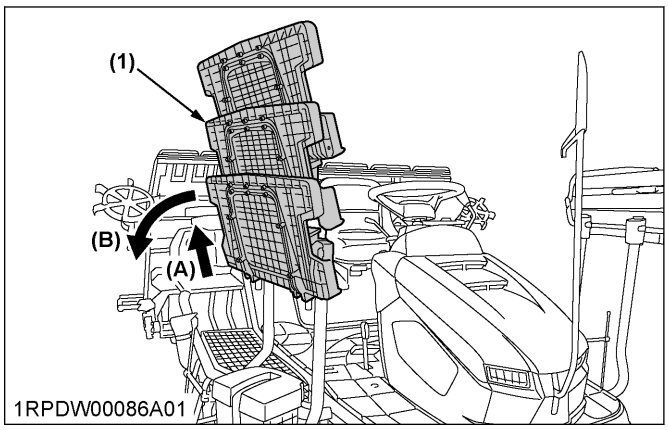
田植作業前の準備

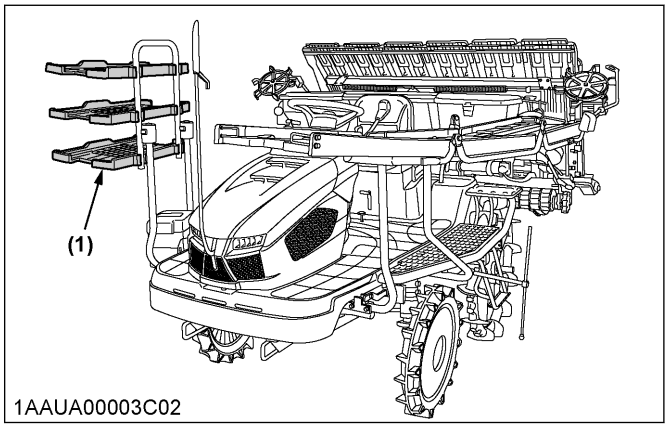
⚠ 警告

- **平たんな場所に置き、エンジンは必ず止めてください。**
- **取り外したカバー類は必ず取り付けてください。**

1. 予備苗のせ台の準備

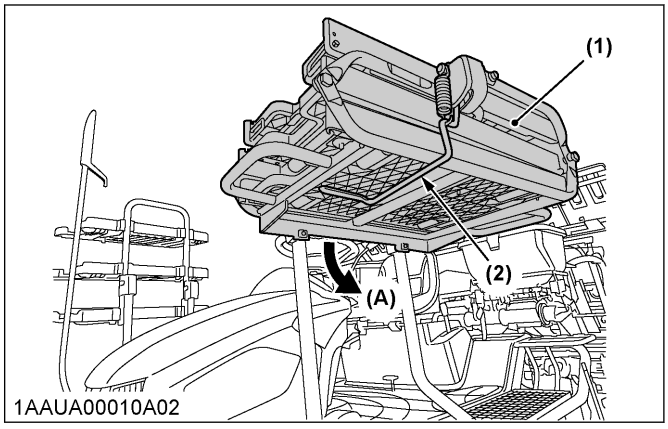
1. 右側の固定式予備苗のせ台をいったん押上げて、取付穴からフック部を外して作業状態にします。





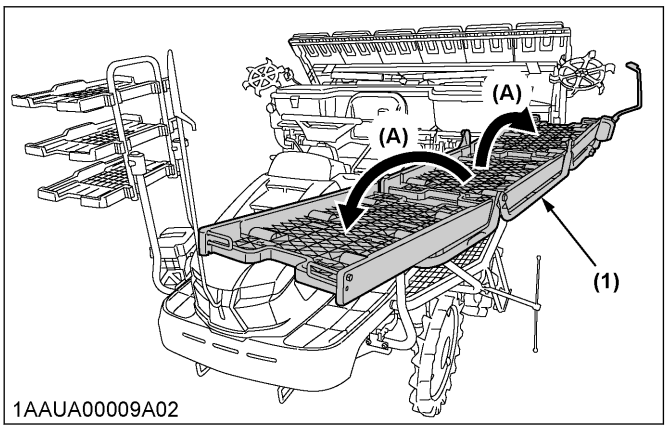
(1) 予備苗のせ台
(A) 押上げる
(B) 下げる（作業状態）

2. 収納状態の左側のレール式予備苗のせ台を作業状態にセットします。
   a. 収納状態のレール式予備苗のせ台のロック解除レバーを引き、予備苗のせ台を前後に倒して開きます。
   b. **［8 条］**予備苗のせ台の前、後にある延長金具をそれぞれ前側または、後側に引き出します。



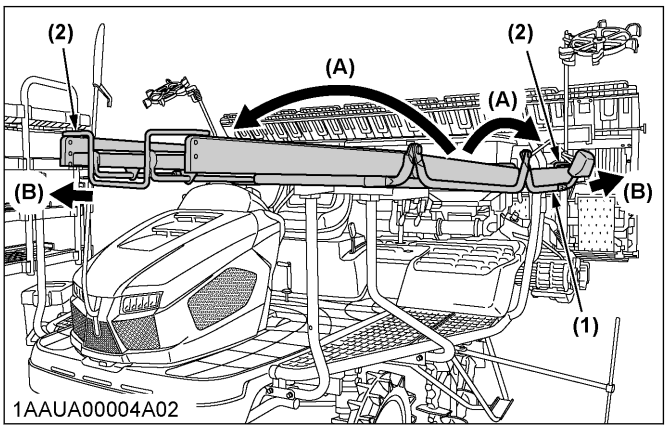
(1) 予備苗のせ台（収納状態）
(2) ロック解除レバー
(A) 引く

※イラストは［6 条］



(1) 予備苗のせ台
(A) 倒す

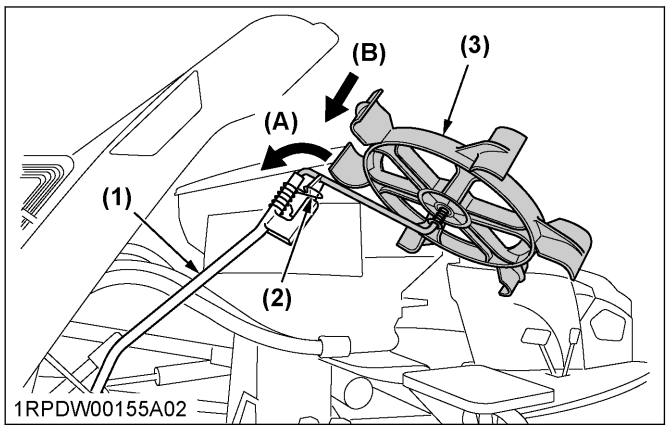
※イラストは［8 条］



(1) 予備苗のせ台
(2) 延長金具
(A) 倒す
(B) 引き出す

2. ラインマーカの準備

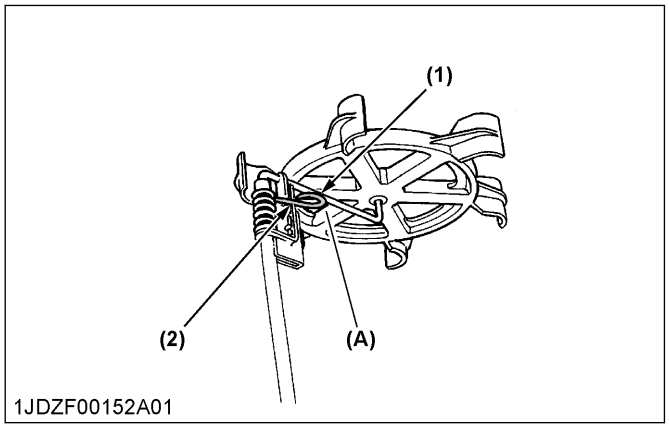
1. スプリングフックを引きながらパイプロッドに差込みます。



(1) パイプロッド
(2) スプリングフック
(3) ラインマーカ（回転式）
(A) 引く
(B) 差込む

補足：

- **マーカをパイプロッドに差込んだあと、スプリングフックを先端側の切欠溝（標準位置マーク）に左右共ロックしてください。**

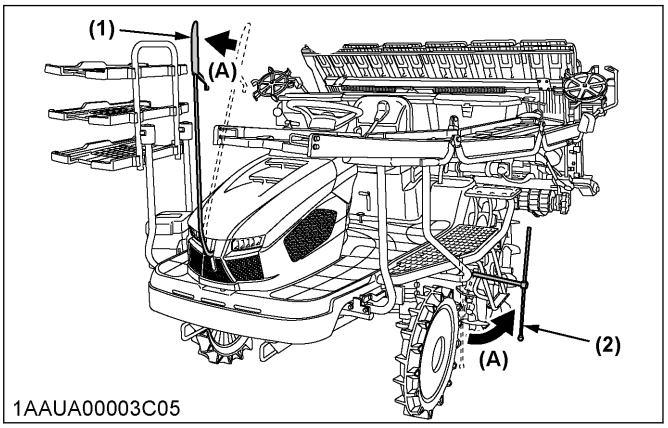


(1) スプリングフック
(2) 標準位置マーク
(A) 標準位置

3. 隣接マーカとマスコットの準備

隣接マーカとマスコットを作業状態にセットします。

※イラストは［6 条］



(1) マスコット
(2) 隣接マーカ
(A) セット

4. しゅう動板ガードの準備（左、右）

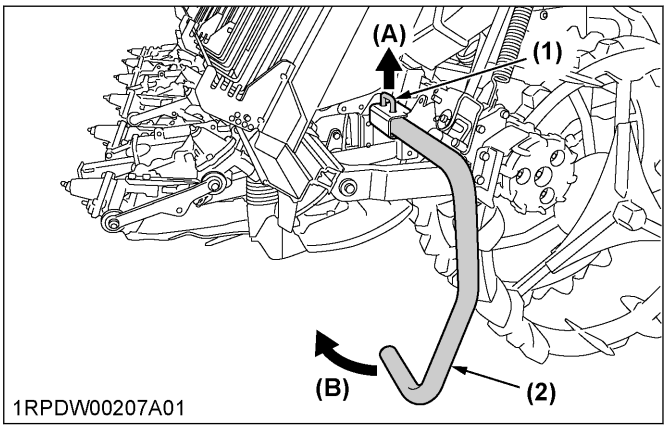
⚠ 警告

- **ケガをするおそれがあるので、しゅう動板ガードの切替作業を行うときは、メインスイッチのキーを[運転]位置にしないでください。**

収納式のしゅう動板ガードを作業状態の位置にします。

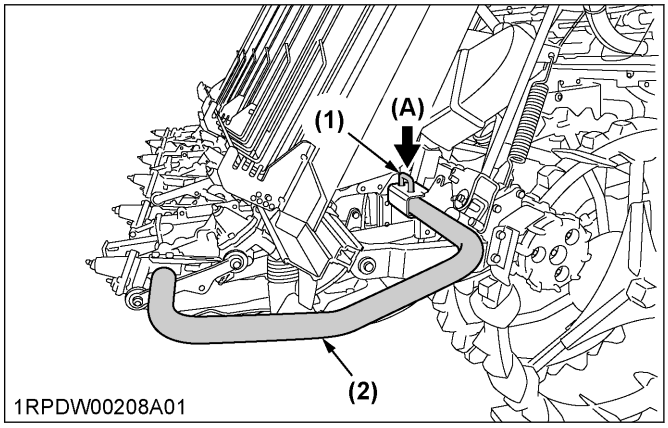
[6 条]

1. しゅう動板ガードのロックピンを上側に引きながらしゅう動板ガードを上げます。
2. しゅう動板ガードのロックピンから手をはなし、しゅう動板ガードを作業位置まで持ち上げると、しゅう動板ガードのロックピンが作業位置の穴に入り、しゅう動板ガードがロックされます。



(1) ロックピン
(2) しゅう動板ガード
(A) 引く
(B) 上げる

作業状態

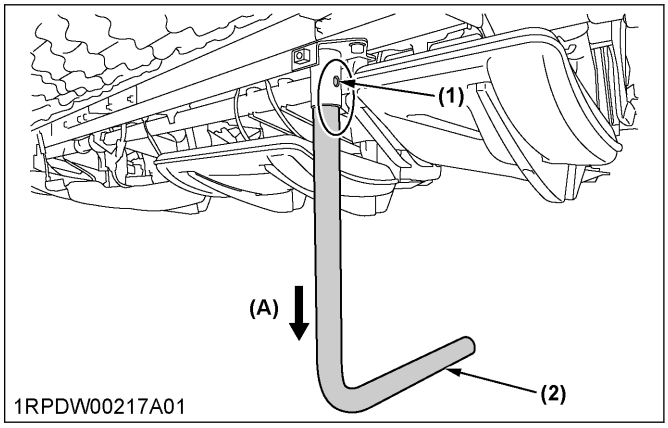


(1) ロックピン
(2) しゅう動板ガード
(A) 入る

[8 条]

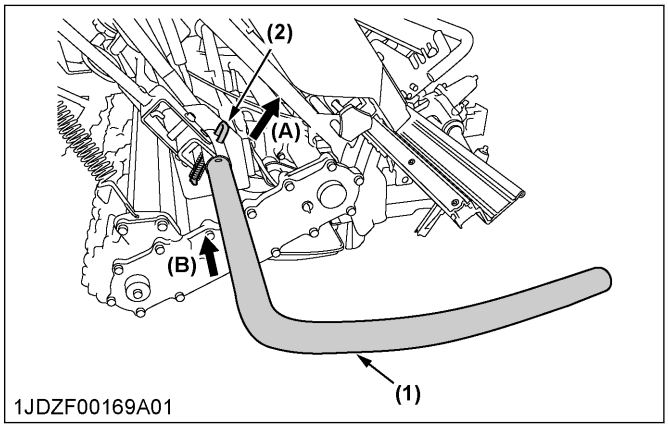
1. プッシュピンを押しながらしゅう動板ガードを下側に引き出します。
2. ロックレバーを上側に引いている状態で、しゅう動板ガードのプッシュピンを押しながら作業位置の穴に差込み、ロックレバーでセットします。

収納状態



(1) プッシュピン
(2) しゅう動板ガード
(A) 引き出す

作業状態



(1) ロックレバー
(2) しゅう動板ガード
(A) 引く
(B) 差込む

5. 各レバー・ダイヤルの準備

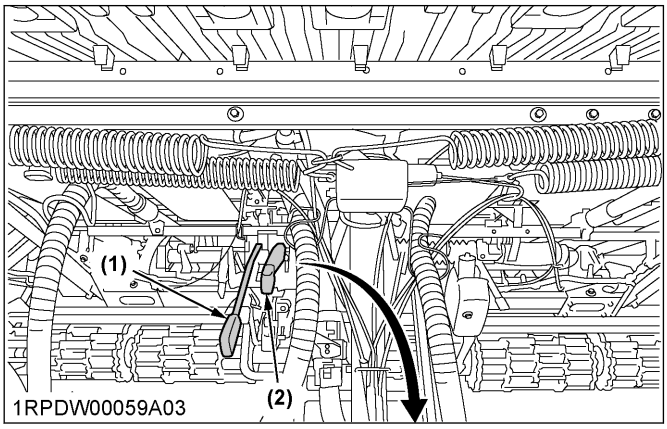
各レバー・ダイヤルの設定を行います。

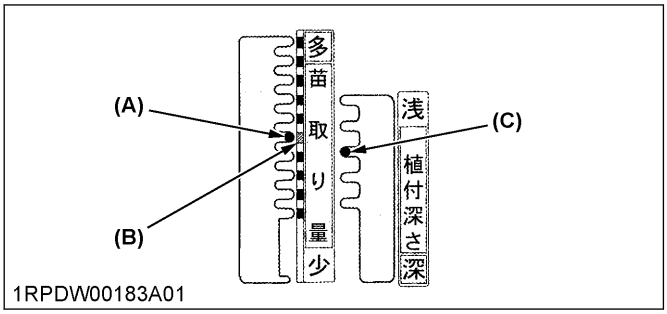
補足：

- **次記各レバー・ダイヤルの設定位置は目安です。**

植付深さ調節レバー、苗取量調節レバー

植付深さ調節レバーを上**[浅]**から 3 段目（表示ラベルの中央）の切欠位置にし、苗取量調節レバーを上**[多]**から 6 段目（ラベルの赤印）の切欠位置にします。

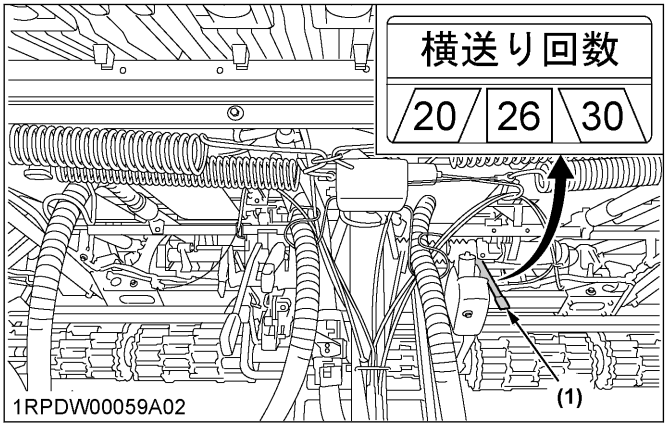




(1) 苗取量調節レバー
(2) 植付深さ調節レバー
(A) 上から *6* 段目
(B) 赤色
(C) 上から *3* 段目

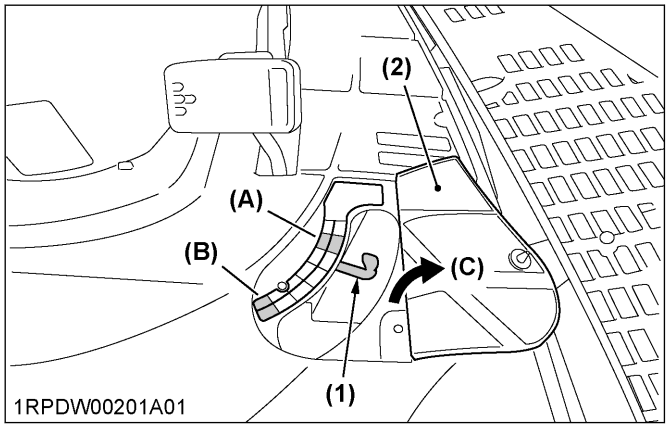
横送り切替レバー

苗の状態により横送り切替レバーを動かして横送り回数（20 回・26 回・30 回）を選択し設定します。



(1) 横送り切替レバー

株間調節レバー
株間調節レバーの位置を切り替えるときは、副変速レバーを**[N]**（中立）位置にしたあと、ステップ右側のゴムカバーをめくり株間調節レバーを動かして 14 cm から 30 cm の間（6 段階）から選択し、株間を設定します。

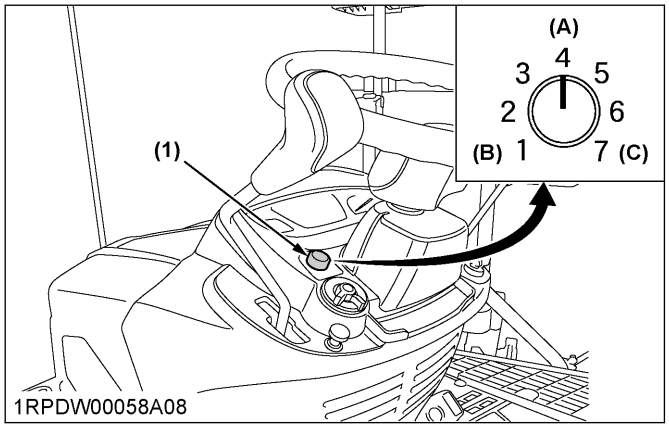


(1) 株間調節レバー
(2) ゴムカバー
(A) 14 cm
(B) 30 cm
(C) めくる

重要：
- **株間を［疎植］24 cm・30 cm に調節するときは、株間副変速レバーと車速切替レバーの位置も変更してください。（詳細は株間調節レバー（35 ページ）を参照）**

補足：
- **株間の設定については、植付株数の調節（85 ページ）を参照してください。**

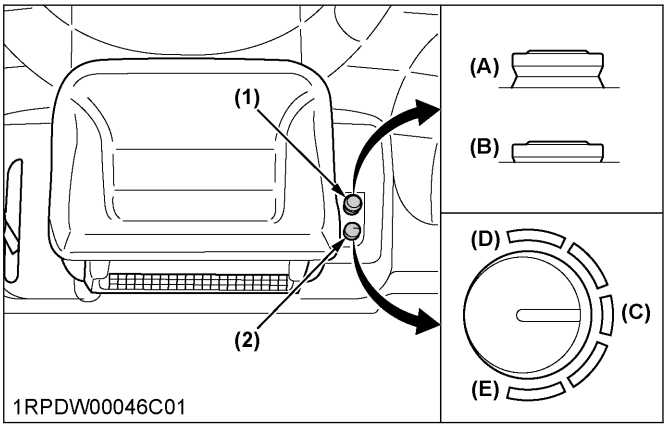
フィットセンサダイヤル
フィットセンサダイヤルを**［4］**（標準）の位置にします。



(1) フィットセンサダイヤル
(A) 標準
*(B) **[軟]***
*(C) **[硬]***

補足：
- **フィットセンサダイヤルを［1］にしても、フロートの沈下が大きく泥押しするときまたは、より強くフロートで整地を行いたいときは、フロート荷重調節レバーを操作してください。（詳細はフロート荷重の調節（88 ページ）を参照）**

ロータ深さ調整ダイヤル
ロータ自動入／切スイッチを押して**[入]**にし、その状態でロータ深さ調節ダイヤルを**[標準]**の位置にします。

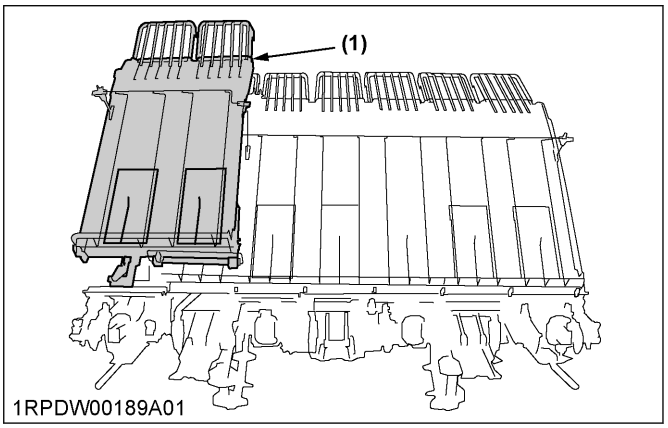


(1) ロータ自動入／切スイッチ
(2) ロータ深さ調節ダイヤル
*(A) **[OFF]***（切）ランプ消灯
*(B) **[ON]***（入）ランプ点灯
*(C) **[標準]***
*(D) **[浅い]***
*(E) **[深い]***

6. 苗のせ台の折りたたみかた、広げかた［8 条］

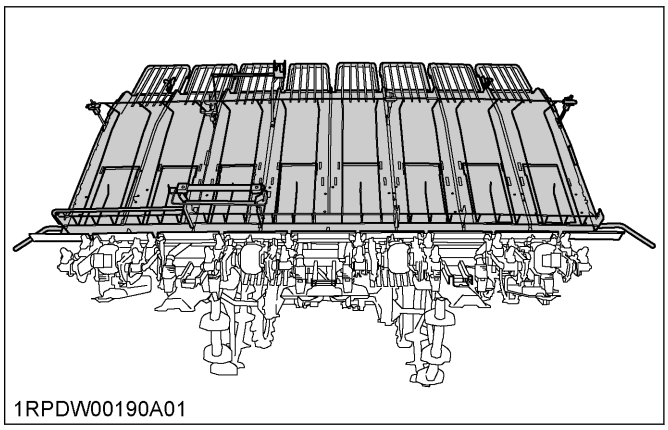
⚠ 警告
- **水平な平たんな場所で、駐車ブレーキを掛けて行ってください。**

収納時



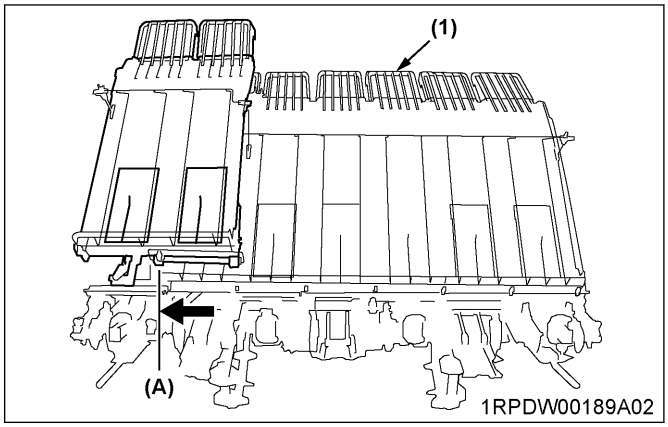
(1) 収納式苗のせ台

作業時



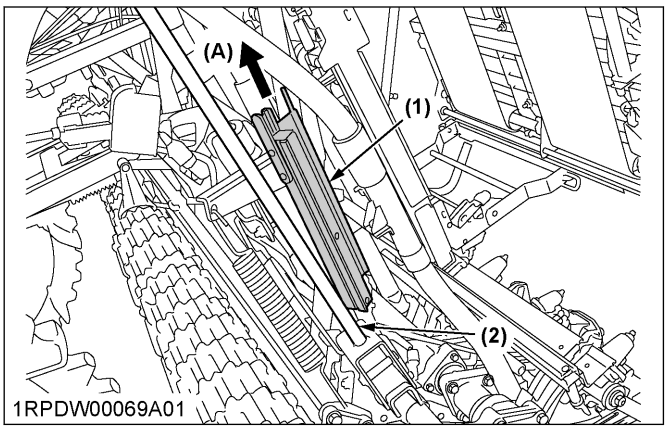
6.1 苗のせ台の広げかた

1. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にし、駐車ブレーキを掛けたあと、エンジンを始動します。
2. 十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させたあと、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして植付部の下降防止を行い、エンジンを停止します。
3. 苗のせ台が機体の左端の位置にあることを確認します。



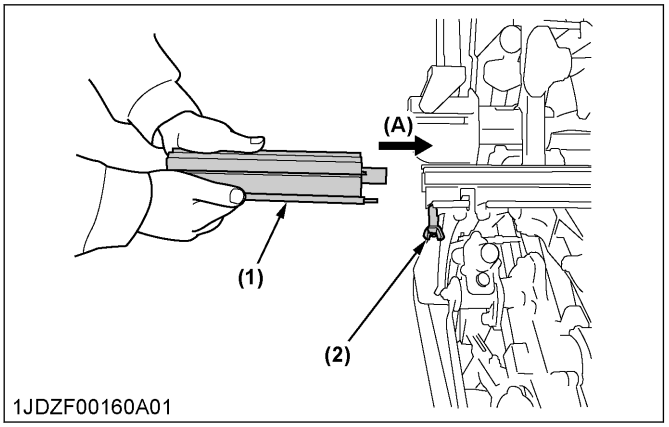
(1) 苗のせ台　　*(A)* 左端

4. 脱着式のしゅう動板左をサポートから抜取って、本体側に取り付けます。
   a. しゅう動板左を抜取ります。

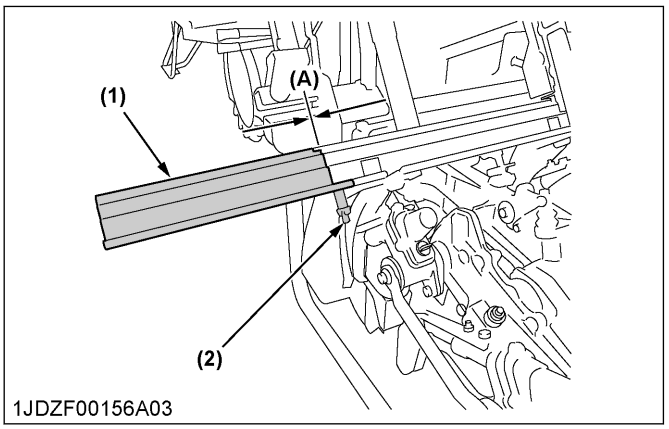


(1) しゅう動板左　　*(A)* 抜取る
(2) サポート

   b. 蝶ナットをゆるめ、下図の方向にすき間のない（すき間 0）ように差込み、蝶ナットで締付けます。

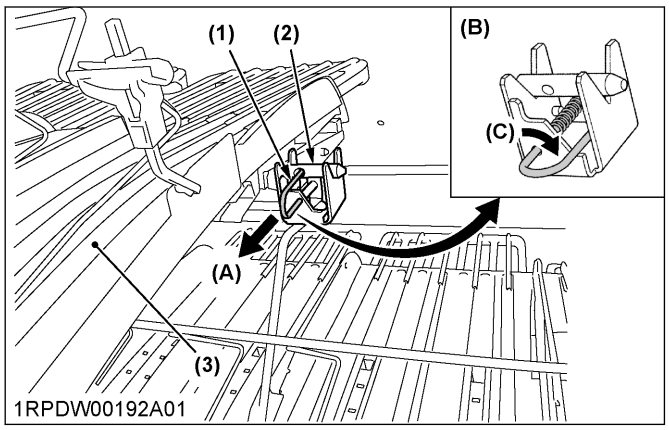


(1) しゅう動板左　　*(A)* 差込む
(2) 蝶ナット



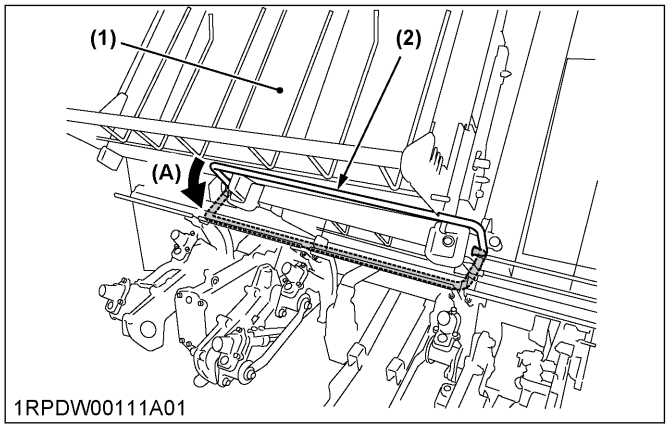
(1) しゅう動板左　　*(A)* すき間 *0*
(2) 蝶ナット

5. 収納式苗のせ台のロックを解除します。
   a. 右上部ピン部を固定しているロックレバーを、下側に引きながら右側に倒して、ロックを解除します。



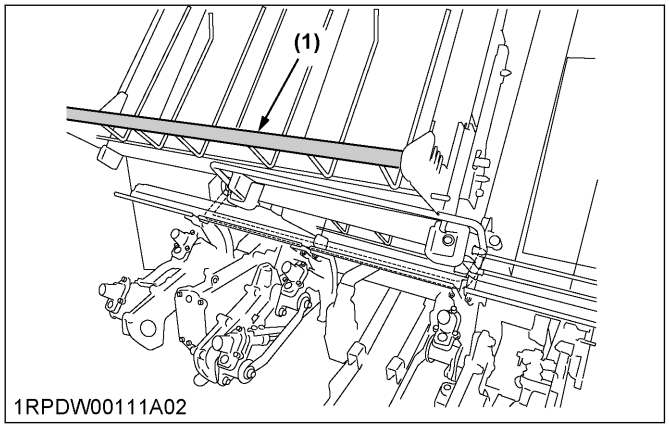
(1) ロックレバー
(2) ピン
(3) 収納式苗のせ台
(A) 引く
(B) 解除
(C) 倒す

b. 下部を固定しているロックレバーを下側に倒してロックを解除します。

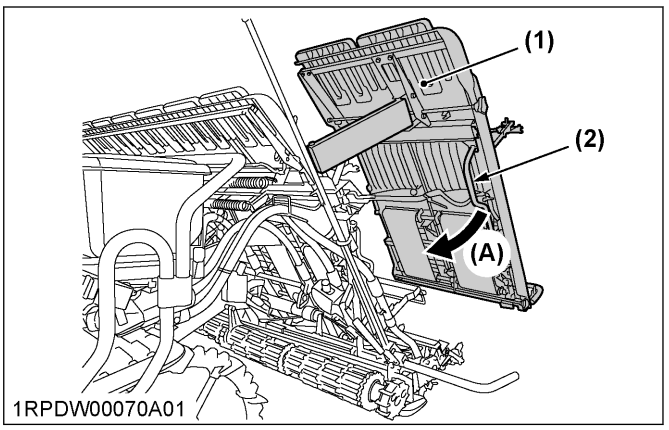


(1) 収納式苗のせ台
(2) ロックレバー
(A) 倒す（解除）

6. 両手で収納式苗のせ台を持上げて左側に回動します。

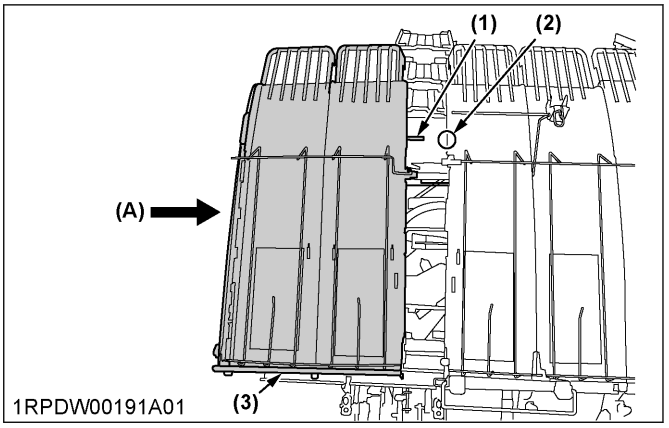


(1) 取っ手



(1) 収納式苗のせ台
(2) 取っ手
(A) 回動

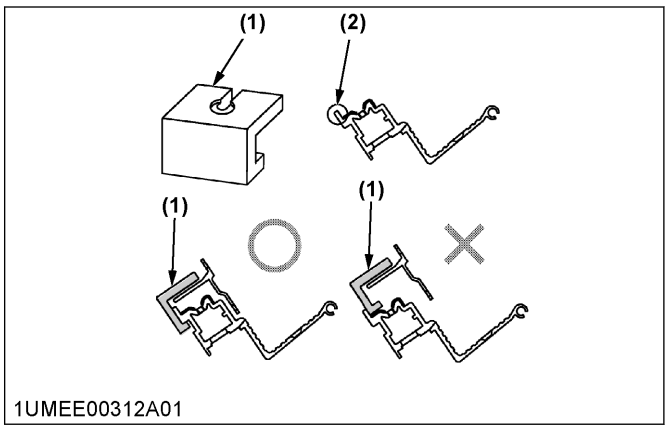
7. レバーグリップを握りながら（手順 8.参照）収納式苗のせ台の外側端部の取っ手を持ち（手順 6.参照）、中央側へ押込みます。このとき、本機側苗のせ台上部にあるピン穴にピンを差込み、**[収納位置]**ラベルの**[▲]**マークと苗のせ台上部**[収納]**ラベルの矢印マークの中央の位置が合う位置まで押込みます。



(1) ピン
(2) ピン穴
(3) 収納式苗のせ台
(A) 押込む

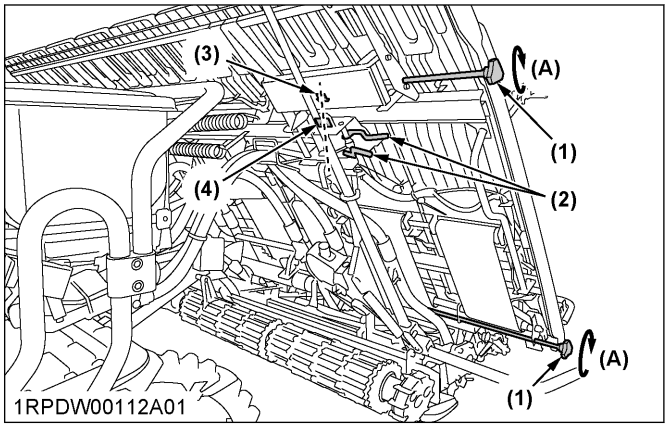
補足：

- **ピン部がピン穴に確実に差込まれることを確認して押込んでください。**
- **浮き防止のホルダがしゅう動板前側のガイド部に乗り上げていないかを確認してください。**



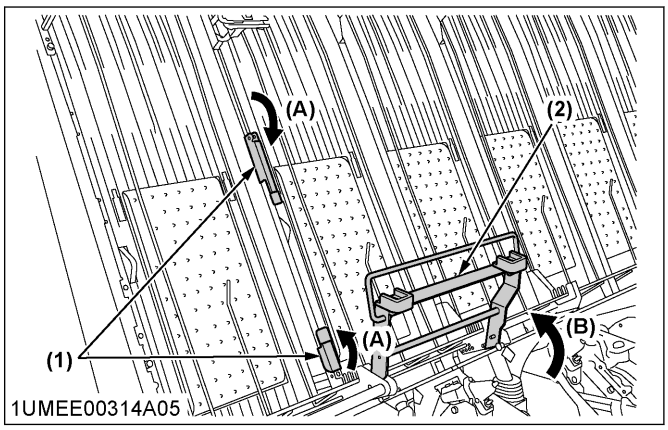
(1) 浮き防止ホルダ
(2) ガイド部

8. 左端部にある上、下 2 箇所のノブボルトを締付けます。



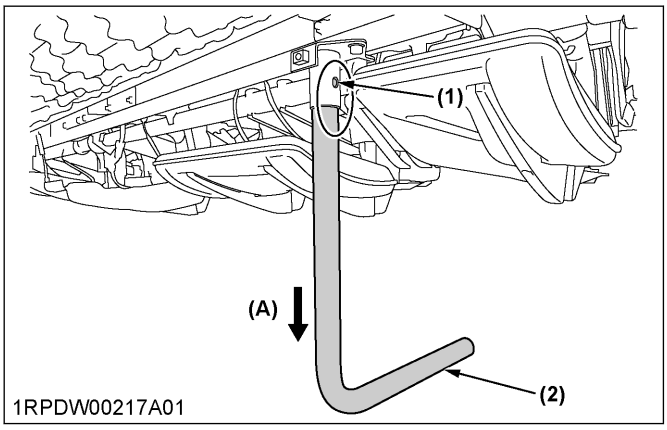
(1) ノブボルト
(2) レバーグリップ
(3) ***[収納]***マーク（ラベル）
(4) ***[収納位置]***マーク（ラベル）
(A) 締付け

9. 苗のせ台側にある 2 箇所のロック金具で本機側と固定するためにそれぞれ倒してロックした後、収納スタンドを折り畳んでください。

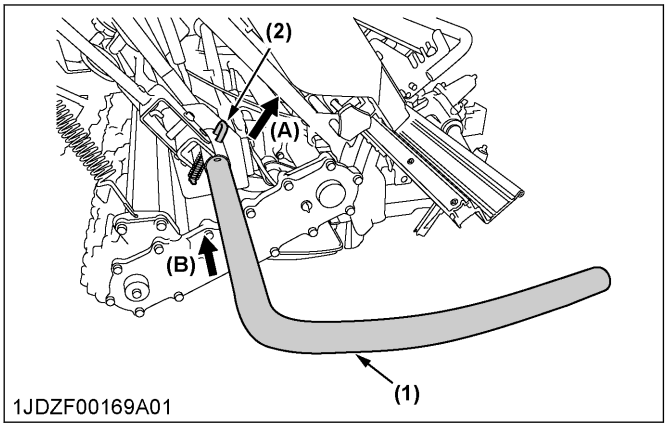


(1) ロックレバー
(2) 収納スタンド
(A) 倒す（ロック）
(B) 折り畳む

10. 収納式のしゅう動板ガードを作業状態の位置にします。
    a. プッシュピンを押しながらしゅう動板ガードを下側に引き出します。
    b. ロックレバーを上側に引いている状態で、しゅう動板ガードのプッシュピンを押しながら作業位置の穴に差込み、ロックレバーでセットします。

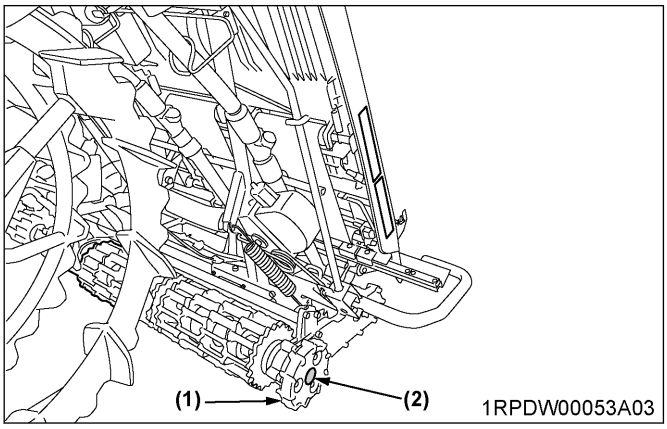


(1) プッシュピン
(2) しゅう動板ガード（収納時）
(A) 引き出す



(1) しゅう動板ガード（作業時）
(2) ロックレバー
(A) 引く
(B) 差込む

11. 右側のしゅう動板としゅう動板ガードを手順 4.と 10.と同じ要領でセットします。
12. ロータ駆動ケース部の駆動軸に、延長ロータ右、左を、M8 ボルト 1 本で組み付けます。

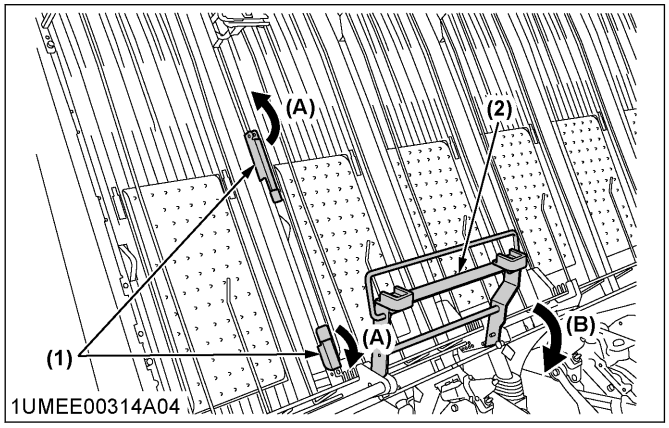


(1) 延長ロータ
(2) *M8* ボルト

補足：
- **軟弱なほ場、水が深いほ場などで、植付速度を落としても隣接条に泥押しや水押しをする場合は、両サイドの延長ロータを外して植付けを行ってください。**

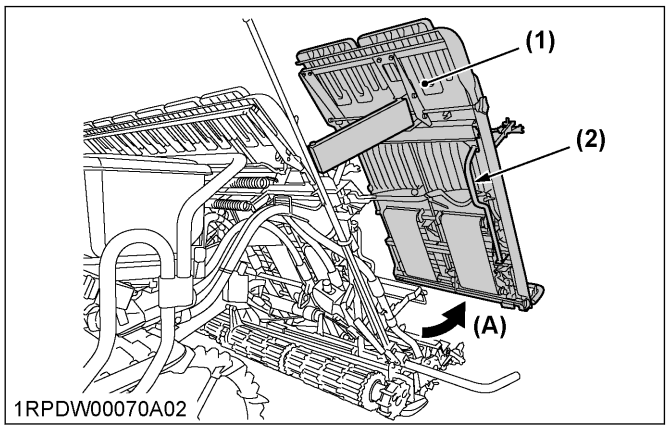
6.2 苗のせ台の折たたみかた

1. 広げかたの手順 1.、2.を行います。
2. 左端まで苗のせ台を寄せます。（詳細は移動走行前の準備（49 ページ）を参照）
3. しゅう動板ガードを収納状態にします。
4. 苗のせ台側にある 2 箇所のロックレバーを上げて、ロックを解除します。
5. 収納スタンドを起こします。



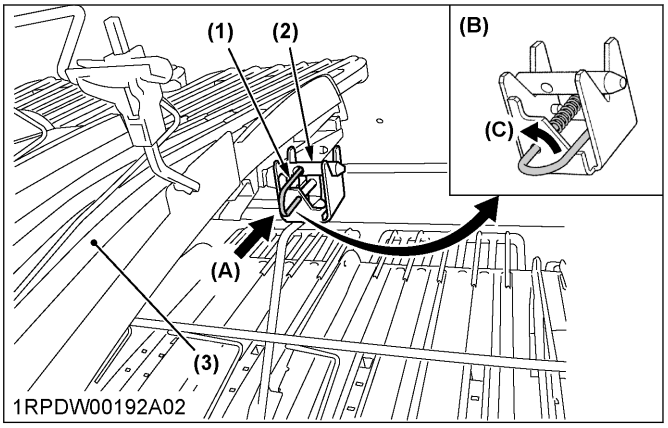
(1) ロックレバー　　*(A)* 上げる（解除）
(2) 収納スタンド　　*(B)* 起こす

6. 左端部にある 2 箇所のノブボルトをゆるめて外します。
7. 収納式苗のせ台の外側端部の取っ手を持ち、ロックする外側いっぱいまで引張ります。
8. 両手で収納式苗のせ台を持上げて収納状態にします。

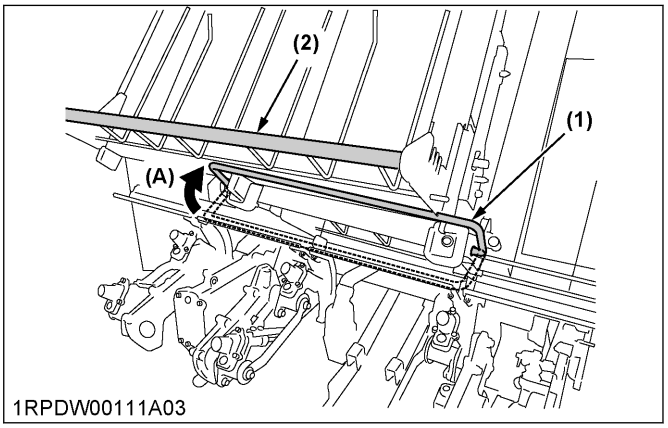


(1) 収納式苗のせ台　　*(A)* 持上げる
(2) 取っ手

9. 収納位置にしたあと、収納式苗のせ台の右上部と下部をロックレバーでロックします。



(1) ロックレバー　　*(A)* 差し込む
(2) ピン　　*(B)* ロック
(3) 収納式苗のせ台　　*(C)* 起こす



(1) ロックレバー　　*(A)* ロック
(2) 取っ手

10. 脱着式のしゅう動板左を取り外したあと、サポートに収納します。

補足：
- **しゅう動板はなくさないように確実にサポートに収納してください。**

11. 右側のしゅう動板ガードとしゅう動板を手順 3.と 9.と同じ要領で収納します。
12. 延長ロータ右・左を苗のせ台の広げかたの手順 12.の逆の手順で取り外します。

補足：
- **取り外した延長ロータ右・左とボルトはなくさないよう保管してください。**

植付作業のしかた

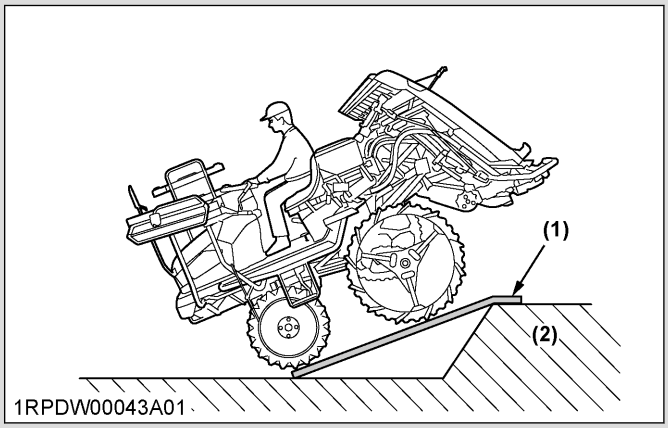
⚠ 警告
- **夜間作業は行わないでください。思わぬ事故を起こすおそれがあります。**
- **後進する場合、後方に川（用水路）やがけのある場合は転落しないようにじゅうぶん注意してください。**
- **機体への乗り降りや機体の上で作業を行うとき（苗や肥料［R 仕様］の補給時など）、主変速レバーに**

体の一部が接触すると、機体が発進するおそれがありますので、必ず駐車ブレーキを掛けてください。

1. ほ場の出入りのしかた

警告

- **10 cm 以上の段差（あぜやコンクリート畦畔など）のあるところではあゆみ板を使ってください。**



(1) あゆみ板
(2) 農道・あぜ

- **暴走や転倒をしてケガをするおそれがあるので、あぜ越えや傾斜地（あゆみ板や坂道など）を走行するときは、下記事項に注意してください。**
  - **副変速レバーが[圃場作業]位置になっていることを確認する。**
  - **走行速度を落とす。（ゆっくりと走行する。）**
  - **主変速レバーで走行と停止を行う。**
  - **あぜや斜面の勾配方向と機体の進行方向を合わせる。**
  - **あぜや斜面に対して上り方向は後進、下り方向は前進で走行する。**
  - **あぜや斜面の走行途中に急なハンドル操作や副変速レバーの操作およびブレーキペダルを急に踏込まない。**
  - **運転者以外は乗せない。**
  - **予備苗のせ台に苗を載せない。**

2. 植付作業の手順

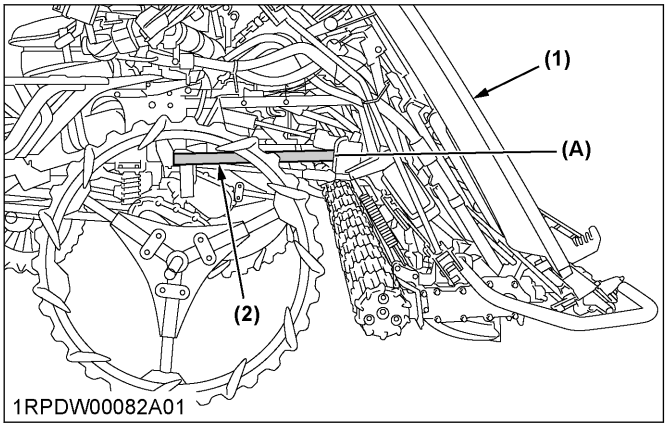
警告

- **異常が発生したときは、エンジンを必ず止めてください。**
- **小さなほ場や、ほ場のすみでは作業がしにくいので、安全のため低速で注意しながら作業を行ってください。**
- **ほ場の外で苗のせ台を移動させているときは、機体が動かないように水平で平たんな場所で必ず行ってください。**

重要：

- **副変速レバーを[移動]位置にして植付作業はしないでください。トラブルの原因になります。**

1. ほ場に入ったら平たんな場所で走行を停止します。
2. 十字ポンパレバーを**[下降]**（下側）に操作して植付部のリンクが水平状態になる程度まで下降させます。

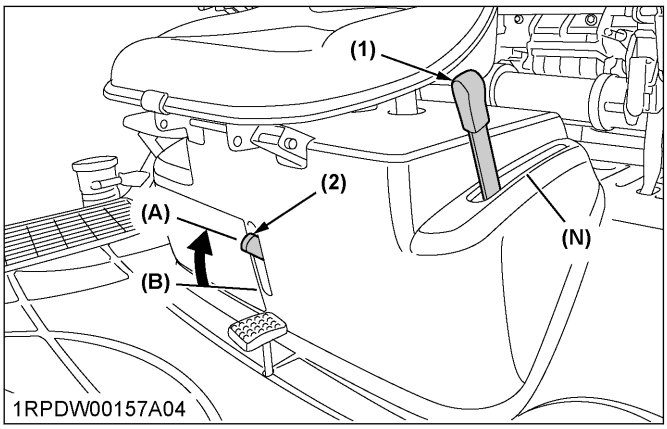


(1) 植付部（苗のせ部）　*(A)* 水平
(2) リンク

補足：

- **植付部が最上昇にあると植付部は横送りしないため、植付部は最上昇位置より下がった位置にしてください。**

3. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にして下降防止をします。
4. 駐車ブレーキを掛けているときは解除して副変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。

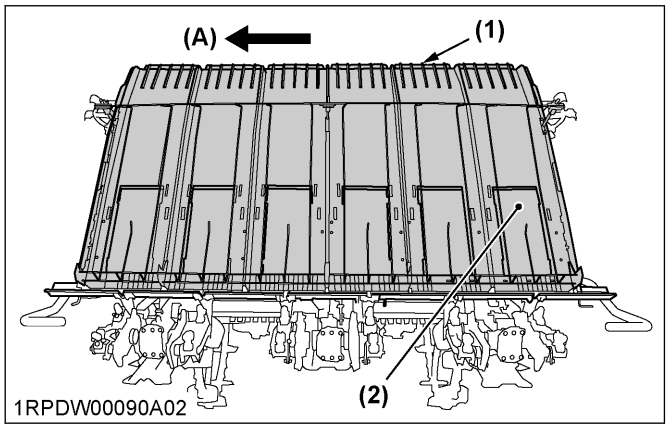


(1) 副変速レバー　*(A)* ***[閉]***
(2) 油圧ロックレバー　*(B)* ***[開]***
(N) ***[N]***（中立）

5. 十字ポンパレバーを**[下降]**（下側）に“ピッ”と音が鳴るまで操作したあと、もう 1 度十字ポンパレバーを**[下降][植付]**（下側）に“ピッピッ”と連続音が鳴るまで操作して、植付部の駆動の準備をします。

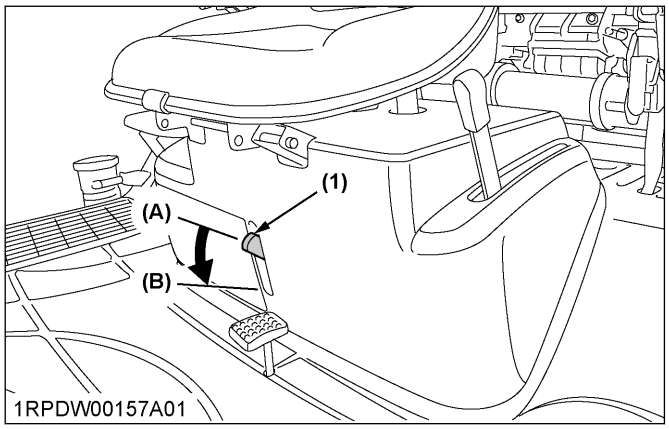
6. 主変速レバーをゆっくりと**[前進]**側に操作して、植付部を駆動させ、苗のせ台が右端または、左端まで移動して縦送りベルトが作動した直後に、十字ポンパレバーを**[上昇]**（上側）に操作して植付部の駆動を停止します。

※イラストは［6 条］



(1) 苗のせ台　　*(A)* 寄せる
(2) 縦送りベルト

7. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置に戻します。
8. 油圧ロックレバーをゆっくりと**[開]**位置にして、植付部を降ろします。

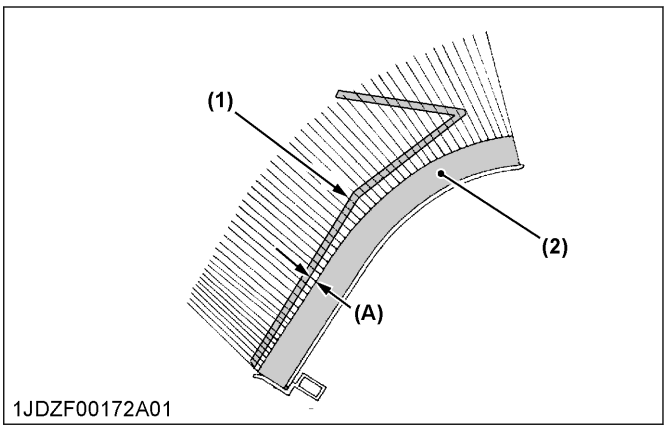


(1) 油圧ロックレバー　　*(A)* ***[閉]***
(B) ***[開]***

9. エンジンを停止します。
10. 苗のせ台に苗をのせます。

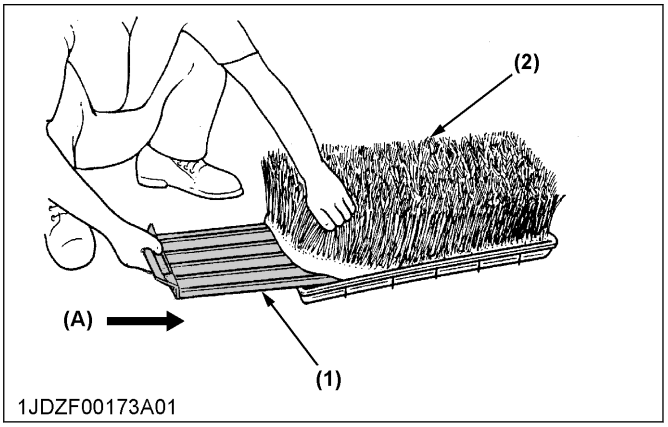
補足：

- **苗がくずれ落ちないように苗ステーとのすき間を確認してください。（詳細は苗ステー・苗押さえ棒の調節（90 ページ）を参照）**



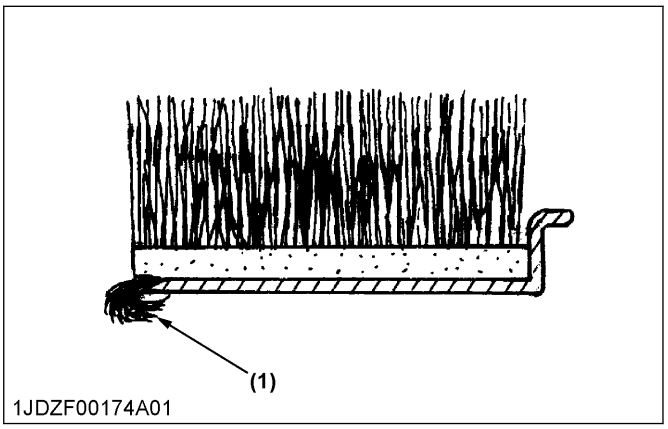
(1) 苗ステー　　*(A)* すき間
(2) 苗床

- **苗箱から苗を取り出すときは、苗床（苗マット）の端を持上げて、苗すくい板を苗床の下に差込み苗をすくい出してください。**



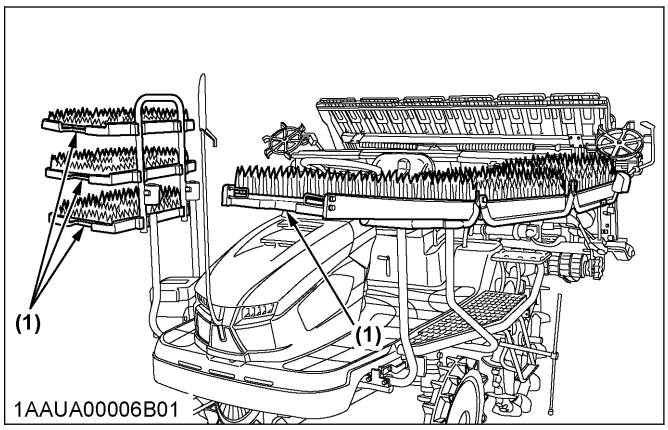
(1) 苗すくい板　　*(A)* 苗箱と苗の間へ差込む
(2) 苗（苗床）

- **苗すくい板の先端に苗の根がからみついて、固まりができることがあります。この根は必ず取除いてください。そのまま入れると、欠株の原因になります。**



(1) 苗の根

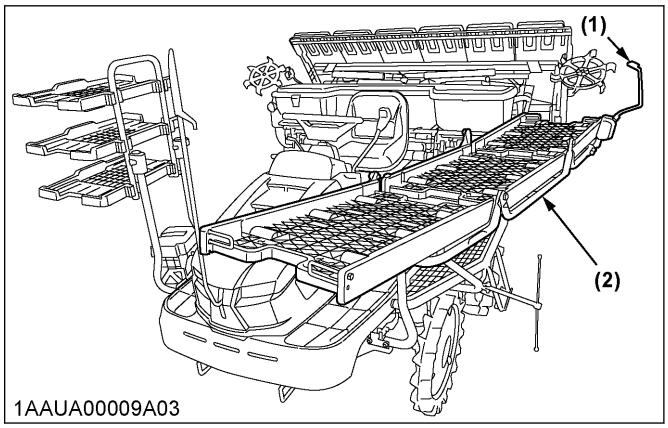
- **苗すくい板のニギリ部を機体の後方にし、予備苗載せ台へのせてください。**



(1) 苗すくい板

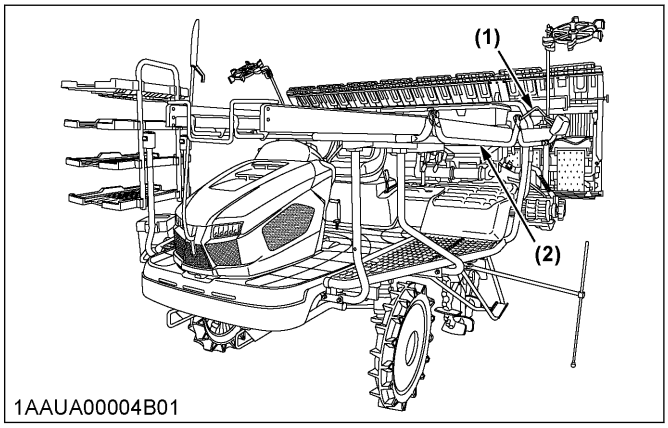
- **苗を補給したあとの苗すくい板は、苗すくい板押さえ金具に収納してください。**

※イラストは［6 条］



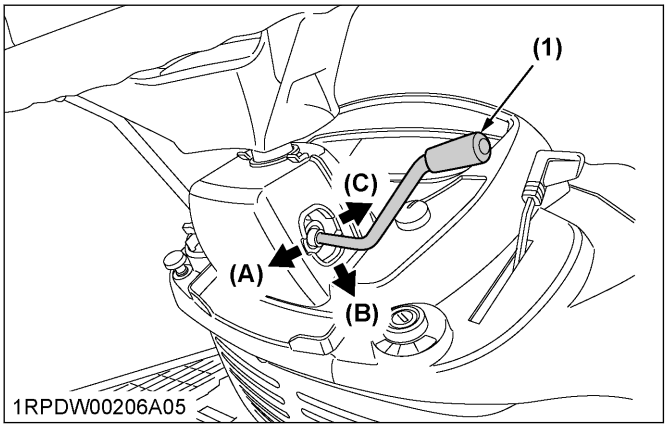
(1) 苗すくい板押さえ金具
(2) 予備苗のせ台

※イラストは［8 条］



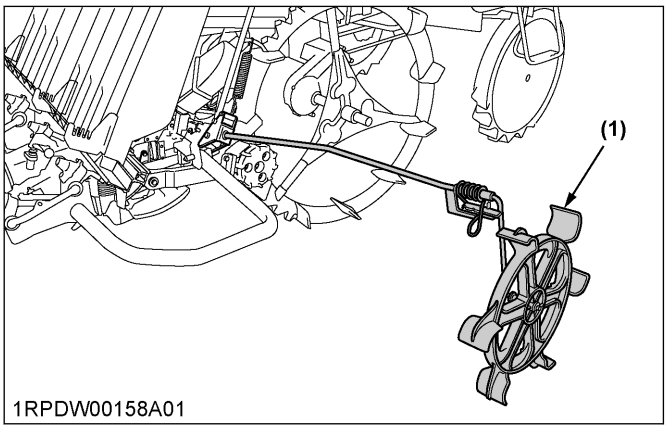
(1) 苗すくい板押さえ金具
(2) 予備苗のせ台

11. **［R 仕様］**ホッパに肥料を入れます。（詳細は施肥作業［R 仕様］（77 ページ）を参照）
12. エンジンを始動し、十字ポンパレバーを操作して植付部の駆動準備とラインマーカのセットを行います。
    a. 十字ポンパレバーを上側に 1 回押すと植付部が上昇します。
    b. 十字ポンパレバーを下側に“ピッ”と音が鳴るまで 1 回押すと植付部が下降し、十字ポンパレバーを前方**［マーカ左］**または、後方**［マーカ右］**に押すとラインマーカが倒れます。さらに、下側に“ピッピッ”と音が鳴るまで押すと、植付部が駆動します。



(1) 十字ポンパレバー
(A) ***[マーカ右]***（後側）
(B) ***[下降] /[植付]***(下側)
(C) ***[マーカ左]***（前側）

※イラストは右側（十字ポンパレバー後方操作）



(1) ラインマーカ

重要：

- **十字ポンパレバーを押したあとはすぐに離してください。また、強く押さないでください。故障の原因となります。**

補足：

- **ラインマーカを出さないとき（あぜぎわの植付など）は、十字ポンパレバーを前後せずに 2 度の下側操作をしてください。植付部が駆動します。**

13. 副変速レバーを**[圃場作業]**位置にし、主変速レバーを**[前進]**側へ操作して試し植えを行います。
14. 5 m 前後植付けたあと、主変速レバーを**[N]**（中立）位置にして走行を停止します。

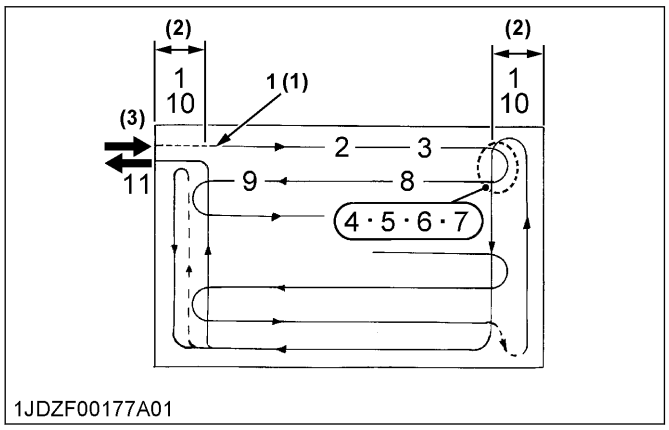
15. 植付状態を確認し、異常がなければ植付作業を行います。

確認項目	再調整箇所
1 株本数	苗取量調節レバー、横送り切替レバー
植付深さ	植付深さ調節レバー、フィットセンサダイヤル、モンロー調整ダイヤル
植付株数	株間調節レバー
植付姿勢	フィットセンサダイヤル、苗ステー
欠株	苗押さえ棒

3. 植付けかたと旋回のしかた

ほ場の大きさや形状によって植付方法は異なりますので作業を始める前に、植付手順を決めてから植付作業を行ってください。

3.1 6 条植えの植付けかたと旋回のしかた [6 条]



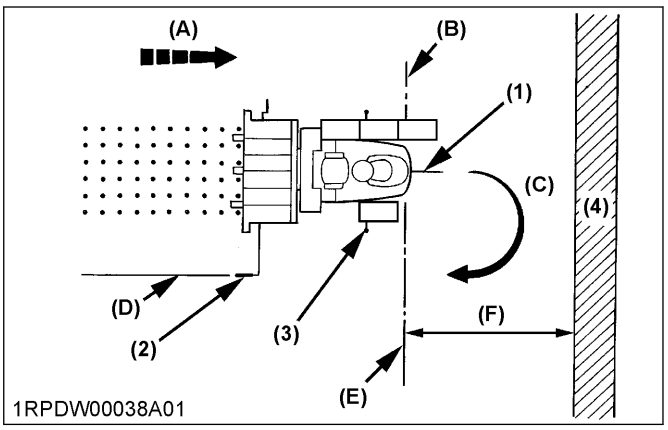
(1) 植始め位置
(2) 枕地
(3) 出入口

補足：

- **前図は、植付手順の一例です。また、前図内と次記の手順の番号 1.～11.を合わせて説明しています。**

1. 植始めは、1 往復分残した位置から植付けます。また、反対方向の枕地も 1 往復分残します。

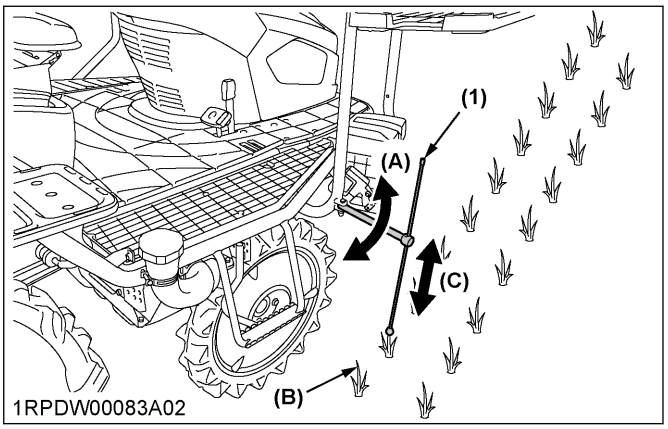
   補足：
   - **1 往復分の目安は 3.6 m～3.9 m（12 条分～13 条分）です。**
2. 十字ポンパレバーを下側に“ピッ”と音が鳴るまで 1 回押して植付部を下降させます。十字ポンパレバーを前方または後方に操作して、ラインマーカを左または右にセットします。さらに、下側に“ピッピッ”と音が鳴るまで十字ポンパレバーを押し、ほ場の長辺方向に植付けます。
3. 枕地が近づくと、主変速レバーを操作して減速します。そのあと、十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。
4. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。



(1) マスコット
(2) ラインマーカ
(3) 隣接マーカ
(4) あぜ
(A) 減速
(B) 植付部上昇
(C) 旋回
(D) マーカ跡
(E) 次行程植始め位置
(F) 1 往復分

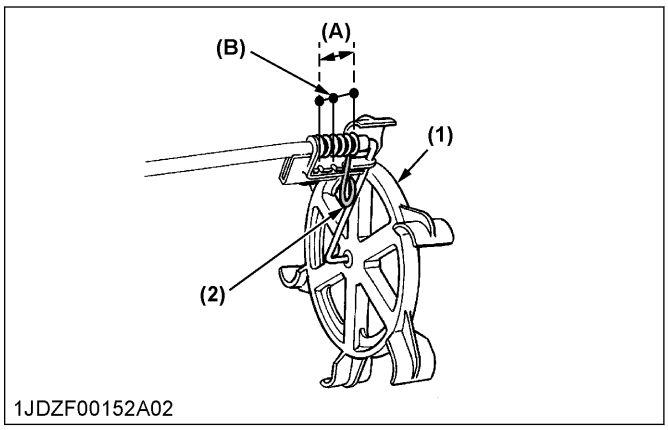
5. 旋回するときにマスコットを目印にして、マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

   補足：
   - **マーカ跡の線が見えにくいときは、隣接マーカが、植え終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。**
   - **隣接マーカは必要に応じて前後方向の角度および上下方向の高さを調整してください。**



(1) 隣接マーカ
(A) 前後調整
(B) 隣接苗の上に合わす
(C) 高さ調整

   - **フロートの泥で苗が倒れているときや補助車輪を取り付けているときは、ラインマーカの長さを調節してください。**

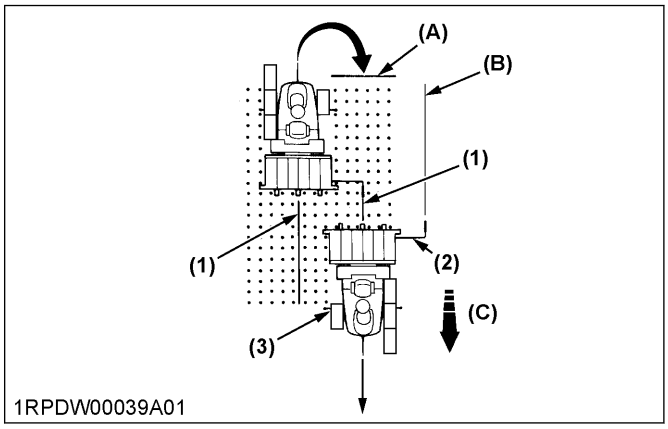


(1) ラインマーカ（回転式）　*(A)* 調節
(2) スプリングフック　*(B)* 標準位置

6. 十字ポンパレバーを下側に“ピッ”と音が鳴るまで 1 回押して植付部を下降させます。
7. 植付部が接地したことを確認したあと、ラインマーカを次行程植付側にセットします。さらに、下側に“ピッピッ”と音が鳴るまで十字ポンパレバーを押して、植付クラッチ**入**の状態にします。

補足：
- **植付部が接地していないときに、植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。**

8. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



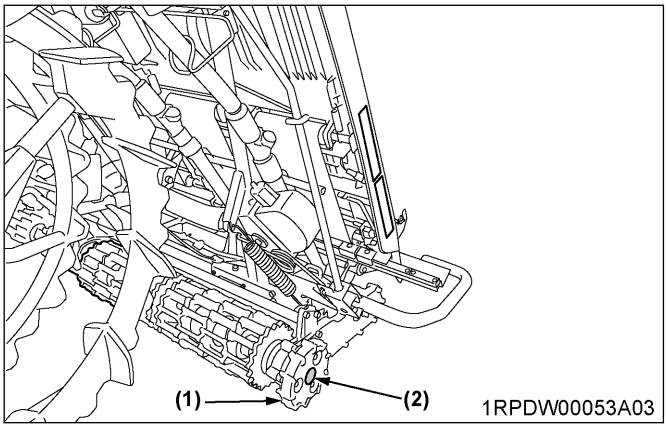
(1) マーカ跡　*(A)* 条合わせおよび植付け
(2) ラインマーカ　*(B)* マーカセット
(3) 隣接マーカ　*(C)* 増速

9. 次行程から同じ作業を繰り返します。
10. 長辺方向の最終行程で 7 条～11 条分残ったときは、あぜぎわ植えを行います。

補足：
- **あぜぎわの植付けかたについては、あぜぎわの植付けかた（75 ページ）を参照してください。**

11. 枕地を植付けて出入口から出ます。

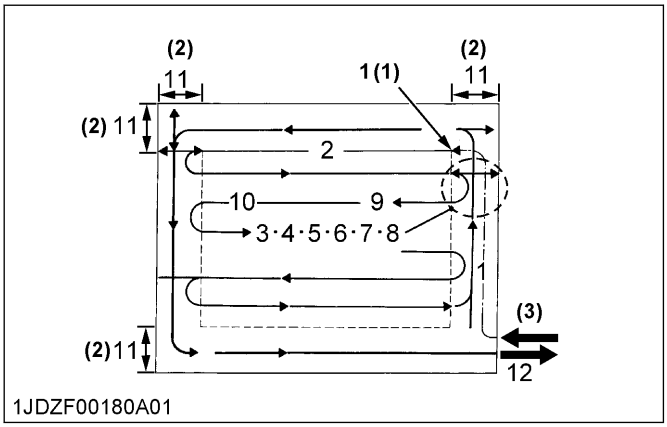
補足：
- **植付作業中メインスイッチのキーを[停止]にし、エンジンを再始動すると、そのまま植付作業が行えます。**
- **整地ロータを使用して作業するときは、ほ場や作業の条件によっては、次記のように機体や作業の設定を調整した方がきれいに植わる場合があります。**
  - **高速で植付作業を行うと、植付不良が発生することがあります（ほ場の軟弱さ、水の多さ、苗の条件などによる影響）。その場合は適度な速度に落としてください。**
  - **速度を落としても、隣接条に泥押しや水流が影響する場合には、両端の延長ロータだけ外して作業することも可能です。**
    延長ロータは、M8 ボルト 1 本を外して、取り外します。



(1) ロータ
(2) *M8* ボルト

  - **特に軟弱なほ場は、整地ロータを上げた方がきれいに植付けができる場合があります。その場合は、ロータ自動入／切スイッチを[OFF]（切）にして作業してください。**
- **極端にほ場が凸凹だったり、夾雑物が多すぎると、きれいに整地できない場合がありますので、適正な代かきを行ってください。**

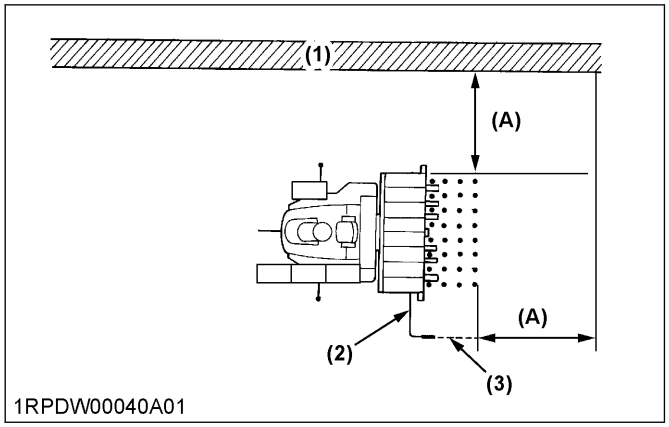
3.2 8 条植えの植付けかたと旋回のしかた [8 条]



(1) 植始め位置
(2) 枕地
(3) 出入口

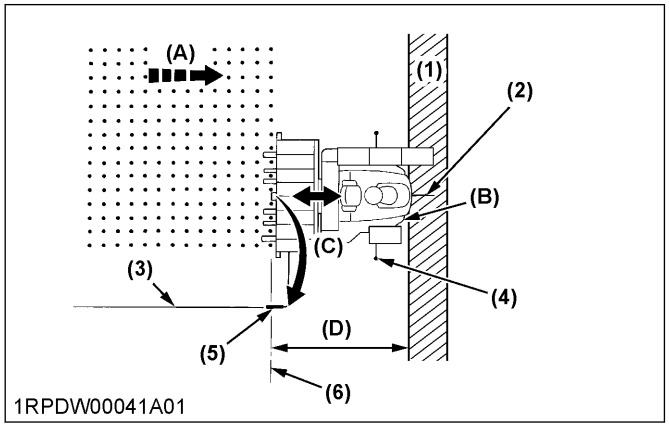
補足：
- **前の図は、植付手順の一例です。また、前の図内と次記手順の番号 1.～12.を合わせて説明しています。**

1. 植始めの位置まで植付けを行わずに走行します。
2. 十字ポンパレバーを下側に“ピッ”と音が鳴るまで 1 回押して植付部を下降させ、十字ポンパレバーを前方または後方に操作して、ラインマーカを左または右にセットし、さらに、下側にピッピッと音が鳴るまでレバーを押し、後方と右側を各 1 行程分残すように植付けます。



(1) あぜ
(2) ラインマーカ
(3) マーカ跡
(A) *1* 行程分

3. あぜが前輪に当たる少し手前で減速し、主変速レバーを操作して停止します。そのあと、十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇させます。



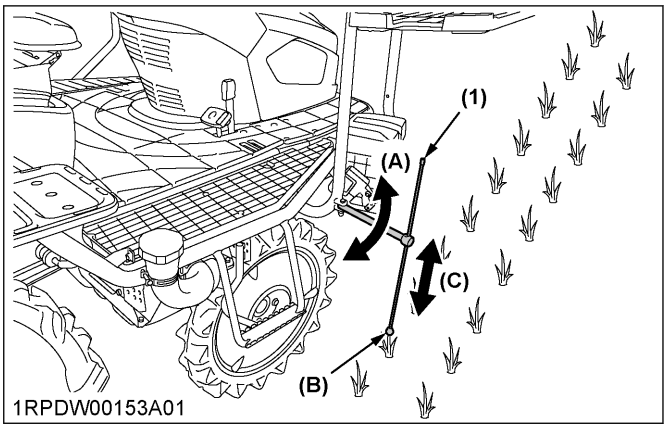
(1) あぜ
(2) マスコット
(3) マーカ跡
(4) 隣接マーカ
(5) ラインマーカ
(6) 次行程植始め位置
(A) 減速
(B) あぜに前輪が当たる前まで前進し、植付部上昇
(C) 旋回
(D) *1* 行程分

4. 旋回しやすい位置まで後退します。
5. 次に植える条側にハンドルを回して旋回します。

補足：
- **あぜにボンネットが当たる場合は、あぜぎわ植えを行ってください。（詳細はあぜぎわの植付けかた（75 ページ）を参照）**
- **植付クラッチを切って前後進したとき、植付爪が正転方向または、逆転方向に最大で半回転程度回転する場合があります。**

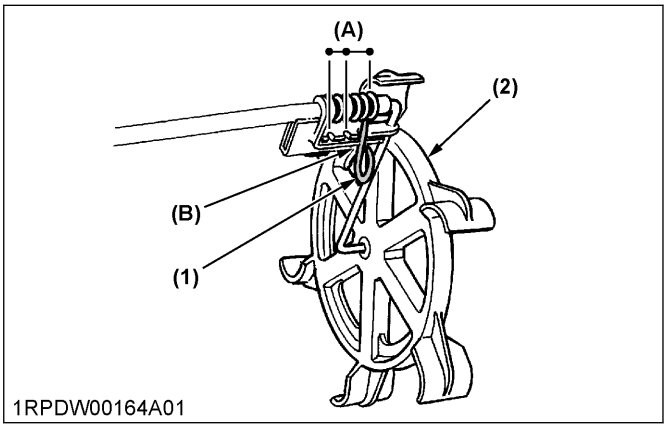
6. 旋回するときにマスコットを目印にして、マーカ跡の線とマスコットの位置を合わせながら機体をまっすぐにします。

補足：
- **マーカ跡の線が見えにくいときは、隣接マーカが植終わった隣の苗（隣接苗）の上になる位置に合わせてください。**
- **隣接マーカは必要に応じて前後方向の角度および上下方向の高さを調整してください。**



(1) 隣接マーカ
(A) 前後調整
(B) 隣接苗の上に合わす
(C) 高さ調整

- **フロートの泥で苗が倒れているときや補助車輪を取り付けているときは、ラインマーカの長さを調節してください。**



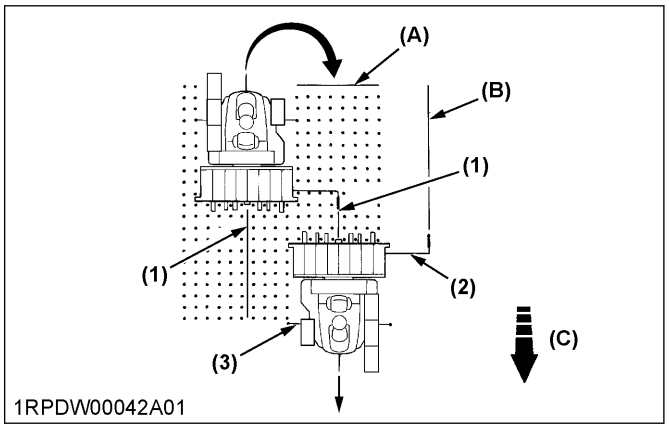
(1) ラインマーカ（回転式）
(2) スプリングフック
(A) 調節
(B) 標準位置

7. 十字ポンパレバーを下側にピッと音が鳴るまで 1 回押して植付部を下降させます。

8. 植付部が接地したことを確認したあと、ラインマーカを次行程植付側にセットします。さらに、下側にピッピッと音が鳴るまで十字ポンパレバーを押して植付クラッチ入の状態にします。

補足：
- **植付部が接地していないときに、植付部が駆動すると植付爪から苗が落下します。**

9. 主変速レバーを操作して植付速度を上げます。



(1) マーカ跡
(2) ラインマーカ
(3) 隣接マーカ
(A) 条合わせおよび植付け
(B) マーカセット
(C) 増速

10. 次行程から同じ作業を繰り返します。
11. 長辺方向の最終行程の前に条合わせが必要なときは、あぜぎわ植えを行います。

補足：
- **あぜぎわの植付けかたについては、あぜぎわの植付けかた（75 ページ）を参照してください。**

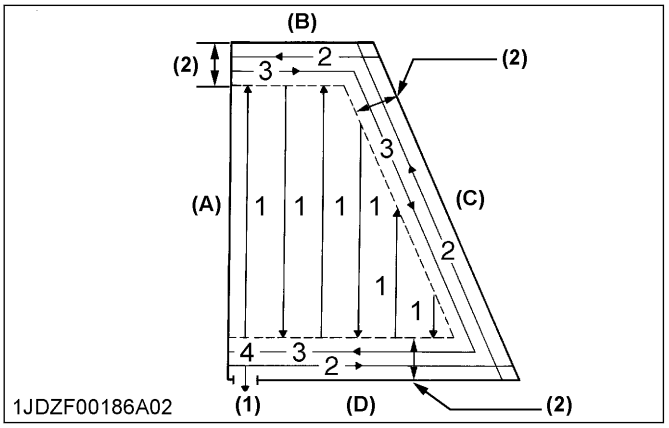
12. 枕地を 1 周植付けて出入口から出ます。

補足：
- **植付作業中メインスイッチのキーを[切]にし、エンジンを再始動すると、そのまま植付作業が行えます。**
- **整地ロータを使用して作業するときは、ほ場や作業の条件によっては、下記のように機体や作業の設定を調整した方がきれいに植わる場合があります。**
  - **高速で植付作業を行うと、植付不良が発生することがあります（ほ場の軟弱さ、水の多さ、苗の条件などによる影響）。その場合は適度な速度に落としてください。**
  - **速度を落としても、隣接条に泥押しや水流が影響する場合には、両端のロータだけ外して作業することも可能です。（詳細は苗のせ台の折りたたみかた、広げかた［8 条］（62 ページ）を参照）**
  - **特に軟弱なほ場は、整地ロータを上げた方がきれいに植付けができる場合があります。その場合は、ロータ自動入／切スイッチを[OFF]（切）にして作業してください。**
- **極端にほ場が凸凹だったり、夾雑物が多すぎると、きれいに整地できない場合がありますので、適正な代かきを行ってください。**

4. 変形田の植付けかた（参考）

変形田を植付けるときの参考例です。

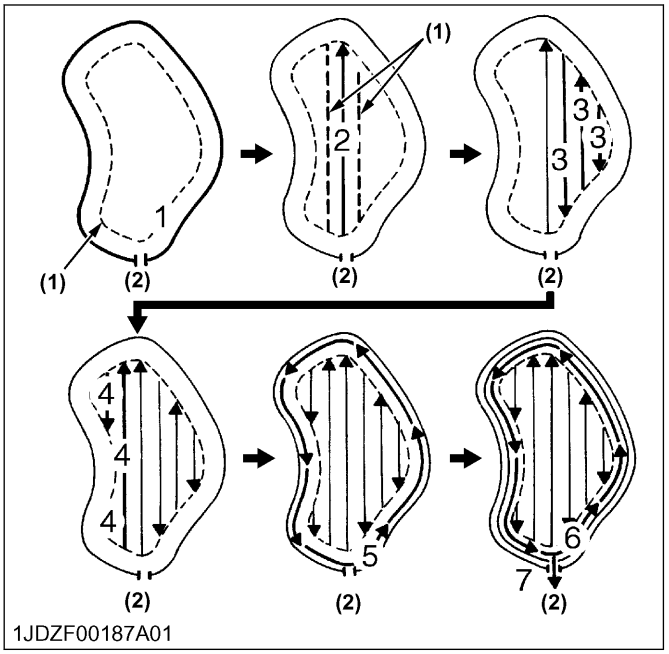
4.1 台形田の植付けかた（A 面基準）



(1) 出入口
(2) *1* 往復分
(A) *A* 面
(B) *B* 面
(C) *C* 面
(D) *D* 面

1. B 面、C 面、D 面に各 1 往復分の枕地を残して A 面（長辺方向）に植付けます。
2. D 面、C 面、B 面の順にあぜ側から植付けます。
3. B 面、C 面、D 面の順に残ったところを植付けます。
4. 出入口から出ます。

4.2 複雑な変形田の植付けかた



(1) マーカ線
(2) 出入口

1. あぜにそってマーカ線を引きます（目安線）。
2. 左、右共ラインマーカをセットして長辺部を植付けます。
3. 2.で植付けたところを基準に植付けます。
4. 反対面を植付けます。
5. あぜにそって 1 周を植付けます。
6. 5.の枕地残り分を植付けます。
7. 出入口から出ます。

5. 安全クラッチについて

⚠ 注意

- **安全クラッチがはたらいたときは、植付作業を中止してエンジンを停止してください。**

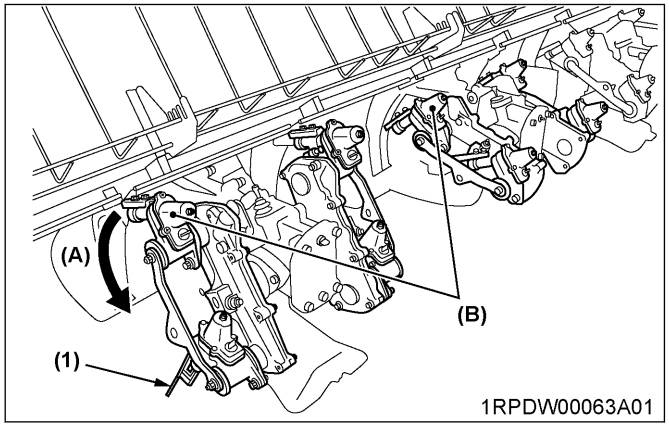
安全クラッチは、植付作業中の植付爪に石などかたい異物がはさまったとき、または整地ロータが泥にもぐりこんだり、異物がはさまってロックしたときに、破損防止のためにはたらく機能です。
植付部からガッガッと高い音がしたときは、作業を速やかに中止し、エンジンを停止してから異物を取除いてください。
整地ロータが泥にもぐりこんだときは、機体を少し後進したあと、植付部を上げてください。

重要：

- **安全クラッチがはたらいている状態を続けると、植付爪や押出し金具が破損したり、安全クラッチの摩耗により安全クラッチがはたらきやすくなり、植付不良が起こりやすくなります。**

補足：

- **安全クラッチがはたらいたとき、他の植付爪と位置ずれを起こすことがあります。位置ずれが起きたときは、植付部を上昇させたあと、油圧ロックレバーで下降防止を行い、必ずエンジンを停止してから異物を取除き、位置ずれを起こした植付爪を手で回して他の植付爪と位置をそろえてください。位置がそろうと手では回らなくなります。**



(1) 植付爪
(A) 回す
(B) 揃っていること

5.1 異物を取除いたあとの処置

異物を取除いたあと植付爪、押出し金具、聖地ロータが破損や変形していないか確認し、異常があれば交換や修理を行ってください。
また、植付爪を手で回したときにしゅう動板に当たったり、重い場合は購入先に連絡してください。
整地ロータに泥が詰まっている場合は水で洗い流すなどして泥を落としてください。

6. 苗の補給のしかた

苗が残り少なくなると苗のせ台のセンサがはたらいて、苗モニタのランプが点灯すると同時に警報ブザーが鳴ります。

補足：

- **警報ブザーは苗を補給しないと 8 回鳴ったあと停止します。また、苗を補給するとランプは消灯し、ブザーは停止します。**

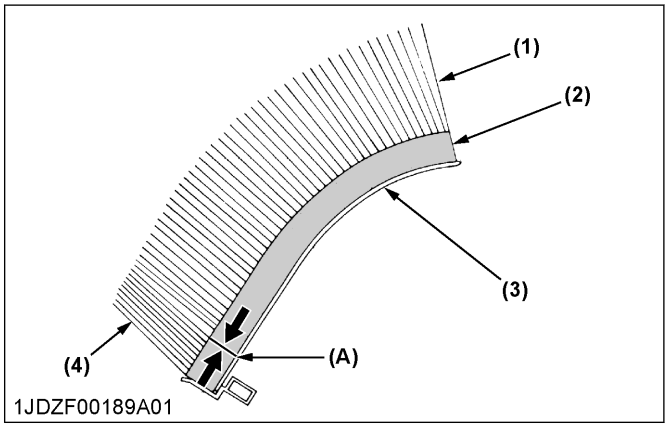
1. 主変速レバーを操作して走行を停止します。

   補足：
   - **苗補給であぜぎわに移動するとき、マフラで苗をこがす場合があるため、苗がない場所に機体を停止してください。**

2. 駐車ブレーキを掛けます。

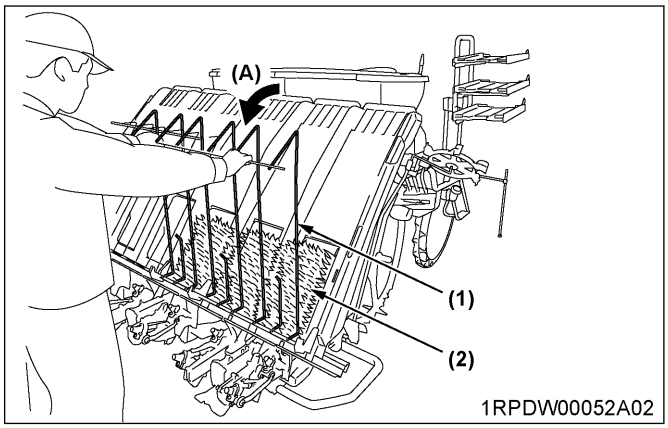
3. 予備苗のせ台の苗や準備した苗を補給します。

補足：
- **苗を補給するときは、苗のせ台に対して苗をまっすぐ向けたまま、苗が崩れないようにていねいに扱ってください。また、補給苗と残り苗の床土にすき間のないようにぴったりと合わせてください。**



(1) 補給苗
(2) 床土
(3) 苗のせ台
(4) 残り苗
(A) ぴったり合わせる

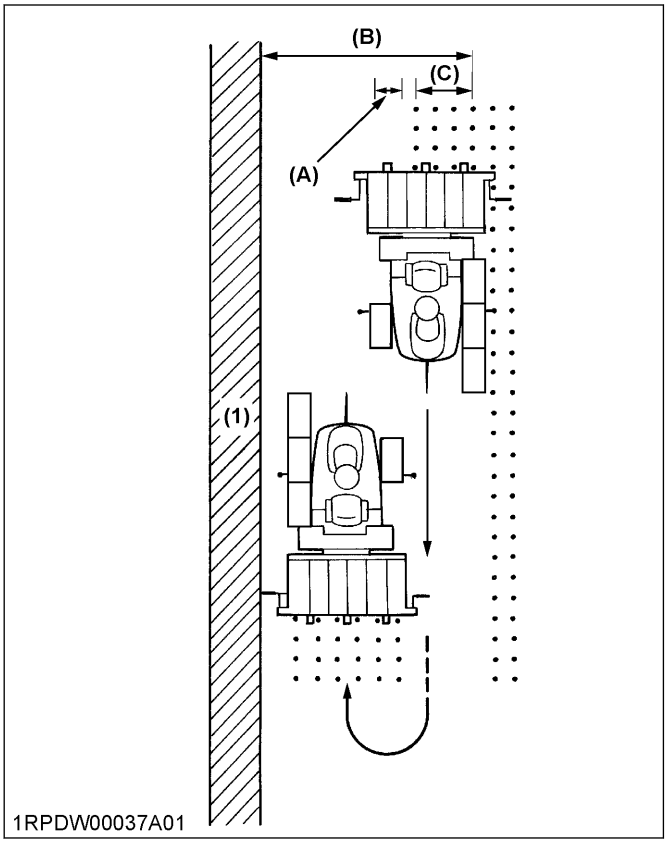
- **とくに密播苗を補給するときは、残り苗が押しつぶされないように、ゆっくりと補給してください。勢いよく補給すると欠株の原因になるおそれがあります。**
- **残った苗を取り出すときは、エンジンを必ず停止して、苗ステーを後方に倒してください。**



(1) 苗ステー
(2) 残り苗
(A) 倒す

7. あぜぎわの植付けかた

植付作業の最終段階で、最終の植付けを全条植えで終わらせるため、あぜぎわの調整の植付けを行ってください。（次の図は 6 条植えでの例）



(1) あぜ
(A) あぜぎわクラッチ **[切]**
(B) *10* 条分残り
(C) *4* 条

1. あぜぎわから 10 条分残ったとき、あぜぎわクラッチレバーで右側 2 条分の植付けを停止し、4 条分植付けをします。

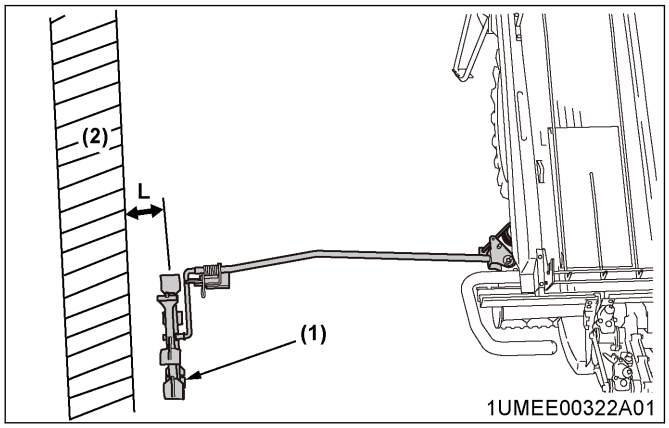
補足：
- **あぜぎわクラッチレバーを操作するときは、主変速レバーを操作して植付速度を遅くしてから行ってください。**

2. 最終はラインマーカを出さずに（収納状態）6 条で植付けます。
3. 植付作業が終わるとあぜぎわクラッチレバーを**[入]**位置にします。

7.1 最終行程の前での植付条数の決めかた

マスコットと隣接マーカで条合わせを行ったあと、ラインマーカを出して植付条数を決めてください。

※あぜぎわ植付寸法が 30 cm の場合の目安



(1) ラインマーカ
(2) あぜ

（6 条植えの場合）

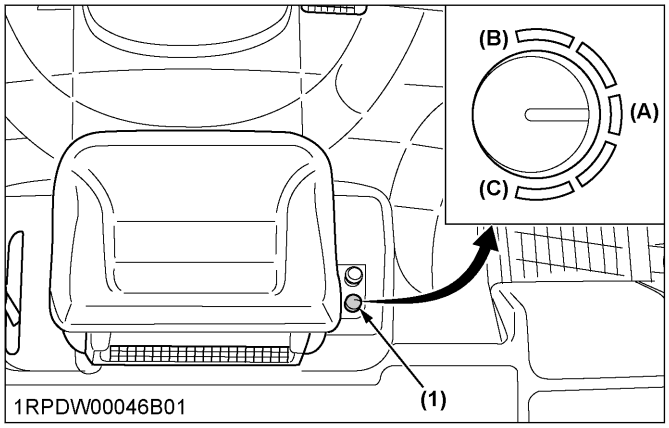
L の距離	前行程 植付条数
約 105 cm	6 条植え
約 45 cm	4 条植え
ラインマーカを出さない	2 条植え

（8 条植えの場合）

L の距離	前行程 植付条数
約 135 cm	8 条植え
約 75 cm	6 条植え
約 15 cm	4 条植え
ラインマーカを出さない	2 条植え

7.2 ロータ深さ調節ダイヤルについて

ロータ深さ調節ダイヤル**[標準]**位置が一般的な作業での基準位置です。
ほ場の軟かさ、土の盛上り具合に応じて**[浅い][深い]**にダイヤルを回して調節を行ってください。



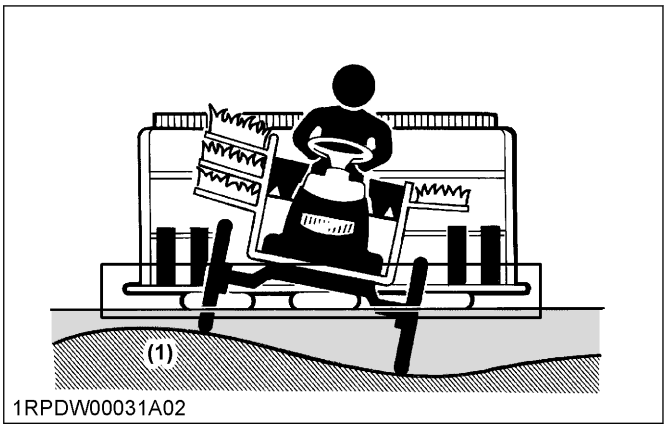
(1) ロータ深さ調節ダイヤル
(A) ***[標準]***
(B) ***[浅い]***
(C) ***[深い]***

補足：
- **出荷時は[標準]の位置です。**

8. モンロー調節ダイヤルについて

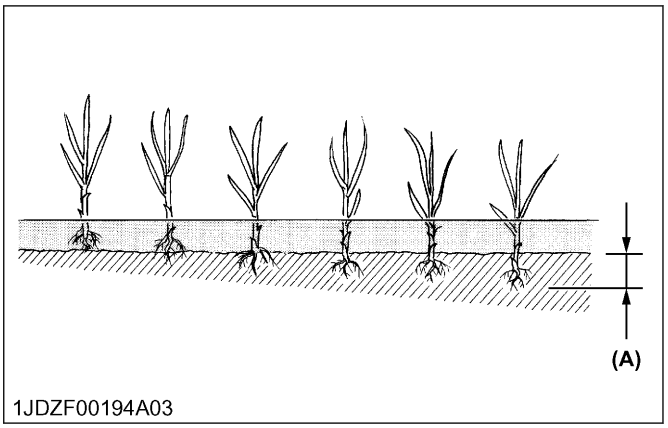
植付作業中に植付部が少し浮き気味になり、植付け状態が左右均等にならない場合は、モンロー調節ダイヤルで調節を行ってください。

補足：
- **出荷時は[水平]の位置です。**
- **あぜぎわなどの傾斜地で、自動車体水平制御（モンロー）がはたらいて、植付け状態が左右均等にならない場合にも、調節ダイヤルで調節を行ってください。**



(1) 耕盤

[例]

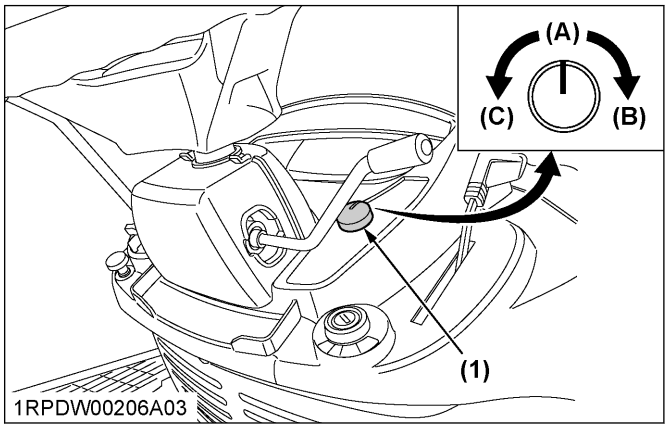


(A) 植付深さ

1. メインパネル右下のモンロー調節ダイヤルを回して植付部の傾きを調節します。

   右に回す
   植付部が右下がりになります。

   左に回す
   植付部が左下がりになります。

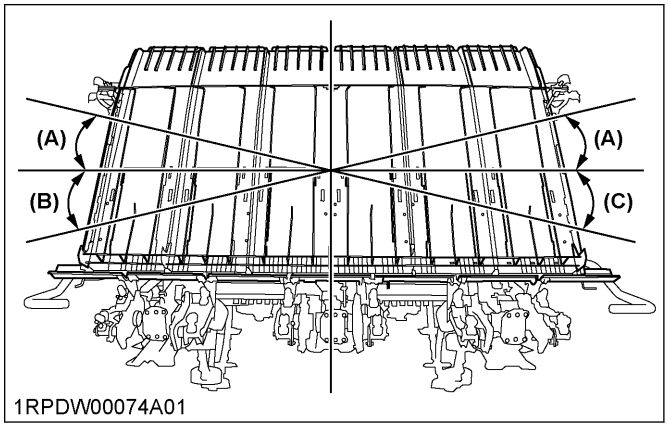


(1) モンロー調節ダイヤル

(A) ***[水平]***
(B) ***[右下]***
(C) ***[左下]***

補足：
- **ダイヤルは、左、右にそれぞれ最大約 150 度回ります。また、植付部は、左、右にそれぞれ最大約 2 度傾きます。**

※イラストは［6 条］



(A) 約 2 度
(B) 左下を押す
(C) 右下を押す

2. あぜぎわの植付作業が終わると、モンロー調節ダイヤルを**[水平]**に戻します。

施肥作業［R 仕様］

1. ほ場と肥料について

ほ場や肥料が施肥作業に適さなければ、苗が正常に発育しないことがありますので、施肥機に合ったほ場条件や肥料を使用してください。

1.1 施肥作業時のほ場条件

施肥作業を行うとき、田植作業のほ場条件と合わせて下記事項を守ってください。

1. 夾雑物（わら、刈株、堆肥、雑草など）は施肥田植え時の障害になるので、耕うん・代かき時に下層部に埋込むようにしてください。

   補足：
   - **耕うん・代かき装置は購入先とご相談のうえ、夾雑物を下層に埋込む働きができる機種を選んで使用してください。**
   - **夾雑物が表層部（地表面～深さ 8 cm 程度の範囲）にあると、溝切板や作溝器に引っかかって、施肥ムラ（生育ムラ）をおこすおそれがあります。**
   - **収穫時コンバインのカッタで、わらを切断散布したときは、その上に石灰窒素を散布して秋のうちによくスキ込んで、腐らせておくようにしてください。**

2. 耕うん・代かき時の化学肥料の基肥散布は、絶対にしないでください。

   補足：
   - **基肥を全層施肥と側条施肥に分施する農法を行う場合には、その指定要領に従ってください。**

3. ほ場の深さは、10 cm～25 cm が適しています。30 cm 以上（補助車輪の場合は 35 cm）の深さでは使用できません。
4. 代かき時の均平度をよくして、地表面からの水深が、なるべく一定になるようにしてください。
   代かき後、田面に凹凸がある場合は凸の部分が水面から露出していると土壌硬度がかたくなるので、じゅうぶん湛水して、地表面の凹凸にかかわらず土の硬さを一定に保つようにし、田植えの直前にじゅうぶん落水するようにしてください。

   補足：
   - **土壌の硬軟差が大きいとふく土性能に影響します。**

5. 作業時の水の深さは、浅水とし 0.5 cm～2 cm 程度が適当です。
   a. 田面の水が皆無（水深 0 cm）の場合には作業が困難ですから必ず走り水をしてください。水が皆無の場合には下記のような現象が起こります。
      - 車輪スリップが増し、株間が狭くなります。
      - 作溝器に泥詰まりを生じ、肥料が詰まって無施肥区ができ、生育ムラの原因となります。
      - 車輪による泥のかき上げやフロートの泥押しを生じます。
   b. 田面の水が多すぎる（水深 2 cm 以上）場合には、作溝器内の上部やホース内に水が侵入し肥料の落下状態が悪くなり、所定の深さに埋設できなくなります。また肥料詰まりや肥料詰まり予知センサの誤作動も発生しやすくなります。
6. ほ場の土の硬さは泥を指でかいてみて跡が少しふさがれる程度が適当です。

a. ほ場の土壌硬度（125 g のサゲフリを地表面上 1 m の高さから落下させて、地表面から土中に入った深さ）は 7 cm～18 cm の範囲内とします。
b. ほ場が軟かすぎるとフロートによる泥押しのため隣接条間の確保が困難になるばかりでなく、植付け姿勢も乱れます。
c. ほ場が硬すぎると車輪のスリップが増し、株間が狭くなるばかりでなく、作溝施肥跡のふく土が不完全となり、肥料溶出のおそれがあります。

補足：
- **特殊な条件のほ場（基盤整備直後の田や湿田など）では、作業に支障をきたすことがありますので、あらかじめ購入先の技術員にご相談ください。**

1.2 肥料について

1. 肥料は市販の粒状肥料の中から施肥作業に適したものを選んでください。

   重要：
   - **施肥作業に適さない肥料を使用した場合は、次記のような不具合が発生することがあります。**
     - **肥料詰まりにより施肥機の故障が発生する。**
     - **繰出精度が不良となり施肥量に誤差が生じる。**
     - **肥料詰まりや施肥ムラが生じる。**
   - **最近、側条施肥田植機専用肥料が市販されていますので、使用をお薦めしますが、中には適さない物も含まれていますので、注意してください。**

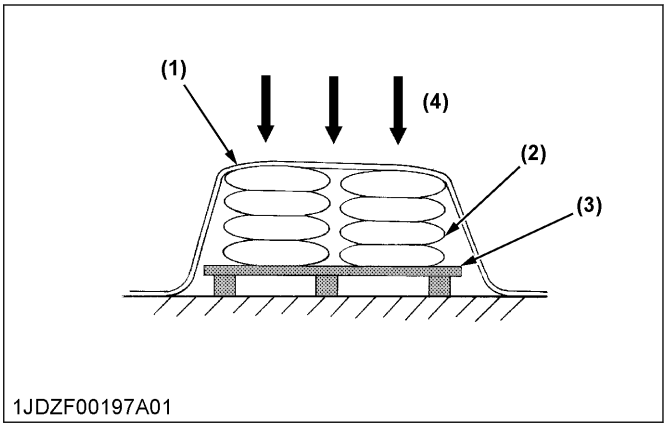
   ※吸湿性について
   吸湿性の少ない肥料を選んでください。

〔参考〕

吸湿性の少ない	吸湿性の多い
• 硫安系化成 • 硫化燐安系高度化成 • 塩化燐安系高度化成 • IB 化成	• 尿素系高度普通化成 • 硝安系高度普通化成 • CDU 化成

2. 肥料は開封していない、新しい物を使用してください。
3. 湿気を帯びた肥料や長期保存していた肥料は、使用を避けてください。

   補足：
   - **雨天時、肥料や肥料袋がぬれないように台の上に肥料を置き、上からシートを掛けてください。**



(1) シート
(2) 肥料
(3) 台
(4) 雨

4. 光を通し易い透明な肥料（硫安単肥など）は、残量センサが誤作動しますので、使用を避けてください。
5. ホッパに肥料を補給するときは、ふるい網を通してください。

1.2.1 一発肥料使用時の注意

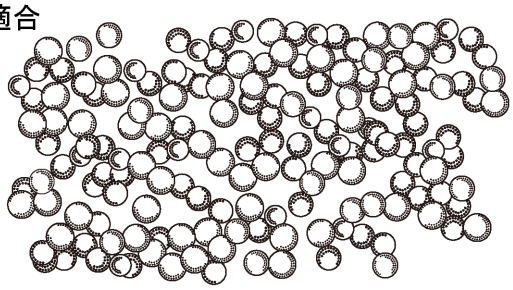
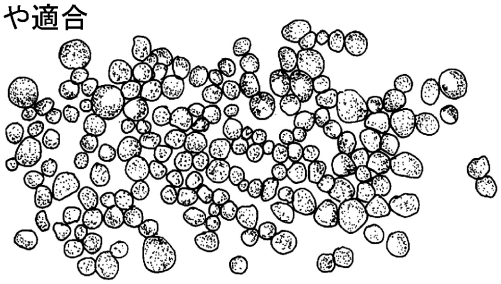
一発肥料をご使用の際は、以下の項目をご確認のうえ、あらかじめ農業改良普所などの農業指導機関と良くご相談し、適切な施肥設計に基づいた肥培管理を行ってください。

重要：

- **以下のような肥料は、肥料詰まりの原因となるため使用しないでください。**
  - **湿気を帯びた肥料や粉の出やすい肥料**
  - **砕けにくくかたい粒と砕けやすくやわらかい粒がブレンドされた肥料**
  - **粒の形状が不揃いな肥料や手でつまんだときに砕けやすい肥料**

補足：

- **施肥作業を行うときは、毎回計量を行って計量値を確認してください。（92 ページ参照）施肥量が調節されずに目標値からずれが発生する場合があります。**
- **被覆肥料の溶出は施肥後の気温変化によって大きく左右されます。また、品種、土壌の影響も受けることがあります。たとえば、平年より暑い日が続くと早く溶出が終了するため、過繁茂になったり、肥料切れによって予期せぬ追肥が必要になったりすることがあります。**
- **同じ銘柄の肥料でも年ごとに特性が変化する場合があります。作業前に必ず以下の表を参照して肥料の特性の確認や計量を行ってください。**

使用可否の目安	粒の特性				
	硬さ	大きさ	形状	ばらつき	見本（実物大）
○ 適合	硬い *1	2 ～ 4 mm	円形	少ない	○適合 
					△やや適合 
× 不適合	軟らかい *2	2 mm 以下	角形	多い	× 不適合 

1UMEE00514A01

1 保湿性が低く、べとべとしない。
2 保湿性が高く、べとべとする。

2. 施肥作業前の準備

警告
- **平たんな場所で行ってください。**

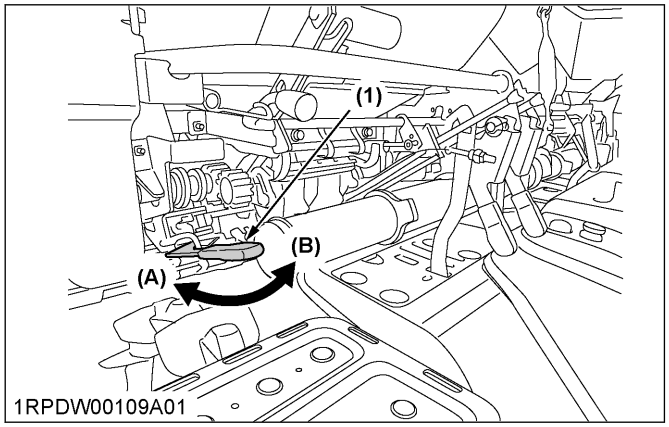
1. 各部の点検を行い、汚れや詰まりがあるときは、掃除を行います。（詳細は各部の掃除と注油のしかた（103 ページ）を参照）
   また、破損や摩耗があるときは、交換を行ってください。（詳細は定期点検一覧表（115 ページ）を参照）

   重要：
   - **雨天時に作業を行ったあと長時間放置すると肥料が固着し、翌日以降の施肥作業に異常が発生（施肥がされないなど）するおそれがあります。**

   補足：
   - **ロールやブラシを取り外して掃除やブラシの点検などを行ったときは、エアもれが発生しないように正しく取り付けてください。（ロールとブラシの脱着［R 仕様］（100 ページ）参照）**

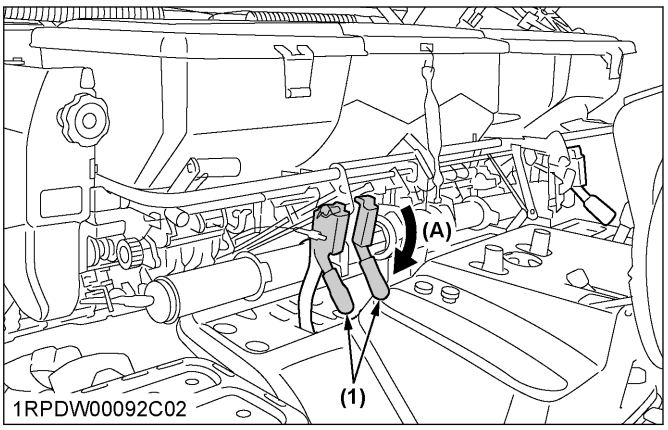
2. 次記項目に異常がないか点検・確認し、異常があれば正しく取り付けて各部を作業状態にします。

   補足：
   - **各部品はエアもれが発生しないように正しく取り付けてください。**
     a. 全条停止レバーが［全条繰出］側になっているか確認します。



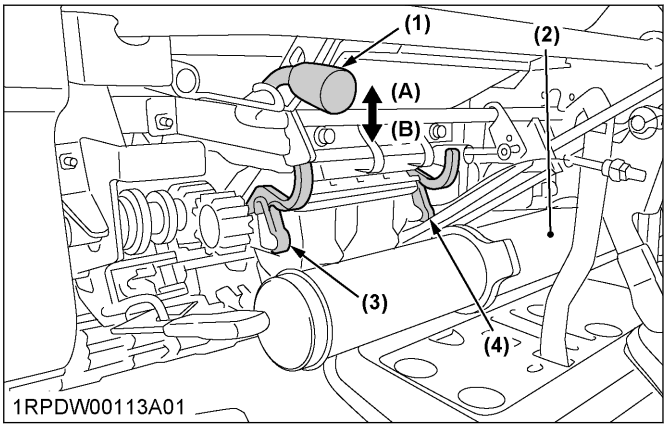
(1) 施肥全条停止レバー　　*(A)* **［全条繰出］**位置
(B) **［全条停止］**位置

b. 各あぜぎわクラッチレバーが[入]状態になっているか全条確認します。



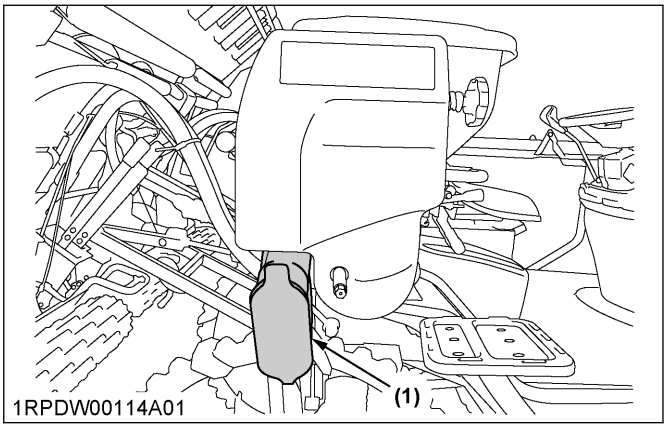
(1) あぜぎわクラッチレバー　　*(A)* 入

c. 残肥排出レバーが[施肥]位置、左、右のロートロックレバーが[ロック]位置にあることを確認します。



(1) 施肥排出レバー　　*(A)* ［施肥］位置
(2) ゴムダクト　　*(B)* ［排出］位置
(3) ロートロックレバー右
(4) ロートロックレバー左

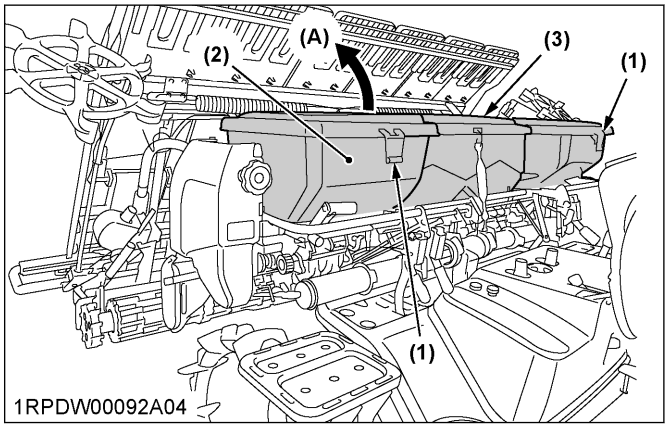
d. 各ホースや各ダクト、残肥排出ブーツが正しく接続されているか確認します。
e. 残肥排出ダクトのふたが閉じているか確認します。



(1) 残肥排出ダクト

3. 施肥量を決めて、繰出量を調節します。（施肥量の調節［R 仕様］（92 ページ）参照）

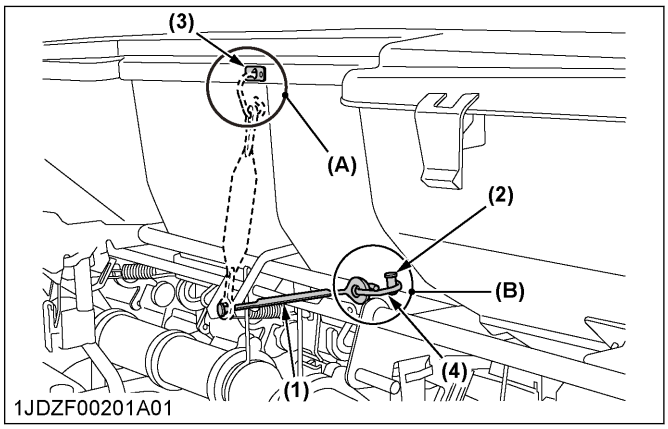
4. ゴムバンドを取り外したあと，左，右２箇所のフックを外し，ホッパのふたを開いて肥料を入れます。



(1) フック
(2) ホッパ
(3) ふた
(A) 開ける

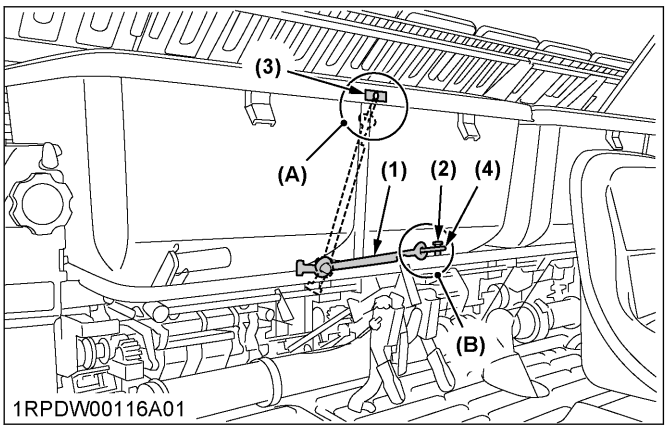
補足：
- **ゴムバンドを取り外したあと，収納位置のピンに金具を引っ掛けてください。**

［6 条］



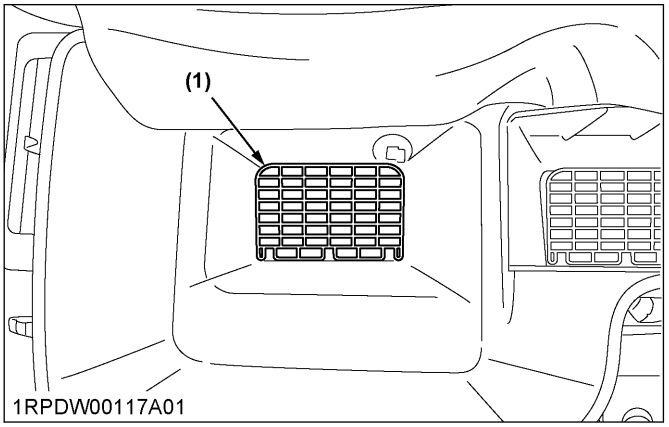
(1) ゴムバンド
(2) ピン
(3) フック部
(4) 金具
(A) 金具をフック部から外す
(B) 金具をピンに引っ掛ける

［8 条］



(1) ゴムバンド
(2) ピン
(3) フック部
(4) 金具
(A) 金具をフック部から外す
(B) 金具をピンに引っ掛ける

重要：
- **フックを片方だけ外して無理に開けると、もう片方のフック部やふたが破損することがあります。**
- **ホッパ内には肥料以外のものは入れないでください。また、ホッパ、カバー（ホッパ）の上に強いカをかけないでください。破損の原因になります。**
- **ネットを取り外した状態では肥料を入れないでください。肥料のかたまりがロール溝に入り、詰まりの原因になります。**



(1) ネット

- **肥料が原因で目詰まりを起こし、成育ムラが生じないようにするため次記の事項に注意してください。**
  - **ネットに残った大きな肥料は取除く。**
  - **ホッパ内に雨水や掃除時に水が入らないようにする。**
  - **連日の作業を行うときでも必ず肥料を排出する。**
  - **一晩置いて露が発生したときは、ホッパ内、ネット、ロール部の露を拭取る。**
  - **開封後しばらくして湿気を吸った肥料で、固まったものは使用しない。**
  - **運搬時にホッパ内の肥料は空にする。**

（振動により目詰まりが発生することがあるため）
- **ロール溝に肥料粉が付着しているときは、必ず掃除してください。**

補足：
- **重さ（kg）は肥料の種類によって異なる場合がありますが、ホッパ容量（L）は以下の通りです。**

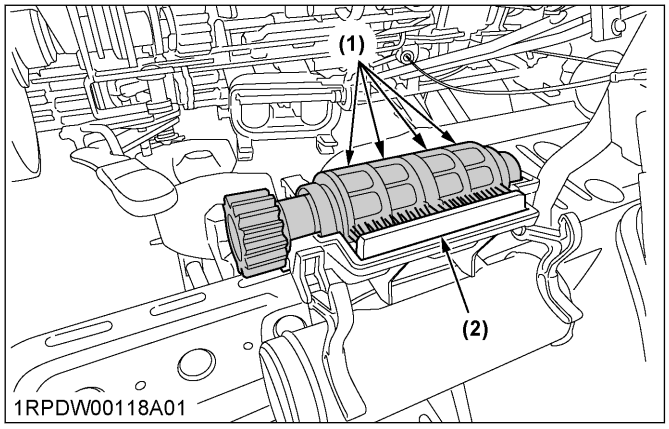
［6 条］
66 L（約 60 kg）

［8 条］
131 L（約 120 kg）

5. エンジンを始動し、ブロワ、各ダクト、各ホースの接続部からエアもれしていないか確認する。

補足：
- **エアもれしていると、詰まりの原因にもなります。**

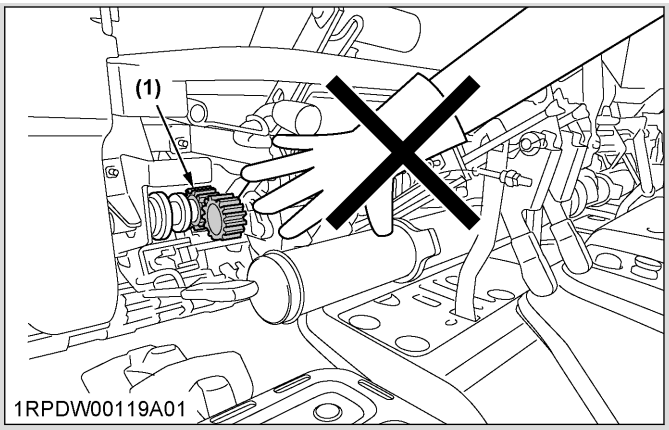
6. ロール溝、ロート内部に肥料が付着していないか確認してください。



(1) ロール溝
(2) ロート

3. 施肥作業のしかた

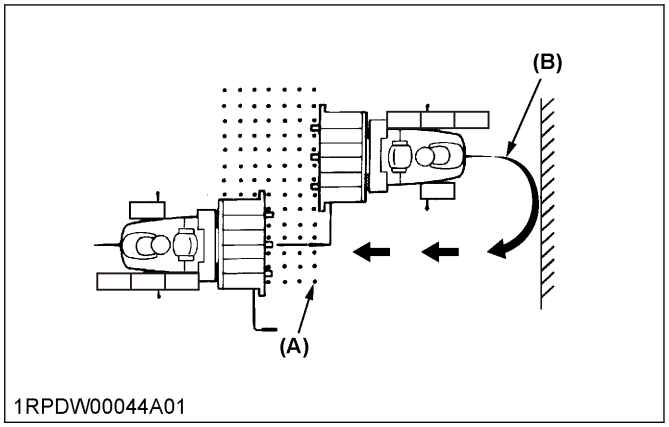
⚠ 警告
- **施肥作業中は回転駆動部に触れないように注意してください。**
- **施肥機が破損するおそれがあるため、肥料や苗の補給作業中に施肥機にもたれるなどして体重を掛けないでください。施肥機が破損するとケガをするおそれがあります。**



(1) 回転駆動部

施肥ムラ（成育ムラ）の防止
施肥ムラがあると、苗の成長異常となりますので下記事項に注意してください。
1. 植付始めは**低速**で行ってください。

重要：
- **施肥始めは、植付始めより、少し遅れる傾向となります。**
- **高速で植付を始めると施肥遅れが顕著になり施肥ムラが発生します。**
- **主変速の 2、3 速（2、3 ノッチ）くらいで、植付を始めたほうが施肥効果が安定します。**



(A) 植付始めは低速で
(B) 旋回はゆっくりと

2. 必ず**減速**してから停止してください。急停止すると多肥になる場合があります。
3. 植付速度は一定の速さで、まっすぐ行ってください。施肥ムラやふく土異常の原因となります。
4. 枕地の植付や変形田での植付け時、交差植えや無植箇所を少なくしてください。多肥になったり、肥料がムダになる場合があります。
5. 肥料切れのセンサが点灯したら早目に肥料を補給してください。
6. 肥料は側条施肥専用のものを使用してください。吸湿性の多い肥料、やわらかい肥料、不揃いの肥料は使用しないでください。詰まりの原因となります。

7. 田面に水気が無くかたくなっている場合は、ふく土がされにくいので、田植作業に適したほ場条件で作業を行ってください。

施肥作業中の確認
作業中のふく土状態やホッパ内の肥料の減り具合がいつもと比べて異常がないか確認し、処置をします。（80 ページ参照）

重要：
- **植付部を降ろした状態で旋回すると作溝器の破損の原因となったり、詰まりの原因となります。**
- **ほ場に植付部を下げたまま放置しないでください。湿気により詰まりの原因になります。**

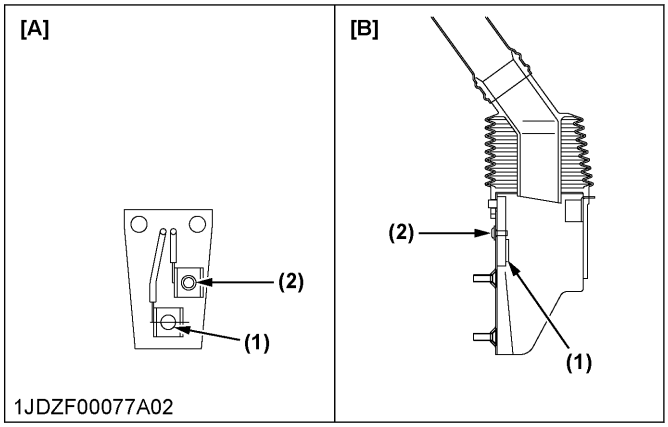
補足：
- **蛇行運転をすると、ふく土が正しくされないことがあります。**
- **ほ場では植付部を下げた状態で長時間放置しないでください。肥料が湿気を帯びると肥料詰まりの原因となります。**

肥料の補給のしかた
肥料が少なくなると肥料切れのセンサがはたらいて、施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。その場合は、早目に肥料を補給してください。

補足：
- **警報ブザーは断続で 8 回鳴ったあと停止し、肥料を補給するとランプは消灯します。**
- **肥料を補給するときは苗の補給と同じ要領で停止し、なるべく枕地で行ってください。**

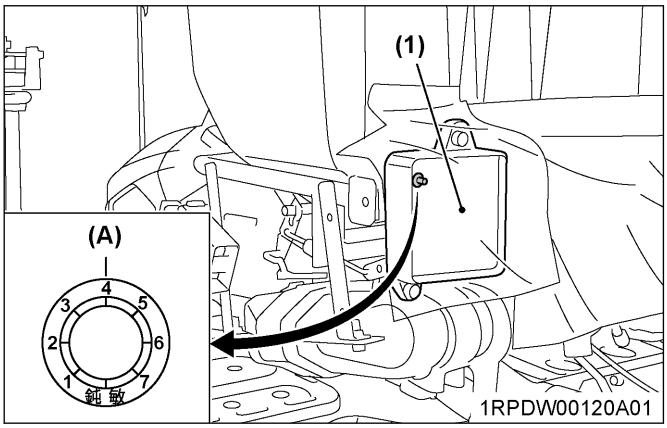
肥料詰まりの予知センサについて
肥料詰まり予知センサは、作溝器内に泥水や小粒肥料、肥料粉などの異物が付着して発生する肥料詰まりを予知するセンサです。センサがはたらくと、施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。
その場合は、作溝器内の異物を取除き、全条の作溝器の点検と掃除を行ってください。

肥料詰まり予知センサ



(1) （＋）電極　［*A*］正面
(2) （－）電極　［*B*］側面

補足：
- **深水ほ場で、苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、詰まっていないのに警報がでる場合、点検して、詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを[鈍]側（鈍感）の方向に調節して作業を続けてください。**



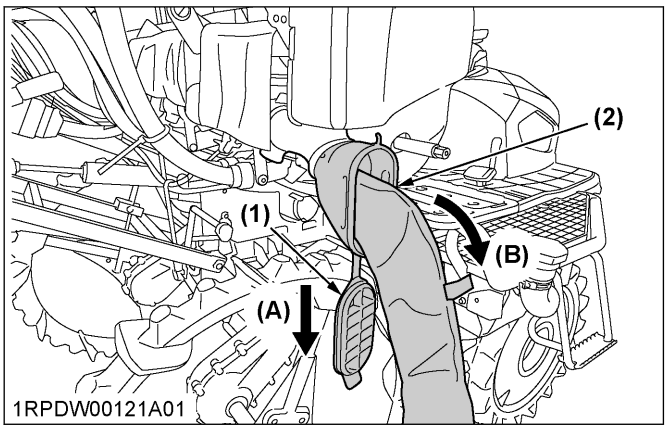
(1) コントローラ　*(A)* 標準

- **乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。時々、作溝器内を点検してください。**
- **作溝器内の後側（センサと反対側）に肥料が付着しても警報が出ない場合があります。**
- **ほ場の水位が高いほど予知センサがはたらきやすくなりますので注意してください。**

4. ホッパ内の肥料の排出のしかた

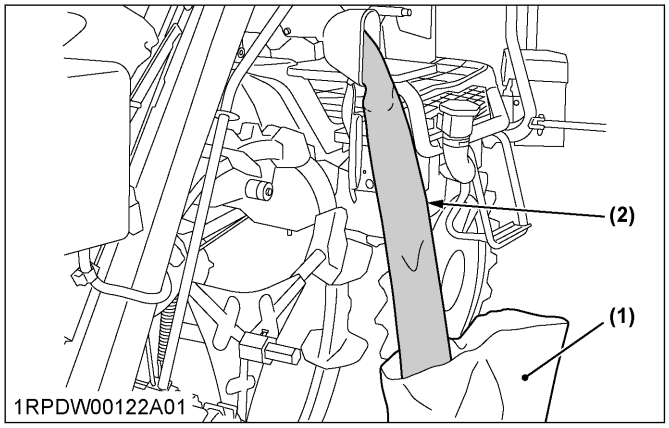
重要：
- **平たんな場所でエンジンを必ず停止して準備をしてください。**

1. エンジンを停止します。
2. 残肥排出ダクトのふたを外し、排出網を取り出します。



(1) ふた　*(A)* 外す
(2) 排出網　*(B)* 取り出す

3. 残肥排出ダクト下方に肥料受け（空の肥料袋など）を準備し、排出網を入れます。

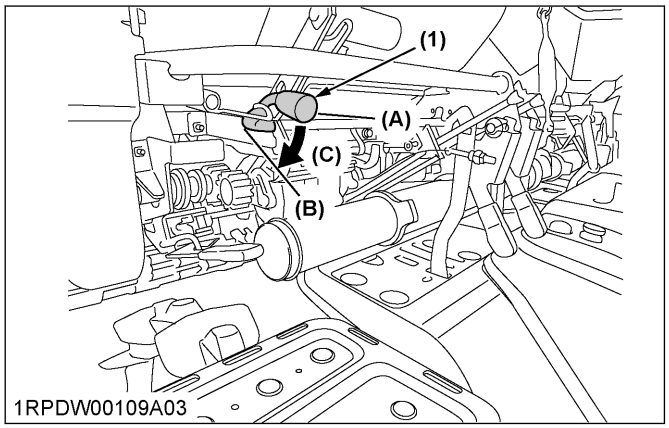


(1) 肥料受け（空袋）
(2) 排出網

4. エンジンを始動して、十字ポンパレバーで植付部を少し下げると、施肥ブロワが始動します。

補足：
- **肥料受け（空の肥料袋など）は残量が入る大きさのものを選んでください。**
- **排出網までいっぱいになると、排出ができなくなります。肥料受けが一杯になる前に、残肥排出レバーをいったん[施肥]位置に戻し、排出網に残っている肥料を取り除いてください。新しい肥料受けに入れ替えて排出作業を行ってください。**
- **洗車後などでブロワ内に水がたまっていることがありますので注意してください。**

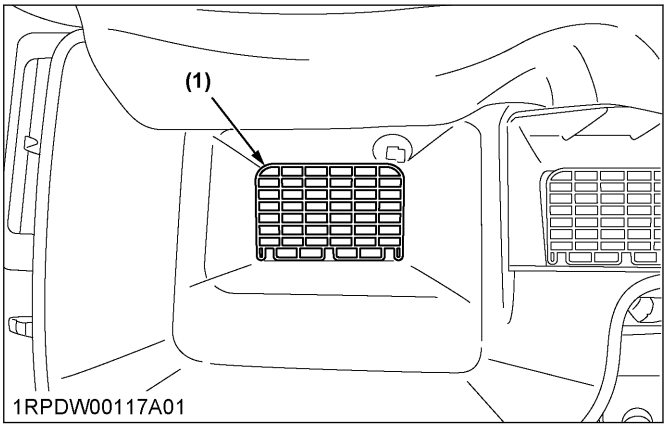
5. 残肥排出レバーを下方に倒す（**[排出]**位置）と同時に肥料が排出されます。



(1) 残肥排出レバー
(A) ***[施肥]***
(B) ***[排出]***
(C) 引く

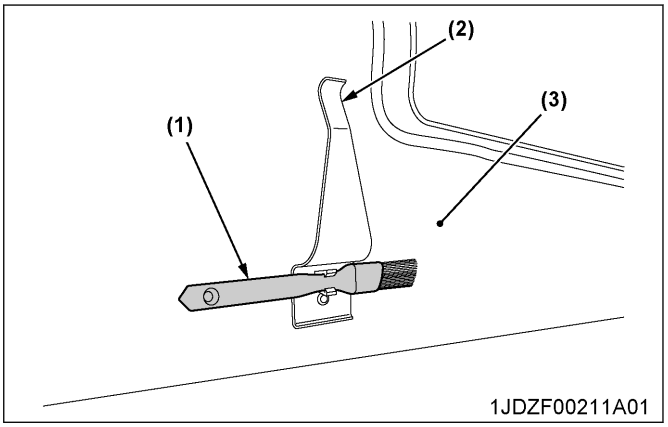
補足：
- **一度排出ダクト内で肥料が滞留すると、肥料の流れが悪くなります。**

6. 排出が終わるとホッパを開き、ネットの上に肥料や異物が残っている場合は取除きます。それから、ネットを取り外して、付属の掃除ブラシで、ホッパ、ロールケース内の掃除をします。



(1) ネット

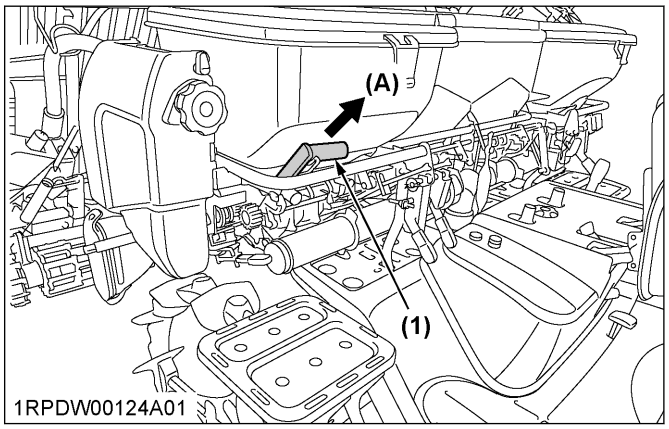
補足：
- **掃除ブラシは出荷時、ホッパのふたの裏側に取り付けています。なくさないように収納してください。**



(1) 掃除ブラシ
(2) 空の肥料袋おさえ
(3) ふた

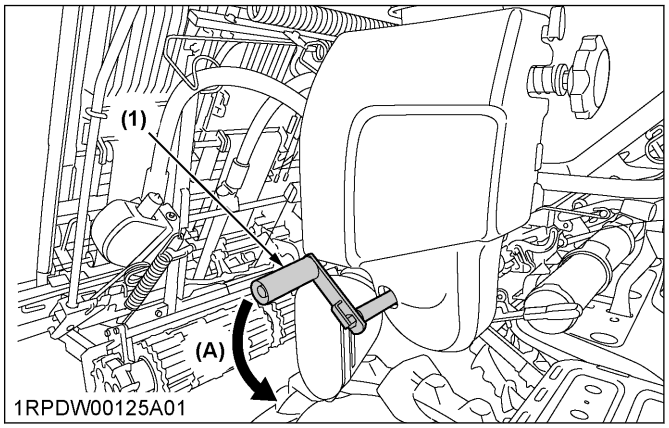
7. ネットを取り付けたあと、ホッパを閉じて残肥排出レバーを**[施肥]**位置にします。
8. 排出網を折り畳み、残肥排出口に収納して、ふたを閉じます。

9. ロール溝にに残った肥料を排出します。（施肥量の調節［R 仕様］（92 ページ）を参照）ロール溝に残った肥料を排出します。
（A）ホッパ右側に収納されているハンドルを外し、駆動軸の六角部に合わせます。



(1) ハンドル　　*(A)* 外す

（B）ハンドルを左回転方向に回転させて、ロール溝に残った肥料を排出します。



(1) ハンドル　　*(A)* 回す

重要：
- **肥料にはさびを発生させる成分が含まれているため、1 日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行ってください。特にエア抜き、植付フレーム、および植付ケース各周辺（各部の掃除（103 ページ）参照）は必ず行ってください。**

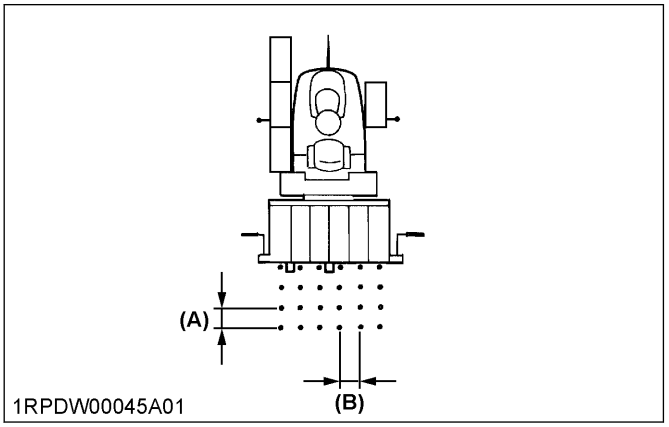
補足：
- **ロール溝内に肥料が残っていると湿気などで固まり、目詰まりの原因となります。**
- **ロール溝内やブラシの毛の中に肥料や肥料粉が残ったまま作業を続けると、施肥量が変化するなどの異常が発生するおそれがあります。**

作業に合わせた各部の調節・調整のしかた

警告
- **平たんな場所で行なってください。**

1. 植付株数の調節

植付株数は、株間調節レバーを切り替えて行ってください。調節は 5 段階行えます。植付株数は、株間が狭くなると多くなり、株間が広くなると少なくなります。

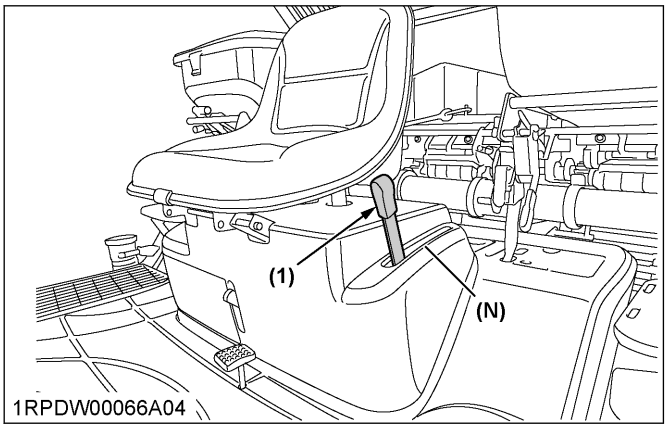


(A) 株間
(B) 機械条間：*30 cm*

1. 植付作業中のときは、植付けを停止したあと、走行を停止します。

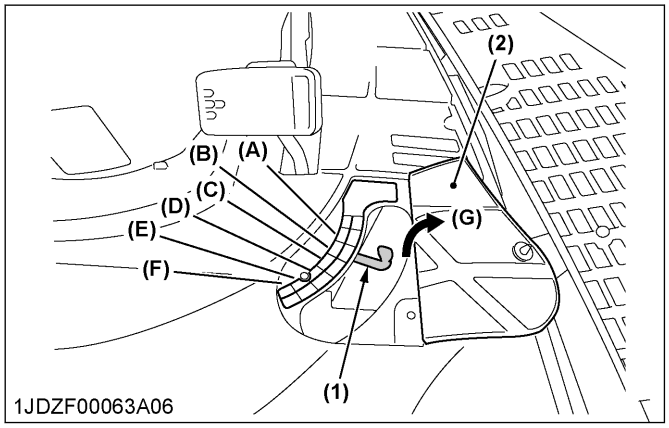
   重要：
   - **植付部が駆動しているときに株間を調節すると、機械が損傷するおそれがあります。**

2. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
3. 副変速レバーを**[N]**（中立）位置にしたあと、エンジンを停止します。



(1) 副変速レバー　　*(N)* 中立

4. ステップ右側にあるゴムカバーをめくり、株間調節レバーを切り替えて調節します。

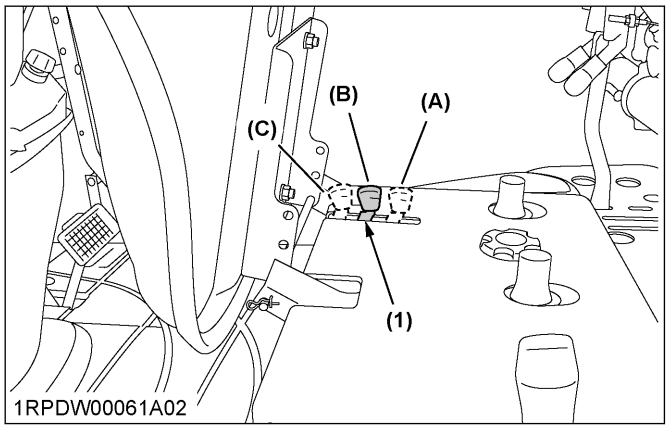


(1) 株間調節レバー　　*(G)* めくる
(2) ゴムカバー

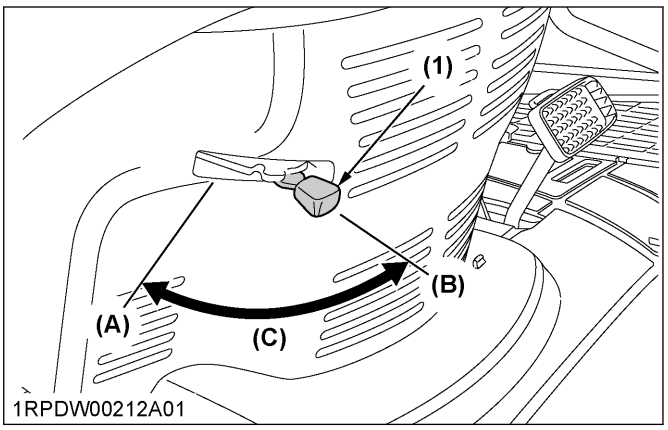
レバー位置	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)
株間(cm)	14	16	18	21	24	30

補足：
- **出荷時は、[16 cm・70 株]位置です。**

5. 株間を 24 cm 以上にするときは、運転席下側前方にある株間副変速レバーを**[疎植]**側に切り替えます。それからハンドル左下側にある車速切替レバーも、**[疎植]**側に切り替えてから、植付作業を行います。



(1) 株間副変速レバー
(A) ***[標準]****14 cm、16 cm、18 cm、21 cm*
(B) ***[疎植]****24 cm*
(C) ***[疎植]****30 cm*



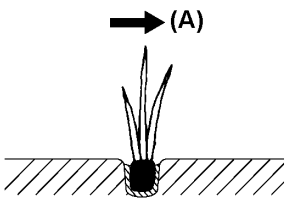
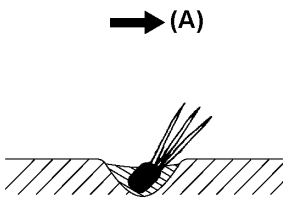
(1) 車速切替レバー
(A) ***[標準]***
(B) ***[疎植]***
(C) 切り替える

補足：
- **14 cm～21 cm に株間調節レバーを戻す場合は、株間副変速レバーと車速切替レバーを[標準]に戻してください。**
- **レバーが切替わりにくいときは、エンジンを始動させたあと、いったん主変速レバーを[前進]側に操作し、再度[N]（中立）位置に戻してからエンジンを停止してください。**

6. 調節が終わるとゴムカバーを閉じます。
7. 植付作業と植付後の確認を行って、異常がなければ作業を続けます。

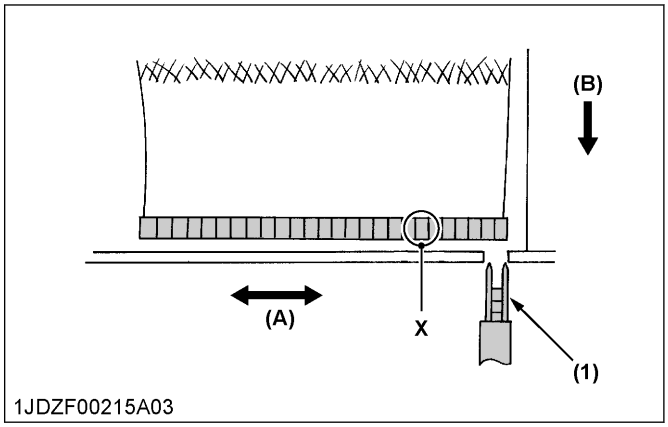
補足：
- **21 cm の株間で植付作業を行うとき、ほ場条件や苗の条件などにより高速で植付作業を行うと株間が狭くなったり、植付姿勢が乱れる場合があります。そのような場合は、植付速度を遅くしてください。**
- **株間副変速レバーと車速切替レバーを正しくセットしなかった場合や設定した株間、ほ場条件などにより植付けた苗の植付状態（植付姿勢）の乱れや欠株が発生したり、植付作業時に異音が発生する原因となります。**

植付状態（植付姿勢）の判断事例

植付状態が良い状態	植付状態が悪い状態
爪跡が小さくて、苗の倒れが少ない  1UMEE00200B01 *(A)* 進行方向	爪跡が大きくて、苗の倒れが大きい  1UMEE00200C01 *(A)* 進行方向

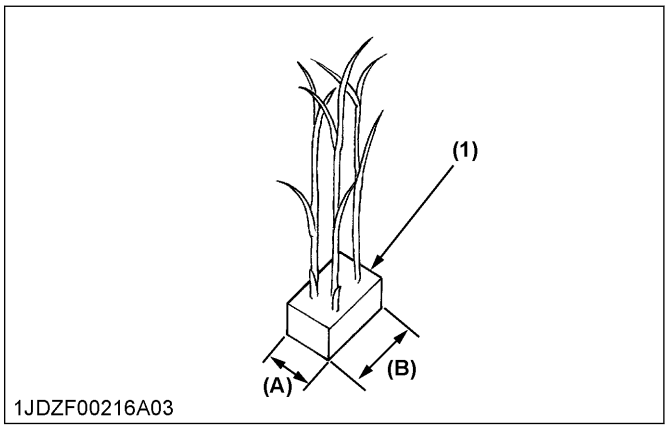
2. 苗取量（1 株本数）の調節

植付爪が取り出す 1 株あたりの本数を、横送り切替レバー（苗取量）と苗取量調節レバー（縦取り量）で調節を行ってください。



(1) 植付爪
(A) 横送り
(B) 縦送り

X 部拡大図



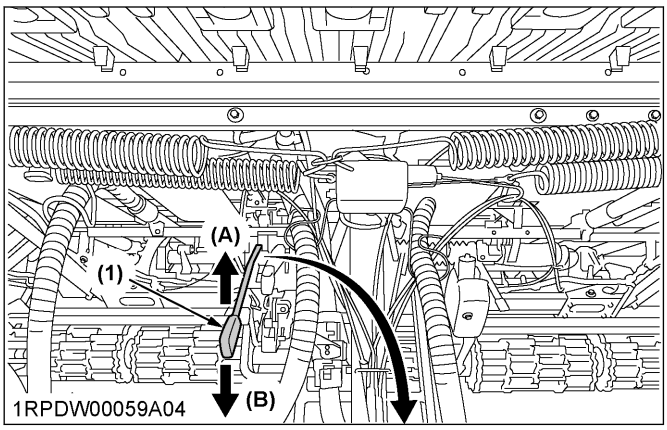
(1) *1* 株
(A) 横（*18 mm・14 mm・11 mm*）
(B) 縦（*8 mm～18 mm*）

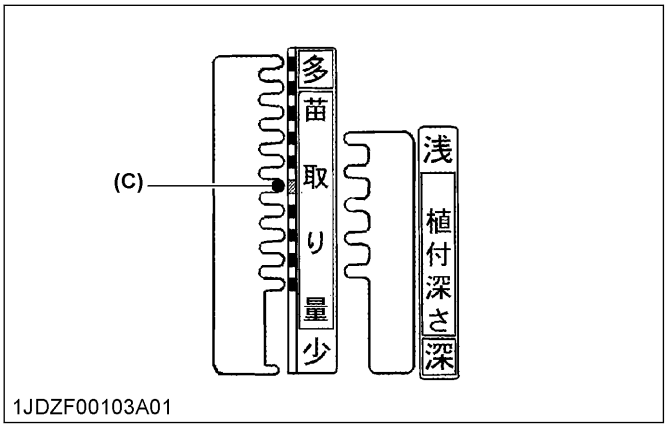
補足：

- **1 株あたりの本数は条件によって異なりますが、3 本～5 本が標準です。**

2.1 苗取量調節レバーの調節

苗や苗床によってレバー調節してください。調節は 8 mm～18 mm まで 10 段階行えます。





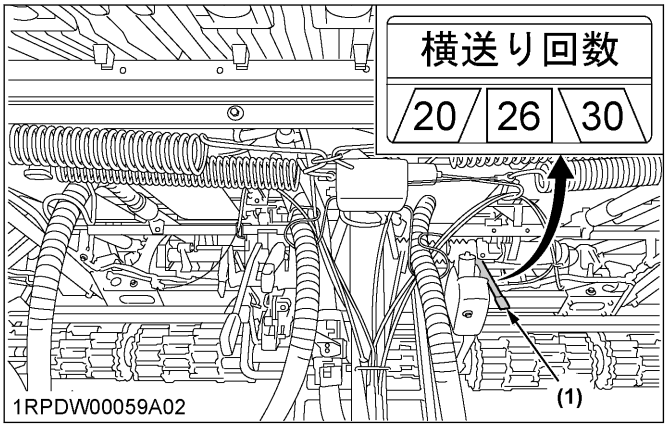
(1) 苗取量調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない
(C) 標準

補足：

- **横送り量と合わせて 1 株本数を、レバーで調節します。レバーは切欠溝に確実にセットしたあと植付作業を行ってください。**

2.2 横送り切替レバーの調節

横送り回数は苗の成長状態によって切り替えてください。調節は 3 段階行えます。



(1) 横送り切替レバー

20 回	○	○	×
26 回	○	○	○
30 回	×	○	○
苗の種類	成苗	中苗	稚苗
			

- 1 株の本数については、本数を増やすときは 20 回、減らすときは 30 回を使用してください。
- 現地の農業基準に従って調整してください。

補足：

- **横送り量は、20 回で 14 mm、26 回で 11 mm、30 回で 9 mm です。**

1. 主変速レバーを**[N]**（中立）位置にします。
2. 苗の状態に合わせて、横送り切替レバーを切り替えます。
3. エンジンを始動または、主変速レバーをゆっくり操作し、植付爪が 2 回転～3 回転回ったことを確認して植付作業を行ってください。

2.3 植付株数と苗の使用量について

10 アール（a）あたりの苗の使用量は、栽植密度（植付株数）と 1 株あたりの苗取量によって決まります。次の表を参照して、苗箱（箱）の使用量の目安にしてください。

苗箱（箱）使用量の目安表

横送り回数	苗の種類	苗取量レバー位置	3.3 m^2 当り株数（株）					
			37	45	50	60	70	80
20	成苗/中苗	3 段目	15 箱	19 箱	22 箱	26 箱	30 箱	33 箱
26	成苗/中苗/稚苗	標準	10 箱	12 箱	14 箱	16 箱	18 箱	21 箱
30	中苗/稚苗	標準	8 箱	10 箱	11 箱	14 箱	16 箱	18 箱

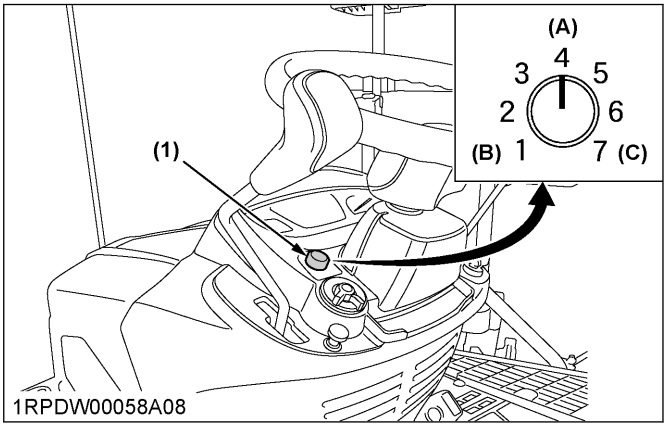
- 苗取量調節レバー位置は、上（**[多]**）から数えた位置

補足：

- **苗取量（縦取り量）レバーを 1 段変更すると、苗箱は 6 %～8 %増減します。**
- **前表はあくまで目安ですから苗箱は多めに準備してください。**

3. フィットセンサダイヤルの調節

植付部の下側にあるフロートが、植付速度に応じて植付深さを一定に保つため、高速作業時にフロートの浮上りによる浅植えのないように制御していますが、ほ場の状態により、泥を押したり、凹凸がじゅうぶん整地されないときは、ダイヤルでフロートの感度調節を行ってください。調節は 7 段階行えます。



(1) フィットセンサダイヤル　*(A)* ***[標準]*** *(B)* ***[軟]*** *(C)* ***[硬]***

設定位置

ほ場状態を確認しながら、レバーで次表を目安に感度調節を行ってください。

ほ場状態		設定位置
やわらかい ⬆	• トロトロした状態で、泥押しをする。	1～3
標準	• 整地も良く、泥押しが少ない。	4
⬇ かたい	• かたくて整地が悪い。	5・6
	• 凹凸が激しく、荒れている。（車輪跡や足跡が残る。）	7

補足：

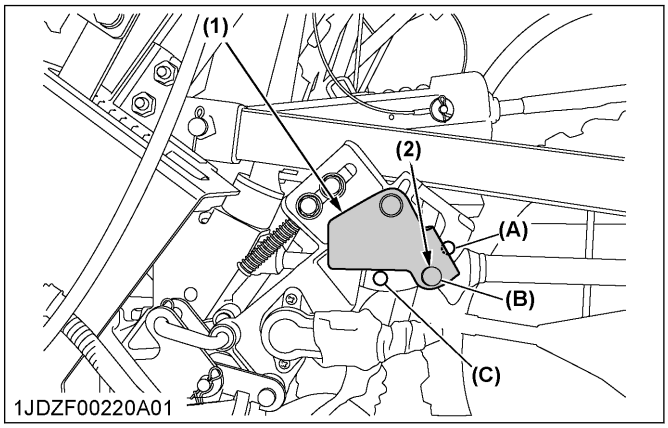
- **調節を行ったときは、植付深さの調節も同時に行ってください。**

3.1 フロート荷重の調節

フィットセンサダイヤルを［1］に設定しても、フロートの沈下が大きく泥押しをする軟いほ場の場合は、フロート荷重調節レバーを**[弱]**の位置に変更してください。また、より強くフロートで整地を行いたい場合や、水深が約 3 cm 以上で植付けが不安定な場合は、**[強]**（深水）の位置に変更してください。

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させます。

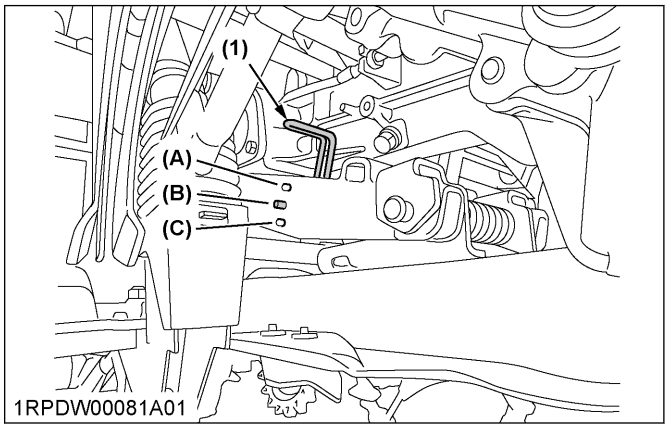
2. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、下降防止をしたあと、エンジンを停止します。
3. フロート荷重調節レバーのレバーピンを引いてロックを解除し、**[弱]**または**[強]**（深水）位置へセットします。また、フロート荷重調節レバーがきちんとロックされていることを確認してください。



(1) フロート荷重調節レバー
(2) レバーピン
(A) ***[強]***（深水）
(B) ***[標準]***
(C) ***[弱]***

補足：
- **出荷時は[標準]位置です。**

4. 軟弱ほ場や深水田でサイドフロート部の整地や植付けがうまくいかないときは、フロート角度規制のバネフックで調節します。

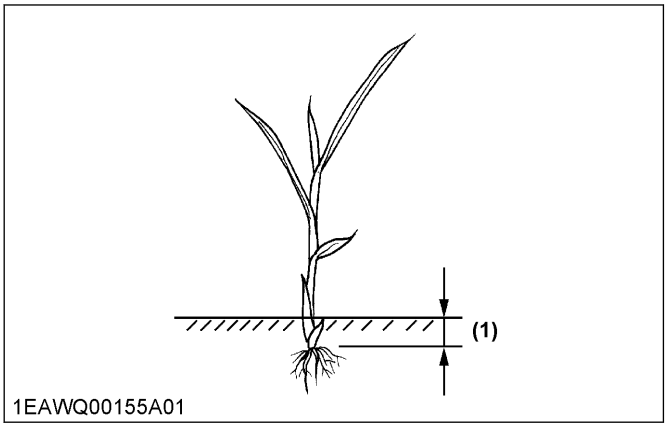


(1) バネフック
(A) ***[強]***（深水）
(B) ***[標準]***
(C) ***[弱]***

補足：
- **フロート角度規制は３段階に調節できます。バネフックを抜き、上にセットすると[強]（深水）位置になり、下にセットすると[弱]位置になります。**
- **［6 条］フロート角度規制は 2 箇所あります。**
  ［8 条］フロート角度規制は 4 箇所あります。
- **出荷時は[標準]位置（中央のフック穴）です。**

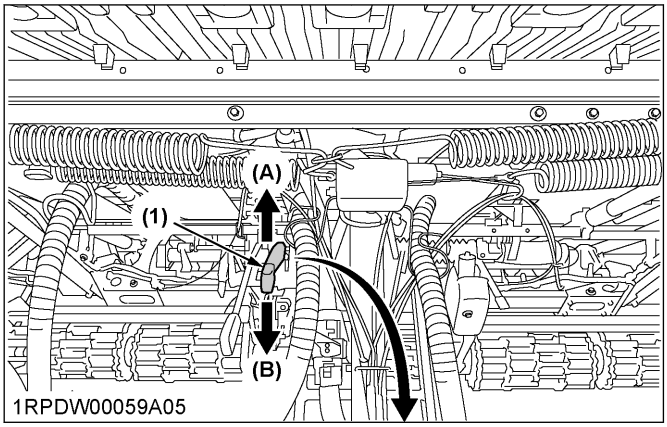
4. 植付深さの調節

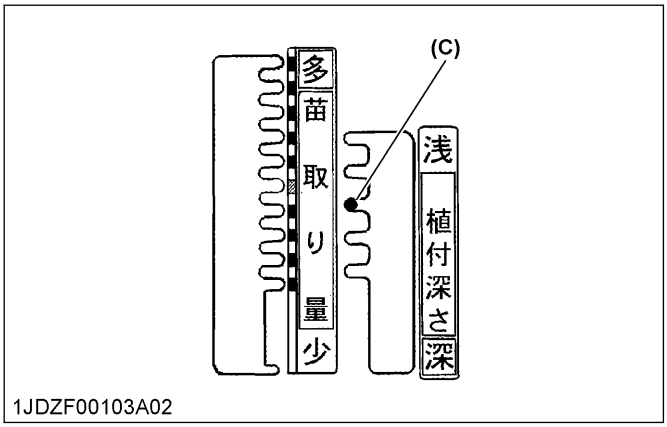
ほ場や苗の条件に合わせて、苗の植付深さの調節をレバーで行ってください。調節は 2 cm～5.3 cm まで 5 段階行えます。



(1) 植付深さ

補足：
- **植付深さは 2 cm～3 cm が適正です。**





(1) 植付深さ調節レバー
(A) 浅い
(B) 深い
(C) 標準

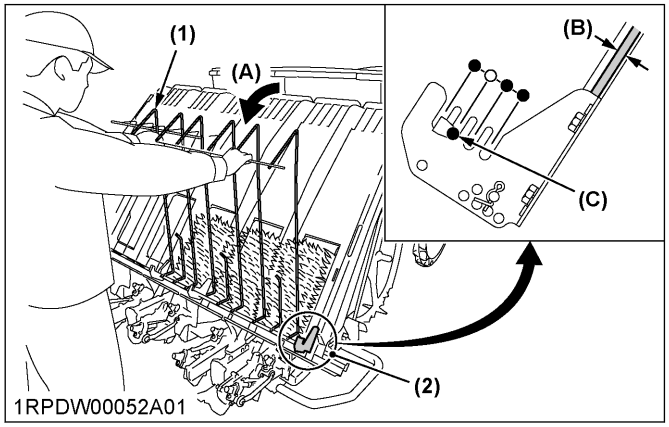
1. 植付部を上昇します。
2. 植付深さ調節レバーで調節し、切欠溝に確実にセットします。
3. 植付部を降ろして植付作業を行ってください。

5. 苗ステー・苗押さえ棒の調節

苗のせ台に苗をのせたときに苗ステーとのすき間が大きかったり、苗床の状態が悪くて（薄くて軟弱な苗や根張りの悪い苗など）くずれ落ちによる欠株が発生したり、苗が前・後に倒れるときは、調節を行なってください。

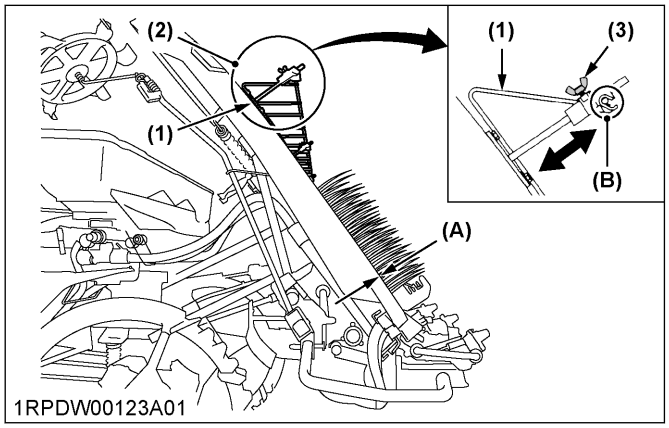
5.1 苗ステーの調節

1. 植付部を下降したあと、エンジンを停止します。
2. 苗ステーの上側を横にずらして引張り、上側のラックの取付部から外します。
3. 苗床とのすき間が 1 cm～2 cm になる位置に下側のラック位置の変更をします。
4. 苗ステーを上側のラックの取付位置に戻します。



(1) 苗ステー
(2) ラック下
(A) 引く
(B) すき間：*1 cm～2 cm*
(C) 出荷位置

5. 上側のラックの左、右両端にある蝶ボルトをゆるめて、苗床と苗ステーのすき間を均等に調節します。

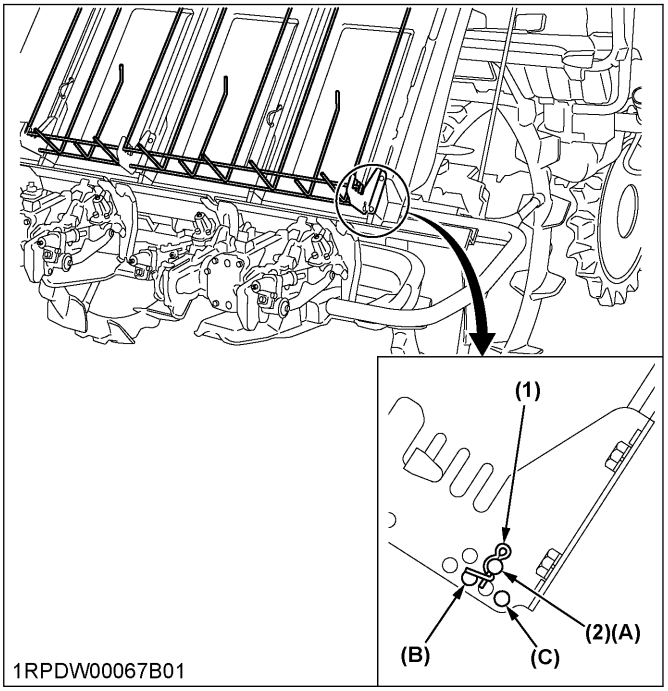


(1) 苗ステー
(2) ラック上
(3) 蝶ボルト
(A) すき間：*1 cm～2 cm*
(B) 取付位置

6. 蝶ボルトを締付けます。

5.2 苗押さえ棒の調節

1. 植付部を下降したあと、エンジンを停止します。
2. スナップピンを取り外したあと、ロッドを抜取ります。
3. 穴の位置を変更してロッドを差込んだあと、スナップピンを取り付けます。



(1) スナップピン
(2) ロッド
(A) 取付穴［*A*］（標準）位置
(B) 取付穴［*B*］位置
(C) 取付穴［*C*］位置

苗押さえ棒の調節位置

現象	取付穴位置
• 苗が短い。 • 植付けたとき、苗が後に倒れる。 • 苗床が軟弱で、植付けるとバラケやすい。	［A］（標準）➡［C］ または、 ［B］➡［A］（標準）
• 苗が長い。 • 植付けたとき、苗が前に倒れる。 • 苗が押さえ棒に引掛かり、しゅう動板まで降りてこない。	［A］（標準）➡［B］ または、 ［C］➡［A］（標準）

補足：
- **植付後の苗が前傾になる場合があります。異常ではありませんが、気になる場合は苗の傾き調節を行ってください。（詳細は浮苗が出る・植付けが悪い（145 ページ）を参照）**

6. 整地板の調節

補足：
- **整地板はオプション部品です。整地板の取付けを行ったとき、必要に応じて調節を行ってください。**

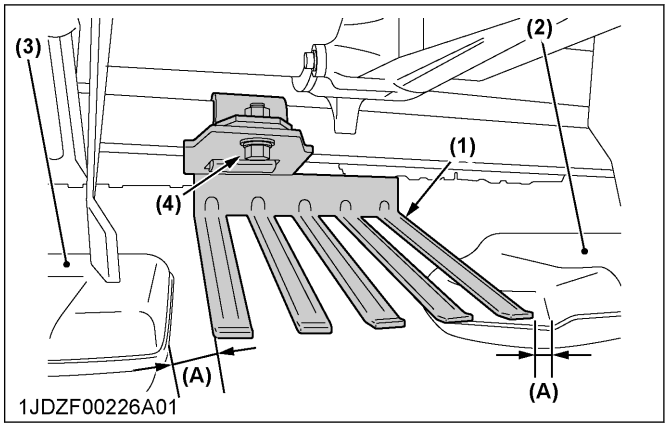
植付深さレバーの設定位置（**[深]**植え⟷**[浅]**植え）や、ほ場状態に合わせて、整地板の高さを調節してください。

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させます。

2. 油圧ロックレバーを[閉]位置にし、下降防止をしたあと、エンジンを停止します。
3. 整地板を植付部に取り付けているボルトをゆるめます。
4. 整地板を上下方向に調節します。
5. ボルトを締付けます。
6. 同じ要領でもう片方も同じ高さに調節します。

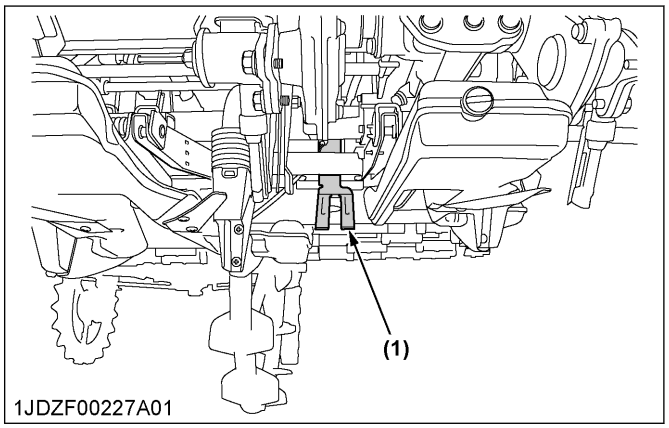
補足：
- **左、右で高さが異なると整地が正しく行えないことがあります。**

[6 条]［8 条]
整地板はセンタフロートとサイドフロートの中央にセットします。

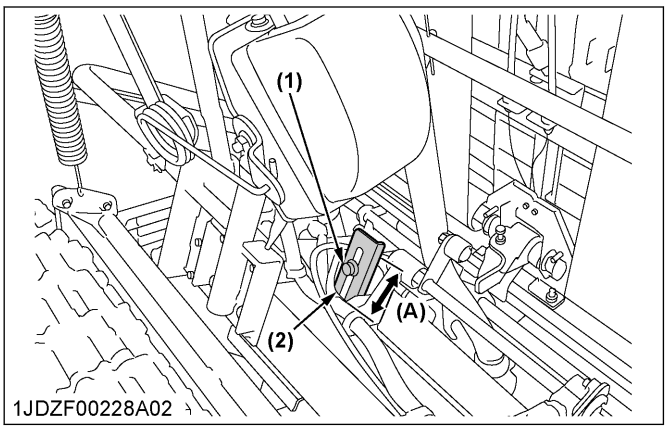


(1) 整地板
(2) センタフロート
(3) サイドフロート
(4) ボルト
(A) 同じ長さに調節

[8 条]



(1) 整地板

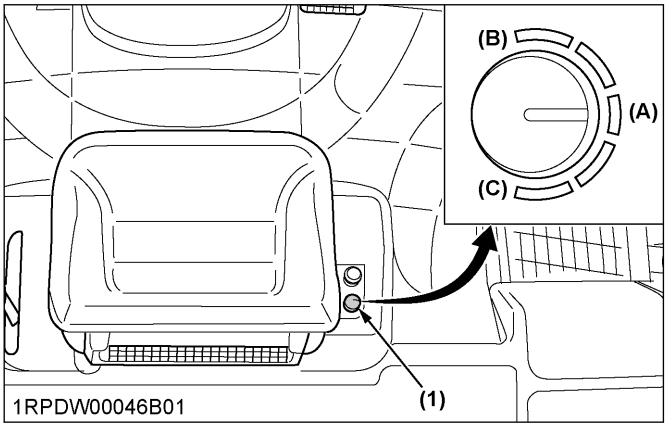


(1) ボルト
(2) 長穴
(A) 調節範囲

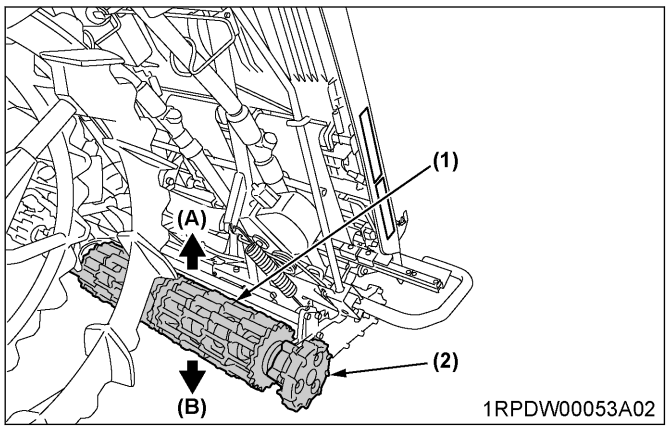
補足：
- **ほ場の状況に応じて、付属部品の延長ロータを取り付けてください。ただし、以下のほ場状況では使用しないでください。また、組み付けているときは取り外してください。**
  - **あぜまたは、壁面に当たる。**
  - **隣接苗に泥をかぶせる。**
- **トロトロほ場などで車輪跡が残りにくい場合は、ロータを浅い方向に調節してください。**
- **外側補助車輪（全型式）を装着する場合は、専用の整地板（オプション部品）も装着してください。調節のしかたについては、付属の要領書に基づいて行ってください。**

7. 整地ロータの調節

一般的なほ場ではロータ深さ調節ダイヤルは**[標準]**位置に合わせますが、ほ場条件や作業状態により、整地ロータが泥押ししたり、整地が悪い場合はロータ深さ調節ダイヤルで調節を行ってください。



(1) ロータ深さ調節ダイヤル
(A) ***[標準]***
(B) ***[浅い]***
(C) ***[深い]***



(1) 整地ロータ
(2) 延長ロータ
(A) 上がる***[浅い]***
(B) 下がる***[深い]***

ロータ深さ調節ダイヤル調節位置

整地状態	調節位置
• 整地ロータが泥押しをする。	ラベル表示の**[浅い]**に回して調節
• 表土の整地が悪い（馴らし状態が悪い）	ラベル表示の**[深い]**に回して調節

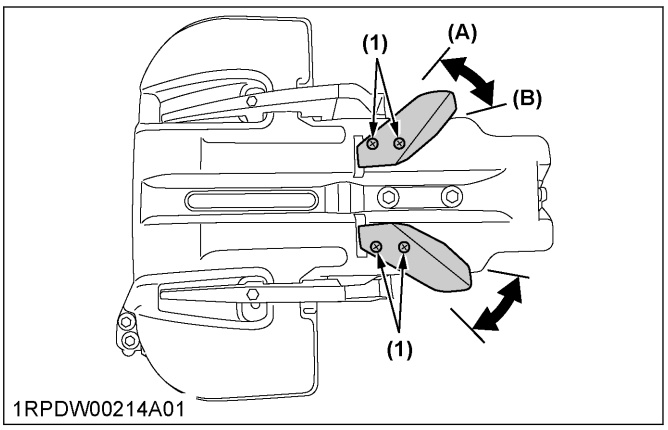
補足：

- **フィットセンサダイヤルを調節すると、整地ロータの高さが変わるときがあります。これはフィットセンサダイヤル設定によって、整地ロータの沈み量が変化することを抑制する制御が入っているためです。**
- **ロータ深さ調節ダイヤルの調節範囲は、[浅い]2 段～[深い]2 段（5 段階）です。（詳細はロータ深さ調節ダイヤル（37 ページ）参照）**
- **延長ロータは、ほ場の状況（夾雑物が多い、隣接苗に泥をかぶせるなど）に応じて取り外してください。**
- **トロトロほ場などで車輪跡が残りにくい場合は、ロータを[浅い]方向に調節してください。**

8. ふく土板の調節［R 仕様］

各フロート下面にあるふく土板をほ場状態に合わせて調節を行ってください。

1. エンジンを始動したあと、植付部を上昇させます。
2. 油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、下降防止をしたあと、エンジンを停止します。
3. トロトロした状態のほ場で隣接の苗を倒すときは、ネジをゆるめて内側にせまくします。また、標準またはかたいほ場は外側に広げます。



(1) ネジ
(A) 標準または、かたいほ場
(B) トロトロ状態のほ場

補足：

- **調節は全箇所共同じ角度になるようにしてください。**

4. ネジを締付けます。

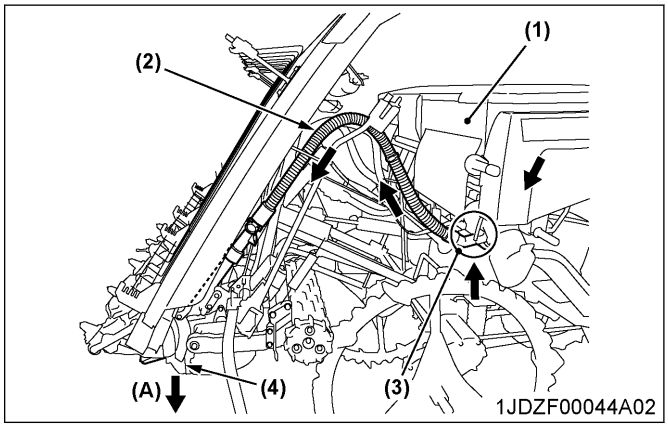
9. 施肥量の調節［R 仕様］

使用する肥料により施肥（繰出）量が異なることがありますので、肥料を入れる前によく確認してから調節を行ってください。

9.1 肥料の流れ

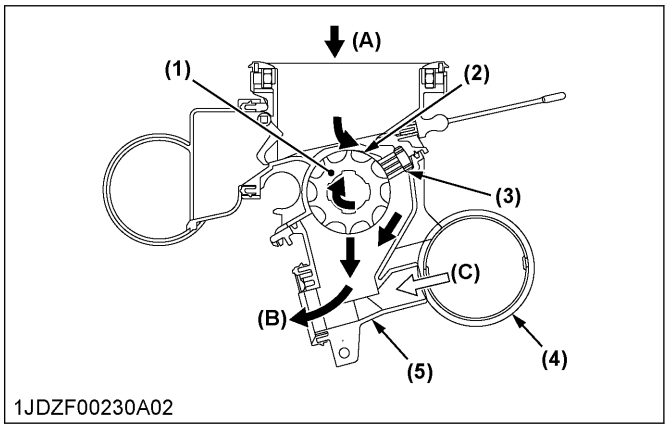
1. ホッパ内の肥料がロールケース内に入ってきます。
2. ロールケース内のロールの溝に肥料が入ります。
3. ロールが回転し、肥料が落ちます。

4. ブロワからの送風により、ロートからホースを通り作溝器から排出されます。



(1) ホッパ
(2) 施肥ホース
(3) ロールケース
(4) 作溝器
(A) 排出

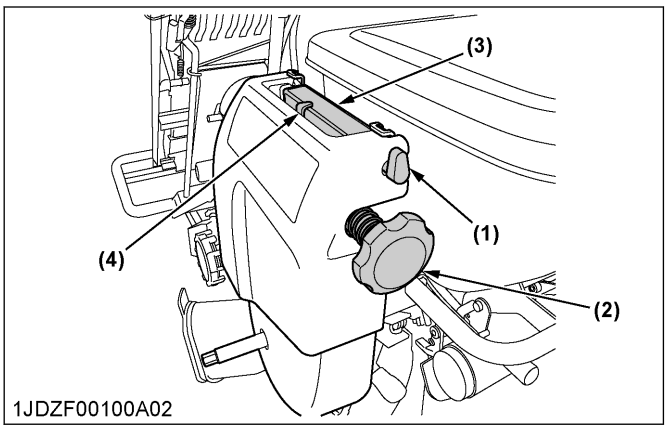
ロールケース内



(1) ロール
(2) ロール溝
(3) ブラシ
(4) ダクト
(5) ロート
(A) ホッパ側（肥料）
(B) 施肥ホース側
(C) 送風

9.2 施肥量の調整のしかた

本機で調節できる施肥量（肥料の繰出し量）は、10～80 kg/10a です。比重調整ノブで肥料の種類に適した調量目安表を選択します。その目安に対し目標の施肥量になるよう、施肥量調量ノブで設定します。



(1) 比重調整ノブ
(2) 施肥量調整ノブ
(3) 目安表
(4) 施肥量の設定を示す針

1. 平たんな場所に機械を止めてエンジンを停止します。
2. 施肥量（10 a 当りに播く量）を決めます。

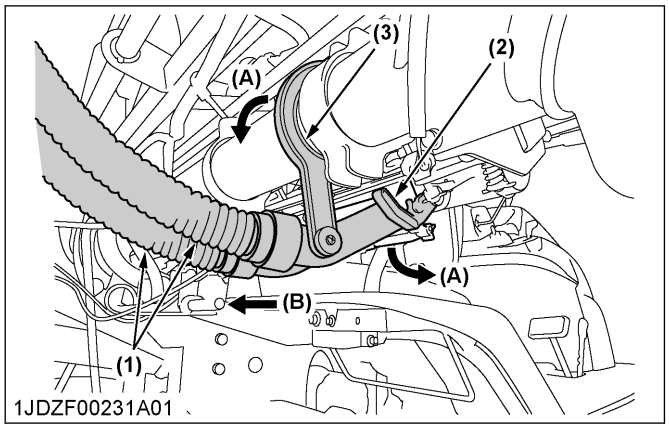
補足：

- **［例］春風肥料 S273 の場合**
  チッソ成分 12 %（成分 12-17-13）のとき、チッソ成分で 3.0 kg/10a 施肥すると計算では、3.0 (kg/10a)÷12 (%)×100 = 25 (kg/10a)となり、施肥量（製品重さ）は 10a 当り 25 kg となります。

3. 施肥量の繰出しテストを行い、肥料の比重の区分を確認します。
(1) 繰出しテストを行う条のホッパ内に肥料を入れるまたは、繰出しテストを行う条以外のあぜぎわクラッチレバーを**[切]**位置にします。

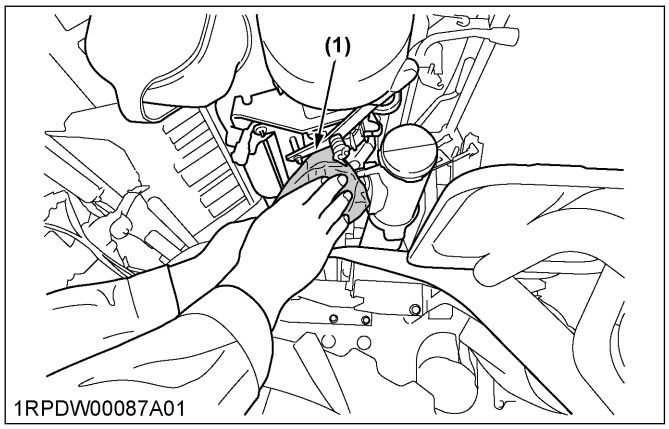
重要：
- **繰出しテストを行うときは、繰出しテストを行う条以外のホッパ内に肥料を入れないでください。他の条に肥料が入っている状態で繰出しテストを行うと、繰出しテストを行う条以外のロールが破損するおそれがあります。**

(2) 施肥ホースの固定レバーとフックのロックを解除して本機から施肥ホースを外します。



(1) 施肥ホース　　*(A)* 解除
(2) 固定レバー　　*(B)* 外す
(3) フック

(3) 袋を手で持ち、繰出す肥料を受けられるようにロールケースの出口に添えます。

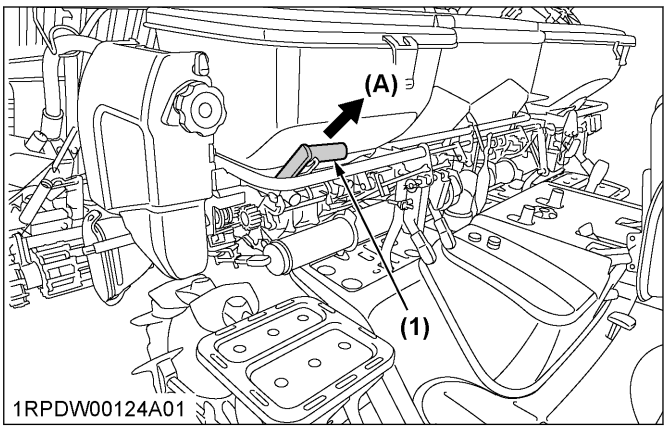


(1) 袋

(4) ロート上部のホッパに肥料を入れます。

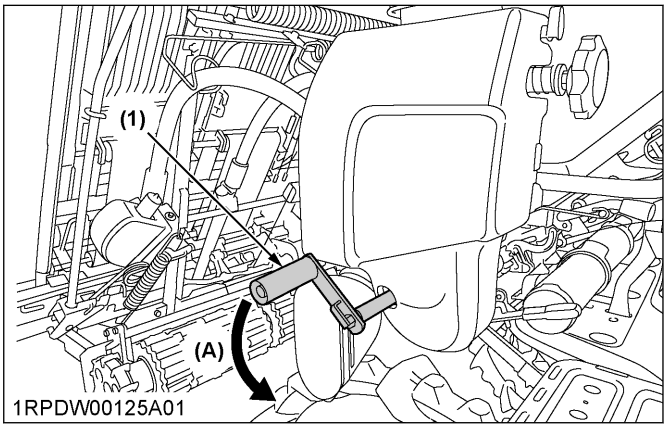
補足：
- **ホースやダクトが正しく組み付けられているか確認してください。**

(5) ホッパ右側に収納されているハンドルを外し、駆動軸の六角部に合わせます。



(1) ハンドル　　*(A)* 外す

(6) ハンドルを左回転方向に 10 回転させて、袋に 2 条分の肥料を繰出します。このとき、目安として 8～10 秒間でハンドルを 10 回転させます。



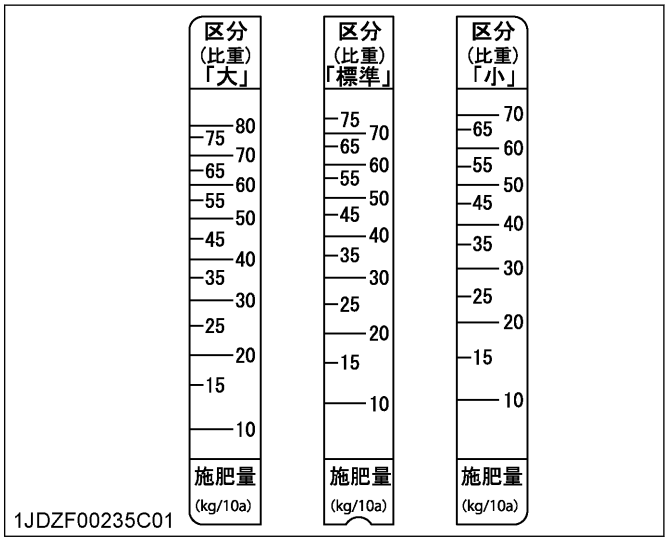
(1) ハンドル　　*(A)* 回す

(7) 繰出した肥料の質量を測定し、測定した重量から容器の質量を差引くと、2 条分の繰出した肥料の質量となります。
(8) この 10 回転繰出し量（2 条分）の計測結果と、本機のラベルにある次頁の表を比較し、比重の区分を判別します。
(9) 同じ要領で他の条も繰出しテストを行います。

肥料の比重区分表

10 回転繰出し量（g）（2 条分）	～359	360～420	421～
使用目盛り	区分（比重）小	区分（比重）標準	区分（比重）大

4. 比重調整ノブで、適合する比重区分の目安ラベルを選択します。



5. 施肥量調量ノブで目安表に対して、目標の施肥量位置に針がくるよう調節します。

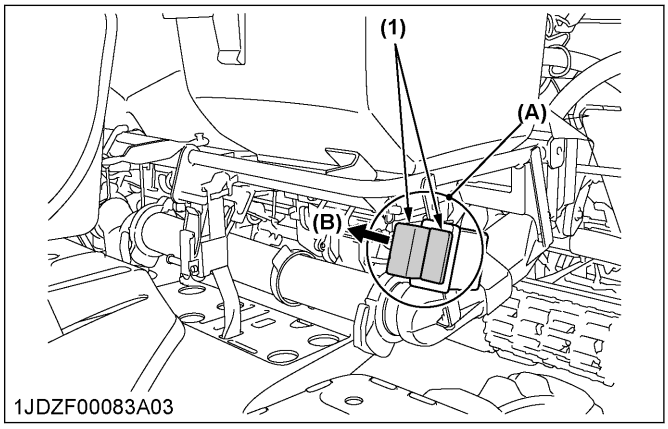
補足：

- **繰出しテストを行うとき、作溝器から肥料を繰出した場合は、1 条分の繰出し量になります。繰出し量に対して 2 倍した数値で調整してください。**
- **出荷時は比重調整ノブは標準、施肥量調量ノブは 20 kg/10a に設定しています。**
- **ハンドルは元の位置に収納してください。**
- **目安ラベルはあくまでも目安です。実作業で目標の施肥量とズレがある場合は、施肥量調量ノブを再調節してください。**

9.3 施肥条止めのしかた

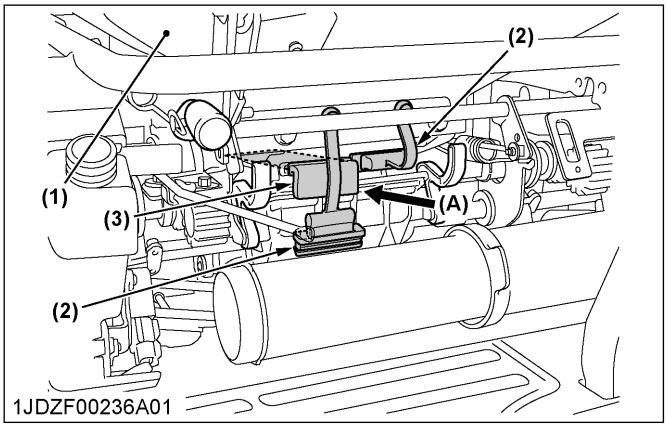
あぜぎわを植付けるときなどで、肥料の繰出しを停止するときは条止めシャッタを使用してください。

1. 収納状態の条止めシャッタを、収納場所から抜いて取り外します。



(1) 条止めシャッタ
(A) 収納場所
(B) 抜く

2. ホッパ下側にあるゴムキャップを外して肥料の繰出しを停止する条の条止めシャッタを差込みます。



(1) ホッパ
(2) ゴムキャップ
(3) 条止めシャッタ
(A) 差込む

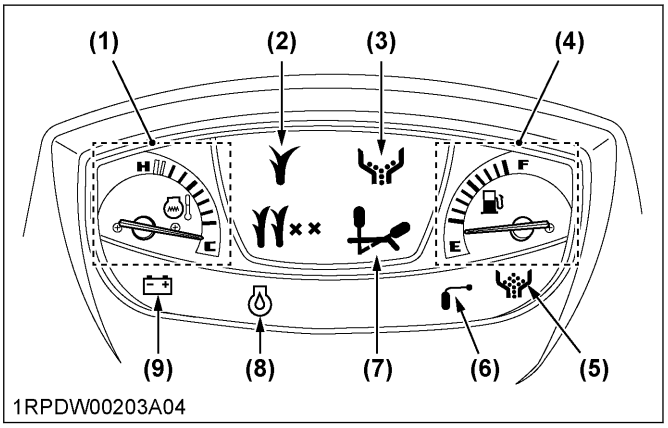
補足：

- **条止めシャッタを差込むときは、いっぱいまで押込んでください。**
- **条止めシャッタを差込むとき、差込みにくいときは、条止めシャッタを上方向に押しながら差込んでください。**
- **条止めシャッタを差込んだ状態で水洗いの洗浄をしないでください。すき間から水が浸入し、肥料詰まりの原因になります。**
- **条止めシャッタを取り外したあとは、ゴムキャップをしっかり奥まで差込んでください。水洗いの洗浄を行うと、すき間から水が浸入し、肥料詰まりの原因になります。**

メインパネルによる異常の表示と処置

⚠ 警告
- **エンジン周りの点検や処置を行うときは、エンジンを必ず止めてください。**
- **エンジン停止直後は、エンジンに触ったり、ラジエータキャップを開けないでください。ヤケドをするおそれがあります。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**
- **苗や肥料［R 仕様］を補給するときは、走行を停止し、駐車ブレーキを掛けて行ってください。**

ブザーが鳴り、パネル内のランプが点灯または、点滅したときや計器が異常を示したときは、下表の処置を行ってください。



(1) 水温計
(2) 苗切れモニタ
(3) 施肥モニタ（肥料切れ）［*R* 仕様］
(4) 燃料計
(5) 施肥モニタ（肥料詰まり）［*R* 仕様］
(6) マーカモニタ
(7) 植付クラッチモニタ
(8) オイルランプ
(9) 充電ランプ

ランプ・計器	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示 メインパネル	ブザー			
充電ランプ（充電警報）	点灯	–	• バッテリが充電されていません。 • そのまま作業を続けるとバッテリ上りとなり、エンジンの始動ができなくなります。	オルタネータ駆動ベルト • オルタネータ駆動ベルトを確認しゆるみがある場合は、張り調整を行ってください。 • オルタネータ駆動ベルトを確認し破損がある場合は、交換・調整を行ってください。 • エンジンが始動しなくなった場合は、購入先へ連絡してください。	–
水温計	–	–	• 指針が上昇し**[H]**のときは水温が上昇しています。 • そのまま作業を続けるとオーバヒートします。	エンジンを停止後、30 分以上たってから以下の点検と処置をします。 **冷却水量** • 冷却水が不足しているときは、リザーブタンクに清水を補給します。 • 冷却水の水もれが発生しているときは、ラジエータ排水プラグ、ラジエータホースのバンドを増締めします。	122 126
				ラジエータフィン • ラジエータフィンに汚れや詰まりがあるときは、掃除して取除きます。	124
植付クラッチモニタ	点滅	–	• 植付クラッチが入っていません。	• 十字ポンパレバーを下側に 2 回操作または、十字ポンパレバーを下側に 1 回操作します。	33
マーカモニタ	点滅	–	• マーカが出ていません。	• 十字ポンパレバーを操作して、マーカを出します。	33
オイルランプ（油圧警報）	点灯	–	• エンジンのオイル圧力が不足しています。 • そのまま作業を続けるとエンジンが動かなくなります。	• エンジンを停止後、オイル量の点検と処置をします。 • エンジンが焼付きを起こしていますので、購入先へ連絡してください。	120 –

（次へ続く）

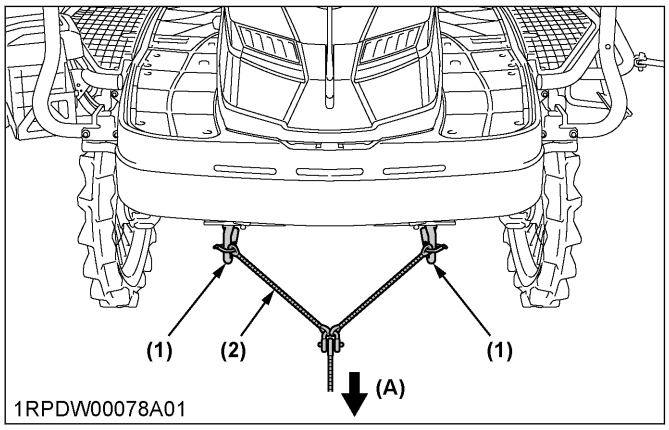
ランプ・計器	警報		現象	処置	参照ページ
	ランプ表示 メインパネル	ブザー			
施肥モニタ（肥料切れ警報）**[R 仕様]**	点滅	断続 (8 回)	• 肥料が残り少なくなっています。	• 肥料を補給します。	77
施肥モニタ（肥料詰まり警報）**[R 仕様]**	点滅	断続 (8 回)	• 肥料が残り少なくなっています。	• 作溝器内を確認してセンサに付着している異物を取除きます。また、異物がないときは、コントローラ（感度調整用）を調整します。	82、103
苗切れモニタ （苗切れ警報）	点滅	継続	• 苗が残り少なくなっています。	• 苗を補給します。	74

重要：
- **処置したあとに異常が直らないときは、購入先へ連絡してください。**

補足：
- **警報ランプは、異常を処置すると消灯します。**
- **警報ブザーは断続で 8 回鳴りますが、警報ブザーが鳴っている最中に他にも異常が発生したときは、そのときから断続で 8 回ブザーが鳴ります。**
- **警報ブザーが鳴り終わったあと、警報モニタのランプが点滅中に主変速レバーを[後進]位置にすると、バックブザーが鳴ります。そのあと、主変速レバーを[N]（中立）位置にすると警報（異常）確認のため、警報ブザーが再度 8 回鳴ります。**

深みにはまって動けなくなった場合の注意事項

左右のけん引フック両方にロープを掛け、図のように前方へ引き上げてください。
引き上げるときは急な力を加えずに、ゆっくり引き上げてください。
このとき、車輪やエンジン駆動ベルトのまわりの泥を取除き、前輪をまっすぐ（けん引方向）に引き上げてください。
けん引フック以外の予備苗台フレームやその他の場所には、絶対にロープを固定しないでください。機械が破損するおそれがあります。



(1) けん引フック
(2) ロープ
(A) 引き上げる

重要：

- **上記の注意事項を守らない場合、フレームの変形やミッションケースの割れなど、重大な破損が発生するおそれがあります。**

メンテナンス

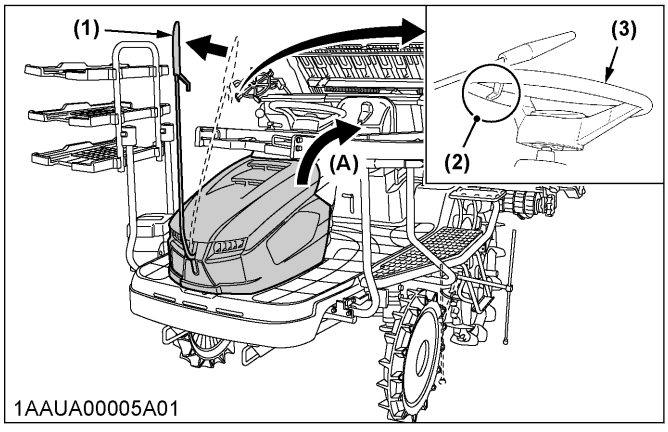
各部の開閉と脱着のしかた

⚠ 警告
- **平たんで安全な場所で、エンジンを必ず止めてから行ってください。**
- **取り外したカバー類は、必ず取り付けてください。**

1. ボンネットの開閉

⚠ 警告
- **オーバヒートなどでボンネットを開けて点検・整備するときは、次の手順に従ってください。**
  1. **作業を中止する。**
  2. **エンジンを約 5 分間アイドリング回転で運転した後、エンジンを停止する。**
  3. **エンジン停止後 30 分以上経過してから開ける。**
  4. **点検・整備で内部に触れるときは、ヤケドの危険性がないことを確認する。**
- **エンジンが冷えてないとき、ボンネットを開けるとラジエータ部、リザーブタンク部などより熱湯が噴出し、あるいは高温部に接触してヤケドするおそれがあります。**

開きかた
マスコットを前方に倒したあと、持上げると開きます。また、ボンネットを開いた状態で固定するときは、ハンドルにマスコットのフックを引掛けてください。

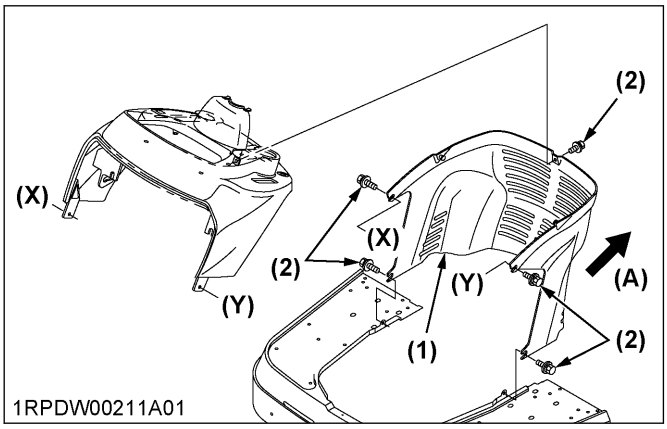


(1) マスコット
(2) フック
(3) ハンドル
(A) 持上げる（開く）

閉じかた
ハンドルからマスコットのフックを取り外したあと、閉じます。閉じたときは、カチッと音がします。このとき、ボンネット後のフックをボンネットウシロに差込んでください。

2. リヤカバーの脱着

取外しかた
1. ボンネットを開きます。
2. リヤカバー中央上部のボルトを取外し、左右のボルトをそれぞれゆるめたあと、リヤカバーを後方に引いて取り外します。

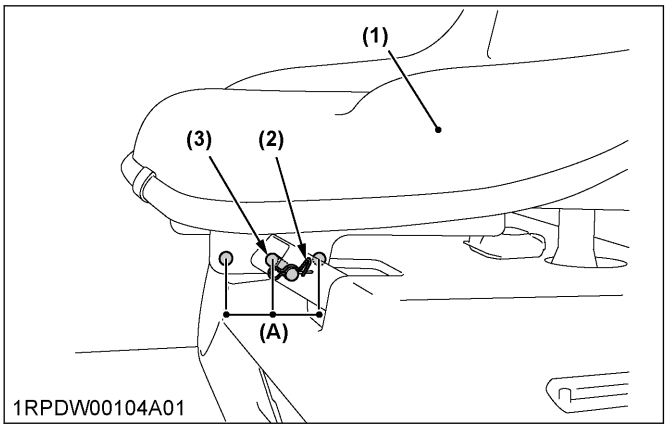


(1) リヤカバー
(2) ボルト
(A) 引いて取り外す

取付けかた
取外しかたと逆の手順で取り付けます。

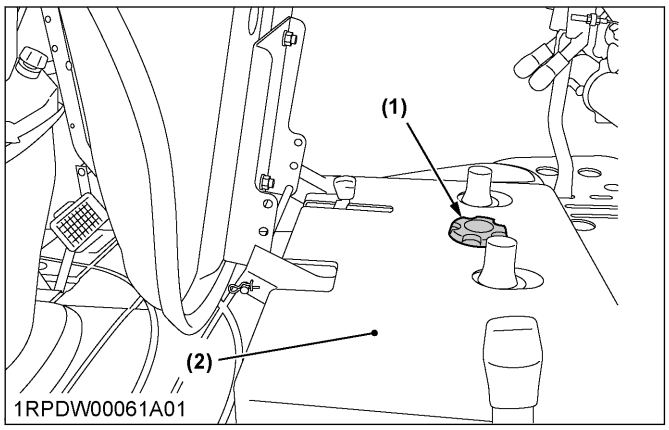
3. 運転席下カバーの脱着

取外しかた
1. スナップピンを取外し、ロッドを抜きます。
2. 運転席（シート）を取り外します。



(1) 運転席（シート）
(2) スナップピン
(3) ロッド
(A) 調節（*3* 段階）

3. ノブボルトを回して、副変速レバー、油圧ロックレバーとカバーガイド部の引掛かりに注意しながら、カバーを外します。



(1) ノブボルト
(2) カバー

取付けかた
取外しかたと逆の手順で取り付けます。

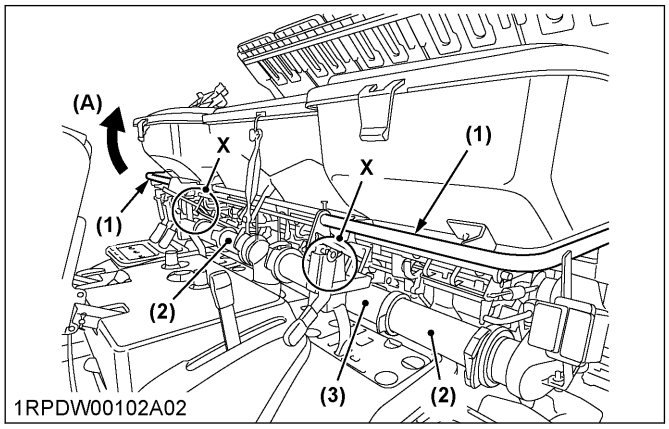
4. ロールとブラシの脱着［R 仕様］

取外しかた

重要：
- **田植機を平たんな場所に置き、エンジンを停止させ、肥料をすべて排出してください。**

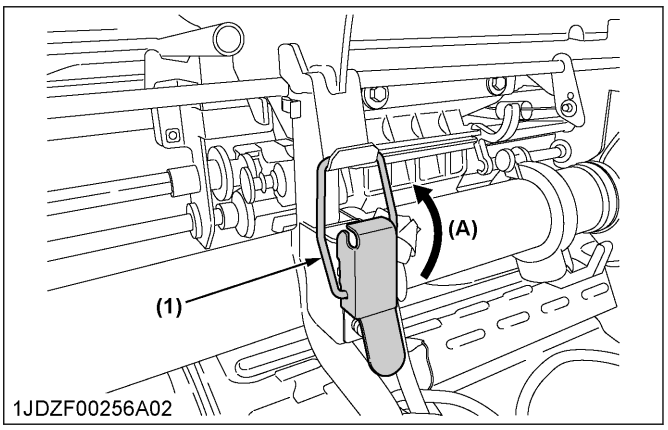
1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. パッチン錠を解除して、施肥機本体を後部へ回動します。

補足：
- **最上位置でレバーを放すと、フレームにピンが引っ掛かり、固定されます。**



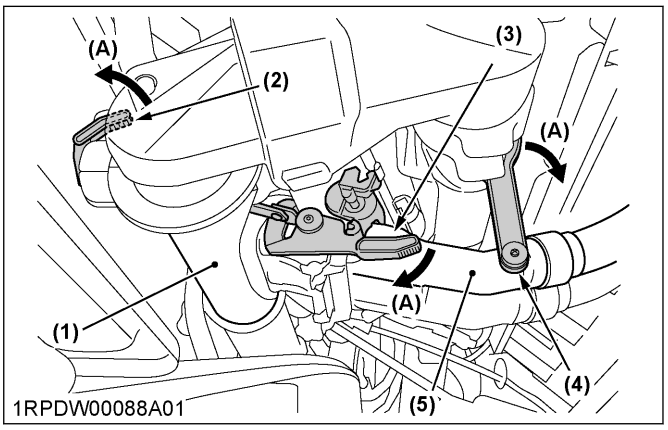
(1) フレーム　　*(A)* 回動
(2) 送風ダクト
(3) 中間チューブ

X 部拡大図



(1) パッチン錠　　*(A)* 解除

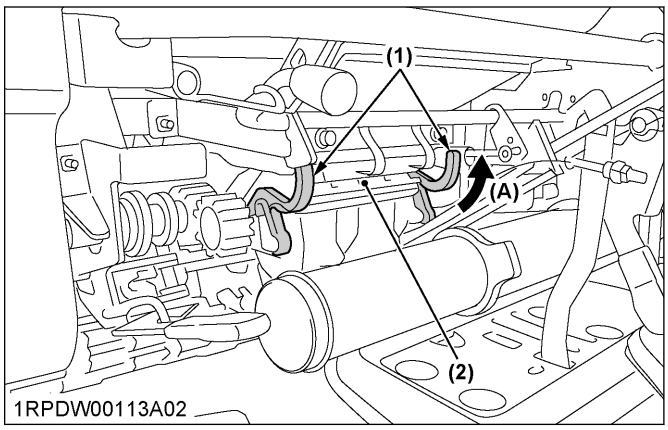
3. 中間チューブを横にずらして外します。
4. 施肥ホースの固定レバーを 2 箇所解除して、施肥ホースを傾けます。



(1) 送風ダクト　　*(A)* 解除
(2) ロックレバー
(3) 固定レバー
(4) フック
(5) 施肥ホース

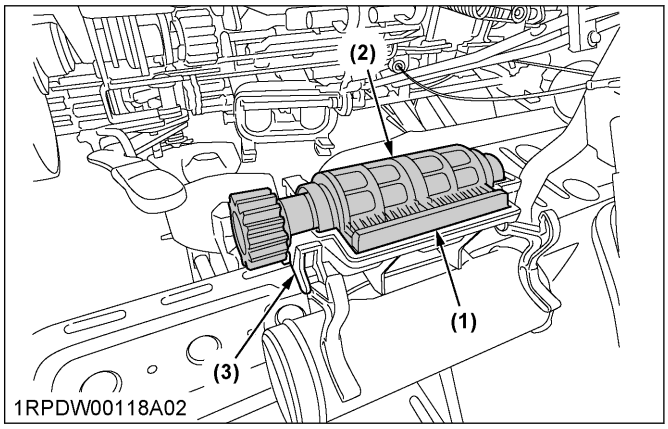
補足：
- **3.の手順で中間チューブを外さずに、内、外 2 個分ある送風ダクトのロールケース部のロックを解除して、中間チューブと送風ダクトを一体のまま外すこともできます。**

5. ロールケース固定レバーを 2 箇所解除したあと、ゴムダクトを取り外します。



(1) ロールケース固定レバー　　*(A)* 解除
(2) ゴムダクト

6. ブラシとロールを外します。

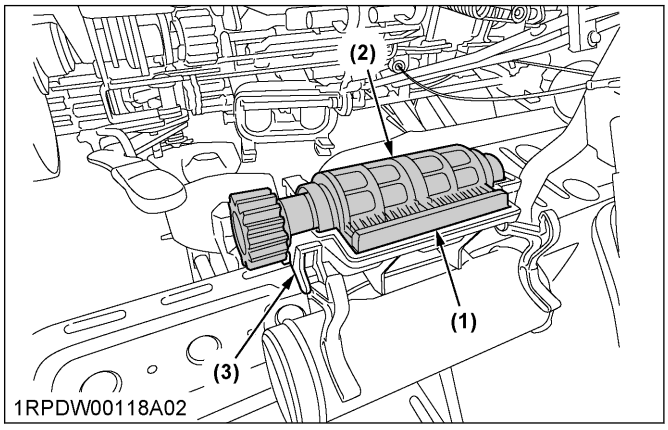


(1) ブラシ
(2) ロール
(3) ケース

取付けかた

取外しの逆の手順で行ってください。

1. ロートにロールとブラシを取り付けます。

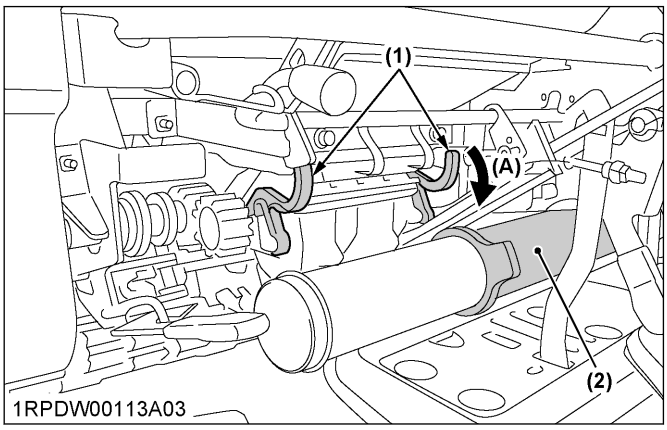


(1) ブラシ
(2) ロール
(3) ケース

補足：

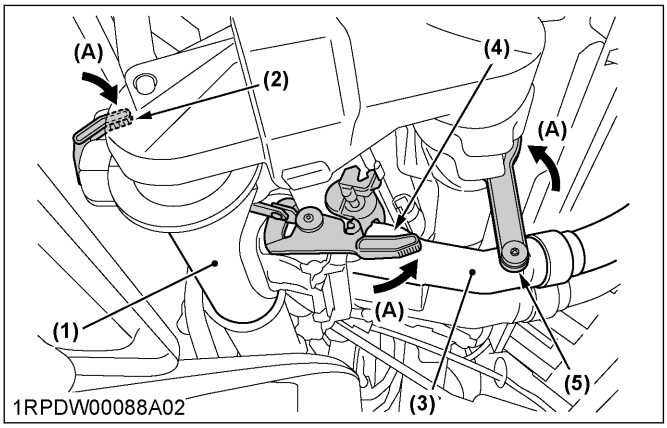
- **ロールは取り外したケースに入れて取り付けます。**
- **1 条用と 2 条用のロールの組み間違いに注意してください。（詳細は施肥ブラシの点検・掃除・交換［R 仕様］（132 ページ）を参照）**
- **ロールをロートに取り付けるときは、形状に合わせて取り付けてください。**
- **各ロールを取り付けるときは、必ずそれぞれ取り外したところへ取り付けてください。**

2. ロールケース固定レバーをロックします。



(1) ロールケース固定レバー　　*(A)* ロック
(2) ロート

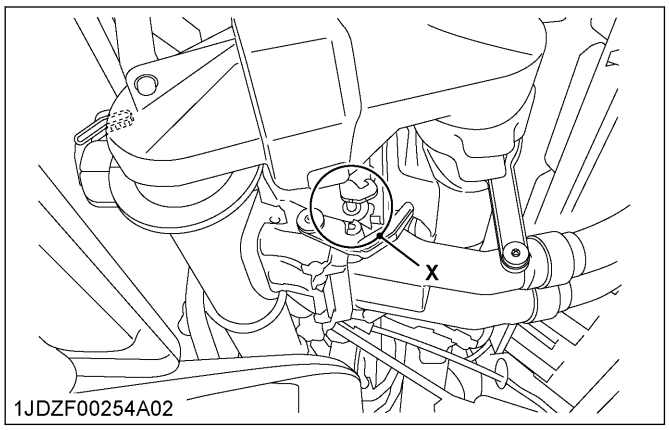
3. 送風ダクトのロールケース部のロックレバーをロックします。
4. 施肥ホースをはめ込み、固定レバーとフックをロックします。



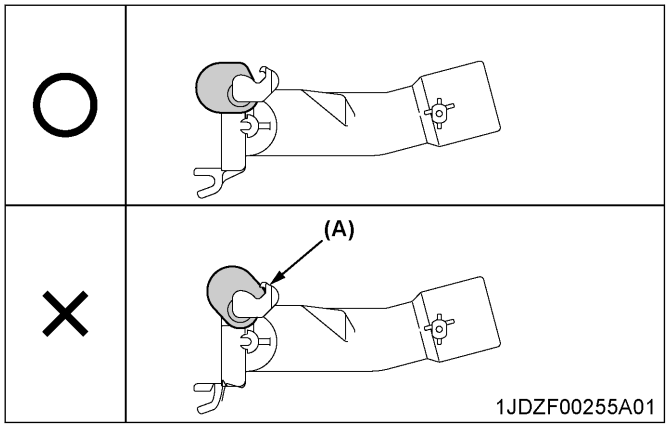
(1) 送風ダクト　　*(A)* ロック
(2) ロックレバー
(3) 施肥ホース
(4) 固定レバー
(5) フック

重要：

- **施肥ホースを取り付けるときは、施肥ホース着脱部のカバーが下図の向きになっていることを確認して、ロールケースにかみ込まないように取り付けてください。**
  かみ込んだ状態で取り付けると、シャッタの動きが悪くなり、肥料詰まりが発生するおそれがあります。



X 部拡大図



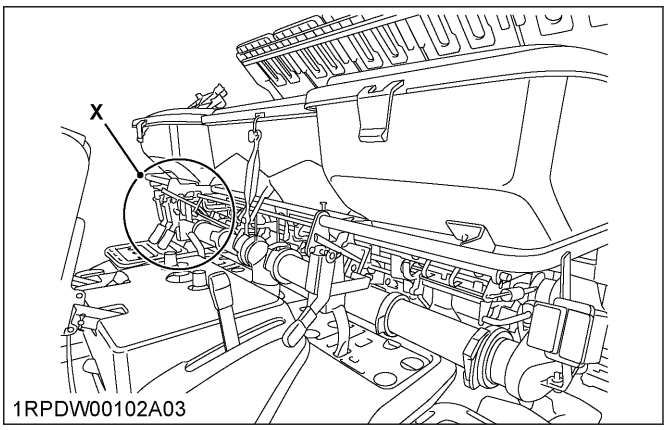
(A) この部分が回り、ロールケースにかみ込まないこと

5. 送風ダクト、ゴムダクトをはめ込みます。このとき、ロック継手の出っ張り部が、ダクトの浮出部の範囲内にあることを確認してください。

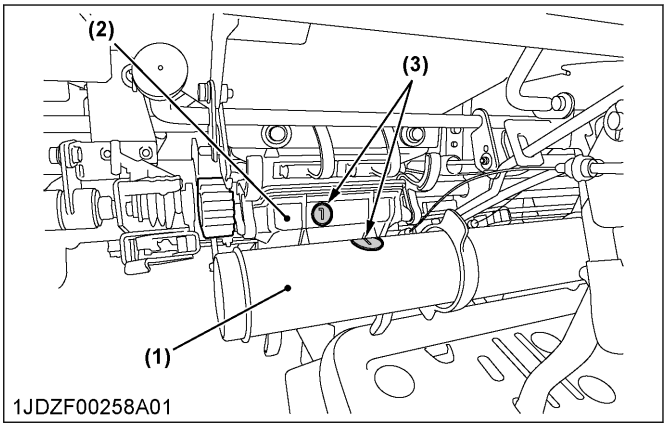
補足：

- **ギヤがかみ合わずロールケースがロックできないときは、ロールを少し動かしてギヤをかみ合わせてください。**
- **各ロート、送風ダクトを取り付けるときは、各ロート、送風ダクトに位置決め用の番号ラベルを貼付けていますので、それぞれ取り外したところへ必ず取り付けてください。取付位置を間違えると、ダクト内に肥料詰まりが発生し、正常な施肥作業が行えなくなるおそれがあるため、必ず取り外した元の位置に取り付けてください。**

※イラストは［6 条］

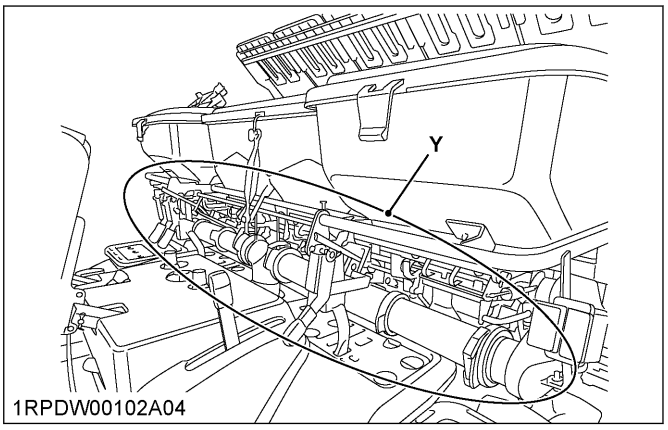


X 部拡大図

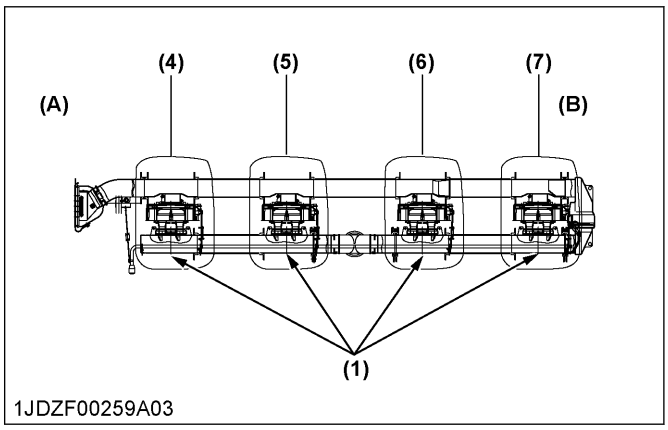


(1) 送風ダクト
(2) ロート
(3) 番号ラベル

※イラストは［6 条］

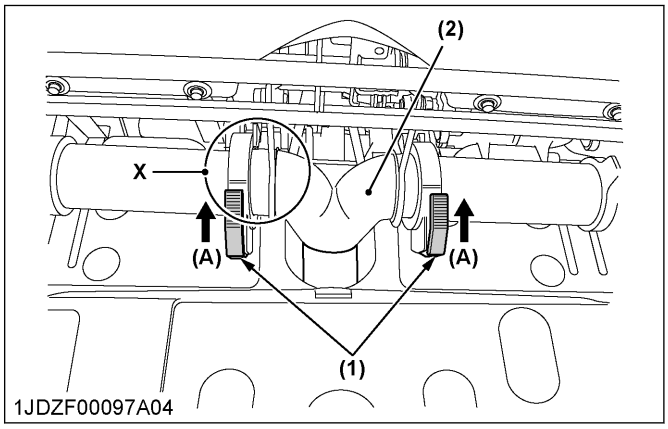


Y 部レイアウト図

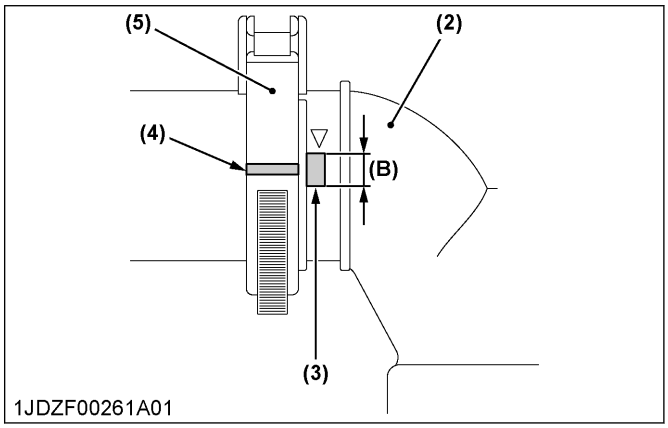


(1) 送風ダクト
(4) 番号ラベル *1*
(5) 番号ラベル *2*
(6) 番号ラベル *3*
(7) 番号ラベル *4*
(A) 右側
(B) 左側

6. 施肥機本体をゆっくり下ろし、パッチン錠で固定します。
7. センタダクト両側のパイプ（ダクト）のロックレバーをロックします。



X 部拡大図



(1) ロックレバー
(2) センタダクト
(3) 浮出部
(4) 出っ張り部
(5) ロック継手
(A) ロック
(B) この範囲内にあること

8. 作業前に施肥ブロワを回して，脱着した部わから空気もれがないか確認してください。

各部の掃除と注油のしかた

機械の故障などトラブルが発生しないように、各部の手入れをじゅうぶん行ってください。

⚠ 警告

- **エンジンを必ず止めてください。**
- **取り外したり、オープンした回転部のカバー類は必ず取り付けてください。回転部に衣服などが巻込まれてケガをするおそれがあります。**
- **植付部を上げた状態で作業するときは、油圧ロックレバーで下降防止をしてください。さらに枕木などを使用して落下防止を行ってください。**
- **空運転するときには必ず植付部を上昇させてください。**
- **オイルがこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。**
- **バッテリ、マフラやエンジン・燃料タンク周辺部にごみや燃料の付着、泥の堆積などがあると火災の原因になることがありますので、取除いてください。**
- **清掃を行うときは、手袋などの保護具を着用してください。部品の鋭利な部分に素手で触るとケガをするおそれがあります。**
- **植付爪の爪先には注意してください。**

1. 各部の掃除

一日の作業が終わったあとは、各部の泥やゴミ、施肥部**［R 仕様］**の掃除を必ず行ってください。

重要：

- **ボンネット内部や運転席下部の電装品には水を掛けないでください。故障の原因となります。**
- **取り外したボルト、ナットは、必ず締付けてください。**
- **肥料には錆を発生させる成分が含まれているため、1 日の作業が終わったあとは肥料を排出して水洗いをじゅうぶん行ってください。特にエア抜き、植付フレーム、リンク支点、植付ケース各周辺は必ず行ってください。**

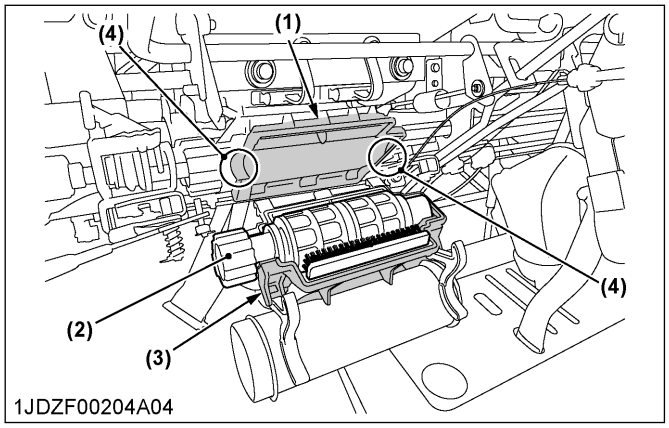
1.1 施肥部の掃除［R 仕様］

重要：

- **条止めシャッタに肥料が付着した状態で長時間放置すると錆が発生したりして破損するおそれがありますのでロールケース内の肥料は必ず排出し、掃除を行ってください。**
- **水洗い後すぐに作業しないでください。詰まりや施肥異常の原因になります。**
- **施肥部を高圧水で洗浄しないでください。ゴム部のすき間から水が入り、肥料詰まりの原因になります。**
- **条止めシャッタを差込んだ状態で水洗いの洗浄をしないでください。すき間から水が浸入し、肥料詰まりの原因になります。**

- **条止めシャッタを取り外したあとは、ゴムキャップをしっかり奥まで差込んでください。水洗いの洗浄を行うと、すき間から水が浸入し、肥料詰まりの原因になります。**

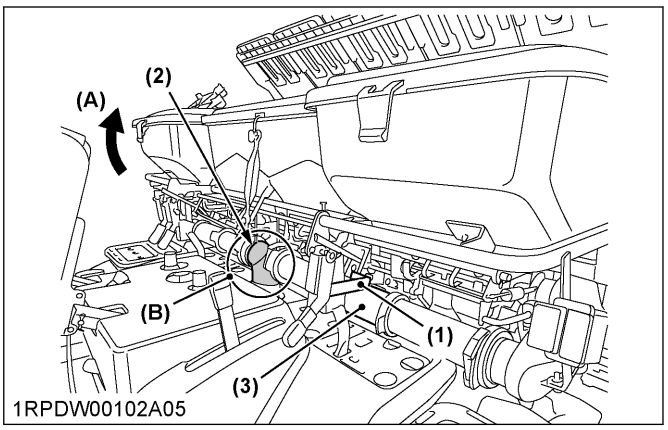
1. ホッパ内、ロールケース内のロールやブラシ、ロートの肥料を取除き、湿っているときは、乾いた布などでふき取ってください。
2. ホッパ、ロールケース、ロート内部を水洗いするときは必ずロートを開き、ロール、ブラシを取り外してブロワ内に水が入らないようにしてください。
   特にロールケース軸受部およびロートに、肥料が残っていないことを確認してください。



(1) ロールケース
(2) ロール
(3) ロート
(4) 軸受部

重要：
- **ブロワ内に水が入ると、モータに錆が発生し故障するおそれがあります。**

水洗いのしかた
(1) 施肥機本体を後方へ回動します。（詳細は、ロールとブラシの脱着［R 仕様］（100 ページ）参照）
(2) ロートを開き（下側に傾ける）ます。（詳細は、ロールとブラシの脱着［R 仕様］（100 ページ）参照）
(3) 水が入り込まないようにビニールなどでセンタダクトの入口を覆います。
(4) 水洗いをします。



(1) ロート
(2) センタダクト
(3) ダクト
(A) 回動
(B) 入口を覆う

(5) 水洗い後は施肥部（ホッパ、ロールケース内のロール、ブラシ、ダクト）をよく乾燥させてください。

重要：
- **乾燥させないと肥料が残り固着して、施肥ムラや詰まりの原因となります。**

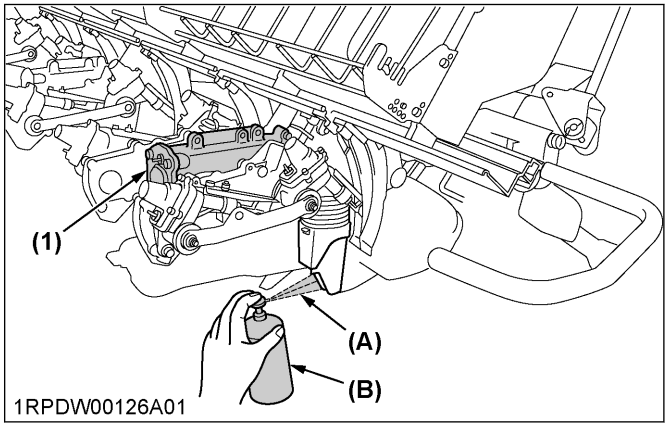
補足：
- **中央部のロートは、肥料の粉が特にたまりやすいので必ず掃除してください。また、水洗いを行ったときは、ロート、ブラシを必ず乾燥させてください。**

3. ブラシは毛の間にはさまった肥料を取除き、お湯で洗ったあと、水分をふき取り乾燥させてください。

重要：
- **ブラシを乾燥させるとき、直接太陽光があたらないようにしてください。ブラシが変形するおそれがあります。**

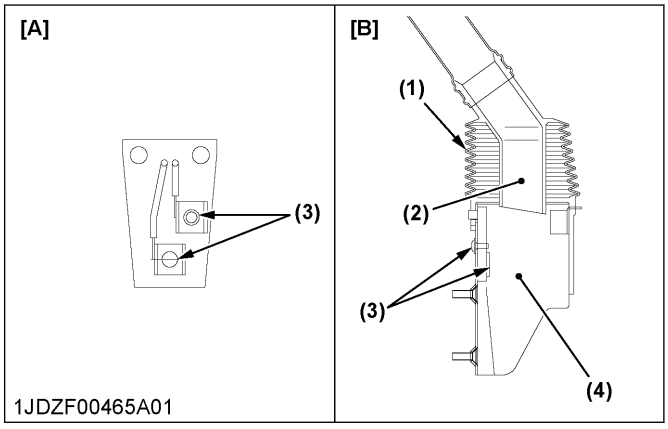
4. 作溝器や詰まりセンサ部の泥や水はよく取除いてください。

補足：
- **洗剤の空容器などを利用して水を入れ、電極部分などに付着した肥料を洗い流してください。（施肥ホース内はぬらさないこと）**
- **施肥ホースジャバラの中も同時に掃除してください。**



(1) 植付ケース
(A) 洗い流す
(B) 洗剤の空容器など利用

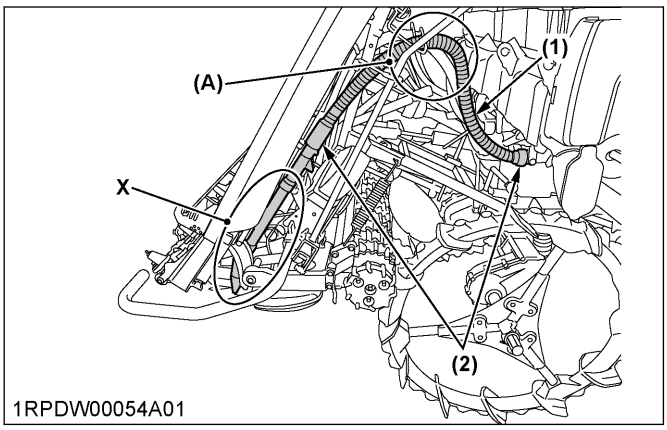
作溝器拡大図



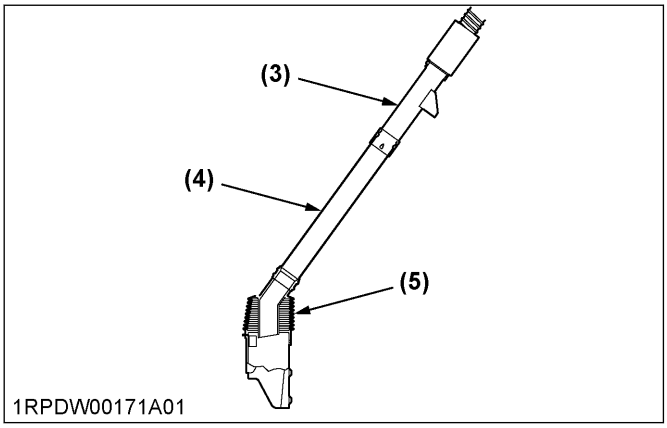
(1) ジャバラ
(2) 施肥ホース
(3) 電極
(4) 作溝器
[A] 正面
[B] 側面

5. 各パイプ（シタ）の掃除をするときは、エア抜き（パイプ）、パイプ（シタ）、ジャバラをセットした状態で外してください。掃除が終わったあとは、必ず取り付けてください。

重要：
- **エア抜き（パイプ）とパイプ（シタ）を分解しないでください。破損するおそれがあります。**



X 部拡大図

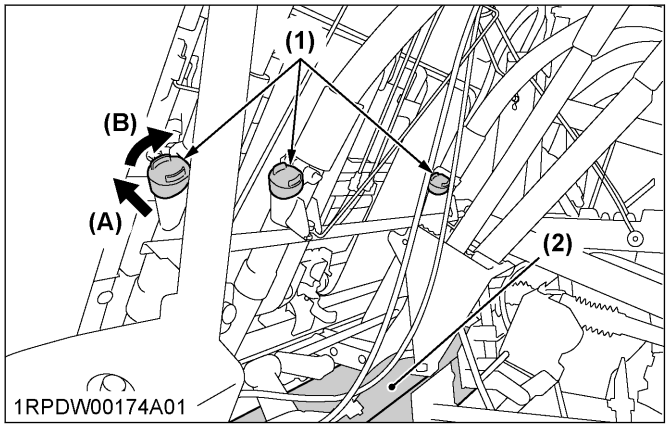


(1) ホース
(2) ホース継ぎ手
(3) エア抜き（パイプ）
(4) パイプ（シタ）
(5) ジャバラ
(A) 湾曲部

補足：
- **各ホースを取り付けるときは、湾曲部を上側にして取り付けてください。**
- **各ホース、パイプを取り付けるときは、取り外したところに必ず取り付けてください。また、取付けかたがわからないときは、ご購入先に連絡してください。**

6. 各エア抜きキャップを上側に開いてから、下側の出口に付着している肥料を取除いてください。(全条分)

補足：
- **エア抜きキャップはキャップを奥に押してから開いてください。**
  a. キャップを押す。
  b. キャップを開く。

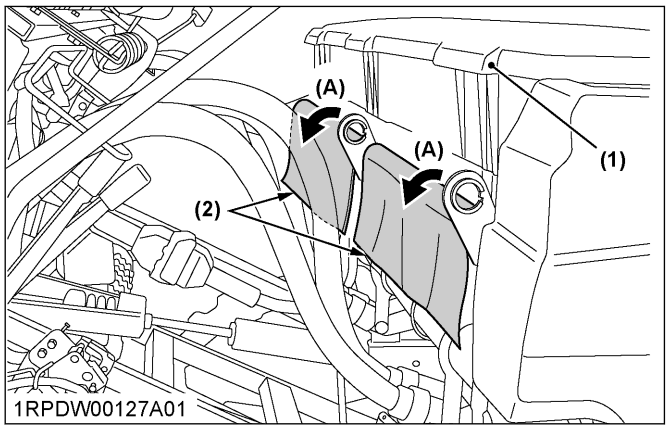


(1) エア抜きキャップ
(2) 植付フレーム
(A) 押す
(B) 開く

1.2 残肥排出ダクトの掃除

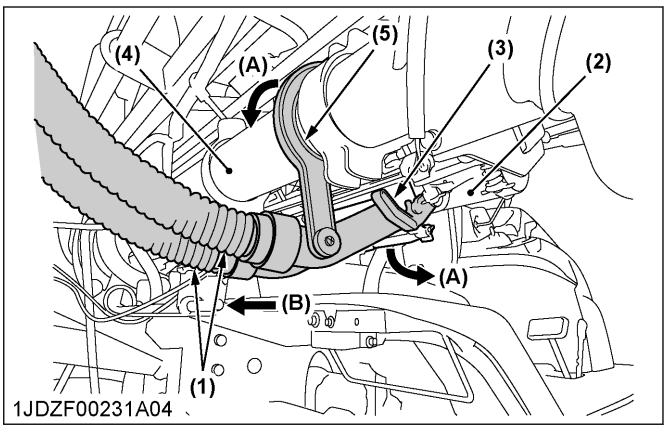
重要：
- **田植機を平たんな場所に置き、エンジンを停止させ、肥料をすべて排出してください。**

1. ホッパ内の肥料を空の状態にします。
2. ホッパ後側にあるハンプを施肥排出ハンガのパイプに掛けます。



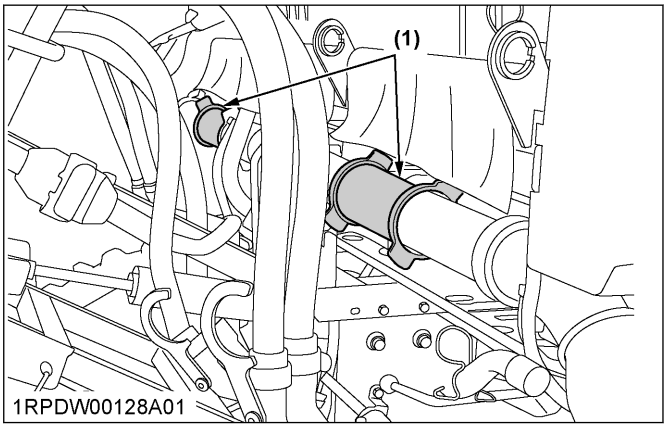
(1) ホッパ
(2) ハンプ
(A) 掛ける

3. 残肥排出ダクトのフックのロックを解除します。
4. 施肥ホースを送風ダクトに固定している固定レバーのロックを解除したあと、施肥ホースを後方へ外します。

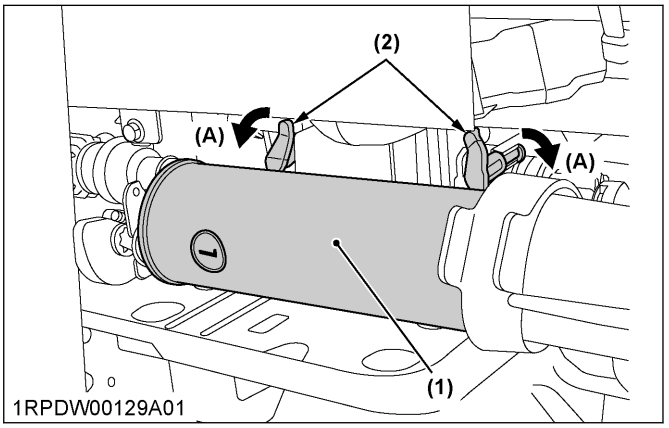


(1) 施肥ホース
(2) 送風ダクト
(3) 固定レバー（左右 2 箇所）
(4) 残肥排出ダクト
(5) フック
(A) 解除
(B) 外す

5. ゴムダクトを取り外します。
6. 残肥排出ダクトをロートに固定しているロックレバーを 90 度回してロックを解除したあと、残肥排出ダクトを取り外します。



(1) ゴムダクト



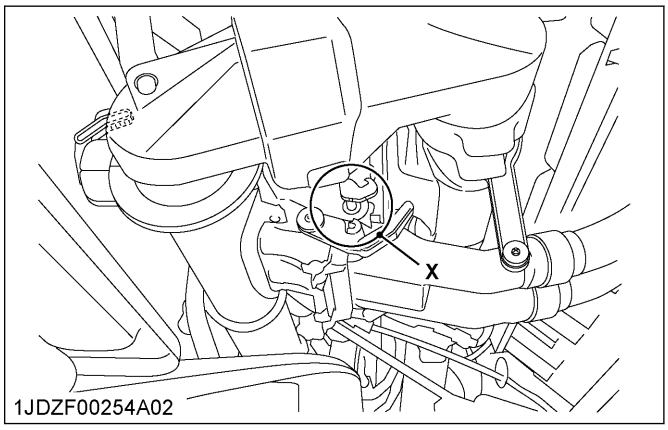
(1) 残肥排出ダクト
(2) 固定レバー
(A) 解除

7. 同じ要領で全条の残肥排出ダクトを取り外したあと、送風ダクトの掃除と同じ要領ですべての残肥排出ダクトおよびゴムダクトを掃除します。

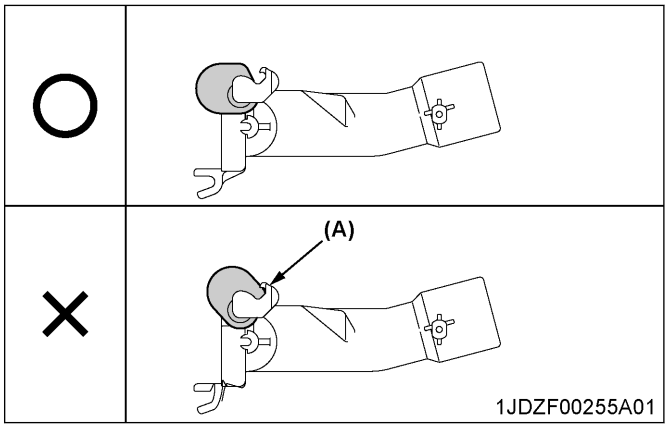
8. 掃除が終わったあとは、取り外したときの逆の手順で同じ要領で各部品を取り付けます。

重要：

- **施肥ホースを取り付けるときは、施肥ホース着脱部のカバーが次図の向きになっていることを確認して、ロールケースにかみ込まないように取り付けてください。**
  かみ込んだ状態で取り付けると、シャッタの動きが悪くなり、肥料詰まりが発生するおそれがあります。



X 部拡大図



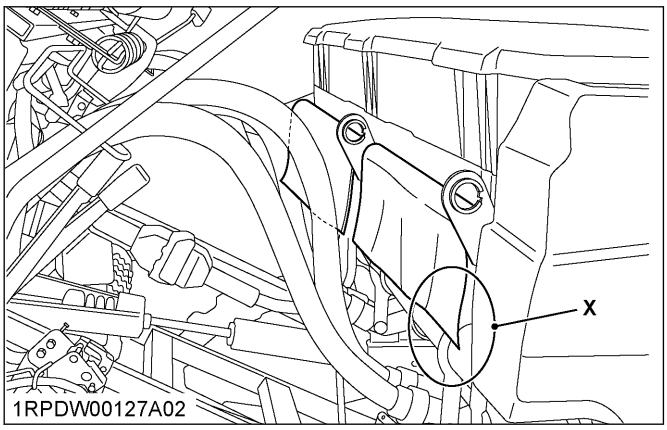
(A) この部分が回り、ロールケースにかみ込まないこと

- **各固定レバー、各フックは確実にロックしてください。ロックが外れると破損するおそれがあります。**

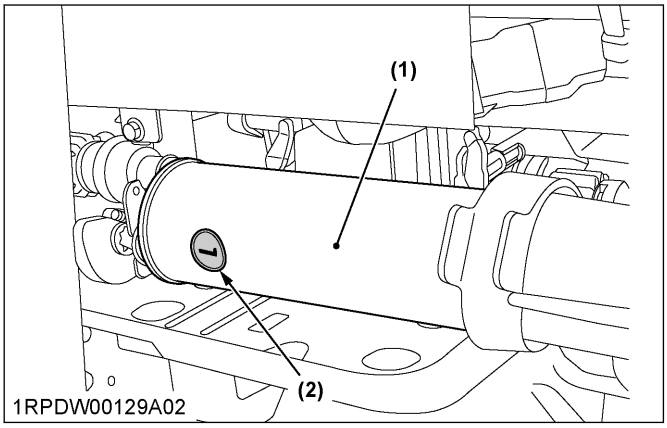
補足：

- **各残肥排出ダクトを取り付けるときは、各残肥排出ダクトに位置決め用の番号ラベルを貼付けていますので、それぞれ取り外したところへ番号ラベルを左側に向けた状態で必ず取り付けてください。**

※イラストは［6 条］

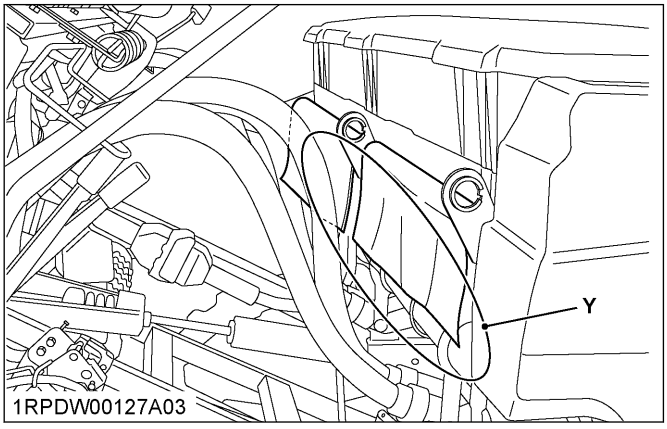


X 部拡大図

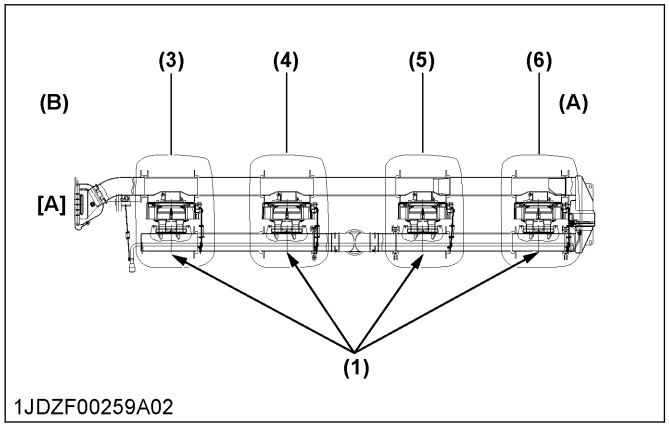


(1) 残肥排出ダクト
(2) 番号ラベル

※イラストは［6 条］



Y 部レイアウト図

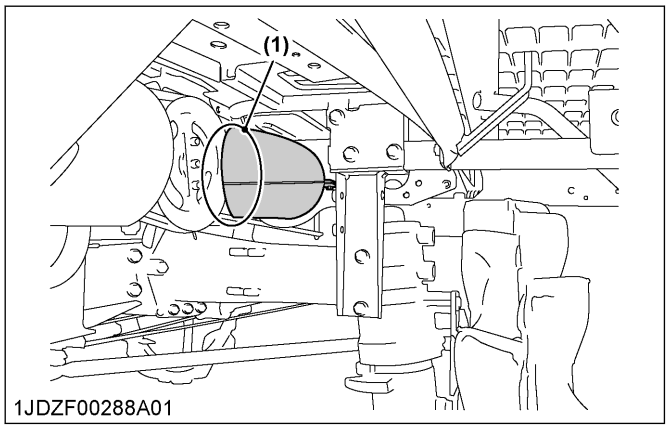


(1) 残肥排出ダクト
(3) 番号ラベル *1*
(4) 番号ラベル *2*
(5) 番号ラベル *3*
(6) 番号ラベル *4*
(A) 右側
(B) 左側

- **施肥ホース脱着部に肥料が付着しているときは、ブラシなどでじゅうぶんに取除き、差込んでください。**
- **施肥ホースの差込む位置を確認して取り付けてください。**

1.3 ブロワダクト吸入口の掃除［R 仕様］

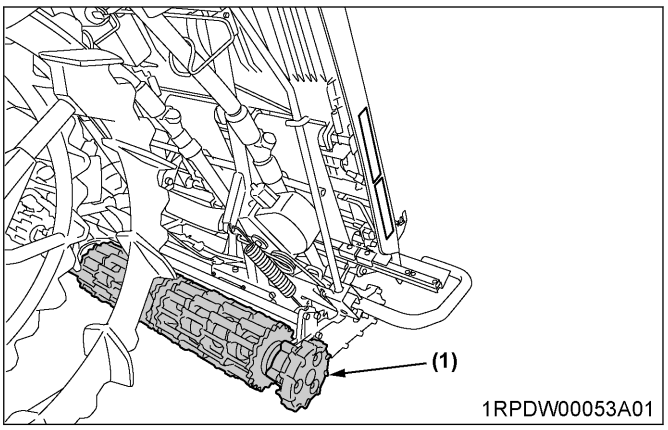
ブロワダクト吸入口に泥などの詰まりが発生すると、ブロワからの風量が低下し、肥料の排出が悪くなったり、施肥ホースへの詰まりの原因になります。定期的に掃除を行ってください。



(1) ブロワダクト吸入口

1.4 整地ロータの掃除

整地ロータに異物がはさまったり、巻付いているときは取除きます。



(1) 整地ロータ

2. 各部の注油

機体各部の掃除が終わったあとまたは、田植作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布または、注入を行ってください。グリースを注入するときは、グリースガンなどのグリースを注入する専用工具を使用してください。

重要：

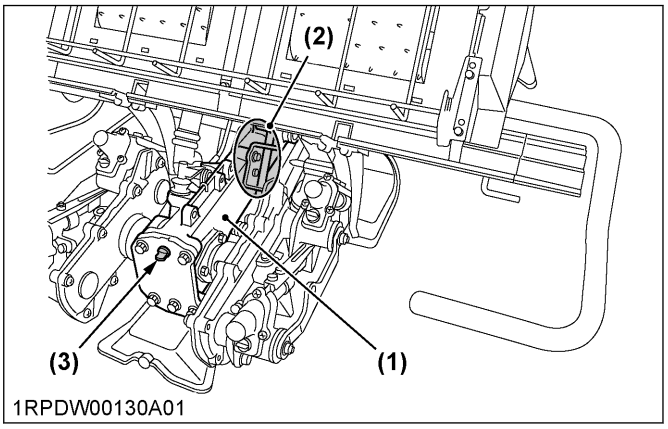
- **長期格納前には機械各部の掃除を行い、泥や肥料を除去したあと、各部に注油やグリースの塗布を行ってください。**

補足：

- **注油やグリース塗布をする前に、水が付着しているときは、ふき取って行ってください。**

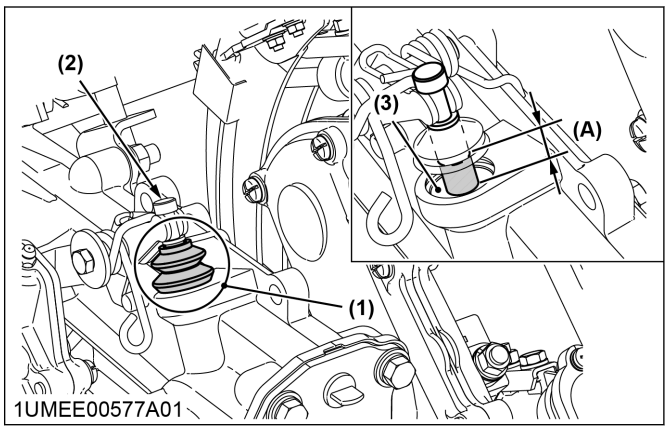
2.1 注油箇所、グリース塗布箇所、グリース注入箇所

- **植付ケース（注油）**
- **金具（グリース塗布）**



(1) 植付ケース
(2) 金具
(3) 注油口

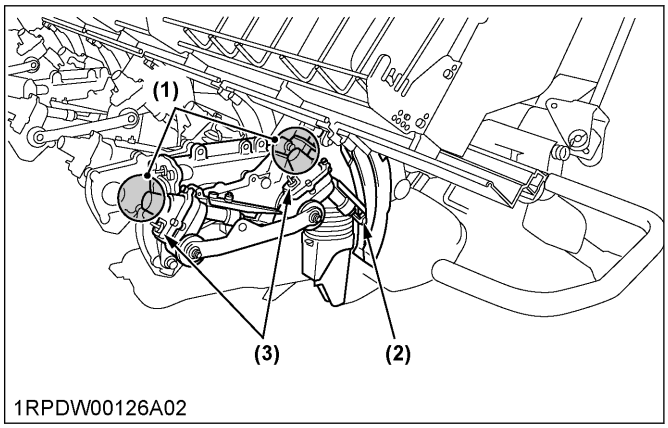
- **各条クラッチ軸部（グリース塗布）**
  ブーツのケース側部分を上方に持ち上げ、内部の泥などの汚れを除去してから、オイルシール付近の軸部にグリースを塗布してください。



(1) ブーツ
(2) 軸部
(3) オイルシール
(A) グリース塗布範囲目安：オイルシール上面から *10 mm*

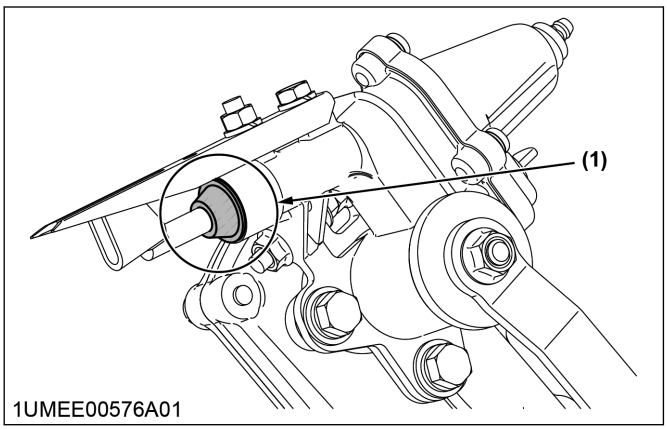
重要：
- **各条クラッチの各軸部にグリースを塗布しすぎるとブーツが軸部のリップ部から外れ、動作不良となるおそれがあります。**

- **植付アーム（グリース注入）**



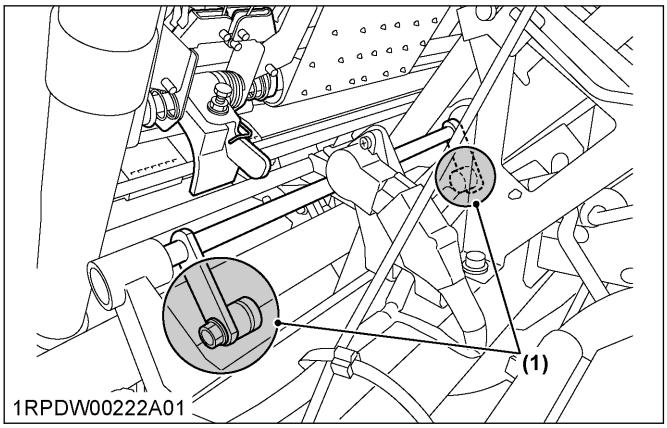
(1) 植付アーム
(2) プッシュロッド
(3) ゴムキャップ

重要：
- **植付アームにグリースを注入するときは、ゴムキャップを外し、プッシュロッドが引いた状態で行ってください。**
- **ゴムキャップの穴よりグリースがあふれ出るまでグリースニップルよりグリースを注入してください。**
- **植付アームのグリース注入後は、念のため、横送り一行程ぐらい植付部を駆動して、植付アームの作動を確認してください。**
- **ダストシールからグリースが滲み出ることがありますが、異常ではありません。**



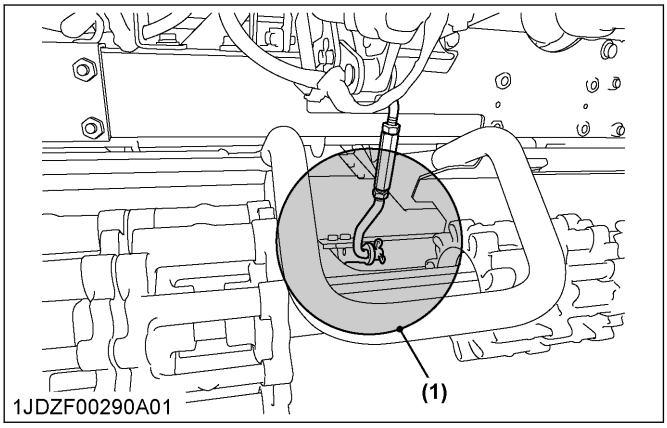
(1) ダストシール

- **縦送りカムローラ部（グリース塗布）**



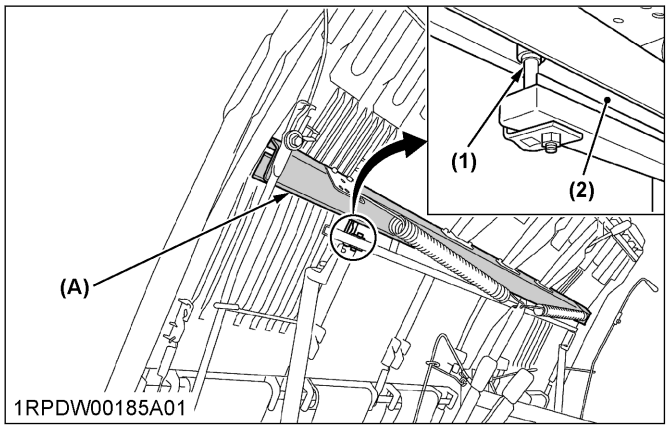
(1) 縦送りカムローラ部

- **センタフロート支点部（グリース塗布）**



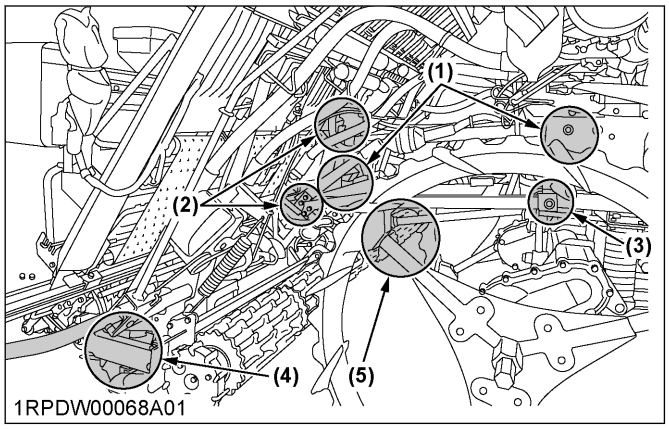
(1) センタフロート支点部

- **苗のせ台シュー・レール部（グリース塗布）**



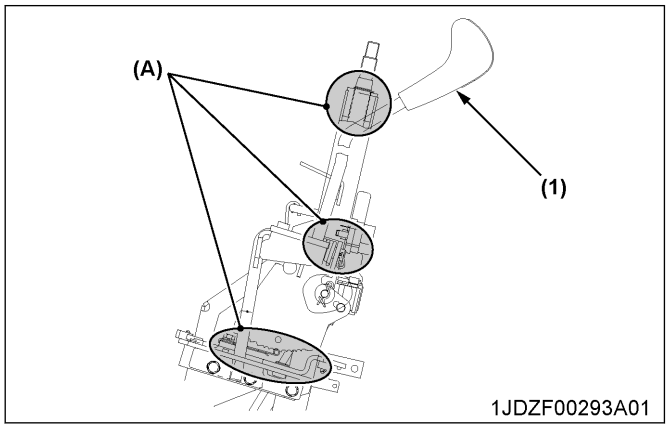
(1) 苗のせ台シュー　　*(A)* グリース塗布
(2) レール部

- **油圧シリンダ支点部（グリース塗布・注入）**
- **リンク支点部（グリース塗布・注入）**
- **プロペラシャフト接続部（グリース塗布）**
- **ジャバラホース内（グリース注入）**
- **フロート支点部（グリース塗布）**



(1) 油圧シリンダ支点部
(2) リンク支点部
(3) グリースニップル
(4) フロート支点部
(5) プロペラシャフト接続部

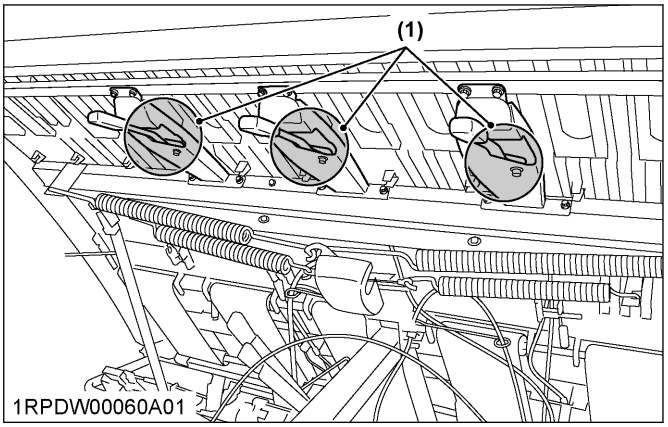
- **主変速レバー支点部・デテント部（グリース塗布）**



(1) 主変速レバー　　*(A)* グリース塗布

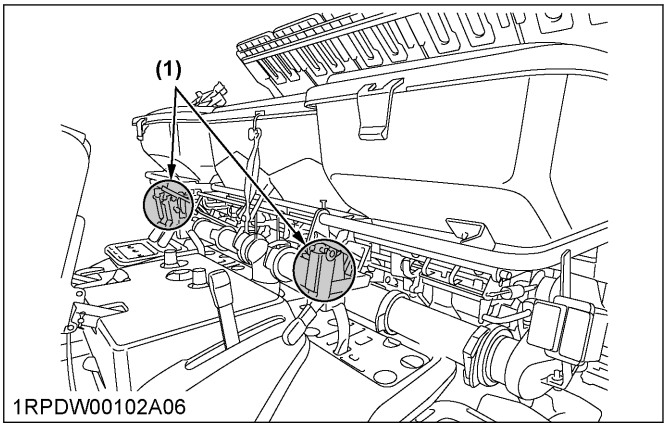
- **あぜぎわクラッチレバー支点部（注油）**
- **あぜぎわクラッチレバーピン回動部（グリース塗布）**

R 仕様除く（※イラストは［6 条］）



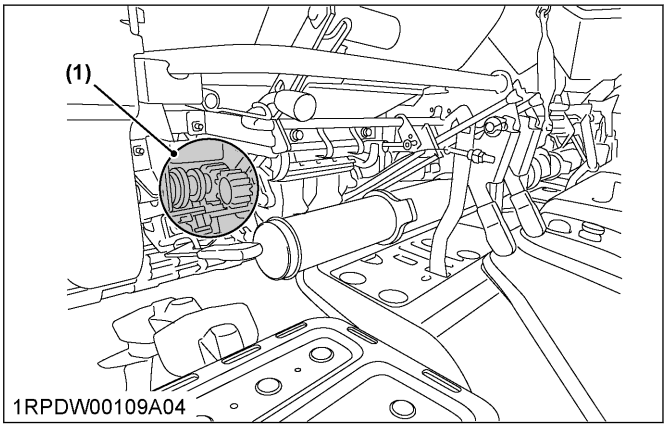
(1) あぜぎわクラッチレバー支点部

R 仕様（※イラストは［6 条］）



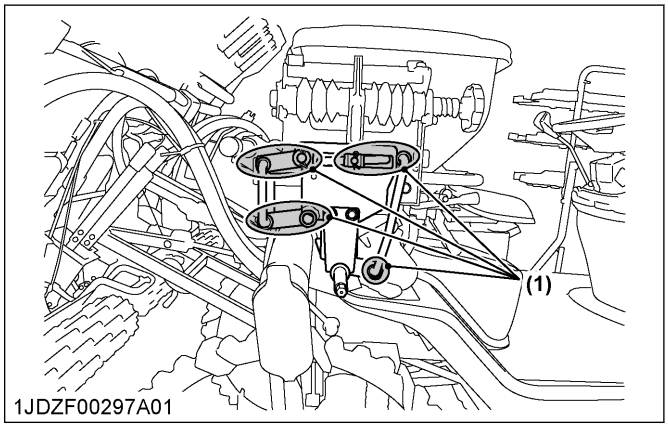
(1) あぜぎわクラッチレバー支点部

- **各条クラッチ部（グリース塗布）、ローラクラッチ部（グリース塗布）、および爪クラッチ部（グリース塗布）［R 仕様］**



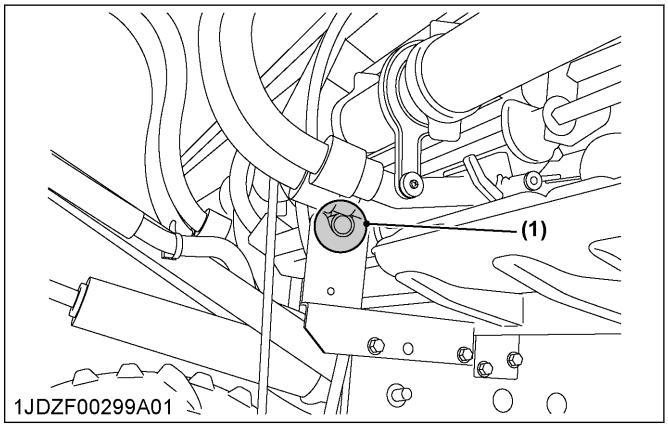
(1) 各条クラッチ部（各条ごと）、ローラクラッチ部、および爪クラッチ部

- **施肥機駆動部（グリース塗布）［R 仕様］**



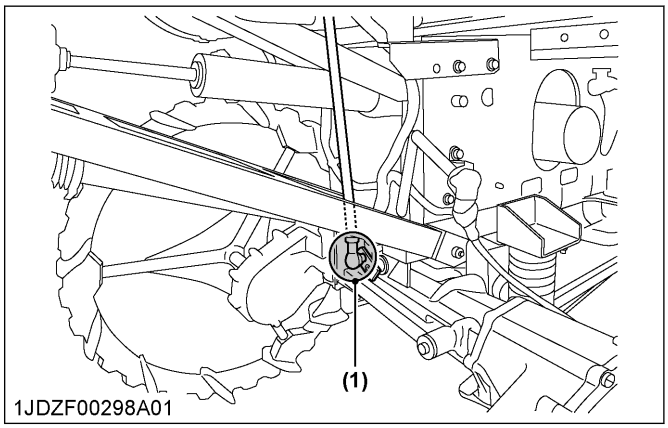
(1) 施肥機駆動部

- **施肥フレーム回動部（グリース塗布）［R 仕様］**



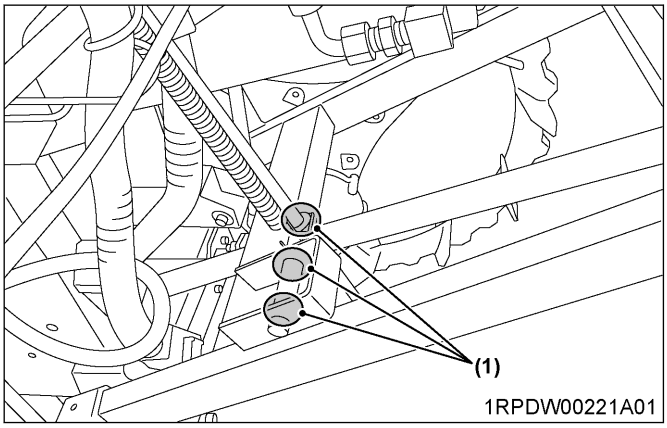
(1) フレーム回動部

- **リンクボール部（グリース塗布）［R 仕様］**



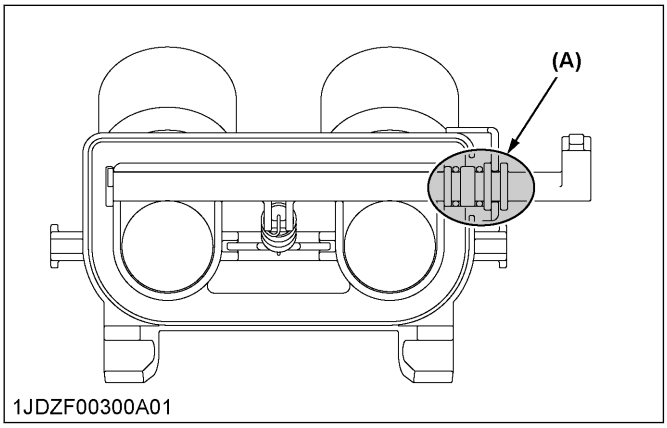
(1) リンクボール部（ブーツ内部）

- **各条復帰ロッド回動部、しゅう動部（グリース塗布）［R 仕様］**



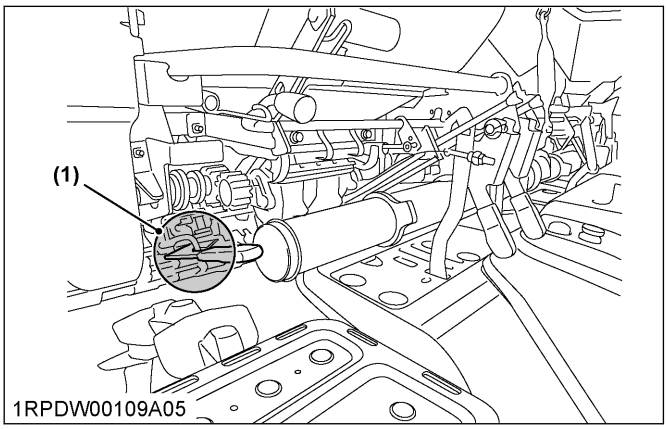
(1) 各条復帰ロッド回動部、しゅう動部

- **施肥ホース着脱部（グリース塗布）［R 仕様］**



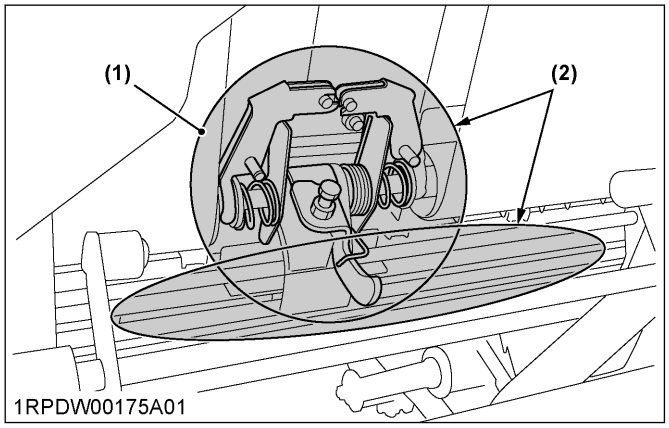
(A) グリース塗布

- **全条停止レバー支点部（グリース塗布）［R 仕様］**



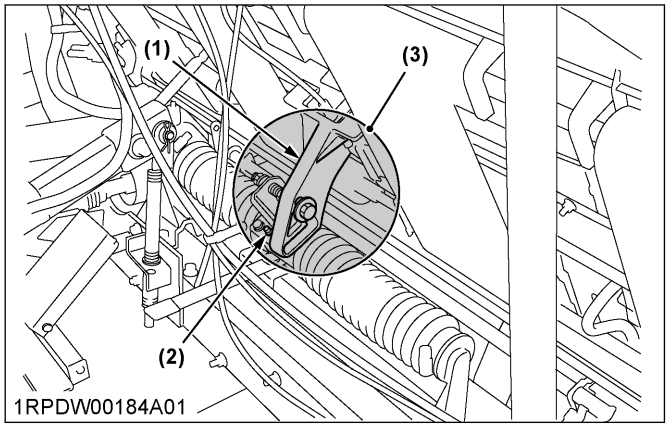
(1) 全条停止レバー支点部

- **苗のせ台縦送りあぜぎわクラッチ部（あぜぎわクラッチごとに六角軸とのしゅう動部グリース塗布）**



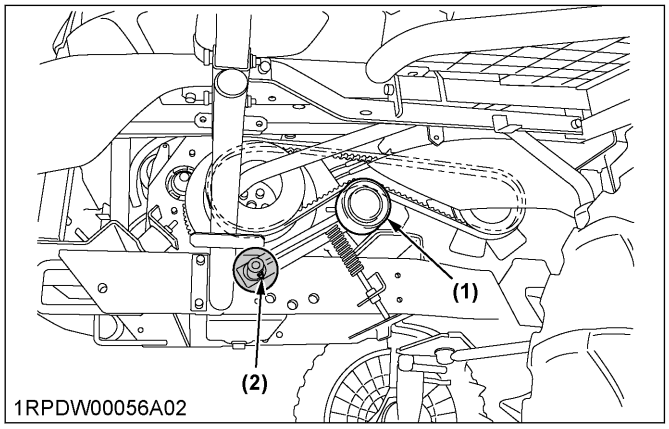
(1) あぜぎわクラッチ部
(2) グリース塗布

- **横送りコマホルダ（グリース注入）**
- **横送りステー（グリース塗布）**



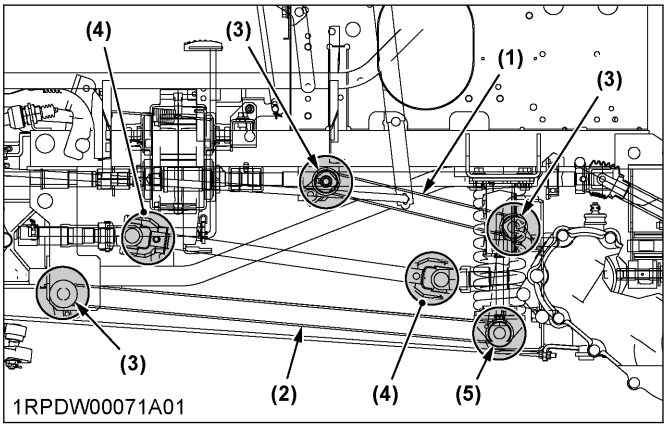
(1) 横送りステー
(2) グリースニップル
(3) グリース塗布

- **ミッション駆動ベルトテンション支点部（１箇所）（グリース注入）**



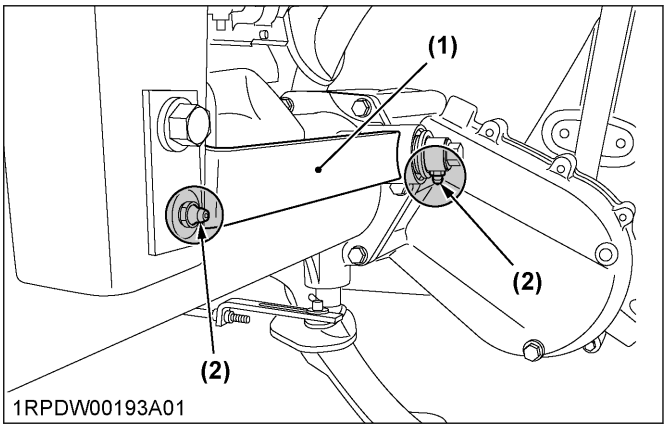
(1) ミッション駆動ベルトテンション
(2) グリースニップル

- **サスペンションアッパーリンクとサスペンションロアリンクの支点部（８箇所）（グリース注入）**



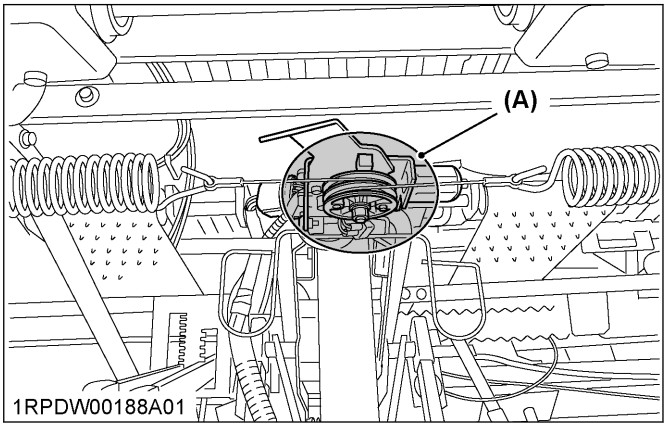
(1) サスペンションアッパーリンク
(2) サスペンションロアリンク
(3) グリースニップル
(4) ドライブシャフト接続部
(5) グリースニップル（*8* 条のみ）

- **リヤサスペンションロッド支点部（２箇所）（グリース注入）（8 条のみ）**



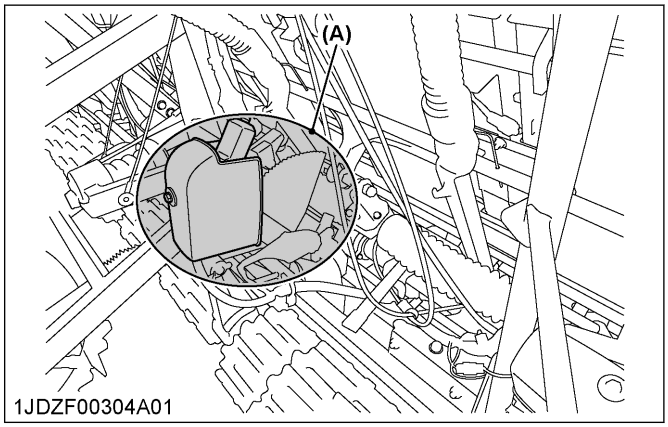
(1) リヤサスペンションロッド
(2) グリースニップル

- **モンローユニット部（グリース塗布）**



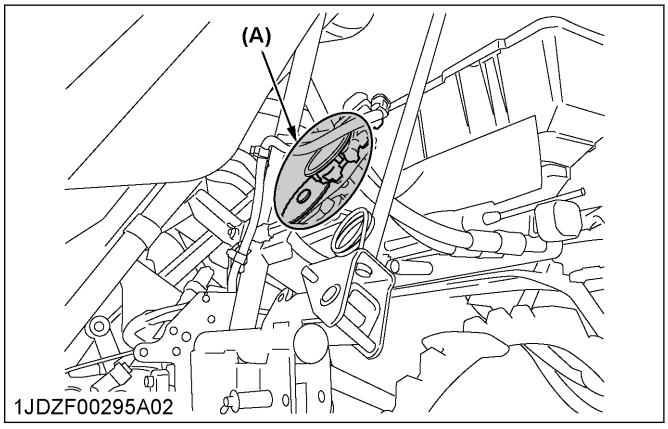
(A) グリース塗布

- **センサ支点部、ロータ用電動モータ部（グリース塗布）**



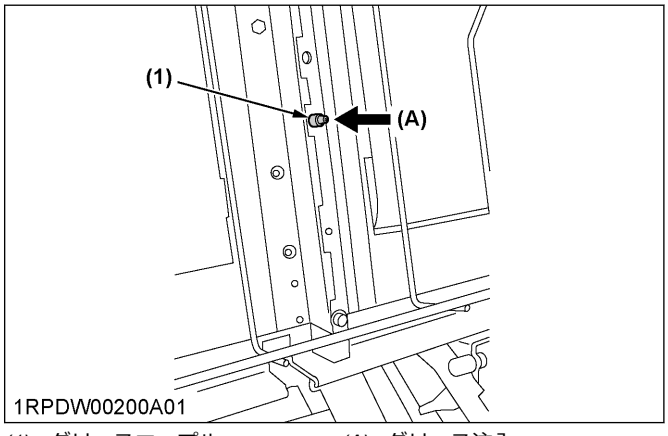
(A) グリース塗布

- **マーカ用電動モータ部（グリース塗布）**



(A) グリース塗布

- **苗のせ台受け・しゅう動板（グリース注入）**
  [6 条] 2 箇所グリースニップルがあります。
  [8 条] 3 箇所グリースニップルがあります。



(1) グリースニップル　　*(A)* グリース注入

定期点検

定期点検は、田植作業を行う人が定期的に行う点検です。
田植機は、使用時間と使用状況に応じて劣化が進み、その構造や装置の性能が低下します。これを放置しておくと故障や事故の原因となり、ひいては田植機の寿命を短くしてしまいます。
田植機の持つ性能がいつまでもじゅうぶん発揮できるよう、定期的に点検を行いましょう。

⚠ 警告
- **各部の点検・調整・交換作業を行うときは、平たんな場所で駐車ブレーキを掛けエンジンを必ず止めて、各レバー類を［切］位置にして、回転部を止めてから作業をしてください。**
- **取り外した回転部のカバー類は、衣服などが巻込まれるおそれがありますので、点検後はカバー類を必ず取り付けてから作業をしてください。**
- **燃料の補給中やバッテリの点検・充電・交換中は火気厳禁。**
- **植付部を上げた状態で作業を行うときは、油圧ロックレバーを［閉］位置にして植付部の下降防止を行ってください。**
- **ボンネットを開けるときは、内部がじゅうぶん冷え、ヤケドのおそれがないことを確認してください。**
- **オイルの補給中は火気厳禁。**
- **燃料やオイルがこぼれたときは、きれいにふき取ってください。**

補足：
- **専門的な技術や特殊工具を必要とする場合および定期点検一覧表の参照ページ欄に☆印のある項目は、購入先にご相談ください。**
- **点検・交換の時期は、使用条件や環境に大きく左右されます。従ってひとつの目やすとして早めの点検をお願いします。**

1. 廃棄物の処理について

⚠ 警告
廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは次の注意事項を守ってください。
- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

2. 洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗

車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

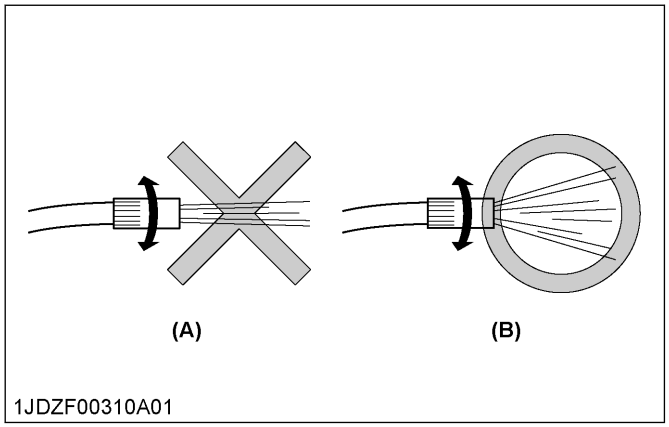
洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、次のような問題を引き起こすおそれがあります。

- **電気配線部被覆の損傷・断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
- **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

重要：

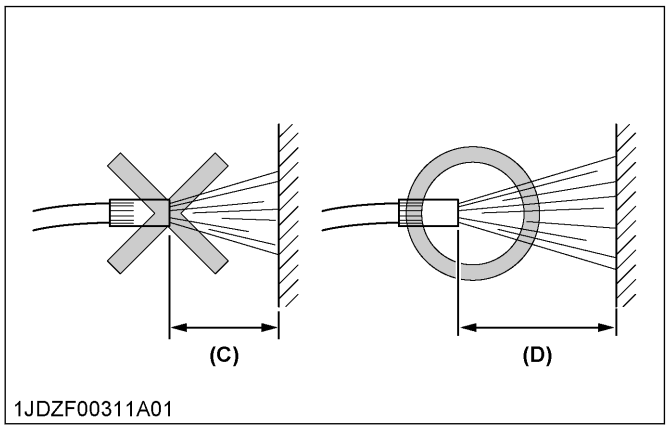
- **洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損・損傷・故障の原因になります。**
  例）
  - **シール・ラベルの剥がれ**
  - **電装部品、エンジン等への浸入による故障**
  - **タイヤ、オイルシール等のゴム類、樹脂部品、ガラス等の破損**
  - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

直射洗車厳禁



(A) 直射
(B) 拡散

近距離洗車厳禁



(C) *2 m* 未満
(D) *2 m* 以上

3. 使用者が行ってはいけない修理

下記部品に異常があるときは購入先に連絡してください。

- 結束部の結節部完備
- エンジン本体
- トランスミッション
- ベベルギヤを含むギヤを内蔵したケース類
- HST 含む油圧系統
- 電気部品と電気系統

4. 定期点検一覧表

○：点検と調整 △：交換 ▲：ならし運転後の交換

点検箇所・項目	点検・処置	点検・交換時期										参照ページ
		作業前後	シーズン前後	50 時間	100 時間	150 時間	200 時間	400 時間	1500 時間	1 年ごと	2 年ごと	
エンジン部												
オルタネータ駆動ベルト	調整・交換			○			△					154
エアクリーナエレメント	掃除	○		○								125
	交換	△：汚れがひどいときまたは、400 時間ごと										
インレットパイプ（エアクリーナ）	点検・交換						○				△	151
インレットマニホルド	点検						○					☆
燃料タンクの燃料こしあみ	掃除		○				○					120
燃料噴射管	掃除						○					☆
燃料パイプ	点検・交換	○									△	126 ☆
		（作業前後点検し、燃料もれしているときは締付けバンドの締付けまたは、交換）										
燃料フィルタアッシ	交換						△	△				149
燃料噴射ノズル開弁圧	点検								○			☆
オイルフィルタカートリッジ	–	△：初回 35 時間ごと、それ以降 200 時間ごと										148
ラジエータホース	点検・交換	○									△	151 ☆
		（作業前後点検し、水もれしているときは締付けバンドの締付けまたは、交換）										
ラジエータフィン	掃除				○							148
各バンド	点検・交換						○				△	151 ☆
ラジエータネット	点検・交換	○										151
		△：破損や汚れ（目詰まり）がひどいとき										
走行・操作部												
ミッションオイル フィルタカートリッジ	交換			▲	△：100 時間ごと							128
ミッション駆動ベルト	交換	△：摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れが発生したとき										128 ☆
タイヤ	点検・交換	○										129 ☆
		△：8 mm 以上摩耗したとき										
植付部												
植付爪	点検・交換	○										129
		△：3 mm 以上摩耗したとき（植付時に苗取りができないとき）										
押出し金具	点検・交換	○										129 ☆
		△：破損や変形がひどいとき（うき苗、ころび苗、ばらけ苗が発生）										
縦送りベルト	掃除・交換	○										☆
		△：破損や摩耗がひどいとき										
しゅう動板・苗のせ台受け	点検・交換	○										132 ☆
		△：1 mm 以上摩耗したとき										
各ワイヤ	調整・交換	○										☆
		△：破損時										
施肥部												
施肥ブラシ	点検・交換	○									**R 仕様**	132
		△：摩耗がひどいとき										
ホース	点検・交換	○									**R 仕様**	103 ☆
		△：破損時										

○：点検と調整 △：交換 ▲：ならし運転後の交換

<table>
<tr><th rowspan="2">点検箇所・項目</th><th rowspan="2">点検・処置</th><th colspan="10">点検・交換時期</th><th rowspan="2">参照ページ</th></tr>
<tr><th>作業前後</th><th>シーズン前後</th><th>50 時間</th><th>100 時間</th><th>150 時間</th><th>200 時間</th><th>400 時間</th><th>1500 時間</th><th>1 年ごと</th><th>2 年ごと</th></tr>
<tr><td>ロート・ロール</td><td>掃除</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R 仕様</td><td>132</td></tr>
<tr><td rowspan="2">駆動部（ワンウエイ）</td><td rowspan="2">点検・交換</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">R 仕様</td><td rowspan="2">☆</td></tr>
<tr><td colspan="10">△：施肥量が極端に少なくなったとき</td></tr>
<tr><td>ブロワダクト吸入口</td><td>掃除</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>R 仕様</td><td>126</td></tr>
<tr><td colspan="13">電装部</td></tr>
<tr><td rowspan="2">バッテリ</td><td rowspan="2">充電・交換</td><td colspan="10">○：セルモータが回りにくい、ライトが暗いときなど</td><td rowspan="2">134</td></tr>
<tr><td colspan="10">△：バッテリ上り（セルモータが回らない）とき</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ワイヤハーネス・バッテリコード</td><td rowspan="2">点検・交換</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td rowspan="2">136
☆</td></tr>
<tr><td colspan="10">△：破損時</td></tr>
<tr><td>ヒューズ・スローブローヒューズ</td><td>交換</td><td colspan="10">△：破損時（ヒューズ切れ）</td><td>137</td></tr>
<tr><td>ランプ（電球）</td><td>交換</td><td colspan="10">△：破損時（球切れ）</td><td>138</td></tr>
</table>

- 参照ページに☆印のある整備項目の交換については、購入先に連絡または、整備工場で行ってください。

補足：

- **上表の時間は目安です。機械の使用条件や使用環境などによって、消耗部品の調整や交換時期は異なります。**
- **使用時間については、主要諸元の作業能率を参照して確認してください。**
- **外観に亀裂や破損が見られる場合は、購入先に連絡または、整備工場で交換してください。**

5. 給・注油（水）点検一覧表

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
燃料	燃料タンク	給油	作業前または、作業後	—	• 容量約 17	ディーゼル軽油	120
オイル	エンジン	補給・交換		• 初回…35 時間目 • 2 回目以降…100 時間ごと	• 規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** • 容量 …約 3.1**［6 条］** …約 3.7**［8 条］**	指定オイル スーパーマルチ GD オイルまたは、API 分類 CD 級以上	120
	ミッションケース	補給・交換	作業前または、作業後	• 初回…50 時間目 • 2 回目以降…100 時間ごとまたは、3 年経過後	• 規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** • 容量 …約 9.3	指定オイル スーパーUDT-2	121
	後車軸ケース	補給・交換	作業前または、作業後		• 規定量 オイルゲージの**下限と上限の間** • 容量 …約 5.8		122
	植付ケース	補給	作業シーズン前、後	• 初回…50 時間目 • 2 回目以降…100 時間ごと	• 規定量 200 cc～250 cc		108
水・液	冷却水（リザーブタンク）	補水	作業前または、作業後	• 2 年ごと	• 規定量 タンク側面の **LOW（下限）**と **FULL（上限）**の間 **LOW**……0.08 **FULL**……0.575	不凍液を所定の混合比にしたもの	122
グリース	植付アーム	補給	作業シーズン前、後および 50 時間ごと	—	適量	リチウムグリース JIS1 種 0 号	108 ☆
	各条クラッチ軸部		作業前、後	適宜（目安 20 時間ごと）		リチウムグリース	
	ブレーキペダル支点						
	ミッション駆動ベルトテンションプーリ支点部						
	ロータチェーンケース						
	植付ケースの金具						
	センタフロート支点部						
	油圧シリンダ支点部						
	リンク支点部						
	プロペラシャフト接続部						
	ジャバラホース内						
	フロート支点部						
	苗のせ台シュー・レール部						
	主変速レバー支点部・デテント部						
	あぜぎわクラッチレバー支点部						

（次へ続く）

種類	点検箇所	処置	点検・交換時期		容量・規定量（L）	種類	参照ページ
			点検	交換			
グリース	あぜぎわクラッチレバーピン回動部	補給	作業前、後	適宜（目安 20 時間ごと）	適量	リチウムグリース	108 ☆
	施肥機駆動部 **[R 仕様]**						
	リンクボール部（ブーツ内部）**[R 仕様]**						
	縦送りカムローラ部						
	苗のせ台縦送りあぜぎわクラッチ部						
	横送りコマホルダのグリースニップル						
	横送りステー						
	全条停止レバー支点部 **[R 仕様]**						108
	モンローユニット部						
	ロータ用電動モータ部						
	センサ支点部						
	マーカ用電動モータ部						
	各条クラッチ部 **[R 仕様]**						
	ローラクラッチ部 **[R 仕様]**						
	爪クラッチ部 **[R 仕様]**						
	苗のせ台受け・しゅう動板						
	サスペンションアッパーリンクとサスペンションロアリンクの支点部（８箇所）						
	リヤサスペンションロッド支点部（２箇所）（8 条のみ）						
	各条復帰ロッド回動部、しゅう動部 **[R 仕様]**						
	施肥フレーム回動部 **[R 仕様]**						
	施肥ホース着脱部 **[R 仕様]**						

- 参照ページに☆印のある整備（分解作業）については、購入先に連絡してください。

重要：

各部への補給と交換

- **点検するときは、機械を平たんな場所において行ってください。傾いていると正確な量を示しません。**
- **エンジンオイル量の点検は、エンジン停止後、5 分以上経過してから行ってください。**
- **ミッションケース・後車軸ケースは、使用開始から 50 時間に満たない場合でも、3 年経過後オイル交換をしてください。**
- **使用するオイル・グリースは、指定のオイル、グリースを使用してください。**
- **補給や交換の際は、ゴミや水が混入しないようにしてください。**

補足：

- **使用時間については、アワメータの表示を参照して確認してください。**

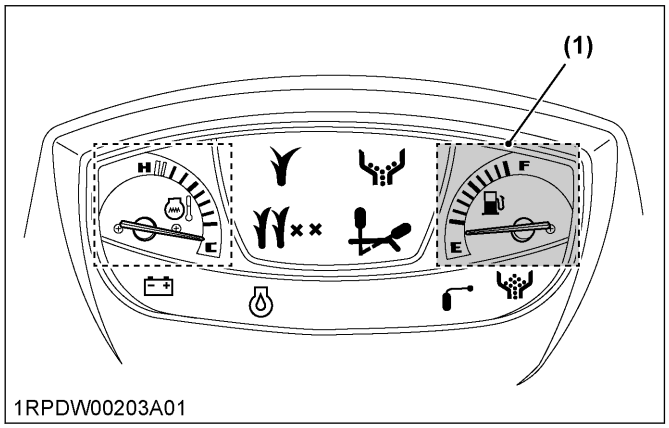
6. 燃料・オイルの点検・補給・交換

⚠ 警告
- **燃料やオイル補給中は火気厳禁です。**
- **エンジン停止直後は、エンジン周りや各部オイルが熱くなっているため、引火火災やヤケドをするおそれがあります。**
- **メンテナンスなどを行うときは、エンジンやエンジンオイルがじゅうぶん冷えていることを確認してから、作業を行ってください。**

重要：
- **補給・交換を行うときは、機械の故障の原因となりますので次記事項を守ってください。**
- **廃油は使用しないでください。**
- **給油口やその周辺からゴミなど異物や水の混入を防ぐため掃除してください。**
- **使用するオイルは三菱農業機械純正油・グリースを推奨します。**
- **点検するときは機体を水平な場所に置いて行ってください。傾いていると正確な量を示しません。**

6.1 燃料の点検・補給

燃料計の表示が**[E]**（空）になる前に早めに燃料を補給してください。



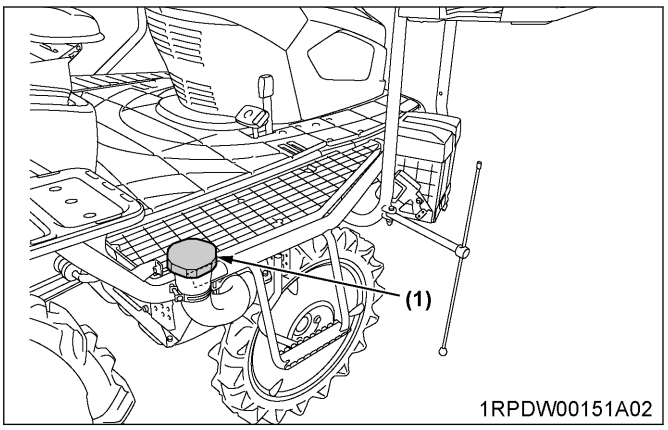
(1) 燃料計

重要：
- **燃料は、ディーゼル軽油を必ず使用してください。また、次記のような燃料は使用しないでください。エンジンがかからなかったり、エンジンの不調や故障の原因になります。**
  - **ゴミや水など異物の混ざった燃料**

6.1.1 燃料の給油

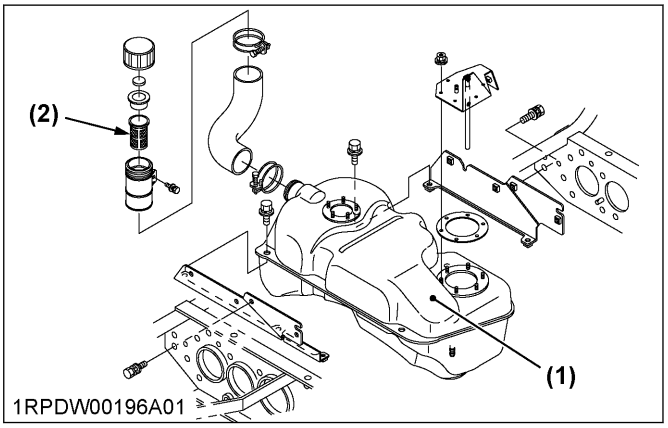
燃料を給油するときは平たんな場所でエンジンを止め、燃料キャップを外してください。

燃料の種類	燃料タンクの容量
ディーゼル軽油	約 17 L



(1) 燃料キャップ（給油口）

重要：
- **給油口の燃料こしあみは外さないでください。燃料タンクにゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。**



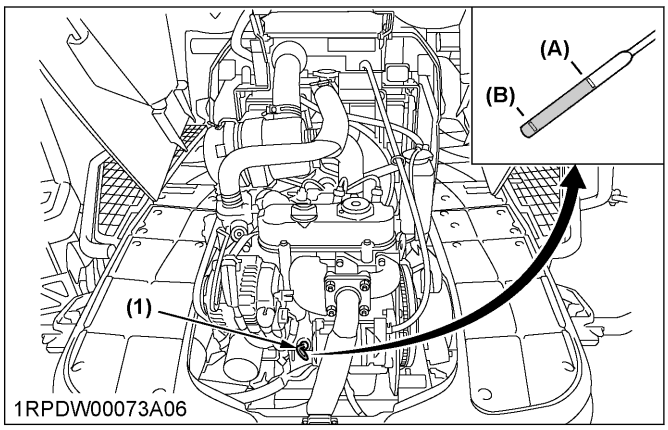
(1) 燃料タンク
(2) 燃料こしあみ

補足：
- **燃料の補給後は、燃料キャップを確実に取り付けてください。燃料キャップの締忘れや締付け不足があると、燃料キャップが脱落するおそれがあります。**

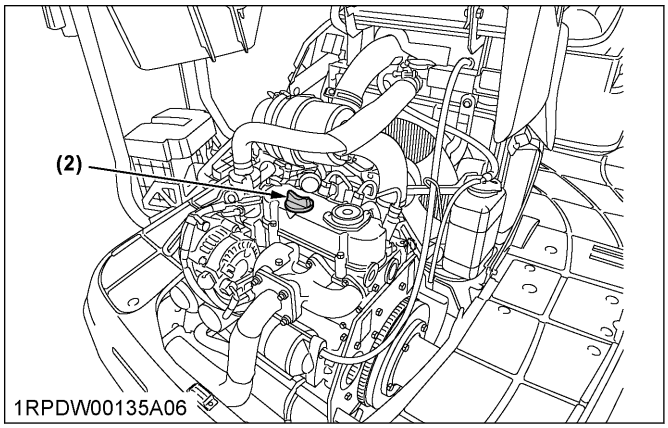
6.2 エンジンオイルの点検・補給・交換

点検・補給

ボンネットを開いたあと、オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



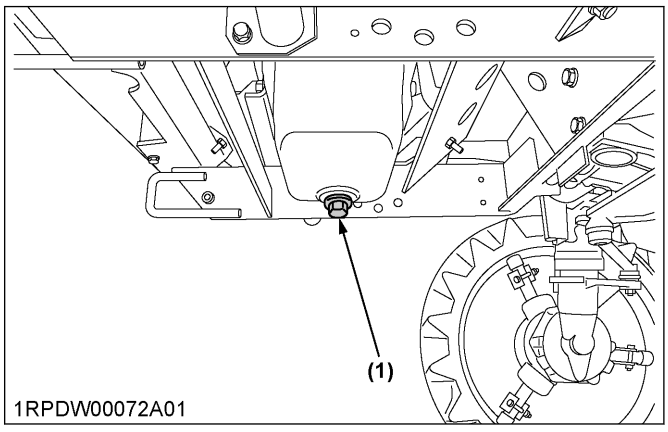
(1) オイルゲージ
(A) 上限
(B) 下限



(2) 給油栓（給油口）

交換

排油のしかた
給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。



(1) 排油プラグ（排油口）

給油のしかた
排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んでください。

重要：
- **エンジンオイルを補給･交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとエンジンの故障の原因となります。**
- **指定以外のオイルは使用しないでください。指定以外のオイルを使用すると、出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因となります。**

オイルの種類	規定オイル容量
指定オイル スーパーマルチ GD オイル	約 3.1 L **[6 条]** 約 3.7 L **[8 条]**

- **指定のオイルの入手が困難な場合は CD 級以上のオイルをお使いください。この場合は気温により下表のように使い分けてください。**

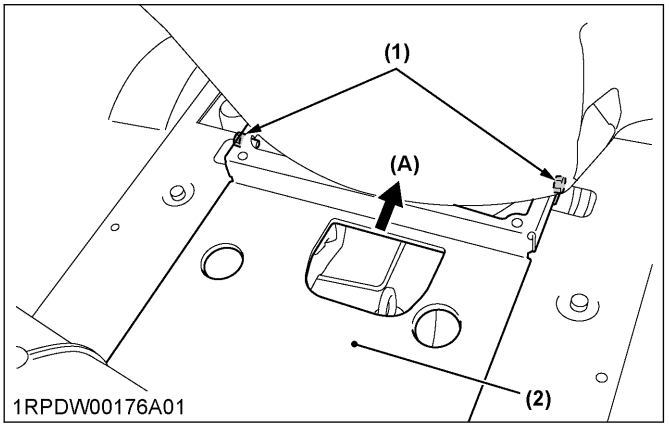
気温	オイルの種類
0 ℃以下	SAE10W または 10W-30
0 ℃～25 ℃	SAE20 または 10W-30
25 ℃以上	SAE30 または 10W-30

※10W-30 はオールシーズン用です。

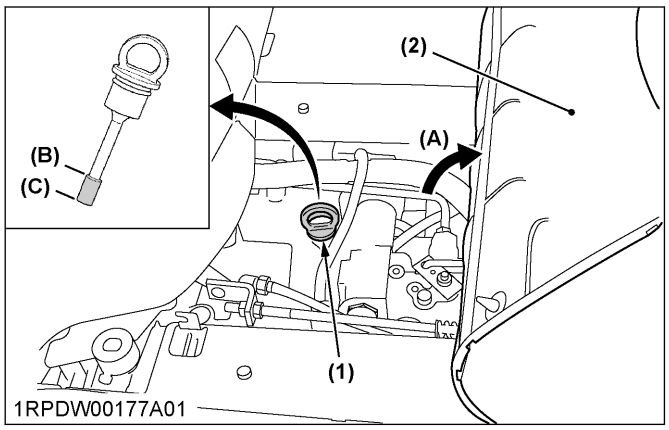
補足：
- **排油プラグを取り外すと、排油プラグに取り付けているガスケットが変形や損傷している場合があります。**
  ガスケットが変形や損傷していると、オイル漏れの原因となるため、購入先に連絡して新しいガスケットに交換してください。

6.3 ミッションオイルの点検・補給・交換

点検・補給
植付部を下降させたあと、副変速レバーを**[圃場作業]**位置にします。そのあと、ステップ前方にあるゴムカバーをめくり、M6 ボルトを取り外してカバーをいったん前方に引出し、フックを外して後方に引きオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込み、いっぱいまで押込んでから抜き、ゲージの**上限**と**下限**の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



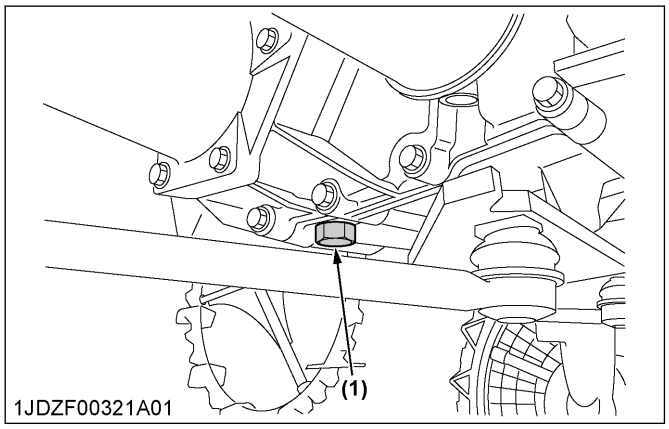
(1) *M6* ボルト
(2) カバー
(A) 前方に引出し取り外す



(1) オイルゲージ（給油口）
(2) ゴムカバー
(A) めくる
(B) 上限
(C) 下限

交換

排油のしかた
給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。



(1) 排油プラグ（排油口）

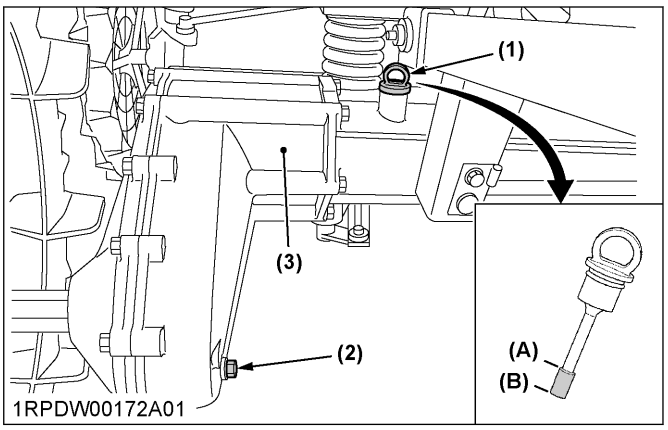
給油のしかた
排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル量
指定オイル スーパー UDT-2	約 9.3 L

重要：
- **給油したあとエンジンを約 1 分程度回転させて再度点検を行い、不足しているときはオイルを追加補給してください。**

6.4 後車軸ケースオイルの点検、補給、交換

点検・補給
オイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき取ります。もう一度差し込んでから抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか点検します。不足しているときは、給油口から規定量になるまで給油してください。さらに、油もれのないことも調べてください。



(1) オイルゲージ（給油口）
(2) 排油プラグ（排油口）
(3) 後車軸ケース
(A) 上限
(B) 下限

交換

排油のしかた
給油栓を外してから、排油プラグを外し、オイルを排出してください。

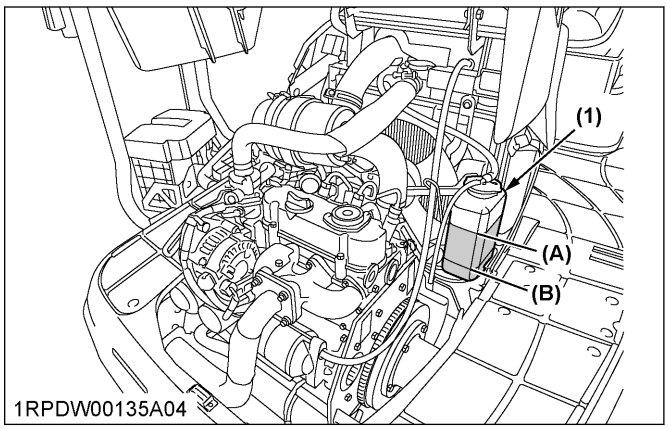
給油のしかた
排油プラグを締付けて、給油口から規定量のオイルを給油し、オイルゲージを差込んでください。

オイルの種類	オイル容量
指定オイル スーパー UDT-2	約 5.8 L

7. ラジエータ冷却水の点検・交換

⚠ 警告
- **ラジエータキャップやリザーブタンクは、エンジン運転中および停止直後に開けると、熱湯が噴出することがありますので、エンジン停止後じゅうぶん冷えてからにしてください。**
- **異なるメーカの不凍液を混用しないでください。**

点検
ボンネットをオープンしたあとリザーブタンクの水量が**[LOW]**（下限）と**[FULL]**（上限）の間にあるか確かめます。**[LOW]**（下限）の線より下にあるときは、リザーブタンクのキャップを外して清水を補給してください。

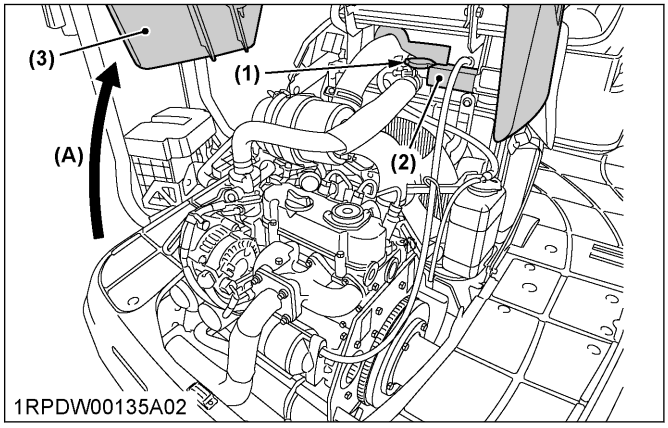


(1) リザーブタンク
(A) *FULL*（上限）
(B) *LOW*（下限）

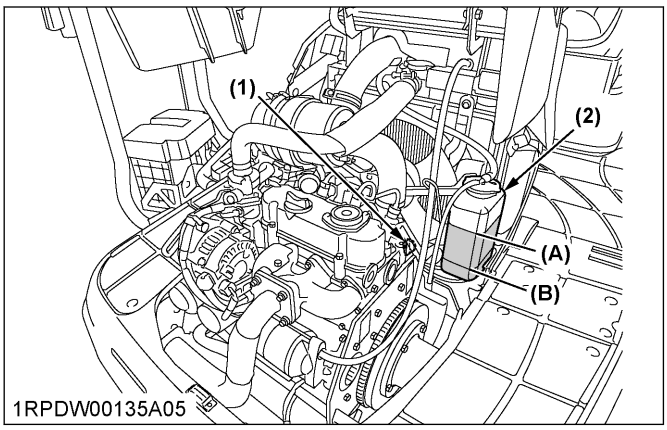
重要：
- **冷却水が自然に不足したときは、必ず所定の混合比率の不凍液を補給してください。不凍液（原液）を補給すると濃度が濃くなりエンジンやラジエータの故障の原因となります。**

補足：
- **[FULL]（上限）の線以上は補給しないでください。**

交換
1. ラジエータの冷却水は排水プラグを外したあと、ラジエータキャップを外して排水します。
2. リザーブタンクの冷却水はタンクのキャップ（吸引パイプ付）を取り外したあと、ステーからリザーブタンクを外して排水します。
3. 水道水でゴミやさびが出なくなるまで洗います。



(1) ラジエータキャップ
(2) ラジエータ
(3) ボンネット
(A) 開ける



(1) 排水プラグ（排水口）
(2) リザーブタンク
(A) *FULL*（上限）
(B) *LOW*（下限）

4. 排水プラグを締付けたあと、目標温度（外気温）の比率分（混合比）の不凍液をラジエータおよびリザーブタンクに入れます。

重要：
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**
- **排水プラグを締め忘れると水もれが発生するおそれがあります。**

補足：
- **不凍液混合比は、寒冷地ほど高くなります。購入先に相談して、次表を参照して混合比を決めてください。また、不凍液はエチレングリコール（EG）タイプのロングライフクーラントをご使用ください。**

不凍液混合比率表

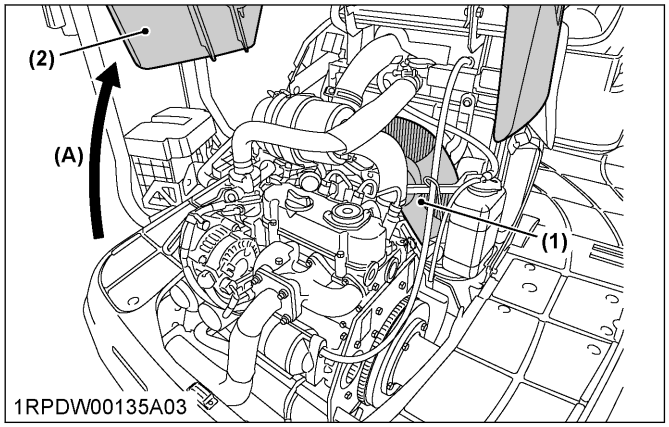
外気温（℃）		-11.5	-15	-20	-25	-30	-35	-40
比率	水（%）	75	70	65	60	55	50	45
	不凍液（%）	25	30	35	40	45	50	55

- **出荷標準不凍液 50 %**
- **ラジエータ容量…約 2.5 L（エンジン内含む）**
- **新しい冷却水と交換を行ったあとは、必ず不凍液を入れて、5 分間エンジンを空回転し、不凍液の混合を早めてください。そのあと、リザーブタンクの水量を確かめておいてください。**

5. ラジエータキャップおよびリザーブタンク、キャップを取り付けます。

8. ラジエータフィンの掃除

ボンネットをオープンしたあとに、圧縮空気を使用するなどしてラジエータ部およびエンジンに付着しているごみや泥などを掃除してください。



(1) ラジエータフィン *(A)* 開ける
(2) ボンネット

重要：

- **ヘラやドライバなどかたいものを使用して、ラジエータフィンは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め、ラジエータの機能を低下させる原因になります。**
- **エンジンの不調または、故障の原因となりますので、水を掛けないでください。**

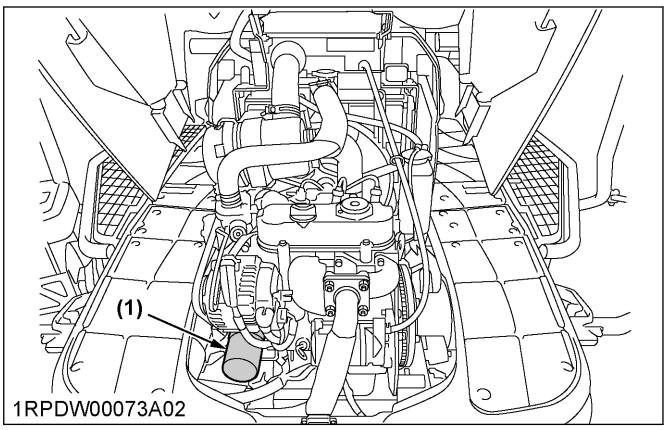
9. エンジンオイルフィルタカートリッジの交換

エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときは、エンジンオイルの交換（120 ページ参照）と同時に交換してください。交換するときは、エンジンルームをオープンしてください。

1. 専用工具を使ってエンジンオイルフィルタカートリッジを取り外します。

   補足：
   - **取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。**

2. 新しいエンジンオイルフィルタカートリッジを取り付けます。
3. オイルゲージの上限線までエンジンオイルを補給したあと、5 分程度エンジンを運転して各部および油圧（オイルランプ）に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。



(1) エンジンオイルフィルタカートリッジ

重要：

- **新しいエンジンオイルフィルタカートリッジはOリングにエンジンオイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。**
- **エンジンオイルフィルタカートリッジを交換するときに、ごみなどの異物が混入するとフィルタの目詰まりが早くなったり、エンジンの故障の原因となります。**

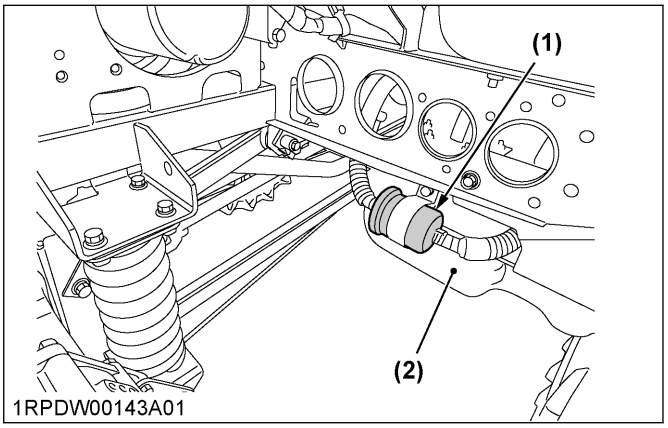
補足：

- **エンジンオイルフィルタカートリッジを交換すると、エンジンオイルフィルタカートリッジに入る量だけエンジンオイルの油面が下がります。**

10. 燃料フィルタアッシの交換

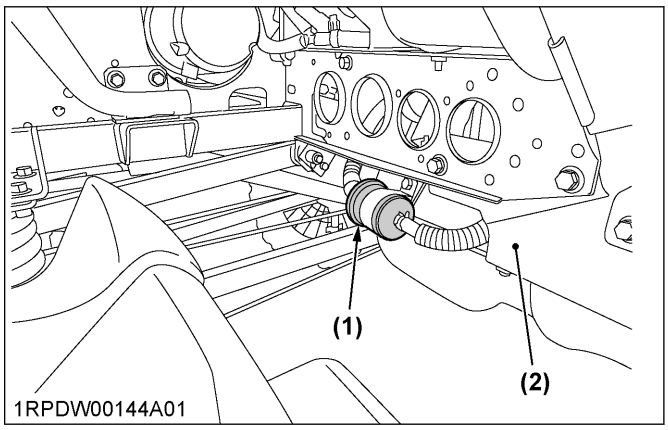
運転時間が 200 時間ごとに燃料フィルタアッシを交換してください。燃料フィルタアッシは燃料タンクの後側にあります。

※イラストは［6 条］



(1) 燃料フィルタアッシ
(2) 燃料タンク

※イラストは［8 条］



(1) 燃料フィルタアッシ
(2) 燃料タンク

重要：
- **燃料フィルタアッシを組み付けるとき、ごみやほこりが付着しないように注意してください。**

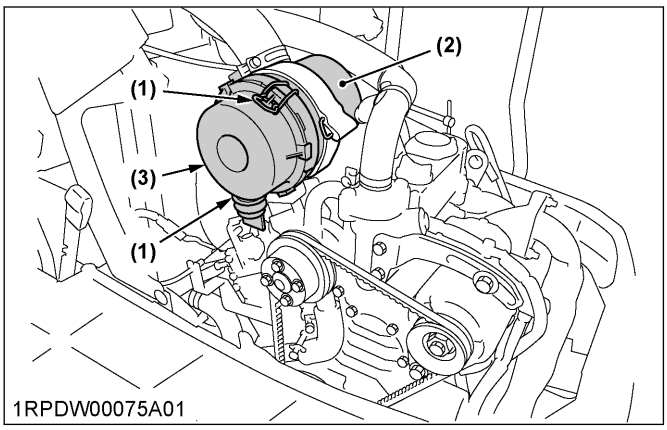
補足：
- **燃料フィルタアッシを組み付けるとき、組み付ける方向を間違えないように注意してください。**
- **フィルタ下部に水が溜まっているときは、早目に交換してください。**
- **燃料タンクにごみなどの異物や水が混入すると、フィルタの目詰まりが早くなったり、フィルタ内に水が溜まりやすくなりエンジンの故障の原因となります。**
- **交換後は、メインスイッチのキーを[運転]位置にすると 5～10 秒で自動的にエア抜きされます。**

11. エンジンバルブクリアランスの点検

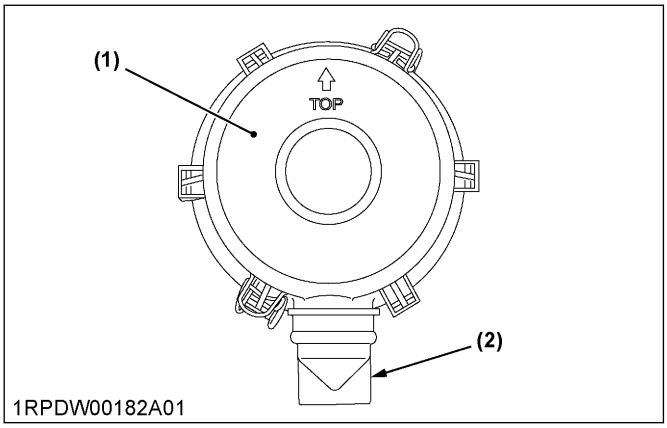
運転時間が 800 時間ごとに購入先で点検および交換をしてもらってください。

12. エアクリーナエレメントの点検・掃除・交換

ボンネットをオープンし、クランプ 2 か所を外してダストカップを取り外してください。ダストカップ内側のごみはエバキュエータバルブをつまんで取除いてください。

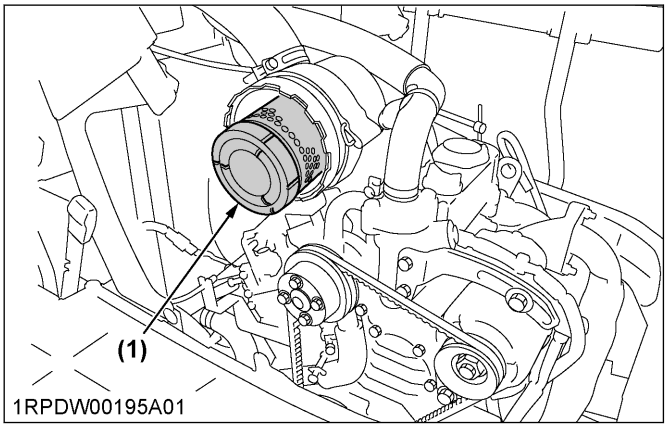


(1) クランプ
(2) エアクリーナ
(3) ダストカップ



(1) ダストカップ
(2) エバキュエータバルブ

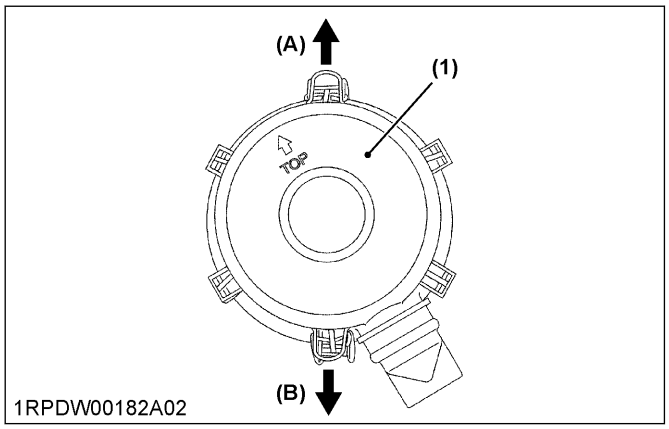
点検・掃除・交換
エレメントの点検を行い、掃除または、交換を行ってください。エレメントの掃除は、エレメントの内側から空気を吹きつけるか、または軽く振ってごみを取除いてください。汚れのひどい場合は、交換してください。



(1) エレメント

重要：
- **高性能サイクロン併用乾式エレメントを使用していますので、オイルを使用しないでください。**
- **エアクリーナにほこりが詰まったまま運転すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンオイルが異常に消耗または劣化し、エンジントラブルの原因と**

なります。点検は運転前に欠かさず行ってください。
- **エレメントは傷がつかないように取り扱ってください。特に掃除前は、たたいたりかたい物に当てて変形させるとエンジンの故障の原因となりますのでしないでください。**
- **エレメントを取り付けたあと、ダストカップの取付け方向に注意してください。**



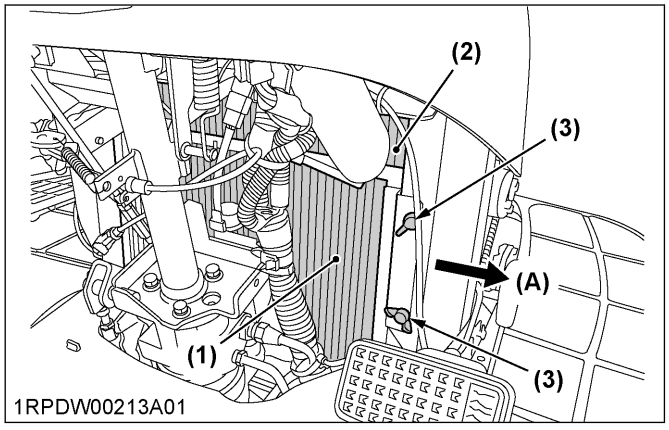
(1) ダストカップ
(A) 上側
(B) 下側

- **エレメントを掃除する場合、エアの圧力は 205 kPa（2.1 kgf/cm^2）をこえないよう注意し、エアーガンのノズルとエレメントの間は適当にあけてください。また、エアはエレメントの内側から外側に通してください。**

13. ラジエータネットの点検・掃除・交換

掃除

1. ボンネットをオープンしたあと、リヤカバーを外します。（詳細はリヤカバーの脱着（99 ページ）を参照）
2. 蝶ボルト 2 本を外し、横からネットを取り出します。



(1) ラジエータネット
(2) ラジエータフィン
(3) 蝶ボルト
(A) 引く

補足：
- **ラジエータネットは蝶ボルトを取外し、右側に引くと取外せます。**

3. 圧縮空気を使用するなどしてラジエータネット、ラジエータ部およびエンジンに付着しているごみ、泥などを掃除します。

重要：
- **ヘラ、ドライバなどかたいものを使用して、ラジエータフィンは掃除しないでください。ラジエータフィンを傷め、ラジエータの機能を低下させる原因になります。**
- **エンジンの不調または、故障の原因となりますので、水を掛けないでください。**

交換

破損や汚れがひどいときは交換してください。

14. パイプ・ホース類の点検・交換

⚠ 警告
- **運転中ラジエータホースが外れると熱湯が吹き出し、ヤケドをするおそれがあるため、ホースの点検・交換を行うときは、バンドの締付けを行ってください。**
- **燃料系ゴムホースが破損していると燃料もれを起し火災の原因となります。**

点検

エンジン、ラジエータ、燃料タンク各部にある各パイプやホースを点検し、油もれや水もれが発生しているときは、パイプやホースの交換やバンドを締付けてください。

重要：
- **油もれや水もれをしていなくても、2 年経過しているときや劣化の激しい場合は交換してください。**

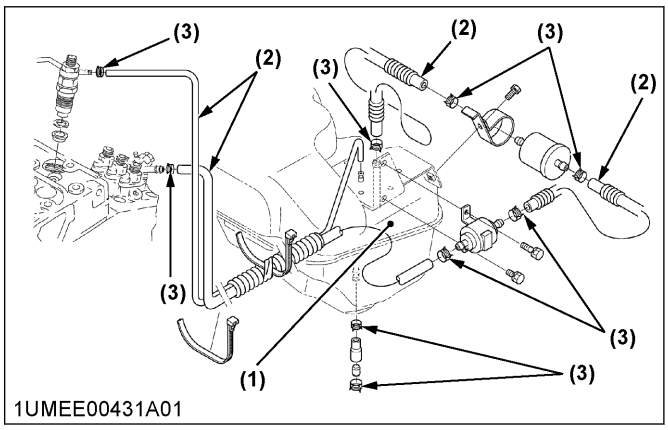
交換

交換時の取付不良やバンドの締付忘れ、締付不足がないよう取り付けてください。

重要：
- **交換時にパイプや噴射ポンプなどにゴミが入らないように注意してください。**

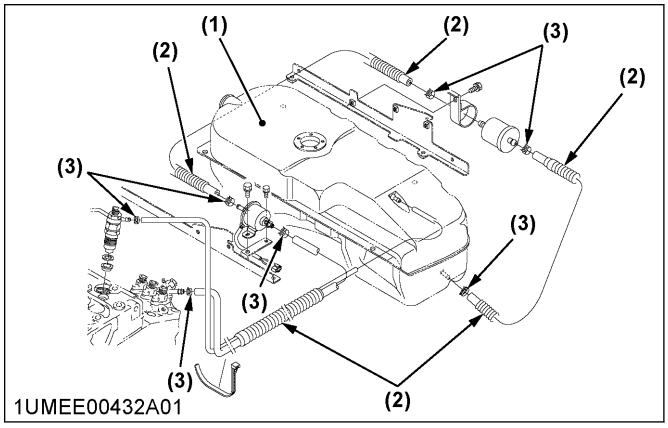
補足：
- **交換のしかたなどについては、購入先にご相談ください。**

燃料パイプ［6 条］



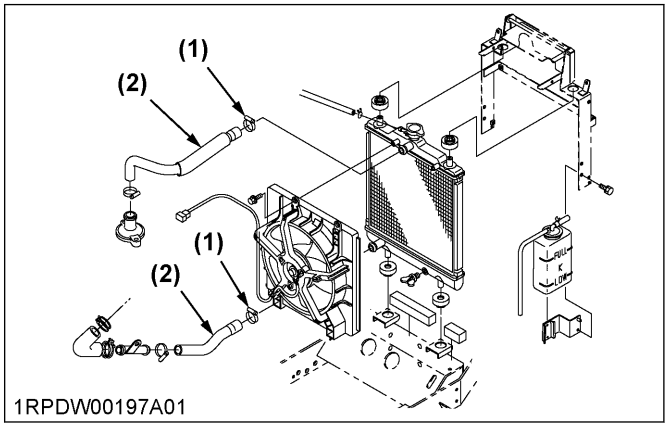
(1) 燃料タンク
(2) 燃料パイプ
(3) バンド

燃料パイプ［8 条］



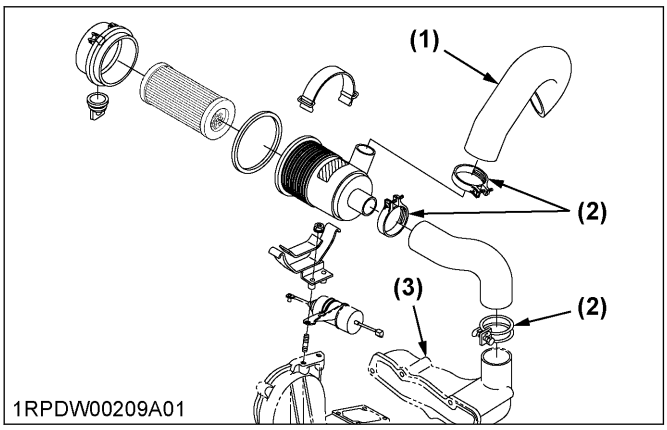
(1) 燃料タンク
(2) 燃料パイプ
(3) バンド

ラジエータホース



(1) 各バンド
(2) ラジエータホース

エアクリーナ

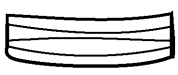
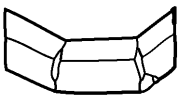


(1) インレットパイプ
(2) バンド
(3) インレットマンホールド

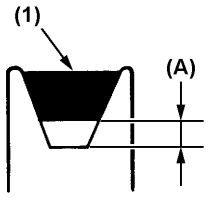
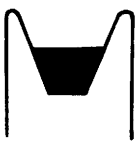
15. 各部ベルトの点検・調整

各部のベルトを点検するときは、次記の事項をよく確認してください。

- ベルトの焼付きや摩耗、被覆のはがれ、き裂やひび割れ

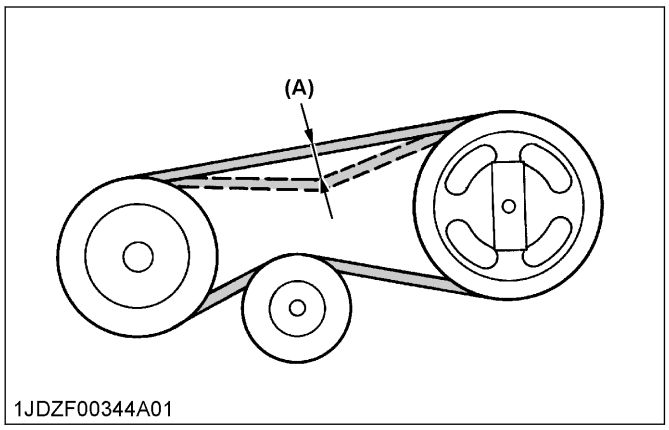
焼付きや摩耗	被覆のはがれ	き裂やひび割れ
×	×	×
		
1GAGG00441A01	1GAGG00442A01	1GAGG00443A01

- ベルトの底部とプーリ溝部のすき間

○	×
	
1GAGG00444A04	1GAGG00445A02

(1) ベルト
(A) すき間

- ベルトの伸び（たわみ量）



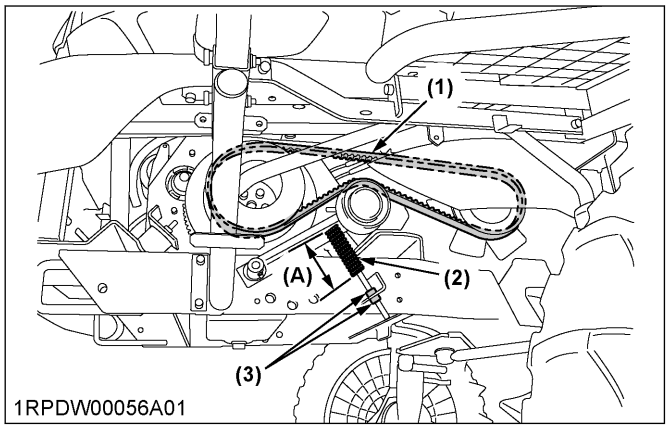
(A) たわみ量

前の事項を確認したとき、異常があればベルト交換または、ベルトの張り調整を行ってください。ベルトの交換は購入先へ連絡して修理を依頼してください。

重要：
- **ベルトは必ず三菱指定のものを使用してください。**

15.1 ミッション駆動ベルトの点検

圧縮スプリングの長さを 79 mm～81 mm に調整します。
1. 調整ナット 2 個をゆるめて調整を行います。
2. 調整ナットを締付けます。

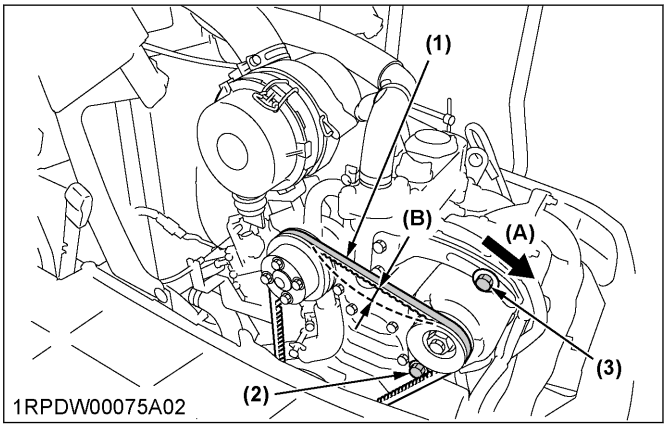


(1) ミッション駆動ベルト *(A) 79 mm～81 mm*
(2) 圧縮スプリング
(3) 調整ナット

15.2 オルタネータ駆動ベルトの点検・調整

指先でベルトの中央部を押したとき（約 60 N～70 N{約 6 kg～7 kg} の荷重）のたわみ量を 5 mm～10 mm に調整します。

1. ボンネットをオープンします。
2. オルタネータの取付ボルトと調整ボルトをゆるめます。
3. オルタネータを引っ張ります。
4. 調整ボルトを締め付けたあと、取付ボルトを締め付けます。



(1) オルタネータ駆動ベルト *(A)* 引く
(2) 取付ボルト *(B)* たわみ量 *5 mm～10 mm*
(3) 調整ボルト

5. ボンネットを閉じます。

16. ミッション油圧オイルフィルタカートリッジの交換

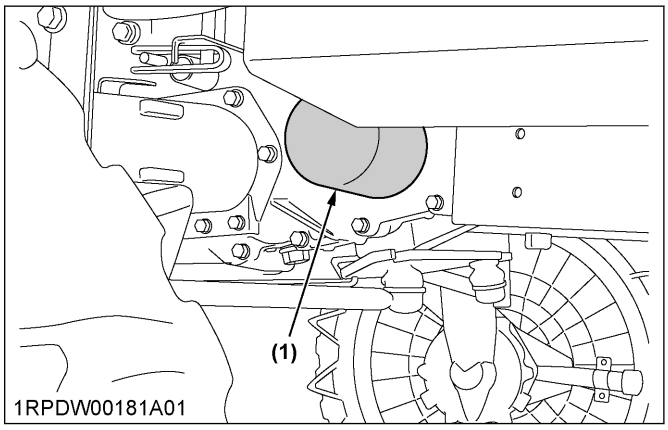
1. 植付部を降ろします。
2. ミッションオイルを排出します。
（詳細はミッションオイルの点検・補給・交換（121 ページ）を参照）
3. 専用工具を使ってミッション油圧オイルフィルタカートリッジを取り外します。

補足：
- **取外しかたや専用工具については、購入先にご相談ください。**

4. 新しいミッション油圧オイルフィルタカートリッジはOリングにミッション油圧オイルを薄く塗布してから、フィルタレンチを使用せず手で締付けてください。

5. オイルゲージの上限線までミッションオイルを補給したあと、5 分程度エンジンを運転して各部に異常がないことを確認してから、エンジンを止め、再度油面がオイルゲージの規定内にあることを確めておいてください。

補足：
- **ミッション油圧オイルフィルタカートリッジを交換すると、ミッション油圧オイルフィルタカートリッジに入る量だけミッションオイルの油面が下がります。**



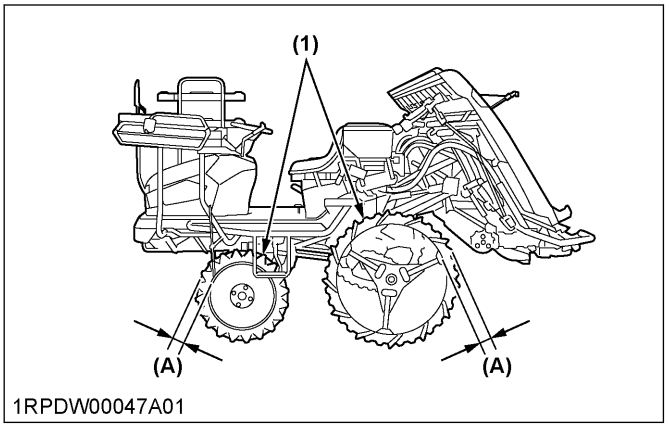
(1) ミッション油圧オイルフィルタカートリッジ

重要：
- **ミッションオイルを交換するときに、ゴミなどの異物が混入するとミッションオイルフィルタの目詰まりが早くなったり、ミッションの故障の原因となります。**
- **給油したあとエンジンを約 1 分間以上負荷をかけずに回転させて、オイルゲージで点検を行い、下限より少ないときは、ミッションオイルを追加補給してください。**

17. タイヤの点検

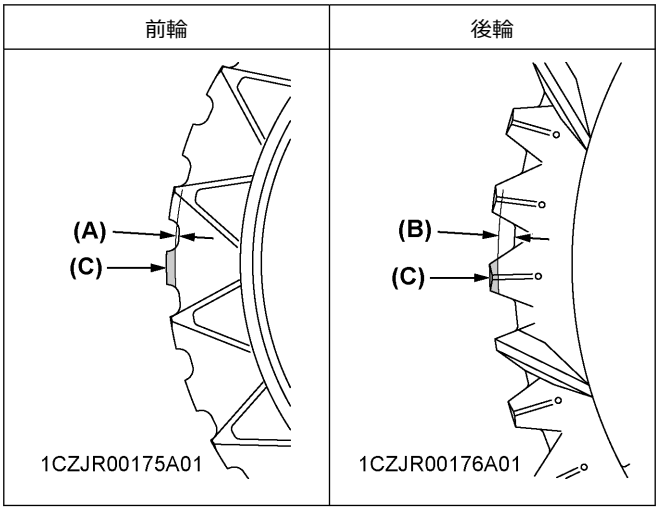
⚠ 警告
- **タイヤが摩耗するとスリップを起こしやすくなるため、あゆみ板の上などで脱輪して転倒するおそれがあります。**

前輪・後輪ともにタイヤの摩耗や破損（ひび割れなど）を点検し、8 mm 以上摩耗している場合や、破損がひどい場合は、購入先に連絡して交換してください。



(1) タイヤ　　*(A)* 摩耗量

タイヤ(1)表面拡大図



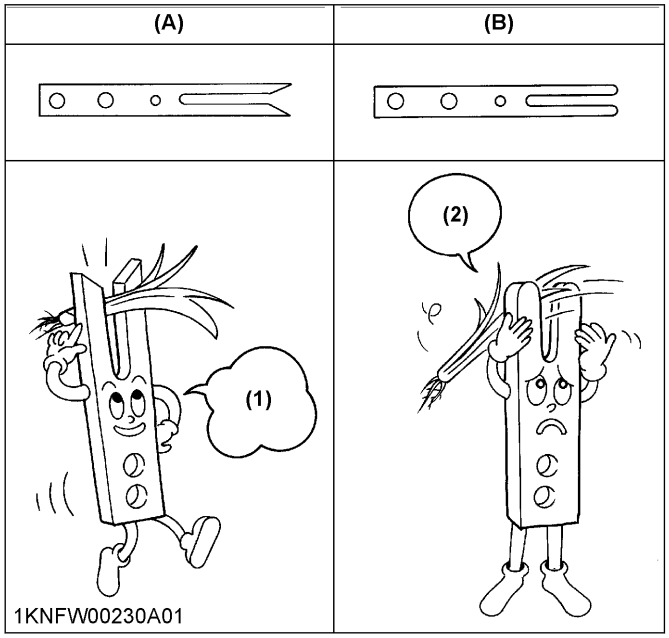
(A) 残り 2 mm
(B) 残り 13 mm
(C) 摩耗量 8 mm 以内

18. 植付爪・押出し金具の点検・調整・交換

⚠ 警告
- **植付爪に接触すると手を傷つけるおそれがあるので、植付爪の交換・調整・清掃、苗取出し口の異物の除去、残り苗の取出しなどを行うときは、エンジンを必ず止めてください。**

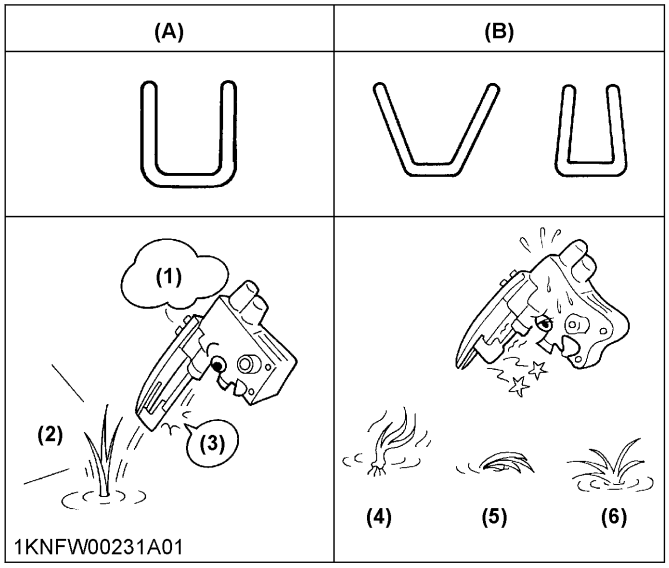
植付爪が摩耗や破損すると、苗の取出しができなくなるため、植付不良となり、押出し金具が変形や破損をすると、うき苗・ころび苗・ばらけ苗などの植付不良となりますので、定期点検をよく行ってください。

植付爪



(1) ナイスキャッチ！
(2) ポロッ
(A) 使用可能
(B) 交換必要

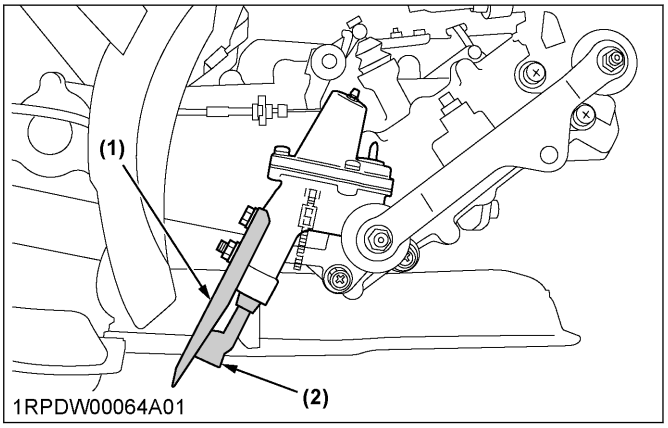
押出し金具



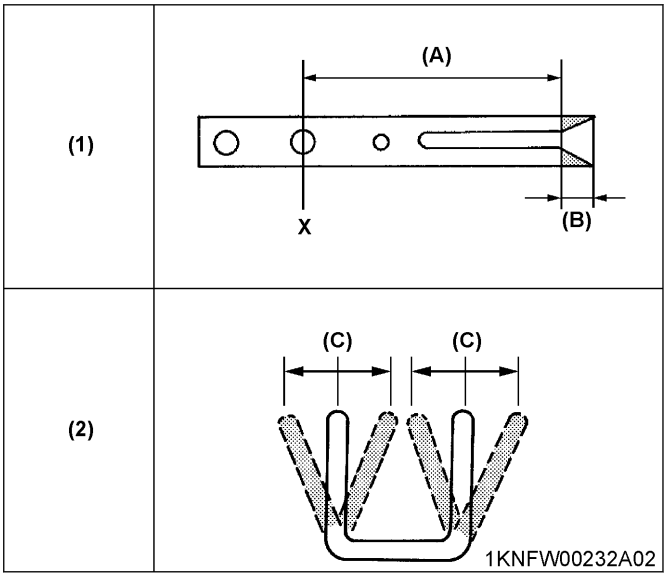
(1) エイッ！
(2) シャキッ！
(3) ポン
(4) うき苗
(5) ころび苗
(6) ばらけ苗
(A) 使用可能
(B) 交換必要

植付爪・押出し金具の点検

1. 機体を平たんな場所に止めて、駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止します。
2. 植付爪の摩耗状態や押出し金具の変形状態を確認します。
3. 植付爪の摩耗状態が 3 mm 以内のときは、苗取ゲージで高さ調整を行い、3 mm 以上（X 位置から残り 80 mm）摩耗しているときは交換してください。また、押出し金具の変形量により、押出し金具の押出し確認または、購入先に連絡して交換してください。



(1) 植付爪
(2) 押出し金具

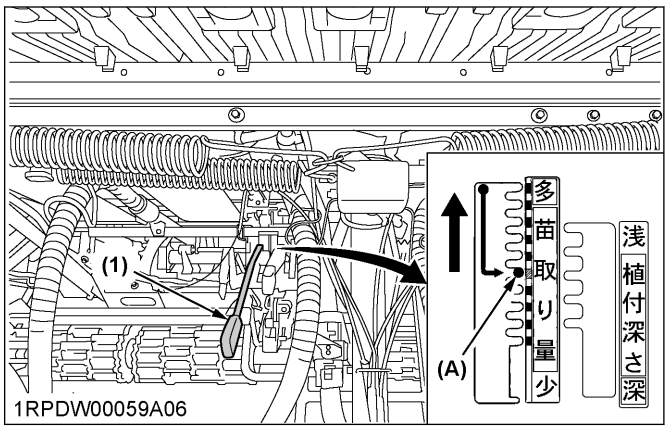


(1) 植付爪
(2) 押出し金具（正面図）
(A) *80 mm*
(B) 摩耗量：*3 mm* 以下
(C) 変形

植付爪の調整

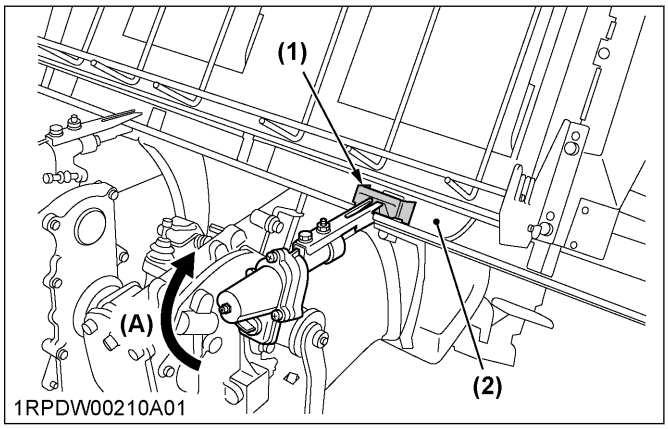
1. エンジンを始動したあと、十字ポンパレバーを操作して植付部を上昇したあと、少し植付部を下げ、油圧ロックレバーを**[閉]**位置にし、植付部の下降防止を行います。
2. 十字ポンパレバーを下側に 2 回操作して、植付部の駆動を準備したあと、エンジンを停止します。

   補足：
   - **植付部が最上昇にあると植付クラッチが入らないため、植付爪を手で回すことができなくなります。**
3. 苗取量調節レバーをいったん一番上まで動かしたあと、**[多]**い方から 6 段目の切欠溝にセットします。



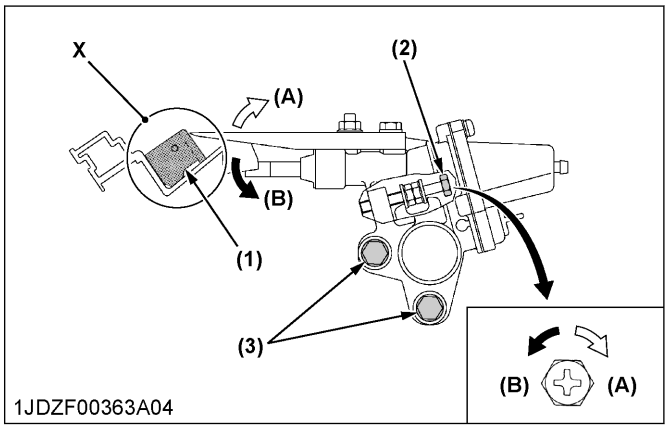
(1) 苗取量調節レバー　　*(A)* 上から 6 番目

4. しゅう動板の切欠部に苗取ゲージを図のようにセットし、植付爪がゲージに当たるまで手で回します。



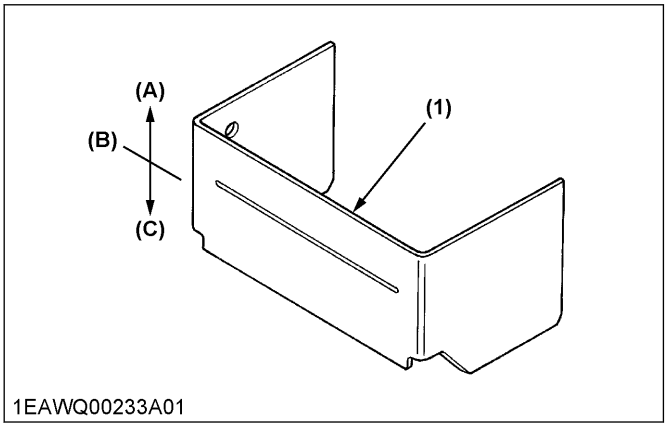
(1) 苗取ゲージ　　*(A)* 回す
(2) しゅう動板

5. 植付アームの締付ボルト 2 本をゆるめます。
6. 植付爪を苗取ゲージに軽く接触させ、上下方向に爪を動かすとガタがあるため、爪を上に持上げた状態で爪高さ調節ボルトをドライバやスパナで右または、左に回して爪の先端を苗取ゲージの**[苗取量 13]**（13 mm）の線に合わせます。

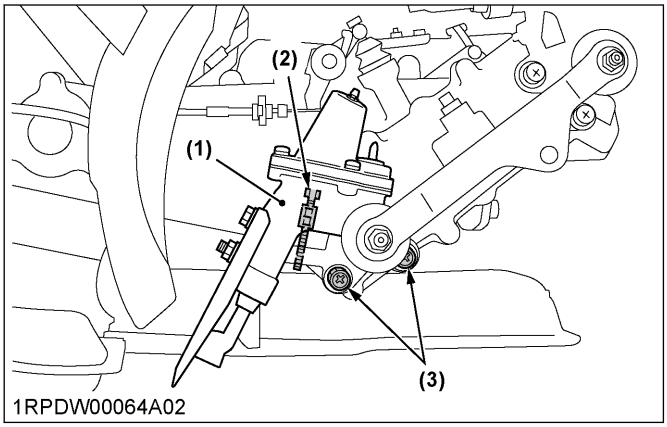


(1) 苗取ゲージ　　*(A)* 爪下がる
(2) 爪高さ調節ボルト　　*(B)* 爪上がる
(3) 締付ボルト

X 部拡大図



(1) 苗取ゲージ　　*(A)* 苗取量：***[多]***
(B) 苗取量：*13 mm*
(C) 苗取量：***[少]***



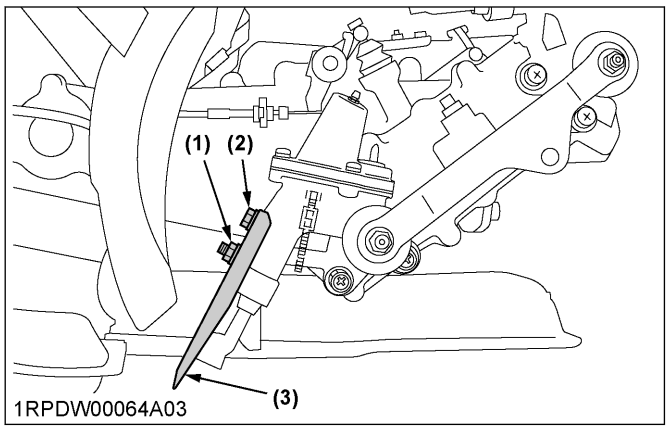
(1) 植付アーム
(2) 爪高さ調節ボルト
(3) 締付ボルト

7. 植付けアームの締付ボルト 2 本を締付けたあと、爪高さ調節ボルトを軽く締付けます。
8. 植付爪を回転させたあと、もう 1 つの植付爪も同じ要領で調節します。

補足：
- **他の植付爪も同じ要領で行ってください。**

植付爪の交換

1. **植付爪の調整**の 1.と 2.を行います。
2. 植付爪を取り付けているボルトとナットを取り外します。



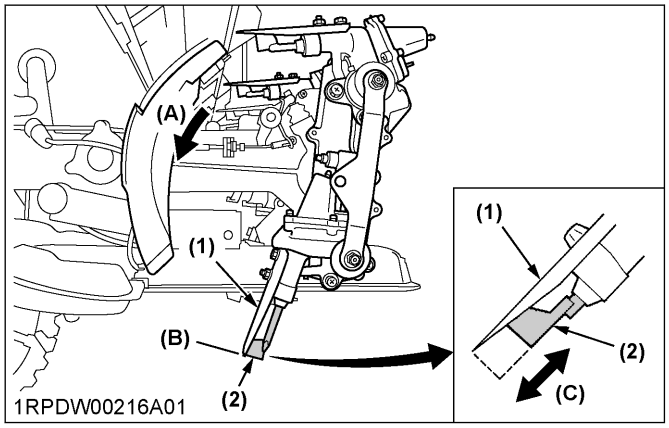
(1) ナット
(2) ボルト
(3) 植付爪

3. 新しい爪と交換します。

補足：
- **植付爪は、常に 1 台分の予備を準備しておいてください。**

4. ボルトとナットを締付けます。
5. **植付爪の調整**の 3.～8.を行って爪の高さ調節を行います。

押出し金具の動作確認
1. **植付爪の調整**の 1.と 2.を行います。
2. 植付爪を手で回して、最下端のときに押出し金具と植付爪のそれぞれの先端が揃っていることを確認します。

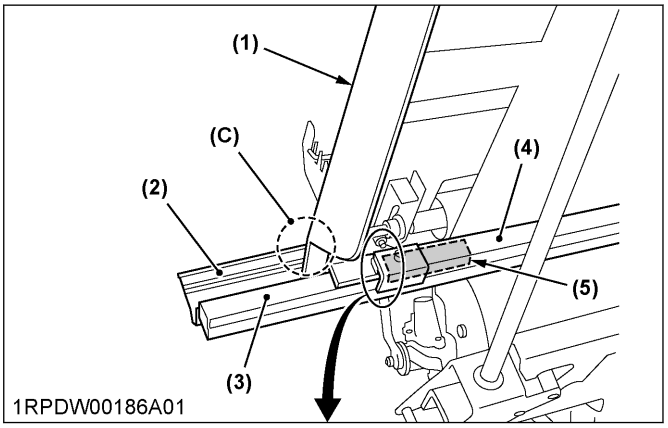


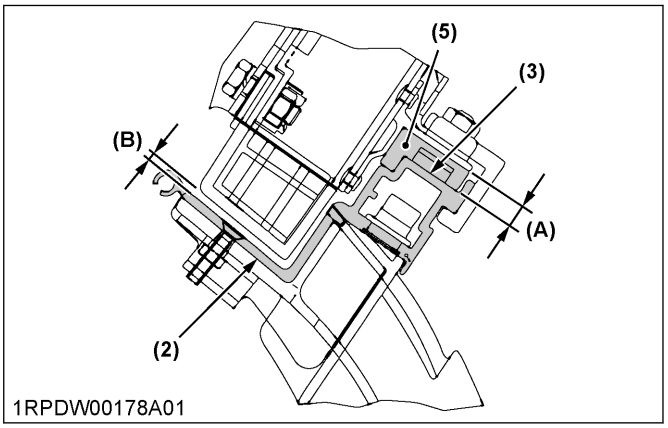
(1) 植付爪
(2) 押出し金具
(A) 回す
(B) 揃っていること
(C) 軽く動くこと

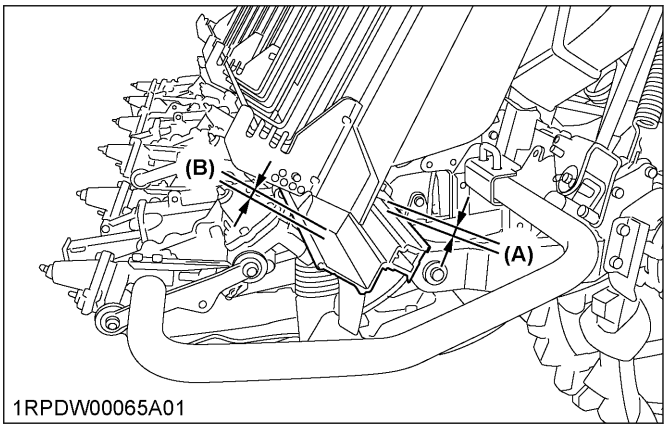
3. 押出し金具の変形や破損で動かないときは、購入先に連絡して交換してください。

19. 苗のせ台のしゅう動板と受けの点検

苗のせ台のしゅう動状態が悪くなると、正常な植付作業が行えないおそれがありますので点検してください。
点検
しゅう動板上面と苗のせ台受けの入っているしゅう動フレーム終端のすき間を測り、6 mm 以下のときは苗のせ台としゅう動板下面が接触しますので購入先に連絡してください。





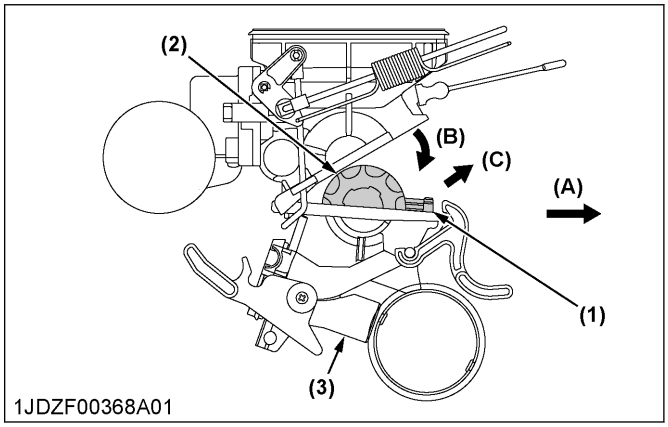


(1) 苗のせ台
(2) しゅう動板下面
(3) しゅう動板上面
(4) しゅう動フレーム
(5) 苗のせ台受け
(A) すき間：*6 mm* 以下は連絡する
(B) すき間：接触したら連絡する
(C) 接触しないこと

20. 施肥ブラシの点検・掃除・交換［R仕様］

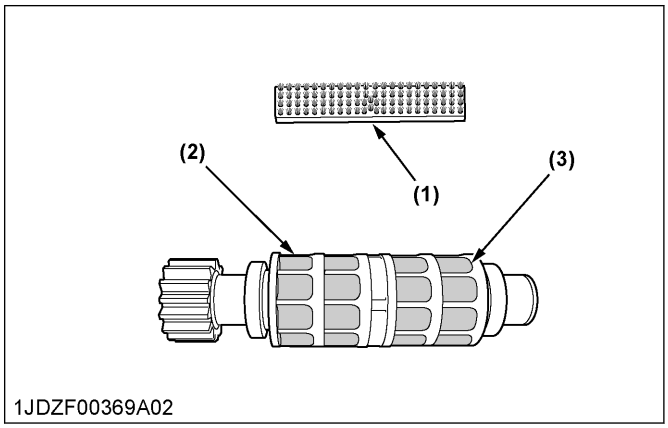
施肥ブラシが摩耗や変形をすると、肥料の繰出量にバラツキが発生しますので、掃除を行うと同時に、施肥ブラシの点検を行ってください。
施肥ブラシとロールを取り外して掃除してください。
また、施肥ブラシの摩耗や変形がひどい場合は、新しい施肥ブラシを購入して交換してください。

重要：
- **施肥ブラシを購入して長期間保管しておく場合は風通しが良く、湿気が少なく、日があたらない場所で保管してください。**
  （施肥ブラシが変形するおそれがあります。）



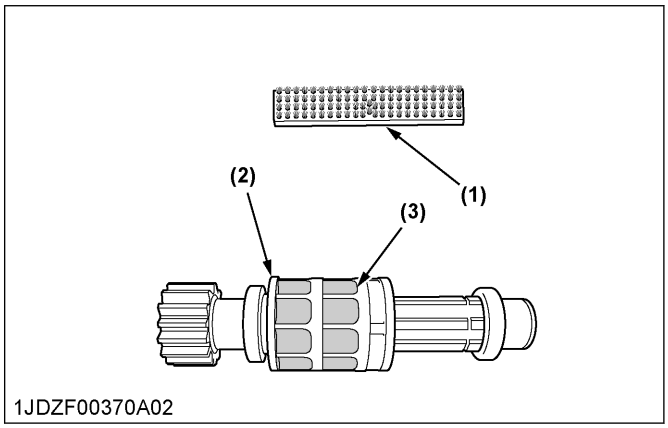
(1) ブラシ
(2) ロール
(3) ロート
(A) 前方
(B) 傾ける
(C) 外す

2 条用

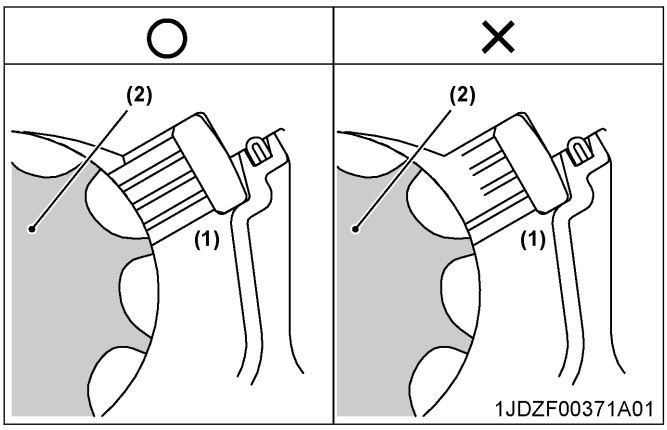


(1) ブラシ
(2) ロール
(3) ロール溝

1 条用



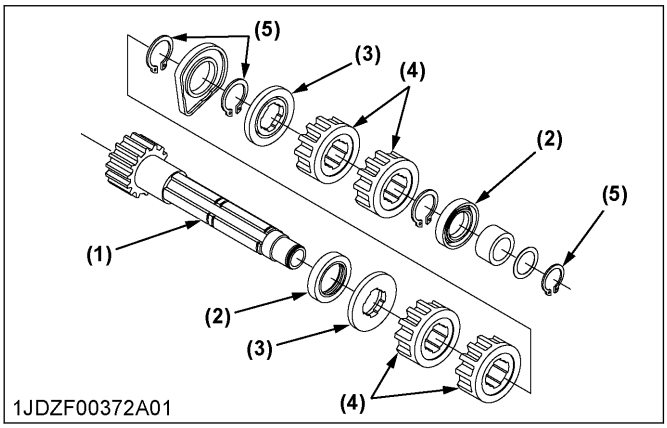
(1) ブラシ
(2) ロール
(3) ロール溝



(1) ブラシ
(2) ロール

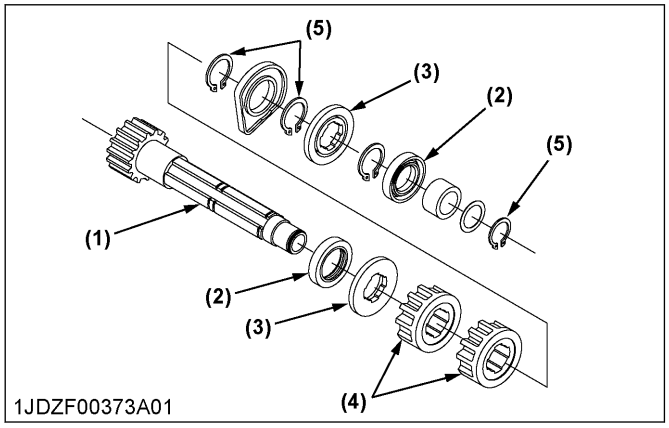
補足：
- **施肥ブラシやロールの取付方向に注意してください。**
- **ロールを分解掃除するときは、オイルシールを抜取ったあと、ストッパリングを取り外してください。また、組み付けるときは、逆の手順でロールの取付け方向に注意して組み付けてください。**

2 条用



(1) 軸
(2) オイルシール
(3) スペーサ
(4) ロール
(5) ストッパリング

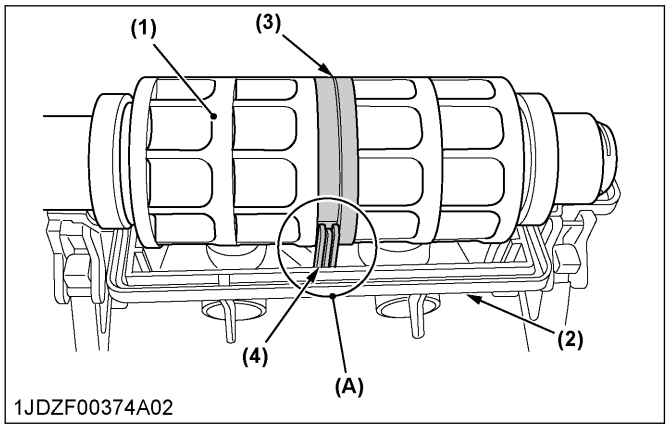
1 条用



(1) 軸
(2) オイルシール
(3) スペーサ
(4) ロール
(5) ストッパリング

- **ロールをロートにセットするとき、スペーサの平面部をロートの仕切板の傾斜面に合わせてください。**

※イラストは 2 条用



(1) ロール
(2) ロート
(3) スペーサ
(4) 仕切板
(A) スペーサの平面部を仕切板の傾斜に合わす

21. バッテリの点検・交換

危険

- **バッテリの近くに裸火（マッチ、ライター、タバコの火など）を近づけたり、（＋）端子と（－）端子が金属工具などの接触によって起こるスパークをさせないでください。バッテリのガスで引火爆発するおそれがあります。**
- **バッテリを取り扱うときは、必ず保護メガネとゴム手袋を着用してください。バッテリに入っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となります。**
- **充電器やブースタケーブルを使用するときの取扱いは、それぞれの取扱説明書に従って行ってください。取扱いを誤まると引火爆発するおそれがあります。**
- **この 12 V バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **急速充電は厳禁です。**
- **開封は厳禁です。（密封タイプ）**

警告

- **バッテリを乾いた布などで掃除しないでください。静電気により引火爆発するおそれがあります。**

補足：

- **出荷時は、補水不要のバッテリです。**

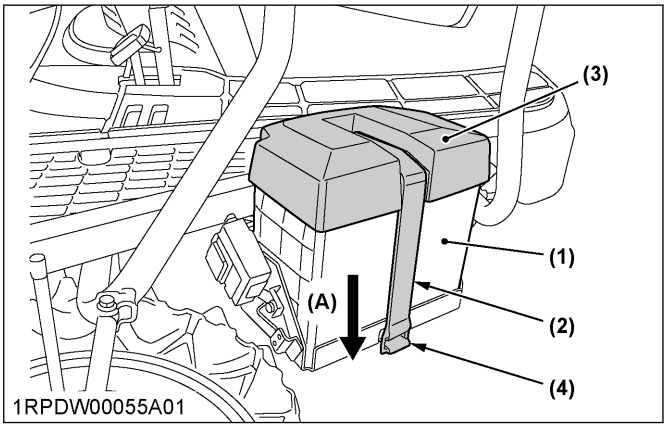
21.1 バッテリの点検

危険

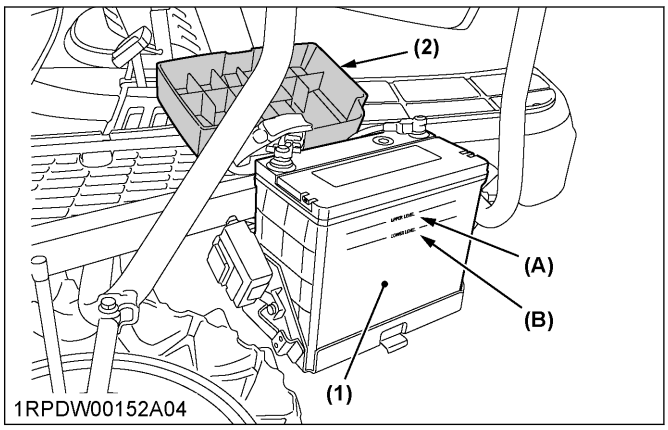
バッテリが破損する、傾くなどして、液漏れが発生しているときは、次の事項を遵守してください。

- **バッテリ液が身体または衣服に付かないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。電解液（希硫酸）によってヤケドすることがあります。**
- **バッテリの電解液（希硫酸）が目に入った場合は、ただちに多量の清水で洗浄したあと、速やかに医師（眼科医）の治療を受けてください。失明の原因となります。**

1. バッテリを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリの上部カバーをステップ側に置きます。



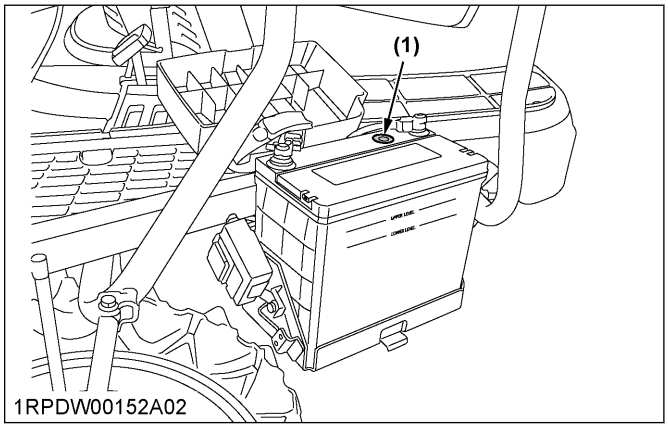
(1) バッテリ
(2) ゴムバンド
(3) バッテリ上部カバー
(4) フック部
(A) 外す



(1) バッテリ
(2) バッテリ上部カバー
(A) *UPPER LEVEL*（最高液面線）
(B) *LOWER LEVEL*（最低液面線）

2. バッテリの状態を点検し、異常があれば処置します。
   a. バッテリ上面にあるインジケータの色で充電状態を確認します。次表を参照し、処置を行ってください。

表示の色	充電状態	処置
緑	正常	使用可能
黒	放電している	補充電
透明	液減り	交換



(1) インジケータ

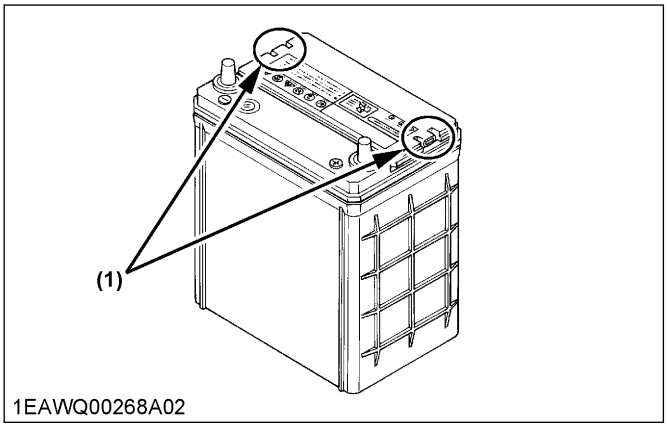
補足：
- **インジケータは真上から確認してください。**

   b. バッテリが破損して液漏れが発生しているときは、交換します。

重要：
- **バッテリから液漏れが発生すると車体が腐食する原因となります。**

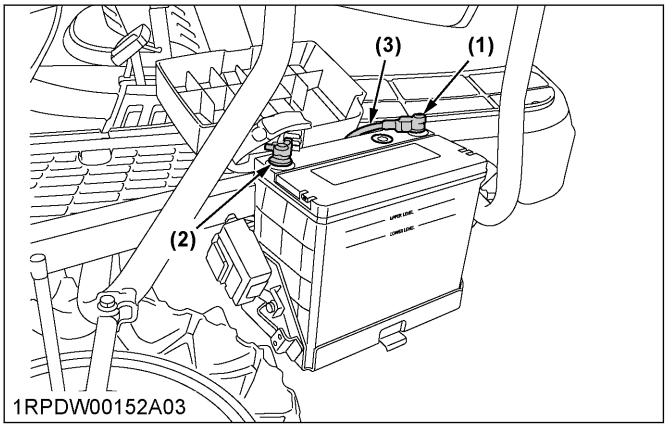
   c. ふたの排気口にゴミなどが付着しているときは掃除します。

重要：
- **排気口をふさぎますと、バッテリ内部で発生するガスによりバッテリの内圧が上がり、破損する原因となります。**



(1) 排気口

   d. バッテリケーブルの破損がないか確認し、あればケーブルの交換を行います。また（+）端子または（-）端子にゆるみまたは腐食がないか確認し、あれば端子の増締めまたは掃除を行います。



(1) （−）端子
(2) （+）端子
(3) ケーブル

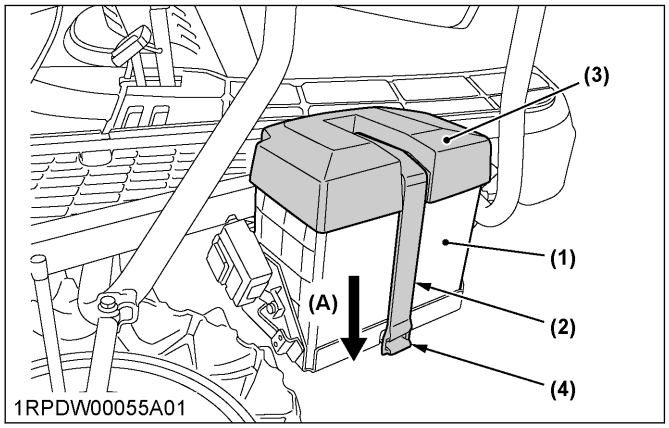
21.2 バッテリの補充電・交換

⚠ 警告
- **バッテリは、以下の順序で取換えてください。順序を誤まると、ショートによるスパークで引火爆発するおそれがあります。**
  - **取外し…（-）端子側（アース側）から外す。**
  - **取付け…（-）端子側（アース側）を最後に接続する。**
- **バッテリを転倒させたり、衝撃を与えたりしないでください。電解液（希硫酸）のもれにより、失明やヤケドをするおそれがあります。**
- **バッテリを投げたり、落としたり、斜めにしたり、衝撃を与えたりしないでください。バッテリに入**

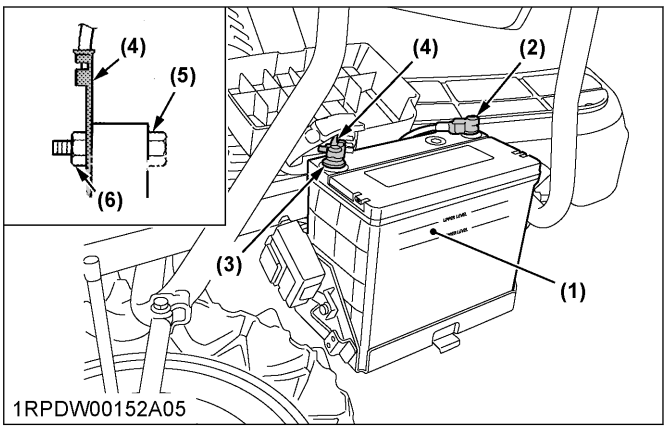
っている電解液（希硫酸）により、失明やヤケドの原因となることがあります。
- **バッテリを機体に取り付けた状態での充電は避けてください。バッテリの引火爆発や機体損傷の原因となるおそれがあります。**
- **バッテリの取付方向を間違えないでください。(+) と (-) が逆に取り付けられると接続ケーブルが損傷し、火災の原因となるおそれがあります。**

次のような状態が発生したときは補充電を行ってください。また、補充電を行っても短時間で再発するときや状態が良くならないときは、バッテリの寿命ですので交換を行ってください。
- スタータモータの回転が、いつもより弱い。
- アクセルの加減で、ヘッドランプの明るさが変わる。

1. バッテリを機体から取り外します。
   a. バッテリを固定しているゴムバンドをフックから外して、バッテリの上部カバーをステップ側に置きます。
   b. ケーブル端子のボルトとナットを取外し、端子からケーブル端子を取り外します。取り外すときは、必ず（−）端子側から取り外します。
   c. バッテリを取り外します。



(1) バッテリ　　*(A)* 外す
(2) ゴムバンド
(3) バッテリ上部カバー
(4) フック部



(1) バッテリ
(2) （−）端子
(3) （+）端子
(4) ケーブル端子
(5) ボルト
(6) ナット

重要：
- **バッテリを斜めにしたり、横倒しにして運ばないでください。電解液（希硫酸）がこぼれ、衣服の損傷の原因となります。**

2. 補充電を行うときは、平たんで風通しの良い場所を選んで行います。また、充電は、バッテリの（+）を充電器の（+）側に、バッテリの（-）を充電器の（-）側にそれぞれ接続して、普通の充電方法で行ってください。
3. 補充電が終わると取り外したときと逆の手順で取り付けます。

重要：
- **バッテリを交換するとき、バッテリは純正部品を使用してください。電圧や容量が違うと故障の原因となります。**

バッテリ型式	50B24L

- **バッテリはエンジン始動用ですから、他の用途には使用しないでください。**
- **バッテリはきちんと取り付けてください。傾いたりすると転倒や液もれの原因となります。**

22. 電装部の各配線コードの点検・交換

⚠ 注意
- **配線コード被覆の損傷やコネクタ（端子）の接触不良によるろう電やショート（短絡）は火災の原因となります。**

22.1 各配線コードの点検・交換

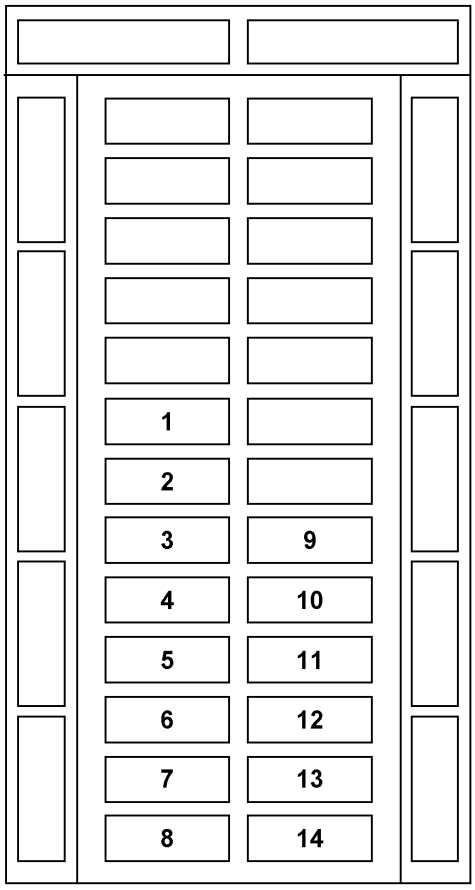
各配線コードのコネクタ（端子）の接続状態を点検し、ゆるみや外れがあるときは確実に差込んでください。また、被覆の損傷状態を点検し、被覆が破れているときは、交換してください。

22.2 各ヒューズの交換

ヒューズ切れによる異常が発生したときは、ヒューズを交換してください。

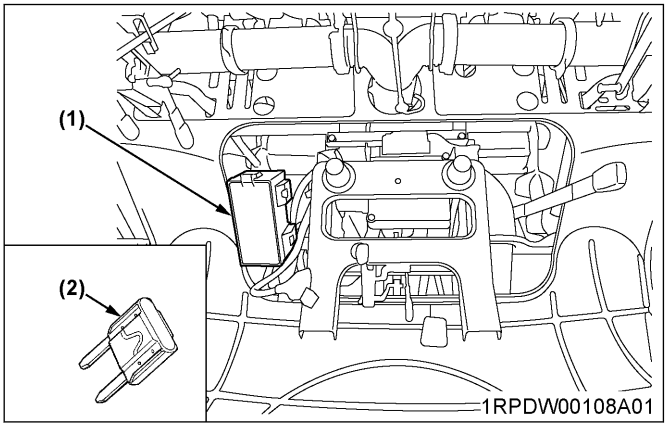
重要：
- **ヒューズを交換してもすぐに切れてしまう場合は、針金や銀紙などで代用せず、購入先に連絡してください。**

1. メインスイッチのキーを**【停止】**位置にしエンジンを止めます。
2. 運転席を取り外します。
3. 運転席下カバーを取り外します。
（詳細は運転席下カバーの脱着（99 ページ）を参照）
4. ヒューズケースのカバーを取り外します。
5. ヒューズが切れた箇所に同じ容量のヒューズを予備ヒューズから選んで交換します。



1RPDW00132A01

図番	回路	容量（A）
1	燃料カット	20
2	ラジエータ	20
3	マーカ RH	20
4	マーカ LH	20
5	マイコン	5
6	PTO モータ	20
7	モンロモータ	20
8	ロータモータ	20
9	オプション	20
10	メータパネル	10
11	オルタネータ	10
12	マイコン（キー SW）	5
13	セヒユニット	3
14	植付	3



1RPDW00108A01

(1) ヒューズケースカバー
(2) ヒューズ

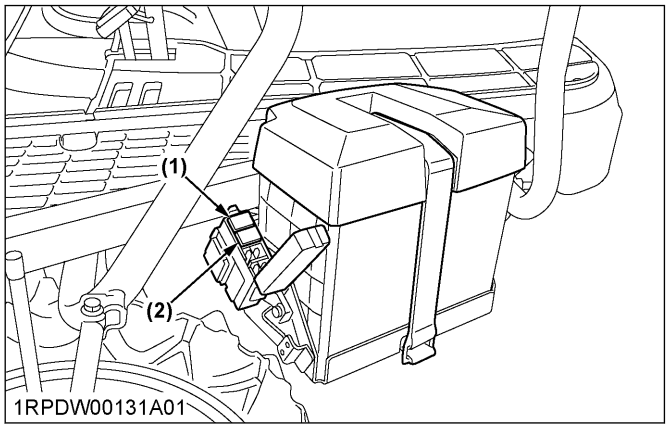
補足：
- **ヒューズケースカバー表面のラベルで容量（A）を確認してください。**
- **ヒューズを交換するときは、ヒューズケースカバー右下に設置してあるヒューズ抜きを使用してください。**

22.2.1 スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは付属部品の中にある予備のヒューズと交換してください。また、スローブローヒューズ**【R 仕様】**は、ブロアが動かなくなったときに点検し、切れているときは購入先に連絡して交換してください。

	スローブローヒューズ	ブロワ用スローブローヒューズ
LD6	60 A	–
LD6R	60 A	40 A
LD8	60 A	–
LD8R	60 A	40 A

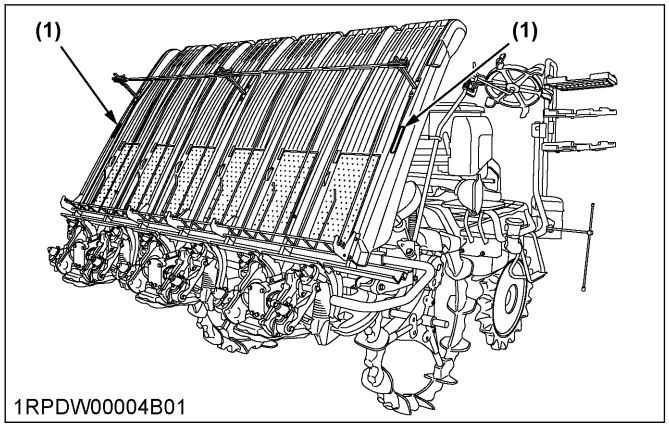
スローブローヒューズの点検・交換
スローブローヒューズ（60 A）は、過電流が流れたときに各配線が損傷しないように保護するためのものです。エンジンがかからないときは点検し、切れているときは付属部品の中にある予備のヒューズと交換してください。また、スローブローヒューズ（40 A）**[R 仕様]** は、ブロワが動かなくなったときに点検し、切れているときは購入先に連絡して交換してください。



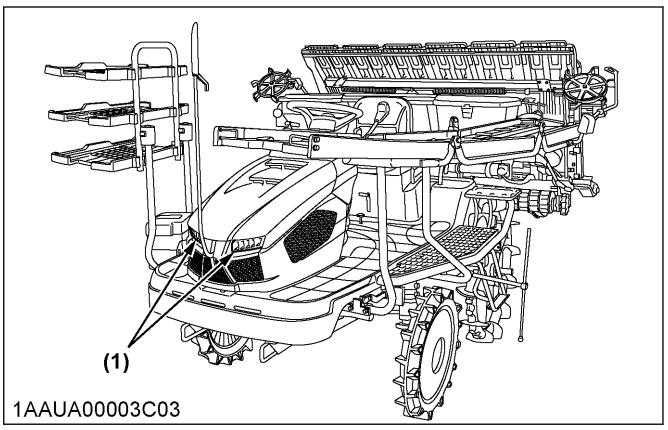
(1) *60* A
(2) *40* A（*R* 仕様）

23. ランプ（電球）の点検・交換・反射テープの点検・交換

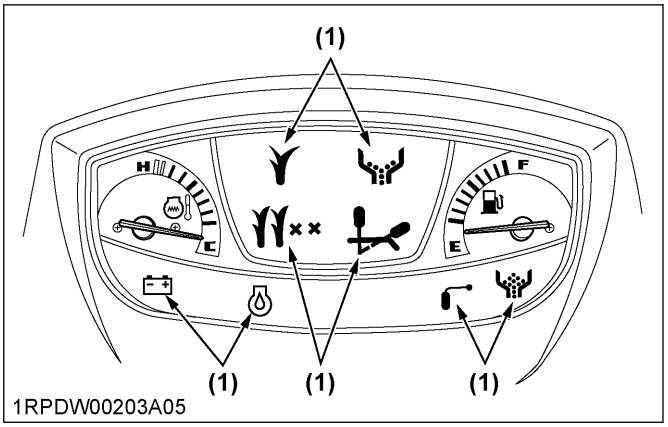
ランプ（電球）切れがないか点検し、切れているときは交換してください。また、反射テープに汚れや破損がないか点検し、掃除または、交換を行ってください。



(1) 反射テープ



(1) ヘッドランプ



(1) 各ランプ

補足：

- **ヘッドランプは、部品保護のため呼吸穴を設けています。湿度の高いときに、ランプ表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は、周囲の温度により表面が冷却されると結露が発生することがありますが、これは異常ではありません。また、結露が発生しても、性能に影響はありません。**
- **メインパネルは部品保護のため呼吸穴を設けていますが、湿度が高いときにパネル表面の透明なカバー（アクリル樹脂）は、周囲の温度により表面が冷却されると結露が発生することがありますが、これは異常ではありません。また、結露による機器内への影響もありません。**

植付作業後の手入れ

植付作業が終わったあとは、機械の点検・整備を怠らず翌日または、翌年の田植作業に備えてください。

1. 毎日の作業後の機体の手入れ

⚠ 警告

- **掃除する場合は、平たんな場所で必ずエンジンを停止させてから行ってください。**

1. 平たんな場所に田植機を停めます。
2. 機体各部をじゅうぶんに水洗いし、泥やごみを取り除いたあと、水分をよく拭き取ります。

3. 必要に応じて各部に注油します。(108 ページ参照)
   錆が発生しやすい金属部にはグリースを塗布します。
4. 格納場所に田植機を格納します。

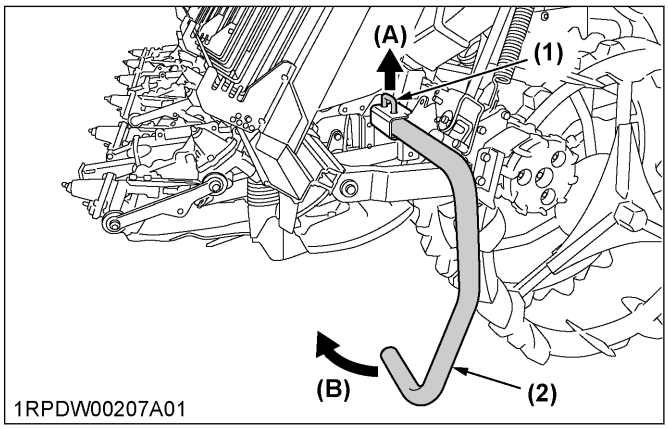
重要：
- **しゅう動板ガードや収納式苗のせ台を収納位置にしてください。**

1.1 しゅう動板ガード（左、右）の収納

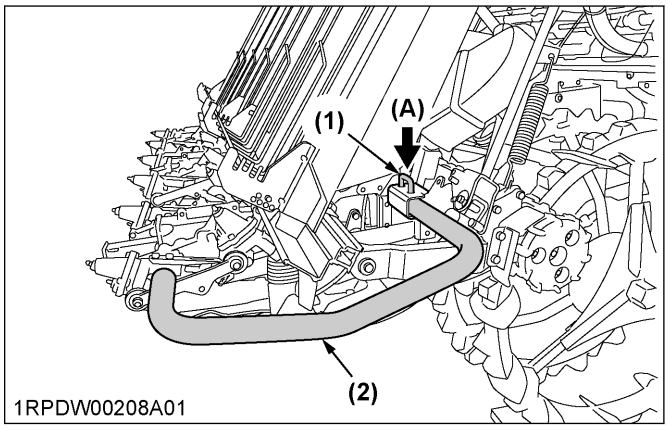
⚠ 警告
- **ケガをするおそれがあるので、しゅう動板ガードの切替作業を行うときは、メインスイッチのキーを[運転]位置にしないでください。**

しゅう動板ガードを以下の手順で収納状態にします。

[6 条]
1. しゅう動板ガードのロックピンを上側に引きながらしゅう動板ガードを上げます。
2. しゅう動板ガードのロックピンから手をはなし、しゅう動板ガードを作業位置まで持ち上げると、しゅう動板ガードのロックピンが作業位置の穴に入り、しゅう動板ガードがロックされます。

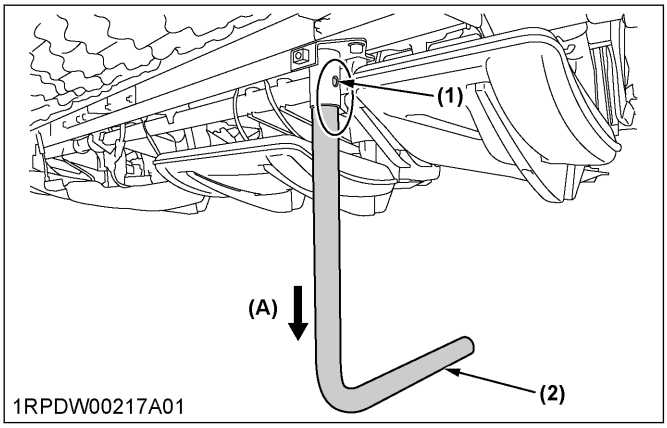


(1) ロックピン　*(A)* 引く
(2) しゅう動板ガード（収納時）　*(B)* 上げる

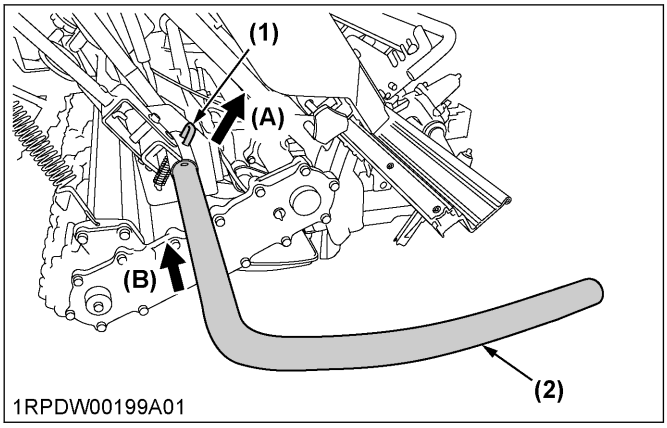


(1) ロックピン　*(A)* 入る
(2) しゅう動板ガード（作業時）

[8 条]
1. プッシュピンを押しながらしゅう動板ガードを下側に引き出します。
2. ロックレバーを上側に引いている状態で、しゅう動板ガードのプッシュピンを押しながら作業位置の穴に差込み、ロックレバーでセットします。



(1) プッシュピン　*(A)* 引き出す
(2) しゅう動板ガード（収納時）



(1) ロックレバー　*(A)* 引く
(2) しゅう動板ガード（作業時）　*(B)* 差込む

2. 長期格納時の手入れ

田植えのシーズンが終了して翌年まで長期間使用しないとき、格納する前の各部の点検・整備を念入りに行なってください。

2.1 長期格納時の各部の掃除、注油、補修のしかた

重要：
- **機体を洗う場合は、電装部品に水がかからないようにしてください。**

1. 機体を平たんな場所に停めます。

2. 以下の事項を行います。
   - 機体各部を水洗いしたあと、泥やごみを取り除き、水分をよくふき取ってください。そのあと、油をしみこませた布で清掃してください（金属部のみ）。
   - 植付爪の先端など錆が発生しやすい金属部はグリースを塗布してください。
   - 各グリース塗布箇所にはグリース、注油箇所には注油を行ってください。（108 ページ参照）
   - 塗布したグリースや油が縦送りベルトに付着した場合は、必ずふき取ってください。
   - 各部のゆるみを調べ、増締めを行ってください。

2.2 長期格納時のラジエータ冷却水の手入れ

ラジエータ冷却水は冬期のエンジン凍結割れを防止するため、排水または、不凍液（ロングライフクーラント）を清水に混ぜた冷却水を入れておいてください。
冷却水の補給・交換を行って、ラジエータおよびリザーブタンクには、不凍液の混ざった適正な混合比の冷却水を規定量入れておきます。（詳細はラジエータ冷却水の点検・交換（122 ページ）を参照）

重要：
- **冷却水には、不凍液（ロングライフクーラント）を適正量入れ（混合比 50 %）、よく水と混ぜ合わせてからお使いください。**
  ラジエータ容量…約 1.5 L（エンジン含む：2.5 L）
- **不凍液の混合比を誤ると、冬期には冷却水の凍結、夏期にはエンジンの故障やラジエータの破損の原因になります。**
- **不凍液を使用する場合は、ラジエータ保浄剤を投入しないでください。不凍液には防錆剤が入っていますので、保浄剤を混入するとエンジン部品に悪影響を与えます。**
- **不凍液（ロングライフクーラント）の有効使用期間は 2 年間です。必ず 2 年で交換してください。**

2.3 長期格納時のバッテリの手入れ

⚠ 危険
- **保管や持ち運びの際にバッテリに火気を近づけたり、ショートさせると爆発の危険がありますので注意してください。**

⚠ 警告
- **バッテリを点検するときには、エンジンを停止し、メインスイッチのキーを[切]にしてください。**

長期間使用しない場合は、できるだけバッテリを機体から取り外してください。また、次の点に注意して保管してください。
- 保管前に点検し、必要に応じて補充電を行ってください。（バッテリ液補水タイプは、補水してから補充電を行ってください。）
- バッテリは保管中でも自己放電するので夏は 1 か月、冬は 2 か月に 1 回それぞれ点検し、必要に応じて補充電を行ってください。
- 次のような場所に保管してください。
  - 直射日光が当らない（温度が低く変化の少ない）乾燥している場所
  - 雨露が少なく、水没のおそれがない場所
  - バッテリの有害なガスや液、粉じんの発生が起こらない場所

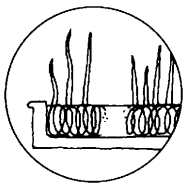
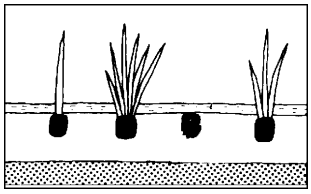
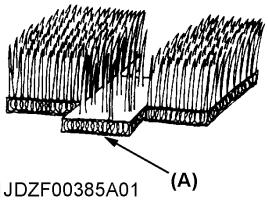
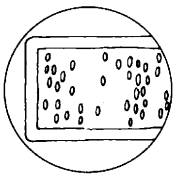
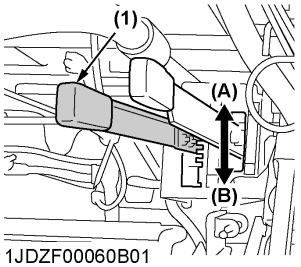
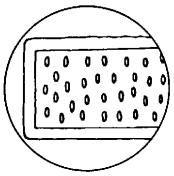
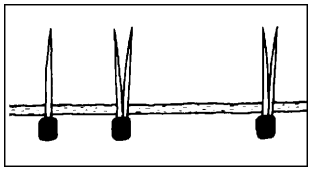
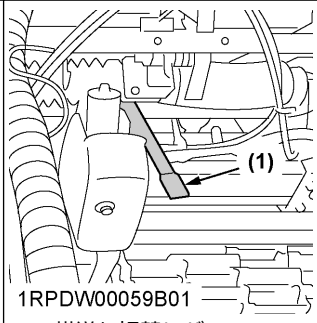
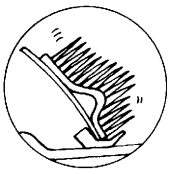
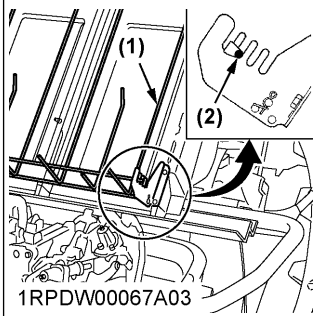
機体に取り付けている場合は、（－）側のケーブルを必ず取り外してください。

2.4 長期格納時の各レバー・その他の手入れ

点検・整備が終わったあと、納屋などに停めておくときは植付部を地面に接地させて、下記事項を行ってください。
- アクセルレバーを前方いっぱいまで押して、[🚗]位置まで押して止めてください。
- メインスイッチのキーは、必ず抜取って保管してください。
- 駐車ブレーキを掛けてください。

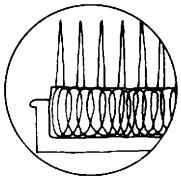
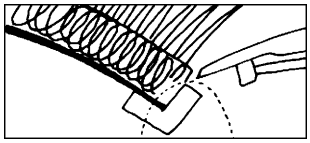
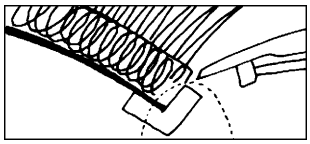
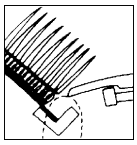
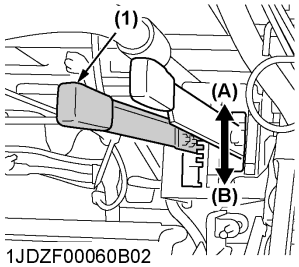
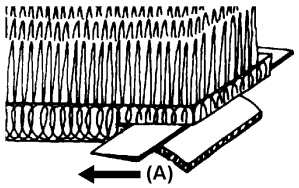
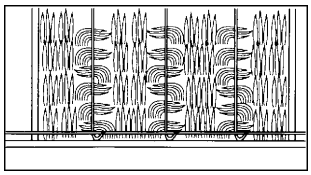
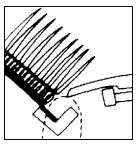
植付作業時の不調と処置

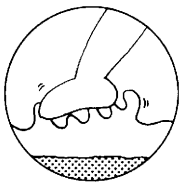
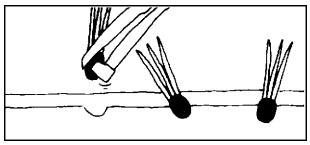
欠株が出る

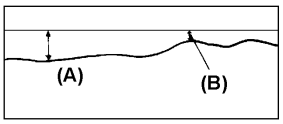
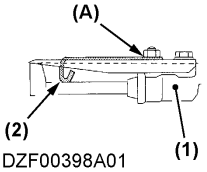
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗 	• 植付けの本数がバラついたり欠株が出る。 	**苗の処置** • 生育の悪い部分やハゲたところを切取って植え付ける。 • 悪い苗は、使用しない。（補植えに使用する）	 1JDZF00385A01 *(A)* この部分は使わない
苗に生育ムラやハゲた部分がある苗 		**機械の処置** 苗取量は多く、横送り回数は少なくする（横送り量を多くする）。 （詳細は横送り切替レバーの調節（87 ページ）を参照）	 1JDZF00060B01 *(1)* 苗取り調節レバー *(A)* 多い *(B)* 少ない
播種量が少ない苗 	• 植付け本数が少なくなり欠株が出る。 	**苗の処置** 中苗用成苗用の育苗指針を守り播種ムラのない苗をつくる。 **機械の処置** 苗取量は多く、横送り回数は少なくする（横送り量を多くする）。 （詳細は横送り切替レバーの調節（87 ページ）を参照）	 1RPDW00059B01 *(1)* 横送り切替レバー
苗床がうすく根張りが悪い苗 **苗床がやわらかすぎる苗**	苗のせ台上で苗がくずれて植付けできない。 	**機械の処置** 苗ステーと苗との間隔を狭くして苗のせ台からのずり落ち、くずれを防止する。 （詳細は苗ステー・苗押さえ棒の調節（90 ページ）を参照） **苗の処置** • 苗床厚が 2 cm 以上の苗を使用する。 • 苗床を乾かして硬めにする。	 1RPDW00067A03 *(1)* 苗ステー *(2)* 標準

（次へ続く）

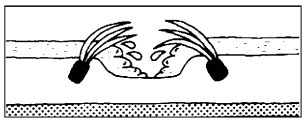
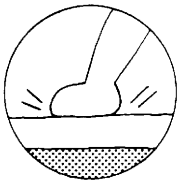
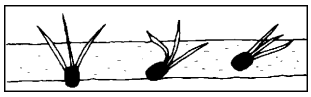
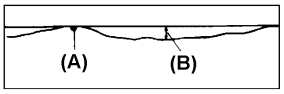
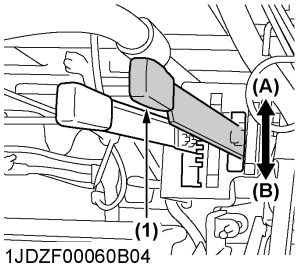
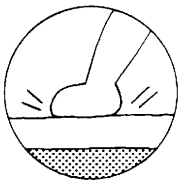
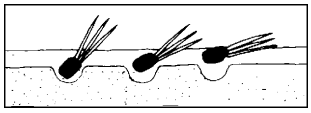
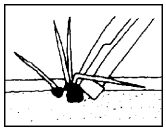
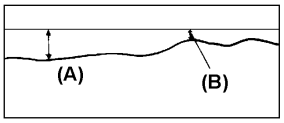
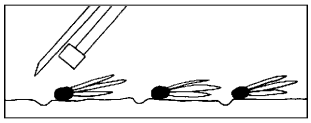
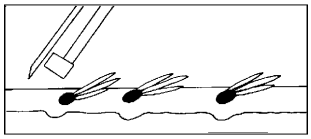
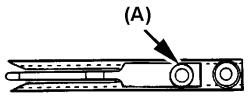
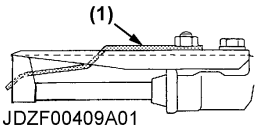
植付作業時の不調と処置

<table>
<tr><th>このような状態で（原因）</th><th>このようになる</th><th colspan="2">どうする（処置方法）</th></tr>
<tr>
<td>苗床が厚い苗
</td>
<td>• 苗がうまく取れないため、苗取量が少なかったり欠株が出る。

• 爪の軌跡より外れた部分が残ってダンゴ状になり苗の縦送りができなくなる。

• 苗のせ台上で苗のすべりが悪く欠株がでる。</td>
<td>機械の処置
• 苗取量を多少多くして苗を取るようにする。
（詳細は横送り切替レバーの調節（87 ページ）を参照）
• 苗ステーを調節して苗床とのすき間をあける。
（詳細は苗ステー・苗押さえ棒の調節（90 ページ）を参照）
苗の処置
• 苗床厚（マット厚）が 2.5 cm～3 cm になるように切落とす。切落とせない場合はその苗は使用しない。
• 植付け前にかん水してすべりを良くする。</td>
<td>
1JDZF00060B02
(1) 苗取り調節レバー
(A) 多い
(B) 少ない

1JDZF00393A01
(A) 2.5 cm～3 cm に切落とす</td>
</tr>
<tr>
<td>苗の入り方が悪い。
</td>
<td>苗が苗ステーに引っかかって落ちない。
</td>
<td>苗の処置
引っかかった苗を取除いてきちんと入れ直す。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>床土が粘土質で粘りが強い苗。

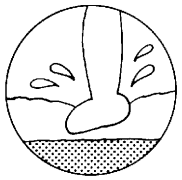
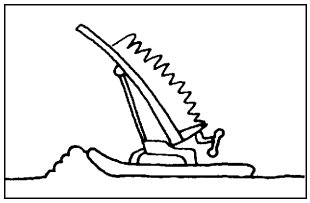
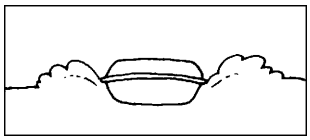
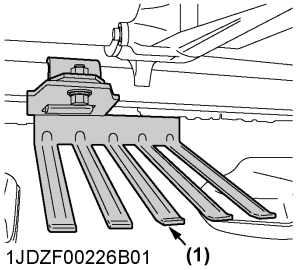
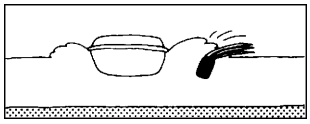
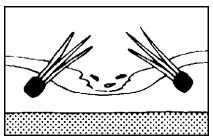
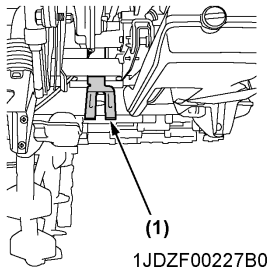
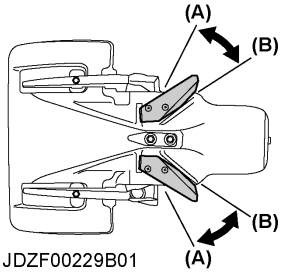
粘土質のほ場でしかも水が少ない。
</td>
<td>植付け時、苗が植付爪より離れず欠株が発生する。
</td>
<td>苗の処置
苗床を乾き気味にする。または水につけ十分水分をもたせる。
ほ場の処置
ほ場に水を 1 cm～3 cm 程度張り苗が爪より離れやすくなる。

機械の処置
別売り（オプション）のクリーナ（押出し金具）を取り付ける。</td>
<td>
1JDZF00397A01
(A) 水深 3 cm
(B) 水深 1 cm

1JDZF00398A01
(1) 植付アーム
(2) クリーナ（押出し金具）
(A) 植付アームのスタッドボルトに共締めする。</td>
</tr>
</table>

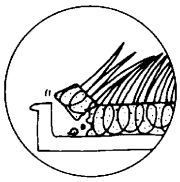
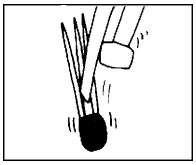
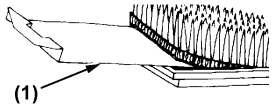
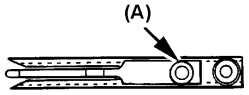
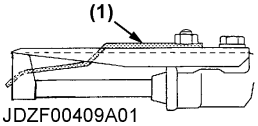
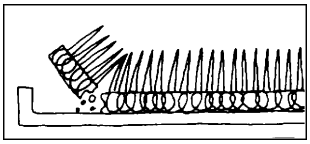
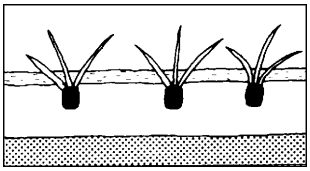
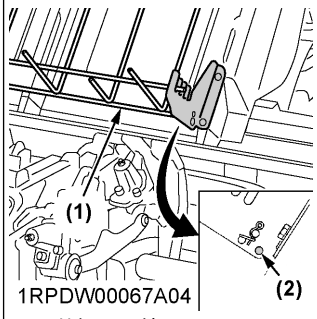
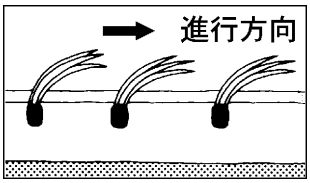
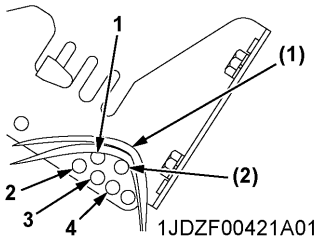
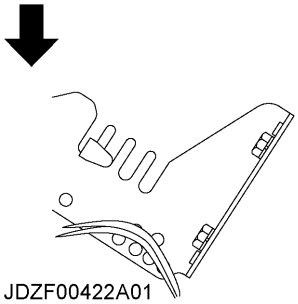
浮苗が出る・植付けが乱れる

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
水深が 3 cm 以上あるほ場。 	• フロート通過跡に水が流れ込んで植付けた苗または、隣接苗が倒れる。   • 植付け姿勢が悪いまたは浮苗が発生する。 	**ほ場の処置** 水を落とす。水深 0 cm～3 cm にする。 **機械の処置** • 植付速度を遅くして水の移動をゆるやかにする。 • 植付深さを許せる範囲で深めにする。	 1JDZF00403A01 *(A)* 水深 *0 cm* *(B)* 水深 *3 cm*  1JDZF00060B04 *(1)* 植付深さ調節レバー *(A)* 浅植 *(B)* 深植
ほ場がかたい。 	• 爪で開けた穴がふさがらず水を入れたときに苗が浮く。  • 苗を押込むとき、苗が傷んだりバラける。 	**ほ場の処置** • 再度代かきして植えやすい硬さにする。 • 水を 1 cm～3 cm 入れやわらかくして植える。 **機械の処置** • 植付速度を遅くして苗をゆっくり土中に押込むようにする。	 1JDZF00397A01 *(A)* 水深 *1 cm* *(B)* 水深 *3 cm*
根張りが悪く、床土が砂質の苗で、しかも苗が爪から離れやすく、水につかると床土が溶ける苗。	• 苗がころぶ。  • 水がある場合、浮苗がでる。 	**ほ場の処置** 水が多い場合は水を落とす。 **苗の処置** • 根張りのよい床土がブロックになる苗にする。 • 床土は水に溶けにくい土質のものにする。 • 植付け前に苗床に少し水気をもたせる。 **機械の処置** 苗キーパを爪に付ける。	 1JDZF00408A01  1JDZF00409A01 *(1)* 苗キーパ *(A)* 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。

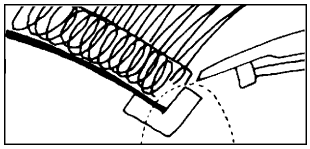
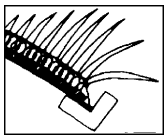
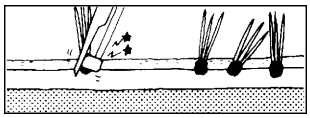
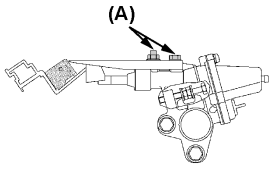
（次へ続く）

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
表面がトロトロでやわらかいほ場。 	• フロートが沈み、泥を押す。  	**ほ場の処置** • 水を落として表面をかたくするまたは表面を落ち着かせる。（植付けを延期する。） **機械の処置** • フィットセンサをやわらかい方へ移動させる。またはフロート荷重調節レバーを**[弱]**位置にセットして、泥を押さないようにする。 • 植付速度を遅くする。 • オプション部品の整地板を取り付けている場合は、左、右の整地板の高さを高くしてください。 • ロータ深さ微調整ダイヤルを**[浅い]**の方向に調節する。	**[6 条]**  1JDZF00226B01 (1) *(1)* 整地板
	• 泥を押して、隣接苗を倒す。 		
	• フロート通過跡が大きくなり、そこに土が流れ込むとき、植えた苗が内側に倒れる。 	• 整地板の取付位置を変更する。（上にずらす。）	**[8 条]**  (1) 1JDZF00227B01 *(1)* 整地板
	• ふく土板で泥を押す **[R 仕様]**	• 各フロート下面の各ふく土板の取付角度（位置）を狭くする。**[R 仕様]**	**[R 仕様]**
	• 車輪がスリップして調整した施肥量と異なる。**[R 仕様]**	• 施肥量を再調整してください。	 (A) (B) (B) (A) 1JDZF00229B01 *(A)* 標準または、かたいほ場 *(B)* トロトロほ場

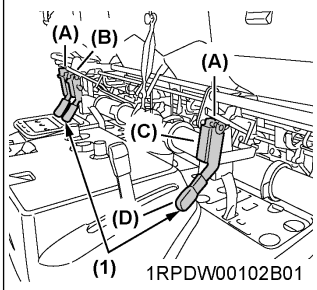
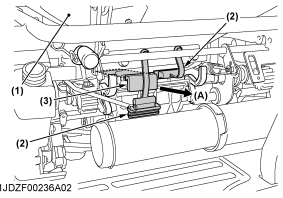
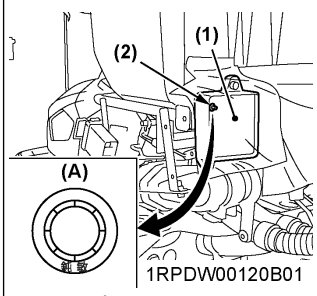
浮苗が出る・植付けが悪い

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
根張りの悪い苗 **床土に粘りがなくくずれやすい苗** 	• 苗が植付けになる前に植付爪から落ち浮苗となる。 	**苗の処置** • 苗床に少し水気をもたせる。 • 苗すくい板を使用して苗がくずれないようにする。 **機械の処置** • 植付速度を遅くする。 • 苗キーパを使用する。	 1JDZF00419A01 *(1)* 苗すくい板  1JDZF00408A01  1JDZF00409A01 *(1)* 苗キーパ *(A)* 爪取付け用のスタッドボルトに共締めする。
	• 苗を取り出すとき苗がくずれる。 		
	• 植付けた苗がバラける。 	• 苗押さえ棒を(2)（内側）の穴に差換える。	 1RPDW00067A04 *(1)* 苗押さえ棒 *(2)* 穴（内側）
	• 植付けた苗が進行方向に傾く。 	**機械の処置** • 植付速度を遅くする。 • 苗押さえ棒を 1～4 の穴に差し替える。（苗の長さや根張りの状態に合わせて、根元の角度を寝かせる。）	 1JDZF00421A01 *(1)* 苗 *(2)* 苗押さえ棒（標準位置）  1JDZF00422A01

植付けが乱れる・欠株が出る

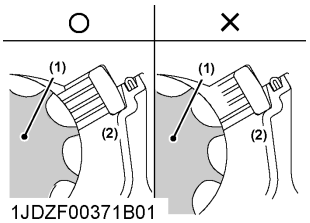
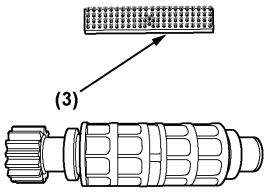
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
植付爪の異常 • 爪の摩耗 • 爪の変形 • 押出し金具の変形 • 押出し金具がじゅうぶん押出さない。	• 苗を取らずに欠株となる。  • 苗取後残りの苗がバラケル。  • 押出し金具が押しきらず植付けが乱れる。 	**機械の処置** • 植付爪と押出し金具の点検。 – 爪の曲がりを直す。 – 押出し金具の曲がりを直す。 • 爪、押出し金具などの部品を新品と交換する。	 1JDZF00363C01 *(A)* ボルト、ナットを外す

施肥をしない・施肥量がばらつく

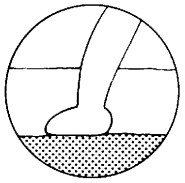
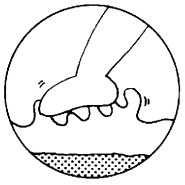
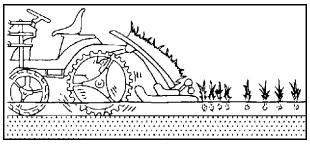
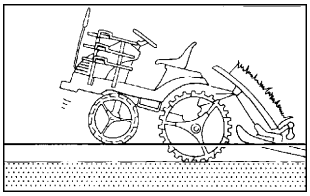
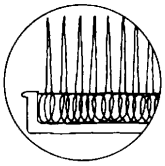
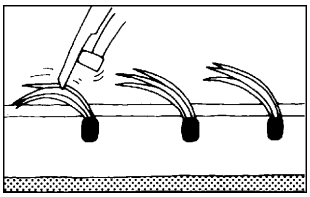
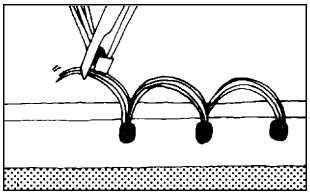
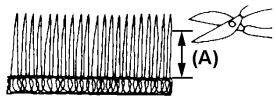
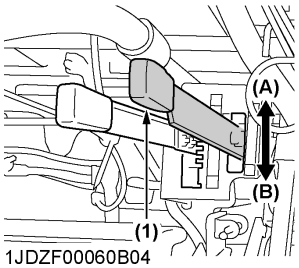
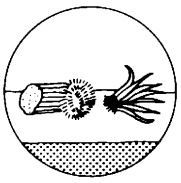
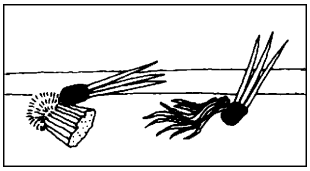
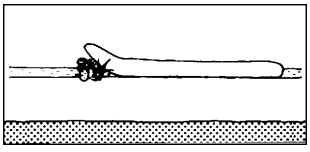
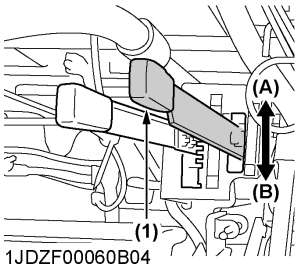
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
施肥に適さない肥料	• 施肥量にバラツキがある。 • ホッパ内の肥料の減り方にバラツキがある。 • 施肥をしない。 • 残量センサが誤作動する。	**肥料の処置** • 条件に合った肥料を選ぶ。（詳細はほ場と肥料について（77 ページ）を参照） • 固まった（湿った）肥料は使わない	
機械の設定		**機械の処置** • あぜぎわクラッチレバーが**[切]**位置のときは、**[入]**位置にする。	**※イラストは［6 条］**  *(1)* あぜぎわクラッチレバー *(A)* *2* 条 *(B)* *1* 条 *(C)* 切 *(D)* 入
		• 条止めシャッタが差込んであるときは、外します。（詳細は施肥量の調節［R 仕様］（92 ページ）を参照）	 *(1)* ホッパ *(2)* ゴムキャップ *(3)* 条止めシャッタ *(A)* 抜く
各部の詰まり		**機械の処置** • ホッパ内に肥料の詰まりがあれば取除く。 • ホッパ内、ロールケース内、各ホース、作溝器内に付着した肥料は取除く。（詳細は各部の掃除（103 ページ）を参照） **補足：** • **深水ほ場で、苗補給や肥料補給などで一時停止したときに、詰まっていないのに警報が出る場合があります。点検して、詰まっていなければセンサのコントローラのつまみを[鈍]（鈍感）の方向に調整して作業を続けてください。** • **乾いた肥料がセンサ付近に付着しても警報が出ない場合があります。時々、作溝器内を点検してください。**	 *(1)* コントローラ *(2)* つまみ *(A)* 標準

（次へ続く）

植付作業時の不調と処置

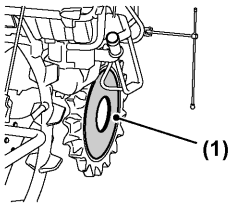
このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
施肥ブラシの摩耗・損傷［R 仕様］	• 施肥量が多くなる。 • ホッパの肥料の減りが早くなる。	**処置** • 施肥ブラシを交換する。 （詳細は施肥ブラシの点検・掃除・交換［R 仕様］（132 ページ）を参照）	○ ×  1JDZF00371B01 *(1)* ロール *(2)* ブラシ  1JDZF00369B01 *(3)* 施肥ブラシ
ブロワが回転していない。	• ロート、ホース内で肥料が詰まる。	**機械の処置** • スローブローヒューズ切れのときは、交換する。 （詳細はスローブローヒューズの点検・交換（137 ページ）を参照） • カプラが入っているか確認する。	

苗・ほ場条件による、その他の不具合

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
株間が狭くなる **深いほ場**  **強粘土質のほ場** 	• 走行抵抗が大きく車輪がスリップして株間が狭くなる。   • 機体前部が浮き上りスリップする。	**機械の処置** • 株間を一段広くして坪当たり株数を確保する。	
苗の草丈が長すぎる。 **草丈が 20 cm 以上ある苗の植付け。** 	• 植付けた苗が爪に押されて傾く。  • 植付けた苗がアーチ状になる。 	**苗の処置** 葉先を 20 cm 以下に切りそろえる。 **機械の処置** • 植付深さを深めにする。 • 植付速度を遅くする。 • 苗押さえ棒の位置を一番上にあげる。	 1JDZF00434A01 *(A)* *20 cm* 以下に切る  1JDZF00060B04 *(1)* 植付深さ調節レバー *(A)* 浅植 *(B)* 深植
夾雑物の多いほ場 代かき後も刈株、ワラ、雑草などが多量に露出しているほ場。 	• 夾雑物の上では、苗が植わらなかったり、植付け姿勢が悪くなったりする。  • 夾雑物がフロートで押されてたまる。 	**ほ場の処置** • 代かき時、夾雑物をすき込む。 • 耕うん前に夾雑物をできるだけ取除く。 **機械の処置** • 植付深さをやや深くする。 • 植付速度を遅くする。 • 整地板をあげ夾雑物の掘起しを少なくする。 • ロータ深さ微調整ダイヤルを適度な位置に調節する。	 1JDZF00060B04 *(1)* 植付深さ調節レバー *(A)* 浅植 *(B)* 深植

（次へ続く）

植付作業時の不調と処置

このような状態で（原因）	このようになる	どうする（処置方法）	
強粘土質のほ場	前輪ホイールカバーに泥が付着し、隣接苗に泥を落とす。	**ほ場の処置** • 前輪ホイールカバーを取り外す。	 1RPDW00187A01 *(1)* ホイールカバー

付表

主要諸元

型式				**LD6**	**LD8**
仕様区分				**[R]**	
駆動方式				4輪駆動	
機体寸法	全長（mm）			3160	3350
	全幅（mm）			2080	2220
	全高（mm）			1800	
	最低地上高（mm）			455	
機体質量（kg）				695［R 仕様：750］	840［R 仕様：905］
エンジン	型式名			D782-E4-P-3JP	D902-E4-P-2JP
	種類			水冷4サイクル3気筒ディーゼルエンジン	
	総排気量(L{cc})			0.778[778]	0.898[898]
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)			12.7{17.3}/3000	15.4{21}/3000
	使用燃料			ディーゼル軽油	
	タンク容量(L)			17	
	始動方式			セルスタータ	
	バッテリ(V・Ah)			12・36[50B24L]	
走行部	かじ取り方式			インテグラルパワーステアリング	
	車輪	種類	前輪	広幅ノーパンクタイヤ	
			後輪	太リムゴムラグ車輪	
		外径×幅(mm)	前輪	650×95	
			後輪	900×50	950×50
		輪距(mm)	前輪	1200	
			後輪	1200	
		軸距（mm）		1020	1160
	変速方式			油圧式トランスミッション[HST]	
	変速段数（段）			HST 主変速：前進無段・後進無段［副変速：2段］	
植付部	植付方式			ロータリ式強制植付け	
	植付条数（条）			6	8
	植付条間（cm）			30	
	植付株間（cm）			14、16、18、21、24、30[*1]	
	植付深さ（cm）			2～5.3［5段階］［参考値：2、2.8、3.6、4.5、5.3］	
	1株本数調節	横送り量(mm)/横送り回数		9/30、11/26、14/20［3段］	
		縦かき取り量（mm）		8～18	
苗の条件	苗の種類			マット苗	
	草丈（cm）			8～25	
	葉令（葉）			2.0～4.5	
施肥装置	肥料の種類			粒状化成肥料	
	施肥方式			側条作溝施肥・強制埋設	
	施肥位置(cm)			苗の側方：4.5、深さ：5	
	肥料ホッパ容量(L{kg})			66{60}	131{120}
	繰出方式			溝付ロール式	

（次へ続く）

付表

型式		LD6	LD8
仕様区分		[R]	
施肥装置	繰出量調節方式	ロール回転数調節式（側方ハンドル式）	
	繰出量調節方式(kg/10a)	10～80	
	ふく土方式	フロートとふく土板	
予備苗とう載数（箱）		6（左レール式、右段積み式）	8（左レール式、右段積み式）
警報装置		充電警報［ランプ］、油圧警報［ランプ］、燃料計、水温計、苗切れ警報［ランプ・ブザー］、バックブザー、肥料切れ警報［ランプ・ブザー］［R 仕様］、肥料詰まり警報［ランプ・ブザー］［R 仕様］	
作業速度（m/s）		0～1.62［0～1.46*1］	0～1.65［0～1.49*1］
作業能率［計算値］(a/h{分/10a})		～61{10～}*1	～77{8～}*1

- この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

*1 車輪スリップ率 10 %

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。

- 取扱説明書 1
- 保証書 1
- 取扱説明確認カード 1
- スローブローヒューズ（60 A） 1
- スローブローヒューズ（40 A） 1 **[R 仕様]**
- 苗取ゲージ 1
- 苗すくい板 6 **[6 条]**
- 苗すくい板 8 **[8 条]**
- 隣接マーカ 2
- 回転マーカ 2
- グリップ（マット） 14
- 組付要領書（グリップ） 1
- 延長ロータ(LH) 1 **[8 条]**
- 延長ロータ(RH) 1 **[8 条]**
- ボルト（M8×20 コーティング付き） 2 **[8 条]**
- 延長ロータカバー（LH） 1 **[8 条]**
- 延長ロータカバー（RH） 1 **[8 条]**
- ボルト（M8×20） 4 **[8 条]**
- 組付要領書（延長ロータ） 1 **[8 条]**
- ボルト 4

オプション（別売品）（純正品を使いましょう）

1. 苗キーパ

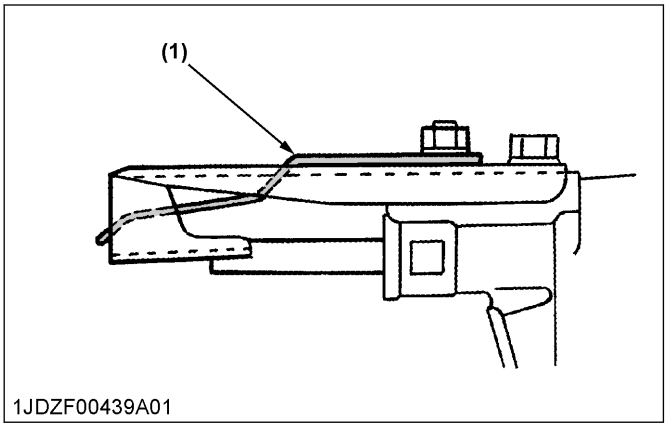
苗キーパは、苗こぼれによるバラケ、浮苗を防止します。

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	数量	対象型式
キット（ナエキーパ T2、6）	95740000070	12	**6 条**
キット（ナエキーパ T2、8）	26910002980	16	**8 条**

※単品の場合

品名	品番	対象型式
ナエキーパ（T2）	95740000060	全型式



1JDZF00439A01

(1) ナエキーパ（*T2*）

2. クリーナ

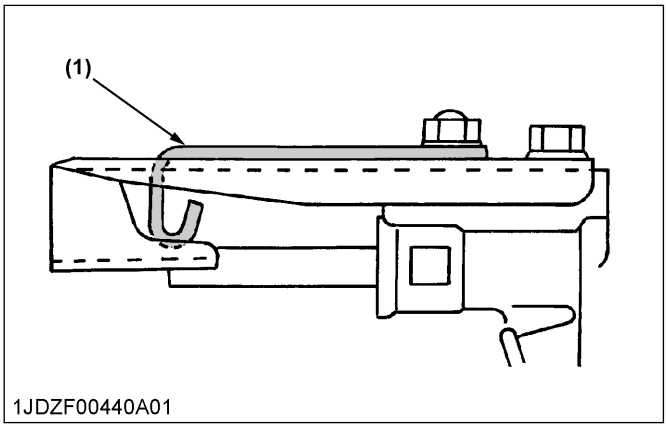
クリーナは、苗を詰まらなくする効果があります。爪の間に苗が詰まり、植付姿勢が乱れたときなどに有効です。

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	数量	対象型式
クリーナ、アッシ（オシダシカナグ 6）	95740000230	12	**6 条**
クリーナ、アッシ（オシダシカナグ 8）	95740000300	16	**8 条**

※単品の場合

品名	品番	対象型式
クリーナ（オシダシカナグ）	95740000200	全型式



1JDZF00440A01

(1) クリーナ（押出し金具）

3. 補助車輪

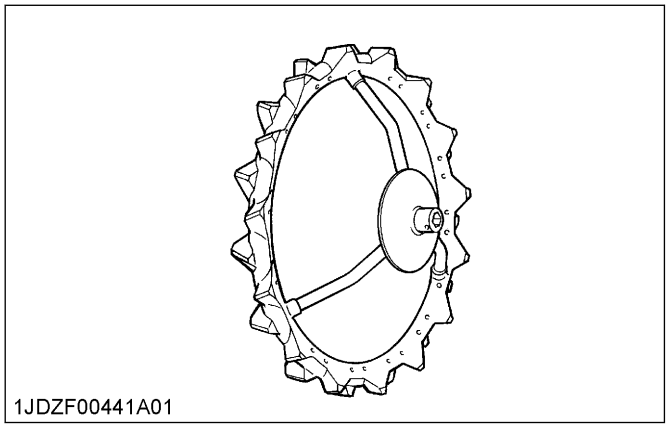
ほ場条件に合った補助車輪を使用してください。
補助車輪を装着したときは、整地板を取り付けてください。
（詳細は整地板（156 ページ）を参照）

3.1 ゴムラグタイヤ

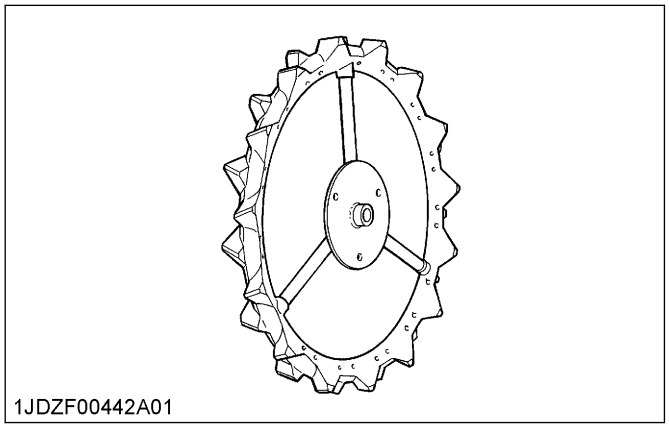
ほ場条件
耕盤が軟弱で泥炭地のようなほ場

品名	品番	仕様			対象型式
		内側/外側	車輪径	整地板の有無	
車輪、キット（内、ゴム）	9574000310	内側	Φ850 mm	無	**6 条**
車輪、アッシ（ホジョ、外）	9574000420	外側	Φ850 mm	無	**6 条**
車輪、キット（補助、内ゴム）	9574000160	内側	Φ900 mm	無	**8 条**
車輪、キット（補助、外ゴム）	9574000540	外側	Φ900 mm	無	**8 条**

ゴムラグ（内）


1JDZF00441A01

ゴムラグ（外）

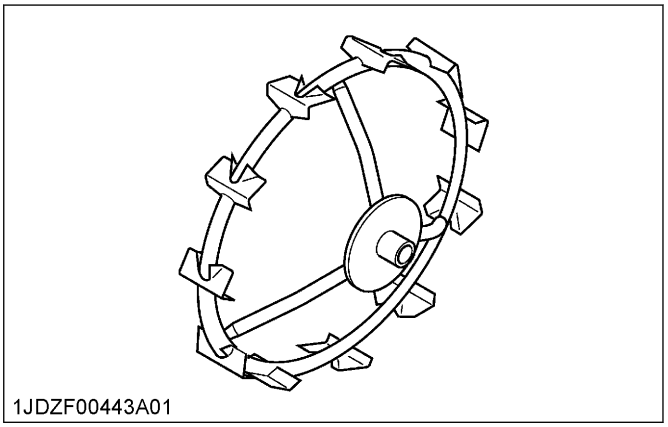

1JDZF00442A01

3.2 鉄ラグタイヤ

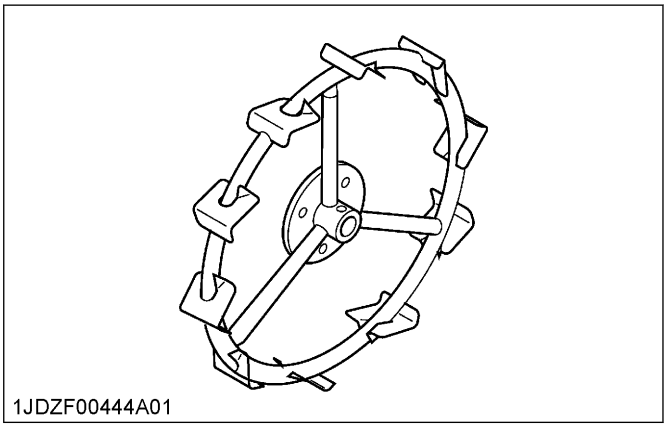
ほ場条件
暗渠（あんきょ）のあるほ場や部分的に深いところがあるほ場

品名	品番	仕様			対象型式
		内側/外側	車輪径	整地板の有無	
車輪、アッシ（ホジョ、6G、内）	9574000011 0	内側	Φ840 mm	無	**6 条**
車輪、アッシ（ホジョ）	9574000010 0	外側	Φ840 mm	無	**6 条**

鉄ラグ（内）


1JDZF00443A01

鉄ラグ（外）


1JDZF00444A01

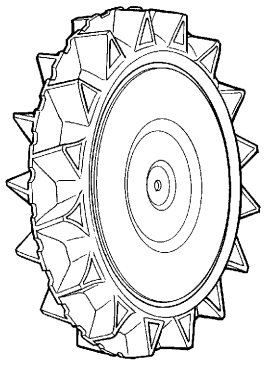
3.3 エアタイヤ

品名	品番	仕様			対象型式
		内側/外側	車輪径	整地板の有無	
車輪、アッシ（ホジョ、6GT、内）	9574000009 0	内側	Φ850 mm	無	**6 条**
車輪、アッシ（LH ホジョ、ウチエア）	9574000040 0	内側	Φ900 mm	無	**8 条**
車輪、アッシ（RH ホジョ、ウチエア）	9574000041 0	内側	Φ900 mm	無	**8 条**
車輪、アッシ（ホジョ、6GT、外）	9574000008 0	外側	Φ850 mm	無	**6 条**
キット（補助車輪、T、外）	9574000013 0	外側	Φ900 mm	–	**8 条**

4. 広幅前輪タイヤ

ほ場の耕盤が軟弱で、後進時に前輪が沈下する条件で沈下を少なくできます。

品名	品番	仕様	対象型式
車輪、キット（F、650-120）	95740000500	幅：120 mm、径：Φ650 mm、ノーパンクタイヤホイールキャップ付	全型式
車輪、キット（F、650-140）	95740000380	幅：140 mm、径：Φ650 mm、ノーパンクタイヤホイールキャップ付	**8 条**
カバー、キット（ホイール）	95740000550	140 mm 広幅前輪用ホイールカバー	**8 条**



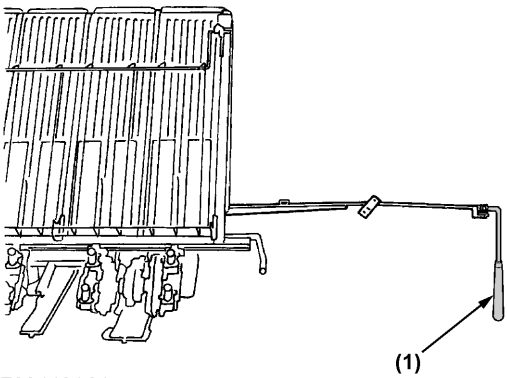
1JDZF00445A01

5. 後輪エアタイヤ

品名	品番	対象型式
後輪エアタイヤ、アッシ	95740000030	**6 条**
後輪エアタイヤ	95740000120	**8 条**

6. 線引きマーカ

品名	品番	対象型式
マーカ、キット（ライン）	95740000140	全型式



1JDZF00446A01

(1) 線引きマーカ

7. 周り植えマーカ

最終の枕地を 1 回の周り植えで作業が行えるマーカです。

品名	品番	対象型式
マーカ、キット（マワリウエ）	95740000340	**8 条**

8. 前部ウエイト

品名	品番	対象型式
ウエイト、キット（ツイカ）	99920010070	全型式
ウエイト、キット(NSD)	99920000295	**8 条**
ウエイト(10)	95740000360	全型式（8R 仕様標準装備）
ボルト	95740000020	

9. 整地板

品名	品番	仕様	対象型式
整地板、アッシ（ウチ）	95740000480	内側補助車輪用	全型式
整地板、アッシ（ソト）	95740000490	外側補助車輪用	**6 条**

補足：
- **補助車輪を装着したときは、整地板を取り付けてください。**

10. すくい板ホルダ

品名	品番	対象型式
ホルダ、キット（スクイイタ）	95740000430	全型式

11. 予備苗のせ台

レール式予備苗のせ台

品名	品番	対象型式
ナエノセダイ、キット（レール、RH）	95740000510	**6 条**
ナエノセダイ、キット（レール 8、RH）	95740000530	**8 条**

固定（段積み）式予備苗のせ台

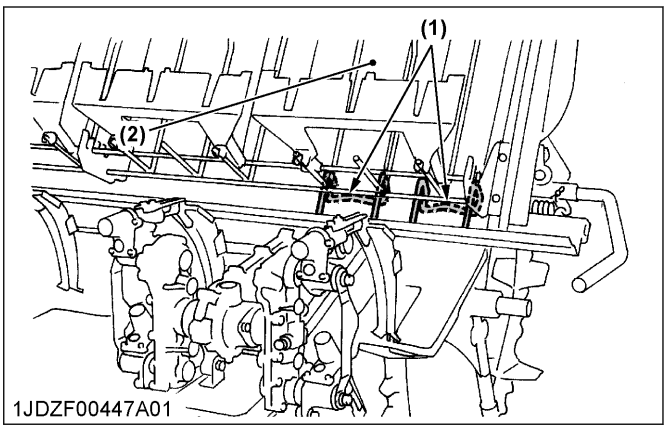
品名	品番	対象型式
ナエノセダイ、キット（コテイ、LH）	95740000470	**6 条**
ナエノセダイ、キット（コテイ 8、LH）	95740000520	**8 条**

12. 苗スライドストッパ

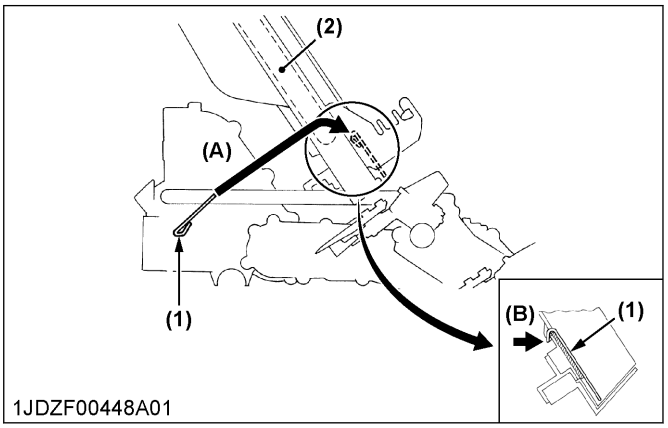
軟弱苗で苗がかたよっているときに使用します。

取付けかた

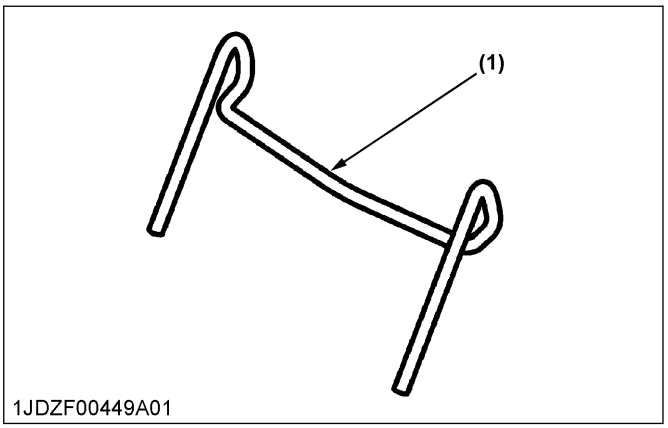
1. 植付部を上昇させたあと、エンジンを止めます。
2. 苗のせ台に次図のような方向から、苗スライドストッパを縦送りベルト下端のすきまから差込みます。



(1) 縦送りベルト
(2) 苗スライドストッパ（*1* 条分で *2* 個）



(1) 苗スライドストッパ
(2) 縦送りベルト
(A) 差込む
(B) リブの下にくるまで差込む



(1) 苗スライドストッパ

※単品の場合

品名	品番	対象型式
ストッパ（ナエスライド）	95740000210	全型式

補足：
- **苗スライドストッパは、1 条分あたり 2 個使用します。**
- **苗ストッパを差込んだあとは、きっちりとはめ込んでください。**

3. 同じ要領で苗のせ台全条に取り付けます。

補足：
- **植付作業時に、植付爪と苗スライドストッパが接触しても支障はありません。**

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	数量	対象型式
ストッパ、キット（6、苗スライド）	95740000240	12	**6 条**
ストッパ、キット（8、苗スライド）	95740000320	16	**8 条**

13. 増量ロール［R 仕様］

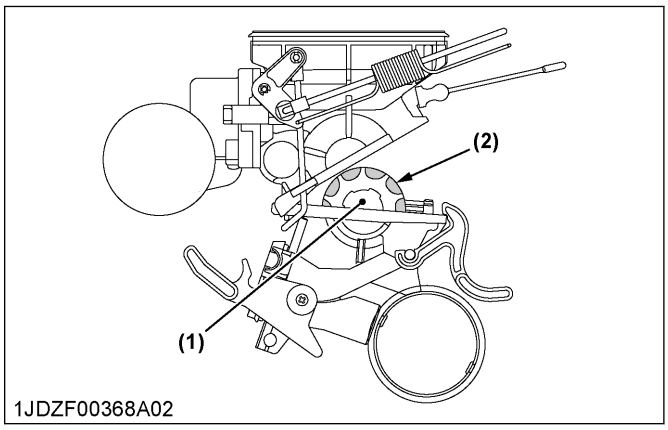
実際の施肥量が設定した施肥量より少なく（肥料の比重が小さい為）80 kg/10 a 繰出しを行いたい場合は、標準よりロール溝が深い増量ロールを使用してください。

※アッシ（セット）の場合

品名	品番	対象型式
クリダシロール、キット（6Y）	95740000190	**6R 仕様**
クリダシロール、キット（8Y）	95740000390	**8R 仕様**

※単品の場合

品名	品番	対象型式
クリダシロール（Y）	95740000180	全型式



1JDZF00368A02

(1) ロール
(2) ロール溝

14. 本機カバー

品名	品番	対象型式
カバー（ホンキ、8）	95740000150	**6 条**
カバー（ホンキ）	95740000370	**8 条**

15. 苗ストッパ

品名	品番	対象型式
ナエストッパ、アッシ	95740000170	全型式

16. 植付回転ケース用泥除けカバー

品名	品番	対象型式
カバー、キット（ウエツケ 6）	95740000250	**6 条**
カバー、キット（ウエツケ 8）	95740000330	**8 条**

17. バックミラー

品名	品番	対象型式
ミラー、キット（サイド）	95740000220	全型式

18. キャノピ

品名	品番	対象型式
PU-4	–	全型式

19. 薬剤散布機［こまきちゃん］

粒状の薬剤（除草剤など）の散布を行います。
- 田植えと同時作業などで、時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく、優れた除草効果が得られます。また、薬剤が体につかず安心で快適な作業が行えます。

品名	品番	対象型式
こまきちゃん CS-30	–	全型式

20. 薬剤散布機［箱まきちゃん］

粒状の薬剤（殺虫剤・殺菌剤など）の散布を行います。
- 田植えと同時作業などで、時間と人手の省力化ができます。
- 機械散布なのでムダ・ムラがなく、優れた殺虫・殺菌効果が得られます。また、薬剤が体につかず安心で快適な作業が行えます。

品名	品番	対象型式
箱まきちゃん HSY65	–	**6 条**
箱まきちゃん HSY85	–	**8 条**

21. 密播キット

密播キットは、苗箱 1 箱当りのもみの播種量を通常より多く（約 1.7 倍）播種した状態で育苗し、育苗後の苗の植付けを行うキット部品です。
密播の苗箱を使用することにより、苗箱数を減らすことができます。また、育苗に必要な材料費や労働時間などの省力や低コスト化が図れます。

品名	品番	対象型式
トリツケブヒン、キット（ミッパ、6）	95740000260	**6 条**
トリツケブヒン、キット（ミッパ、8）	26910002970	**8 条**

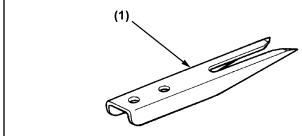
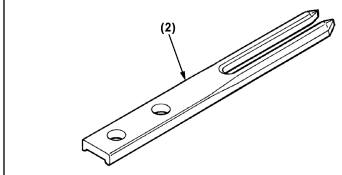
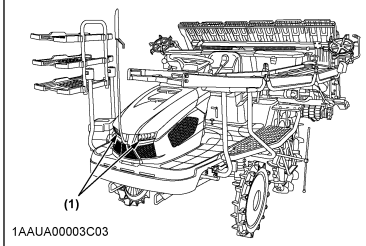
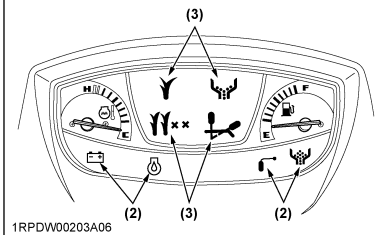
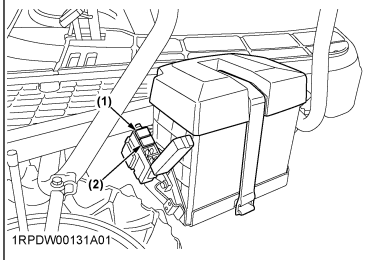
補足：

- **密播の育苗のしかたや植付作業時の苗取量、植付深さの設定などが正しくない場合には、植付後の苗の状態や収穫量など期待した効果が得られないことがありますので密播キットのご購入時は、購入先にご相談してください。**

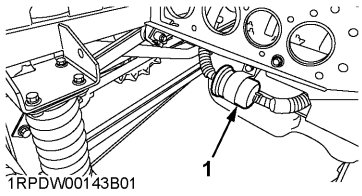
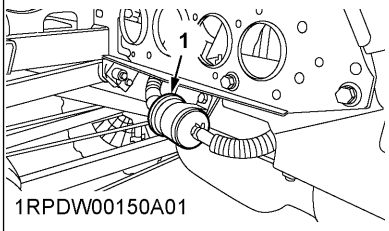
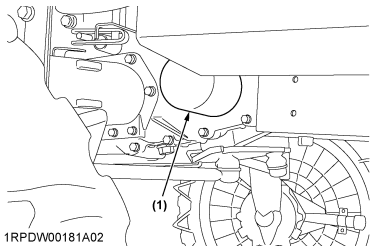
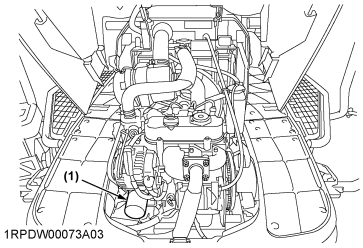
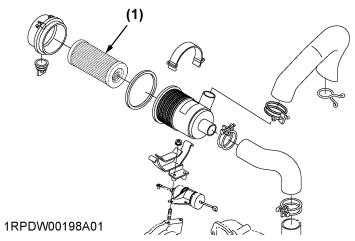
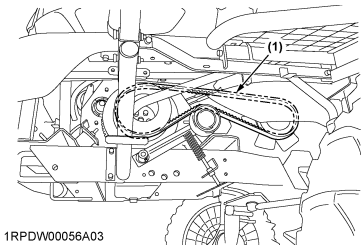
消耗部品

消耗部品は純正部品を使いましょう。

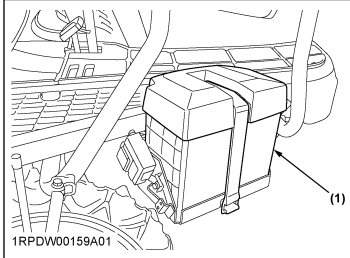
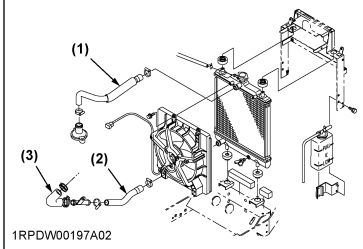
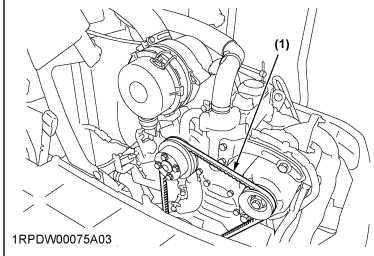
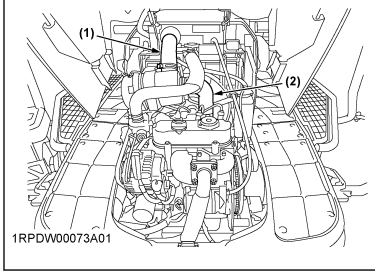
1. 消耗部品一覧表

形状	品名	品番	型式	個数	参照ページ
 1NZUU00182A01	1. ウエツケヅメ（RIS13)	95740000050	LD6	12	129
			LD8	16	
 1RPDW00219A01	2. ウエツケヅメ（RHS13)	95740000040	LD6	12	
			LD8	16	
 1AAUA00003C03	1. ランプ（ヘッド LH,LED）	95720010182	全型式	1	138
	1. ランプ（ヘッド RH,LED）	99100021770		1	
 1RPDW00203A06	2. ランプアッシ	99100009400		4	
	3. ランプアッシ	99580010190		4	
 1RPDW00131A01	1. スローブローヒューズ（60 A)	99660024470	全型式	1	137
	2. ブロワ用スローブローヒューズ（40 A)	97430000070	R 仕様	1	

（次へ続く）

形状	品名	品番	型式	個数	参照ページ
[6 条]  [8 条]  	1. フューエルフィルタアッシ	99920000160	全型式	1	124
 	1. フィルタ（オイル）	95400003610	全型式	1	128
 	1. フィルタ（オイル、カートリッジ）	KK731182390	全型式	1	124
 	1. エレメント（プライマリ）	99920009750	全型式	1	125
 	1. V ベルト（48IN)	95740000350	全型式	1	128

（次へ続く）

形状	品名	品番	型式	個数	参照ページ
 1RPDW00159A01	1. バッテリ（デルコ.50B24L）	99920000230	全型式	1	134
 1RPDW00197A02	1. ホース（ウエ、ラジエータ）	99920009780	全型式	1	126
	2. ホース（シタ、ラジエータ）	90092007400		1	
	3. ホース（３、ウォータ）	99920002860		1	
 1RPDW00075A03	1. HM35.0　ブイベルト（オルタネータ駆動ベルト）	99920000230	全型式	1	128
 1RPDW00073A01	1. インレットホース	99920009780	全型式	1	126
	2. インレットホース	99920000242		1	

指定オイル

オイルは、田植機の開発研究から生まれた指定オイルを必ずお使いください。
市販のオイルをご使用になりますと、あなたの大切な田植機の寿命を縮めることがあります。

お買求めは、購入先へご用命ください。

索引

あ

アクセルレバー....29
あぜぎわクラッチレバー....35
アワメータ....33
安全クラッチ....74
安全ラベル
　手入れ....21
　貼付位置....15
一発肥料
　使用時の注意....79
植付回転ケース用泥除けカバー
　一覧....157
植付株数
　調節....85
植付爪
　安全クラッチについて....74
　交換....129
　調整....129
　点検....129
植付深さ調節レバー....34
運転席....31
運転席下カバー
　脱着....99
エアクリーナエレメント
　交換....125
　掃除....125
　点検....125
エアタイヤ....155
エンジン
　始動のしかた....46
　停止のしかた....48
　バッテリが上がったときの始動のしかた....47
エンジンオイル
　交換....120
　点検....120
　補給....120
エンジンオイルフィルタカートリッジ
　交換....124
エンジンストップノブ....29
エンジンの始動....9
エンジンバルブクリアランス
　点検....125
押出し金具
　交換....129
　調整....129
　点検....129
オプション（別売品）一覧
　植付回転ケース用泥除けカバー....157
　キャノピ....157
　苗ストッパ....157
　バックミラー....157
　密播キット....158
オルタネータ駆動ベルト
　調整....128
　点検....128

か

各部ベルト
　調整....127
　点検....127
各レバー・その他の長期格納時の手入れのしかた....140
株
　欠株が出るときの処置....141,146
株間調節レバー....35
株間副変速レバー....36
寒冷時
　始動のしかた....47
キャノピ
　一覧....157
クリーナ....153
後車軸ケースオイル
　交換....122
　点検....122
　補給....122
後輪エアタイヤ....155
ご相談窓口....23
ゴムラグタイヤ....154
コンビネーションスイッチ....32

さ

残肥排出ダクト
　掃除....106
残肥排出レバー....41
指定オイル....162
指定グリース....162
車速切替レバー....36
十字ポンパレバー（二段）....33
しゅう動板ガード
　収納....139
　準備....60
主変速レバー....30
使用前の準備・点検....8
消耗部品一覧表....159
シート....31
すくい板ホルダ....156
スローブローヒューズ
　交換....137
　点検....137
整地板....156
　調節....90
整地ロータ
　掃除....108
　調節....91
施肥全条停止レバー....40
施肥ブラシ［R 仕様］
　交換....132
　掃除....132

点検.....132
施肥部［R 仕様］
掃除.....103
施肥量調量ノブ.....40
線引きマーカ.....155
前部ウエイト.....155
前輪デフロックペダル.....31
掃除
長期格納時.....139
増量ロール［R 仕様］.....157

た

タイヤ
点検.....129
田植機
移動走行について.....48
移動走行前の準備.....49
運転前の点検.....43
各装置の名称.....25
各ヒューズの交換.....137
各部の掃除.....103
各部の注油.....108
各レバー・ダイヤルの準備.....61
機械から離れるときおよび走行時の注意事項.....12
機体方向説明.....24
給・注油（水）点検一覧表.....117
坂道走行の注意事項.....10
作業後の手入れ.....138
作業途中の駐車時の注意事項.....12
作業途中の点検時の注意事項.....12
主要諸元.....151
使用後の手入れ.....14
使用者が行ってはいけない修理.....114
新車時の扱いかた.....46
旋回のしかた.....54
旋回のしかた（植付作業時）.....70
旋回のしかた（植付作業時）［6 条］.....70
旋回のしかた（植付作業時）［8 条］.....71
洗車時の注意.....113
走行運転の注意事項.....9
駐車のしかた.....54
注油箇所、グリース塗布箇所、グリース注入箇所108
定期点検一覧.....115
定期点検について.....113
停車のしかた.....54
トラックからの積降ろしのしかた.....55
トラック上での処置.....55
トラックなどへの積降ろし時の注意事項.....13
トラックなどへの積込み時の注意事項.....13
トラックへ積込み時の準備.....55
トラックへの積込みのしかた.....55
ならし運転について.....46
日常点検項目.....44
農道の移動の注意事項.....10
発進のしかた.....53
付属部品.....153
ほ場の移動の注意事項.....10
ほ場の出入りのしかた.....67
ほ場の出入り.....11
輸送の準備.....54
暖機運転.....47
注意事項
安全指示順守.....7
健康状態.....7
作業に合った服装.....7
周囲の子供の存在確認.....7
タイヤの空気圧は、取扱説明書に記載している規定圧力を必ず守ってください。.....8
トラックなどでの運搬.....13
廃棄物の取扱い.....8
ほ場での作業.....11
ヤケド防止.....12
駐車ブレーキレバー.....31
注油
長期格納時.....139
長期格納
バッテリの手入れ.....140
長期格納時
各部の掃除.....139
各部の注油.....139
各部の補修.....139
鉄ラグタイヤ.....154
電装部の各配線コード
交換.....136
各配線コード
交換.....136
電装部の各配線コード
点検.....136
各配線コード
点検.....136

な

苗
あぜぎわの植付けかた.....75
植付けかた.....70
植付けかた［6 条］.....70
植付けかた［8 条］.....71
植付けが乱れるときの処置.....143,146
植付けが悪いときの処置.....145
植付作業の手順.....67
植付深さの調節.....89
浮苗が出るときの処置.....143,145
最終行程の前での植付条数の決めかた.....75
状態によっておこるその他の不具合の処置.....149
使用量について.....88
台形田の植付けかた（A 面基準）.....73
取り量の調節.....87
複雑な変形田の植付けかた.....73
補給のしかた.....74
苗押さえ棒.....38
調節.....90
苗キーパ.....153
苗ステー.....38
調節.....90

苗ストッパ
一覧.....157
苗スライドストッパ.....156
苗取量
調節.....87
苗取量調節レバー..... 34
調節.....87
苗の条件.....57
苗のせ台
移動.....52
受けの点検..... 132
しゅう動板の点検..... 132
苗のせ台[8]
折りたたみかた.....66
広げかた.....63
苗のせ台［8 条］
折りたたみかた.....62
広げかた.....62
燃料
給油.....120
点検.....120
補給.....120
燃料切れ
再始動..... 47
燃料フィルタアッシ
交換.....124

は

パイプ
交換.....126
点検.....126
バックミラー
一覧.....157
バッテリ
交換.....134,135
点検.....134
取扱い..... 14
補充電..... 134,135
補水.....134
パワーステアリングハンドル..... 31
反射テープ
交換.....138
点検.....138
比重調整ノブ.....40
肥料
選び方..... 78
概要.....77
繰出量の調整のしかた..... 93
施肥作業のしかた..... 82
施肥作業前の準備..... 80
施肥条止めのしかた.....95
施肥量がばらつくときの処置..... 147
施肥量の調節［R 仕様］.....92
施肥をしないときの処置.....147
流れ.....92
ホッパからの排出のしかた.....83
広幅前輪タイヤ..... 155
フィットセンサダイヤル.....34
調節.....88
深みにはまって動けなくなった場合.....98
ふく土板［R 仕様］
調節.....92
副変速レバー.....30
ブラシ
脱着.....100
ブレーキペダル..... 30
ブロワ..... 40
ブロワダクト吸入口
掃除.....108
フロート荷重
調節.....88
補修
長期格納時..... 139
補修用部品
供給年限.....23
ほ場
概要.....77
条件によっておこるその他の不具合の処置.....149
施肥作業時の条件..... 77
ほ場の条件..... 57
ホッパ..... 39
本機カバー..... 157
ボンネット
開閉.....99
ホース
交換.....126
点検.....126

ま

マスコット..... 38
準備.....60
周り植えマーカ..... 155
ミッションオイル
交換.....121
点検.....121
補給.....121
ミッション駆動ベルト
点検.....128
ミッション油圧オイルフィルタカートリッジ
交換.....128
密播キット..... 158
メインスイッチ.....29
メインパネル
異常の表示..... 96
各メータ.....32
各モニタ（警報ランプ、警報ブザー）.....41
各ランプ.....32
処置方法.....96
走行操作関係.....32
電装関係.....41
モンロー調節ダイヤル..... 42,76

や

薬剤散布機［こまきちゃん］..... 157

薬剤散布機［箱まきちゃん］..... 157
油圧ロックレバー..... 37
横送り切替レバー..... 35
　調節..... 87
予備苗のせ台.....39,156
　準備..... 59

ら

ラインマーカ..... 38
　準備..... 60
ラジエータネット
　交換.....126
　掃除.....126
　点検.....126
ラジエータフィン
　掃除.....124
ラジエータ冷却水
　交換.....122
　長期格納時.....140
　点検.....122
ランプ（電球）
　交換.....138
　点検.....138
リヤカバー
　脱着..... 99
隣接マーカ..... 38
　準備..... 60
ロータ自動入／切スイッチ..... 36
ロータ深さ調節ダイヤル.....37,76
ロール
　脱着.....100
ロールケース..... 39